

武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画策定・

第4期障害児福祉計画策定のための

武蔵野市障害福祉についての実態調査
報 告 書

令和8年3月

武蔵野市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査結果を見る上での注意事項	3
第2章 調査結果のまとめ	5
第3章 調査結果の詳細	19
I 障害者調査	21
1. 回答者について	21
(1) 回答者	21
2. 本人について	22
(1) 年齢、性別、居住地域	22
(2) 現在の生活場所	24
(3) 同居者	25
(4) 世帯収入	26
3. 本人の状況について	27
(1) 手帳の所持状況	27
(2) 手帳の種類と等級	28
(3) 身体障害の種別	29
(4) 医療費の助成状況	30
(5) 受けている障害や疾患の診断	31
(6) 介助や支援の必要性	32
(7) 必要とする介助や支援	33
(8) 主な介助者	34
(9) 主な介助・支援者がいない際の代理者	35
4. 保健・医療について	36
(1) かかりつけ医師の有無	36
(2) 介護保険の認定状況（40歳以上の方）	40
(3) 要介護度（40歳以上の方）	41
(4) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス	42
5. 相談や情報入手について	43
(1) 日常生活で困っていること	43
(2) 相談相手の有無	44
(3) 相談相手がない理由	46
(4) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源	47
(5) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいこと	49
6. 仕事の状況や今後の希望について	50
(1) 就労状況	50
(2) 現在の職場へ就職した時期	51
(3) 就職の際に利用した機関	52
(4) 今後の就労意向	53

(5) 就労の際に心配なこと	54
(6) 必要な就労支援	55
7. 災害時の対応について	57
(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況	57
(2) 災害時の不安	58
(3) 災害時の備え	60
8. 外出の状況について	61
(1) 外出頻度	61
(2) 外出の際の移動手段	62
9. 趣味の活動や地域の活動について	63
(1) 趣味などの活動への参加状況	63
(2) 参加していない理由	64
(3) 参加したい活動（現在参加中も含む）	65
(4) 周囲の人たちとの会話頻度	66
10. サービスの利用等について	72
(1) 障害福祉サービスの利用状況	72
(2) 利用できていないサービス	74
(3) 利用できていない理由	76
(4) 利用できていない理由（その他の内訳）	77
(5) 障害福祉サービスを利用する際の不便	85
(6) 福祉サービスを選ぶ際に重視すること	87
(7) 将来の生活における不安と必要な支援	88
11. 障害者差別について	89
(1) 障害者差別解消法の認知状況	89
(2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面	90
(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験	91
(4) 相談しなかった（できなかった）理由	92
(5) 成年後見制度の認知	93
12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について	94
(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知	94
(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向	95
(3) 参加・傍聴できない理由	96
13. 住まいについて	97
(1) 現在の住まいの満足度	97
(2) 満足していない理由	98
(3) 住まいに関する困りごとや必要な支援	99
(4) 10年後の暮らし方	100
(5) グループホームへの入居希望時期	101
(6) 住まいを選ぶ際に重視すること	102
14. 今後のことについて	103
(1) 武蔵野市での暮らしの満足度	103
(2) 充実すべき障害者福祉施策	104
(3) 自由回答	106

II 障害児調査	113
1. 回答者について	113
(1) 回答者	113
2. 本人について	114
(1) 年齢、性別、居住地域	114
(2) 現在の生活場所	116
(3) 同居者	117
3. 本人の状況について	118
(1) 手帳の所持状況	118
(2) 手帳の種類と等級	119
(3) 身体障害の種別	121
(4) 医療費の助成状況	122
(5) 受けている障害や疾患の診断	123
(6) 障害や心身の不調に気づいた時期	124
(7) 介助や支援の必要性	125
(8) 必要とする介助や支援	126
(9) 主な介助者	127
(10) 主な介助・支援者がいない際の代理人	128
4. 保健・医療について	129
(1) かかりつけ医師の有無	129
5. 相談や情報入手について	133
(1) 日常生活で困っていること	133
(2) 相談相手	134
(3) 相談相手がいない理由	136
(4) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源	137
(5) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいこと	139
6. 通園・通学について	140
(1) 通園・通学状況	140
(2) 父親・母親の就労状況	141
(3) 通園・通学する上で困っていること	143
(4) サービスの利用状況	144
(5) 放課後や長期休業中に困っていること	149
7. 災害時の対応について	150
(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況	150
(2) 災害時の不安	151
(3) 災害への備え	153
8. 外出の状況について	154
(1) 外出頻度	154
(2) 外出の際の移動手段	155
9. 趣味の活動や地域の活動について	156
(1) 趣味などの活動への参加状況	156
(2) 参加していない理由	157
(3) 参加したい活動（現在参加中も含む）	158

(4) 周囲の人たちとの会話の頻度	159
10. サービスの利用等について	165
(1) 障害福祉サービスの利用状況	165
(2) 利用できていないサービス	166
(3) 利用できていない理由	167
(4) 利用できていない理由（その他の内訳）	168
(5) 障害福祉サービスを利用する際の不便	171
(6) 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に重視すること	173
(7) 将来、生活における不安と必要な支援	174
11. 障害者差別について	176
(1) 障害者差別解消法の認知状況	176
(2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面	177
(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験	178
(4) 相談しなかった（できなかった）理由	179
12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について	180
(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知	180
(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向	181
(3) 参加・傍聴できない理由	182
13. 住まいについて	183
(1) 現在の住まいの満足度	183
(2) 満足していない理由	184
(3) 住まいに関する困りごとや必要な支援	185
(4) 10年後の暮らし方	186
(5) グループホームへの入居希望時期	187
(6) 住まいを選ぶ際に重視すること	188
14. 今後のことについて	190
(1) 武蔵野市での暮らしの満足度	190
(2) 充実すべき障害者福祉施策	191
(3) 自由回答	193
第4章 調査票	199

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

- ◇調査目的 令和8年度に武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画を策定するにあたり、基礎資料及び日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。
- ◇調査対象者 身体障害：身体障害者手帳所持者で「つながり」送付対象者
 知的障害：愛の手帳所持者で「つながり」送付対象者
 精神障害：精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「こころのつながり」送付対象者
 難病・特定疾患：医療費助成（難病・肝炎・小児慢性）受給者
 児童：障害児通所支援サービス受給者（児童発達支援・放課後等デイサービス）及び上記4区分対象者のうち18歳以下の者
 ※令和7年11月1日現在の状況
- ◇調査期間 令和7年12月3日(水)から12月23日(火)まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回収併用（督促を兼ねたお礼状を1回発送）
- ◇回収状況 配布数3,000件（無作為抽出）
 回収数1,850件 回収率61.7%（令和4年度回収率62.6%）

<区分別の回収状況>

区分	発送数（件）	有効回収数（件） （うちWEB回答）	有効回収率 （うちWEB回答率）	前回回収率
身体障害	1,334	827(229)	62.0%(17.2%)	64.6%
知的障害	354	231(90)	65.3%(25.4%)	66.1%
精神障害	528	276(121)	52.3%(22.9%)	54.4%
難病・特定疾患	462	305(135)	66.0%(29.2%)	66.4%
児童	322	211(143)	65.5%(44.4%)	55.0%
合計	3,000	1,850(718)	61.7%(23.9%)	62.6%

2. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果のまとめ

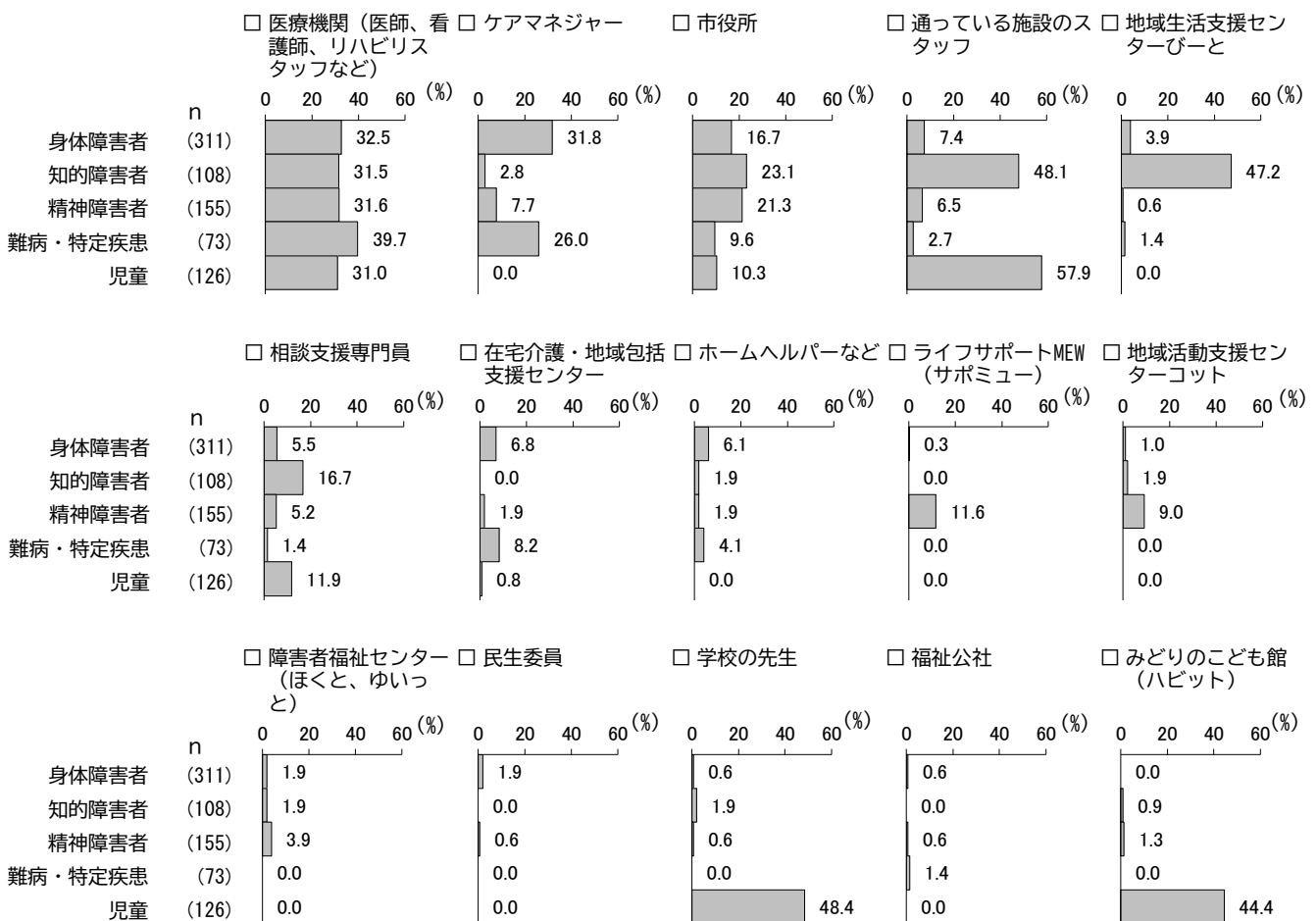
(1) 本人の年齢

本人の年齢は、身体障害者では「75歳以上」が52.0%を占める。知的障害者では「19～29歳」「30～39歳」がそれぞれ3割を超え、精神障害者では「50～64歳」が4割超、難病・特定疾患では「50～64歳」「75歳以上」が2割台、児童では未就学児が3割、就学児が約7割となっている。

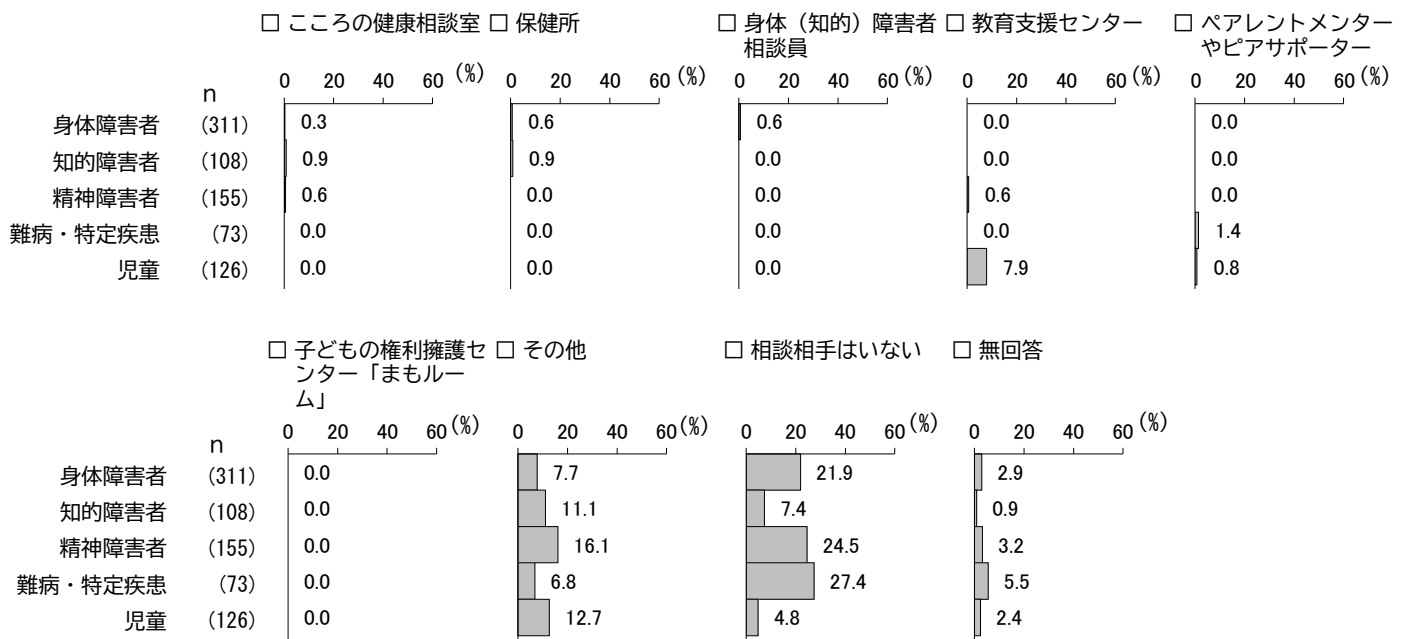
	n	0～5歳	6～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
身体障害者	827	-	-	1.7	3.4	5.9	16.4	19.7	52.0	0.8
知的障害者	231	-	-	33.3	32.0	17.3	10.8	2.2	1.7	2.6
精神障害者	276	-	-	5.8	9.1	19.2	42.4	13.4	8.7	1.4
難病・特定疾患	305	-	-	3.6	9.5	12.8	28.2	19.7	25.2	1.0
児童	211	30.8	69.2	-	-	-	-	-	-	-

(2) 相談相手の有無

相談相手の有無は、障害種別ごとに相談先の分布に違いが見られる。身体障害者と難病・特定疾患では、「医療機関」「ケアマネジャー」への相談割合が高い。知的障害者では、「通っている施設のスタッフ」「地域生活支援センターびと」などへの相談割合が高い。精神障害者では、「医療機関」に加え、「市役所」「ライフサポートMEW」「地域活動支援センターコット」などへの相談が一定割合みられる。児童では、「通っている施設のスタッフ」「学校の先生」「みどりのこども館(ハビット)」が高い。「相談相手はいない」の回答は、身体障害者、精神障害者及び難病・特定疾患で2割を超えている。



第2章 調査結果のまとめ



(3) 本人の就労状況【障害者調査のみ】

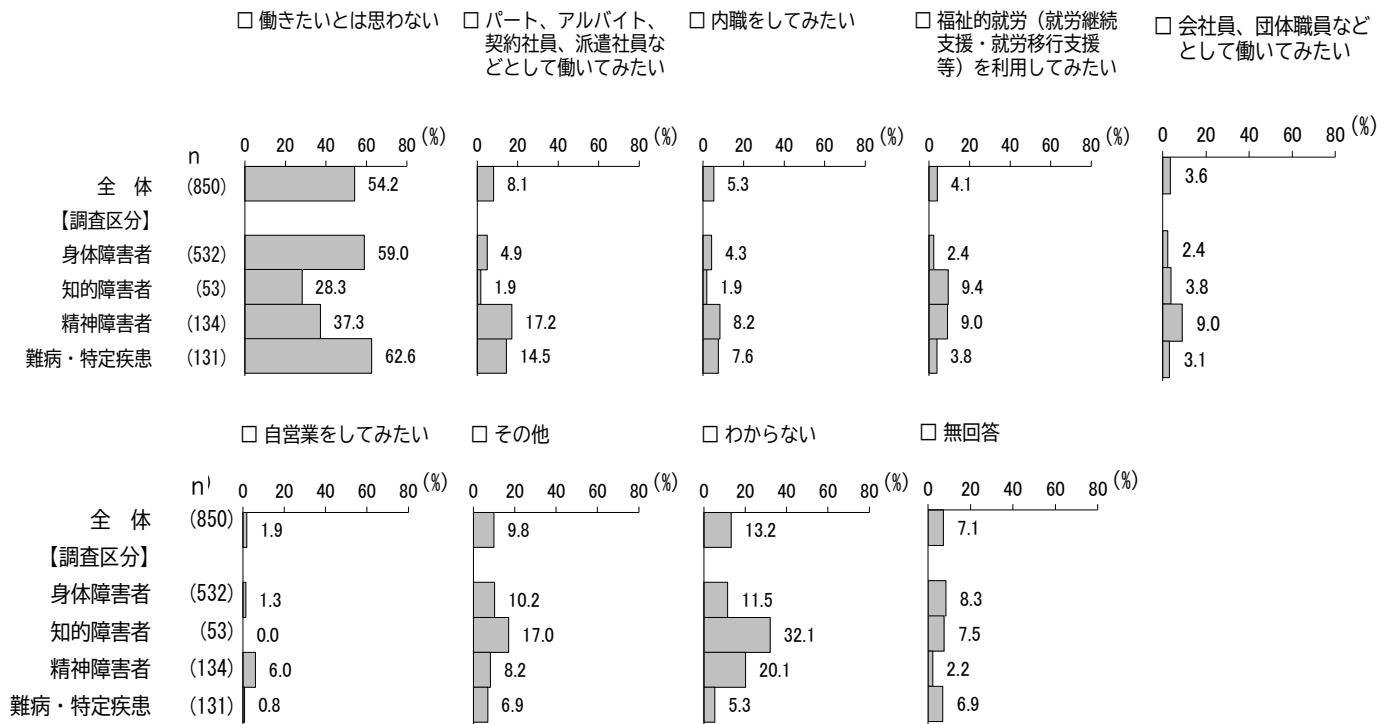
本人の就労状況は、何らかの形で『働いている』人が41.3%となっている。就労の形態としては、知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」が、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」が、難病・特定疾患では「会社員、団体職員などとして働いている」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「働いていない」が高くなっている。

調査区分	回答者数 (n)	『働いている』(計)							『働いていない』(計)
		会社員、団体職員などとして働いている	自営業をしている	パート、アルバイト、派遣社員などとして働いている	内職をしている	福祉的就労移行支援(就労継続支援)を利用している	その他	働いていない	
全体	1639	16.8	4.5	12.6	0.1	7.3	2.4	51.9	41.3
身体障害者	827	13.2	6.5	7.5	0.1	0.8	1.9	64.3	28.1
知的障害者	231	13.9	-	12.6	-	40.3	6.1	22.9	66.8
精神障害者	276	14.1	2.5	21.7	-	6.9	2.5	48.6	45.2
難病・特定疾患	305	31.1	3.9	18.4	0.3	0.3	0.7	43.0	54.0

単位：%

(4) 今後の就労意向【障害者調査のみ】

今後の就労意向としては、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「働きたいとは思わない」が、知的障害者では「わからない」が高くなっている。



(5) 通園・通学している障害児の父母の就労状況【障害児調査のみ】

父親の就労状況は「正社員として働いている」が87.3%を占め、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は88.3%となっている。

母親の就労状況は「正社員として働いている」が25.9%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は53.3%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は26.4%となっている。

『就労中』(計)

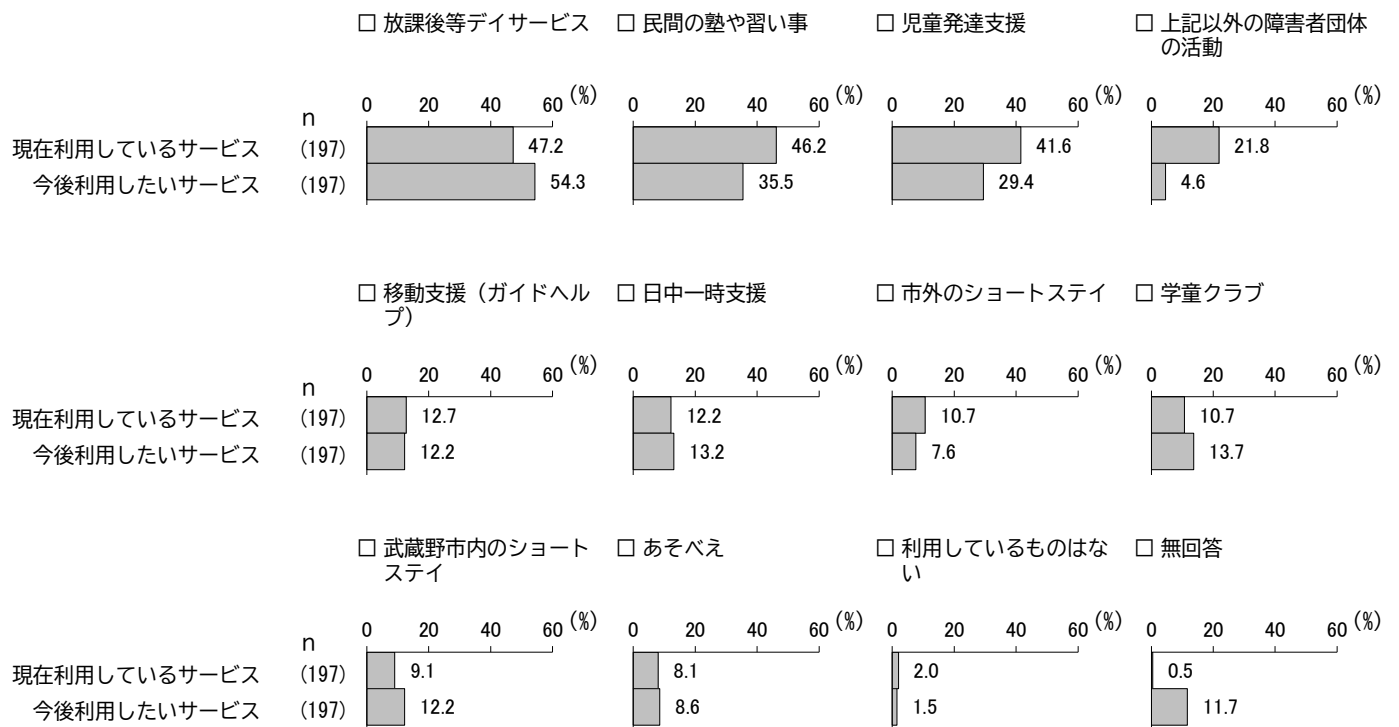
単位：%	回答者数 (n)	『就労中』(計)							
		働正社員として	パート・アルバイト	で働きたいが、	働いていないが、	働いていないし、	その他	父親は働いていない	無回答
父親	197	87.3	1.0	-	0.5	6.1	4.6	0.5	88.3
母親	197	25.9	27.4	26.4	13.7	6.6	-	-	53.3

第2章 調査結果のまとめ

(6) 通園・通学している障害児の日中・放課後・休日などのサービス利用状況【障害児調査のみ】

サービスの利用状況では、「放課後等デイサービス」(47.2%)、「民間の塾や習い事」(46.2%)、「児童発達支援」(41.6%)が上位を占めている。今後利用したいサービスについても、上位3項目は同様に「放課後等デイサービス」(54.3%)、「民間の塾や習い事」(35.5%)、「児童発達支援」(29.4%)となっている。一方、今後の利用希望では新たに「学童クラブ」(13.7%)が4位に挙がっている。

現在の利用状況と比べ、今後の利用希望が相対的に高い項目として、「放課後等デイサービス」「学童クラブ」「武蔵野市内のショートステイ」が挙げられる。



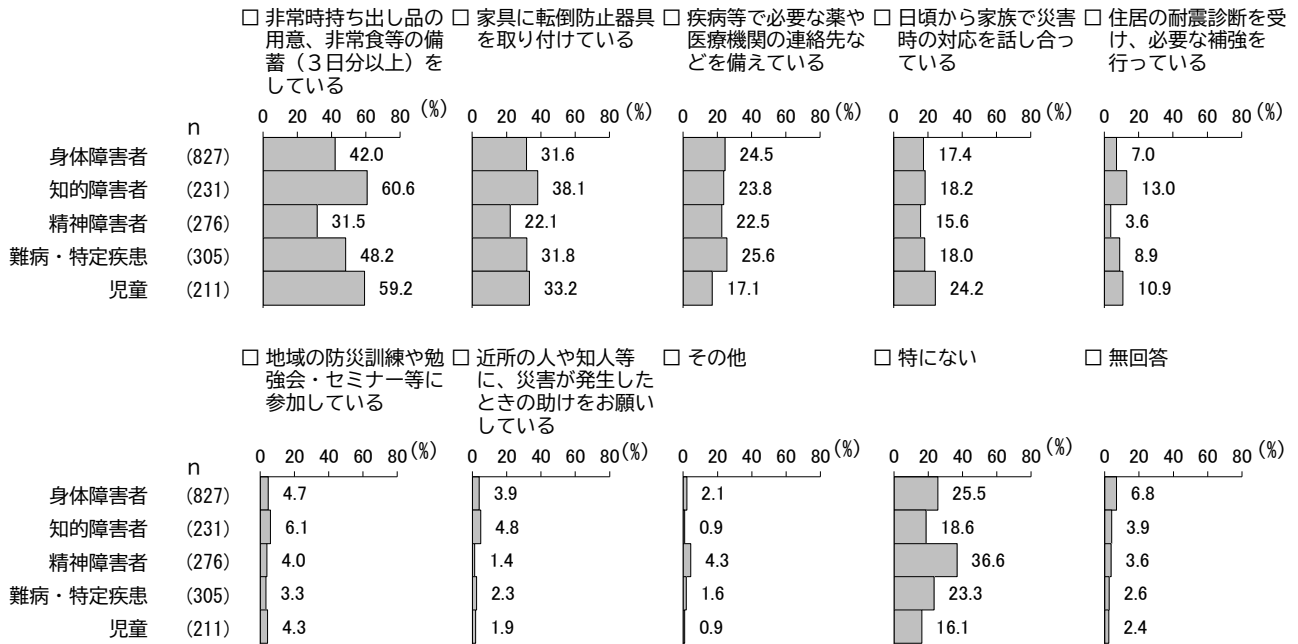
(7) 災害時の不安

災害時の不安について、身体障害者では「できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある」や「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が上位を占め、知的障害者と児童では「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が最も高い。精神障害者と難病・特定疾患では「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が最も高く、いずれの調査区分でも自宅避難に関する不安、避難所に関する不安、医療面の不安が上位に挙げられている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある 43.2%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 37.4%	できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある 23.2%	どの避難所に行ったら良いかわからない 21.8%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 20.0%
知的障害者 n=231	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 48.9%	できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある 45.9%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 32.5%	どの避難所に行ったら良いかわからない 31.2%	できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある 29.9%
精神障害者 n=276	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 48.2%	できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある 46.7%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 41.3%	できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある 26.4%	どの避難所に行ったら良いかわからない／できるだけ自宅で避難していただきたいが一人では不安がある ともに23.6%
難病・特定疾患 n=305	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 51.5%	できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある 39.3%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 24.9%	できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある 21.3%	どの避難所に行ったら良いかわからない 15.4%
児童 n=211	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 47.4%	できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある 32.2%	特にない 22.7%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 19.9%	できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある 18.5%

(8) 災害時の備え（上位8項目+特にない、無回答）

災害への備えとして、いずれの調査区分でも「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）」や「家具に転倒防止器具を取り付けている」、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が比較的多く挙げられており、知的障害者と児童では「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）」をしているが約6割と高い割合を占めている。一方、「特にない」は精神障害者で36.6%と最も高くなっている。



(9) 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスの利用状況では、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「利用していない」が最も高く、特に難病・特定疾患では約9割を占めている。知的障害者では「移動支援」が最も高く、「生活介護」や「就労継続支援B型」、「共同生活援助」などのサービスが上位に挙げられている。児童では「放課後等デイサービス」や「児童発達支援」の利用割合が高い。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	利用していない 72.1%	居宅介護（ホームヘルプ） 7.5%	生活介護 3.4%	短期入所（ショートステイ） 3.0%	自立訓練（機能訓練） 2.8%
知的障害者 n=231	移動支援（ガイドヘルプ） 24.2%	利用していない 23.8%	生活介護／就労継続支援B型 ともに22.9%	共同生活援助（グループホーム） 22.1%	短期入所（ショートステイ） 15.2%
精神障害者 n=276	利用していない 60.5%	自立生活援助 5.8%	就労継続支援B型 5.4%	居宅介護（ホームヘルプ）／計画相談支援 ともに5.1%	就労定着支援 4.7%
難病・特定疾患 n=305	利用していない 88.5%	居宅介護（ホームヘルプ） 3.0%	療養介護 2.0%	短期入所（ショートステイ） 1.6%	施設入所支援 1.3%
児童 n=211	放課後等デイサービス 46.4%	児童発達支援 38.4%	利用していない 13.7%	日中一時支援 10.0%	障害児相談支援 7.6%

(10) 利用できていないサービス

利用できていないサービスについては、いずれの調査区分でも「利用できていないサービスはない」が最も高い割合を占めており、特に難病・特定疾患では65.9%となっている。一方、知的障害者と児童では、他の調査区分と比べて利用できていないサービスを挙げた割合が相対的に高く、知的障害者では「共同生活援助」や「移動支援」、「短期入所」などが、児童では「移動支援」や「日中一時支援」、「短期入所」などが上位に挙げられている。身体障害者では「居宅介護」や「短期入所」、精神障害者では「自立訓練」や「居宅介護」「同行援護」が上位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	利用できていないサービスはない 50.3%	居宅介護（ホームヘルプ） 2.2%	短期入所（ショートステイ） 2.1%	生活介護 1.9%	日中一時支援 1.8%
知的障害者 n=231	利用できていないサービスはない 42.4%	共同生活援助（グループホーム） 18.6%	移動支援（ガイドヘルプ） 10.8%	短期入所（ショートステイ） 8.2%	施設入所支援 7.8%
精神障害者 n=276	利用できていないサービスはない 54.0%	自立訓練（生活訓練） 4.0%	居宅介護（ホームヘルプ）／同行援護 ともに3.3%	就労継続支援A型 2.9%	自立生活援助／就労定着支援／就労選択支援 いずれも2.5%
難病・特定疾患 n=305	利用できていないサービスはない 65.9%	居宅介護（ホームヘルプ） 2.3%	日中一時支援 2.0%	移動支援（ガイドヘルプ）／同行援護／自立訓練（機能訓練） いずれも1.6%	短期入所（ショートステイ）／生活介護／就労移行支援 いずれも1.3%
児童 n=211	利用できていないサービスはない 53.6%	移動支援 19.0%	日中一時支援 10.4%	短期入所 8.5%	放課後等デイサービス 7.1%

(11) 障害福祉サービスを利用する際の不便

障害福祉サービスを利用する際の不便として、身体障害者と難病・特定疾患では「特にない」が最も高い一方、知的障害者、精神障害者、児童では「何が利用できるのかわからない」が第1位となっている。いずれの調査区分でも「サービスに関する情報が少ない」が上位に挙げられており、「サービスを利用するための手続きが大変」も多くの調査区分で高くなっている。児童では加えて「事業所との利用日時などの調整が大変」といった項目の割合が比較的高い。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	特にない 41.5%	何が利用できるのかわからない 27.8%	サービスに関する情報が少ない 17.8%	サービスの利用方法がわかりづらい 8.3%	サービスを利用するための手続きが大変 6.5%
知的障害者 n=231	何が利用できるのかわからない 31.2%	特にない 29.9%	サービスに関する情報が少ない 26.4%	サービスを利用するための手続きが大変 19.5%	サービスの利用方法がわかりづらい 16.0%
精神障害者 n=276	何が利用できるのかわからない 42.4%	特にない 24.3%	サービスに関する情報が少ない 23.9%	サービスの利用方法がわかりづらい 14.5%	他人を家に入れることに抵抗がある 12.7%
難病・特定疾患 n=305	特にない 45.6%	何が利用できるのかわからない 31.1%	サービスに関する情報が少ない 19.0%	サービスの利用方法がわかりづらい／サービスを利用するための手続きが大変 ともに7.5%	他人を家に入れることに抵抗がある 7.2%
児童 n=211	何が利用できるのかわからない 33.6%	サービスに関する情報が少ない 32.7%	サービスを利用するための手続きが大変 29.9%	事業所との利用日時などの調整が大変 28.0%	特にない 24.2%

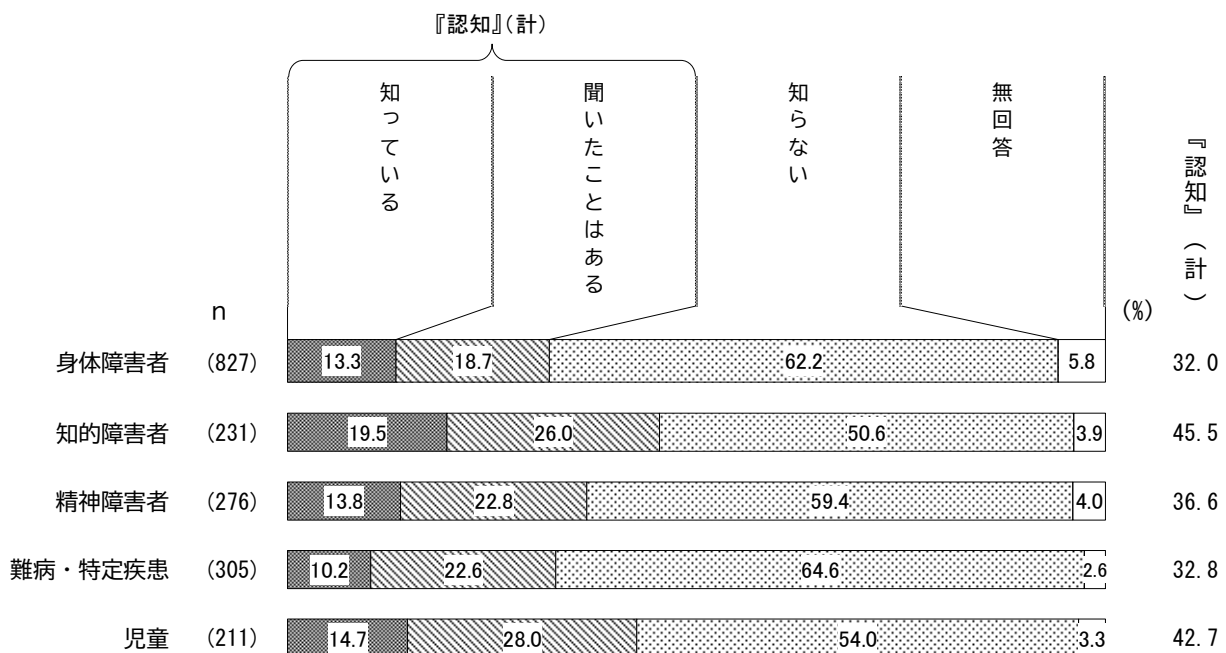
(12) 将来の生活における不安と必要な支援

将来の生活における不安と必要な支援について、身体障害者では「日常生活の支援」や「健康管理・医療的ケアの支援」、「経済的な支援」が上位に挙げられている。知的障害者では「日常生活の支援」や「相談支援」、「健康管理・医療的ケアの支援」の割合が高く、住まいや家族・支援者への支援も多く選ばれている。精神障害者では「経済的な支援」や「相談支援」に加え、「日常生活の支援」や「心のケア・メンタルサポート」が上位となっている。難病・特定疾患では「健康管理・医療的ケアの支援」や「経済的な支援」、「日常生活の支援」などが挙げられている。児童では「学校・教育での支援」や「将来の生活・住まいの支援」、「就学後・社会参加や就労の支援」が上位を占めている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	日常生活の支援 39.4%	健康管理・医療的ケアの支援 33.1%	経済的な支援 26.5%	相談支援／家族・支援者への支援 ともに23.2%	行政や地域の制度・サービスに関する情報提供 20.8%
知的障害者 n=231	日常生活の支援 57.6%	相談支援 55.4%	健康管理・医療的ケアの支援 49.4%	住まいに関する支援 41.6%	家族・支援者への支援 40.7%
精神障害者 n=276	経済的な支援 45.3%	相談支援 44.2%	日常生活の支援 41.3%	心のケア・メンタルサポート 39.9%	健康管理・医療的ケアの支援 35.1%
難病・特定疾患 n=305	健康管理・医療的ケアの支援 37.7%	経済的な支援 34.1%	日常生活の支援 33.4%	家族・支援者への支援 30.2%	行政や地域の制度・サービスに関する情報提供 27.2%
児童 n=211	学校・教育での支援 53.6%	将来の生活・住まいの支援 48.3%	就学後・社会参加や就労の支援 47.4%	短期間預けられる支援 35.1%	家族やきょうだいへの支援 33.2%

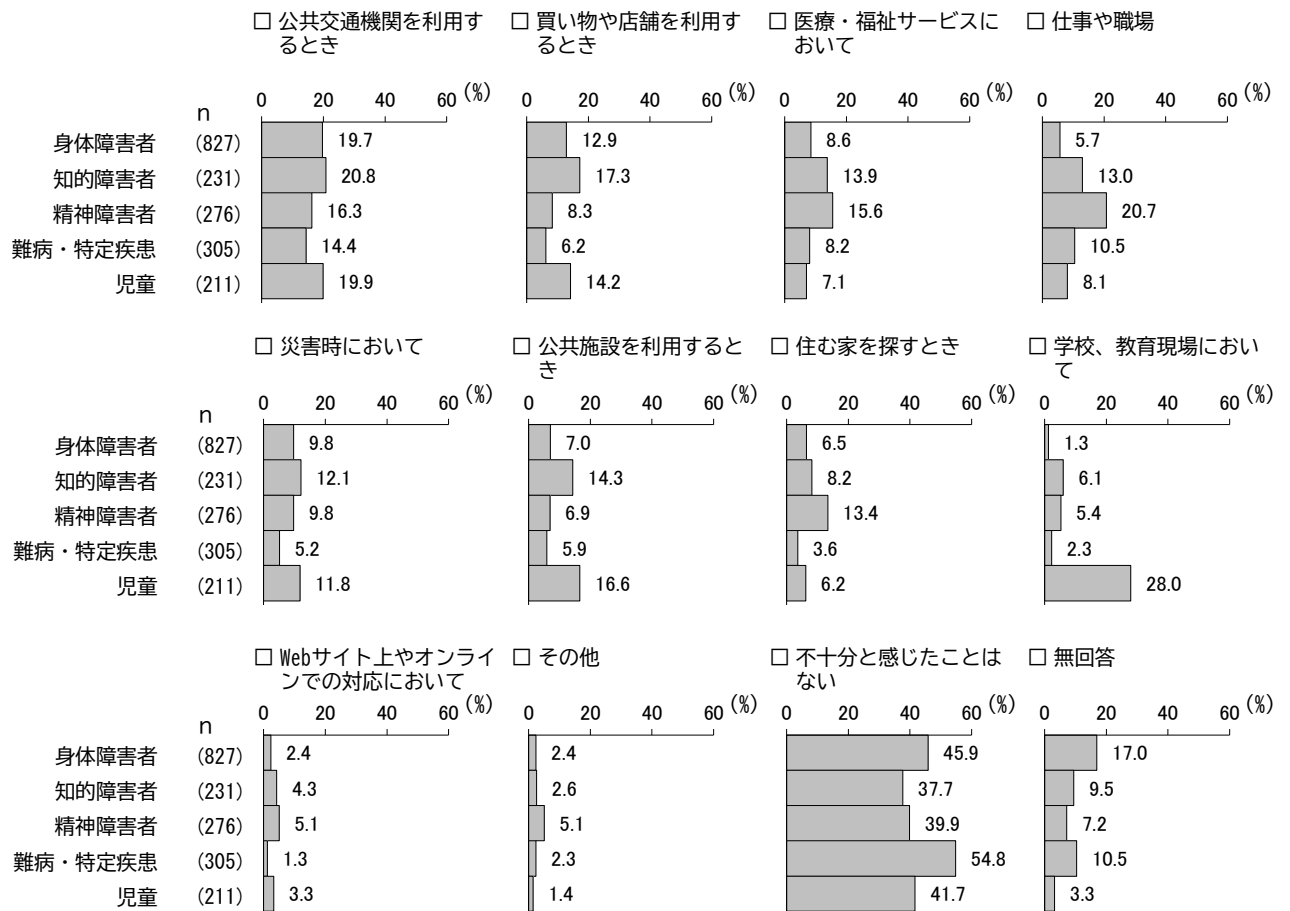
(13) 障害者差別解消法について

障害者差別解消法の認知状況は、いずれの調査区分でも「知っている」は1割台となっており、『認知』も3割から4割となっている。



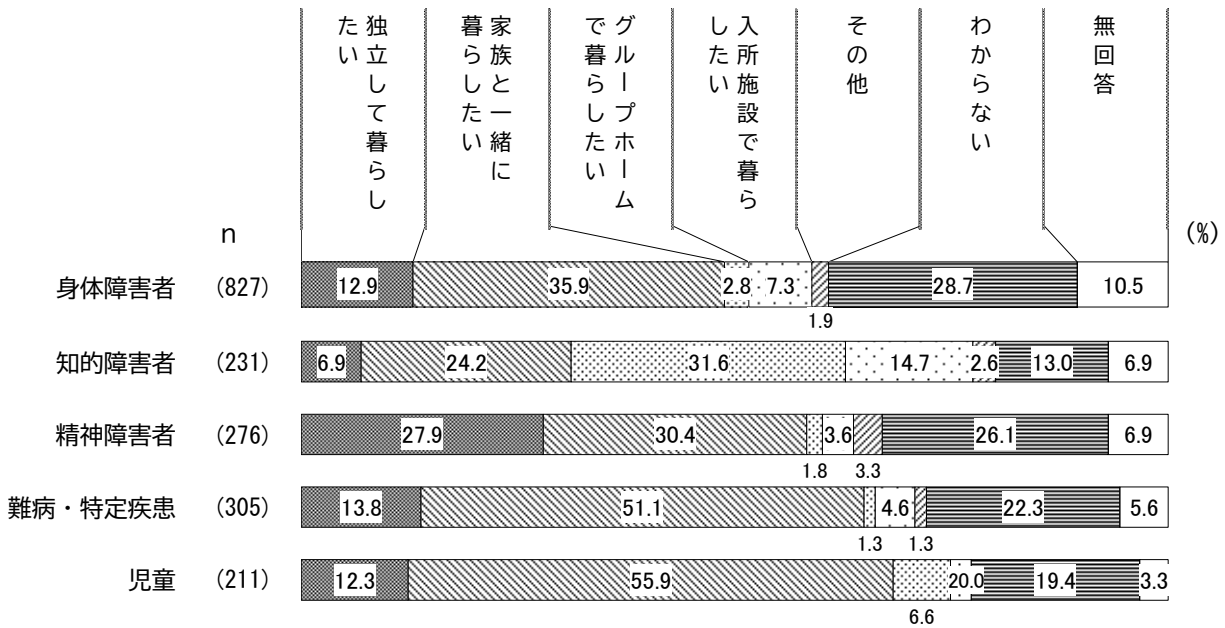
(14) 合理的配慮が不十分だと感じる場面

合理的配慮が不十分だと感じる場面として、いずれの調査区分でも「公共交通機関を利用するとき」が比較的高い割合で挙げられており、「買い物や店舗を利用するとき」や「公共施設を利用するとき」など、日常生活に身近な場面も共通して上位にみられる。また、精神障害者では「仕事や職場」が他の調査区分より高く、児童では「学校、教育現場において」が突出して高い。一方、「不十分と感じたことはない」と回答した割合はいずれの調査区分でも一定程度を占め、特に難病・特定疾患では過半数となっている。



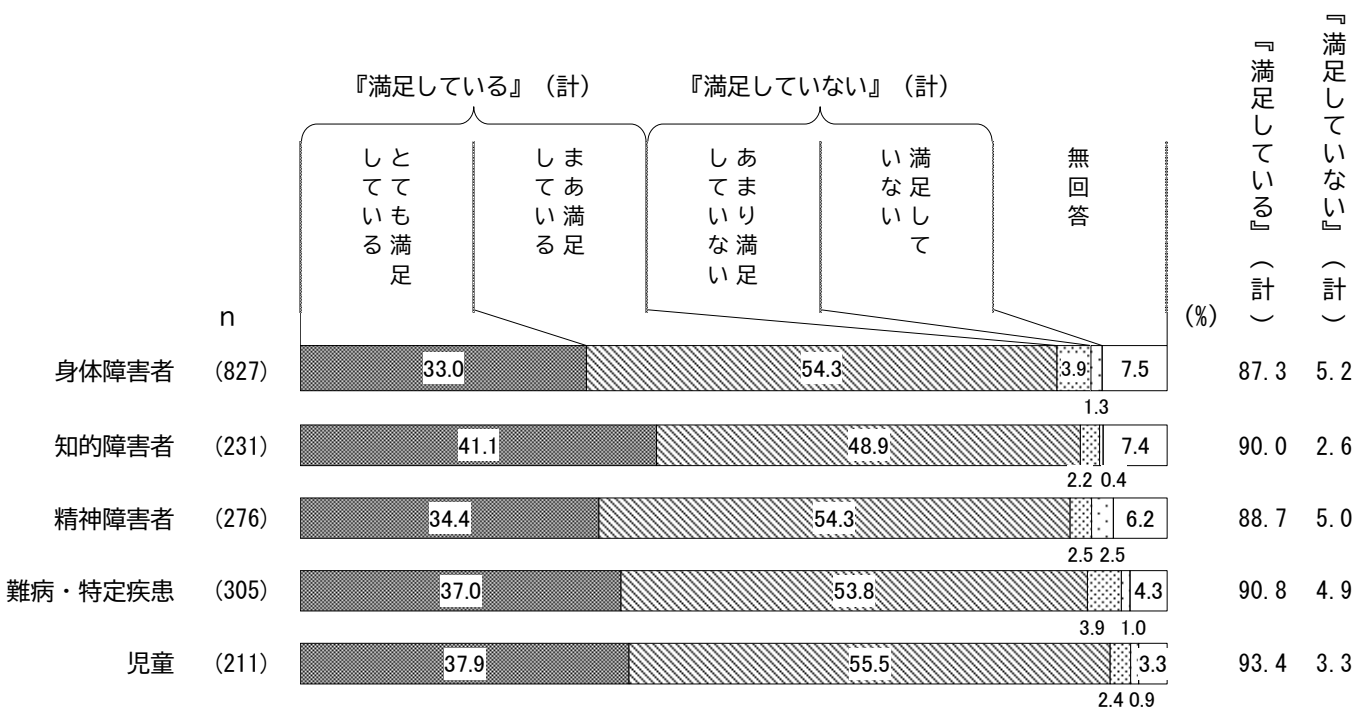
(15) 10年後の暮らし方

10年後の暮らし方について、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患、児童では「家族と一緒に暮らしたい」が最も高い割合を占めている。知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が31.6%で最も高く、「家族と一緒に暮らしたい」や「入所施設で暮らしたい」も一定割合みられる。精神障害者では「家族と一緒に暮らしたい」に次いで「独立して暮らしたい」が高い割合となっている。また、いずれの調査区分でも「わからない」と回答した割合が一定程度みられる。



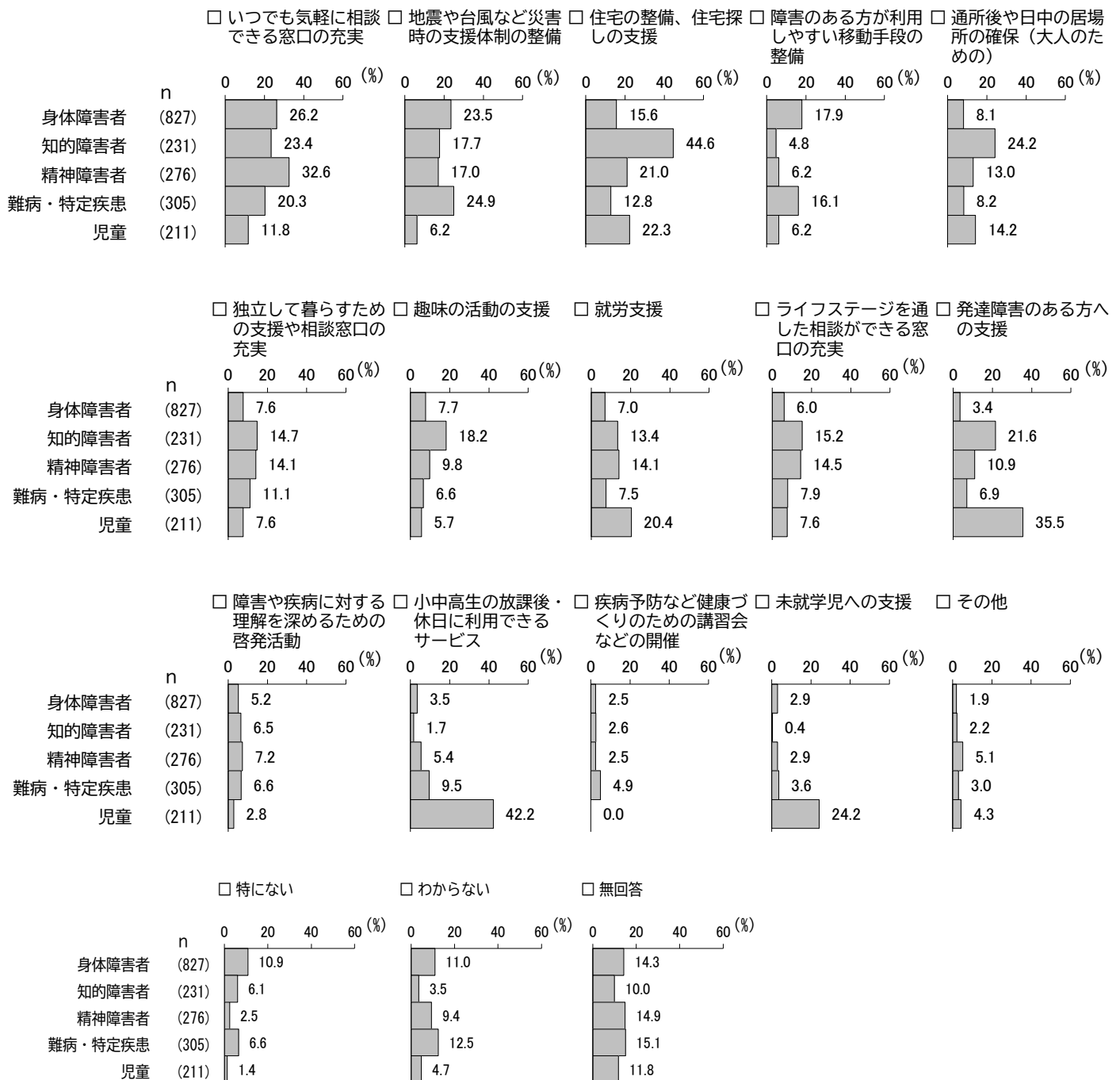
(16) 武蔵野市での暮らしの満足度

武蔵野市での暮らしの満足度は、『満足している』は、いずれの調査区分でも8割から9割となっている。また知的障害者では「とても満足している」が41.1%と高くなっている。



(17) 充実すべき障害者福祉施策

充実すべき障害者福祉施策として、身体障害者では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」や「地震や台風など災害時の支援体制の整備」が上位に挙げられている。知的障害者では「住宅の整備、住宅探しの支援」が突出して高く、「通所後や日中の居場所の確保（大人のための）」や「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「発達障害のある方への支援」も高い。精神障害者では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が最も高く、「住宅の整備、住宅探しの支援」も上位となっている。難病・特定疾患では「地震や台風など災害時の支援体制の整備」や「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が上位に挙げられている。児童では「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」や「発達障害のある方への支援」が上位を占め、「未就学児への支援」、「住宅の整備、住宅探しの支援」、「就労支援」も比較的高くなっている。



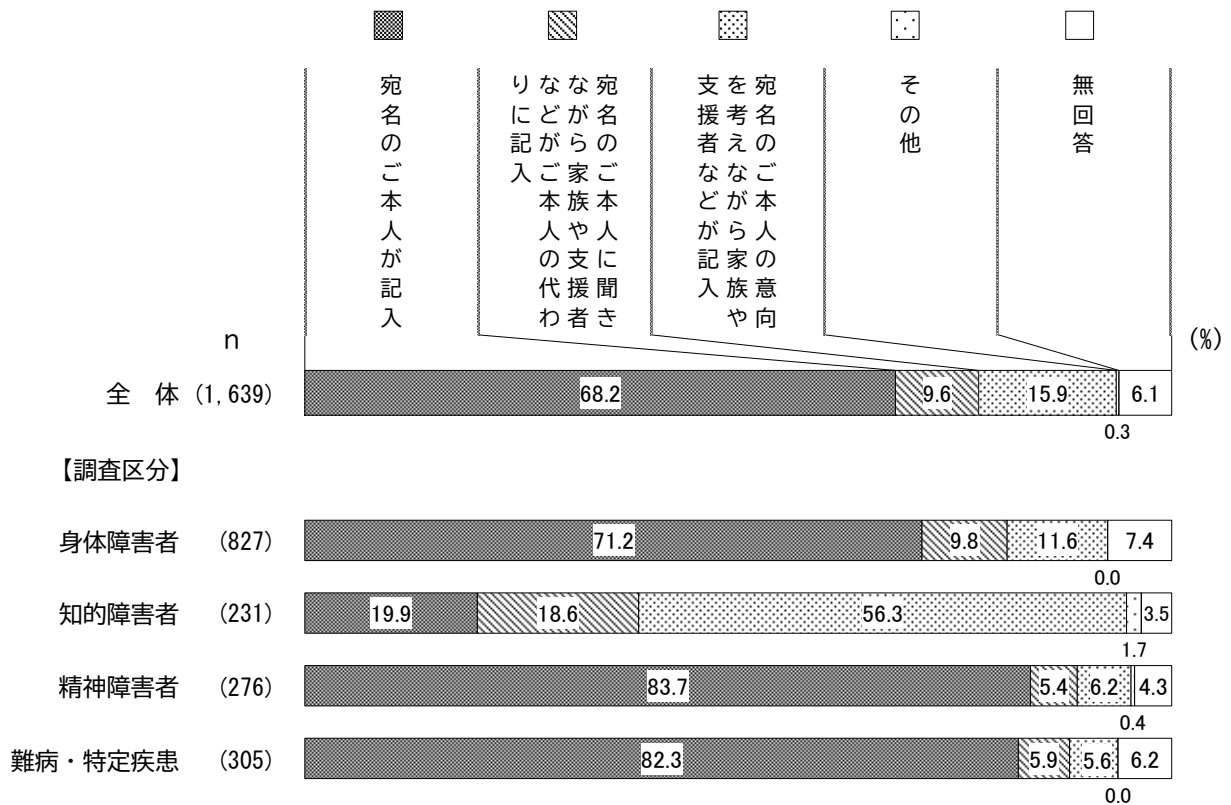
第3章 調査結果の詳細

I 障害者調査

1. 回答者について

(1) 回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



回答者は、「宛名のご本人が記入」が68.2%と最も高く、「宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が15.9%、「宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入」が9.6%となっている。

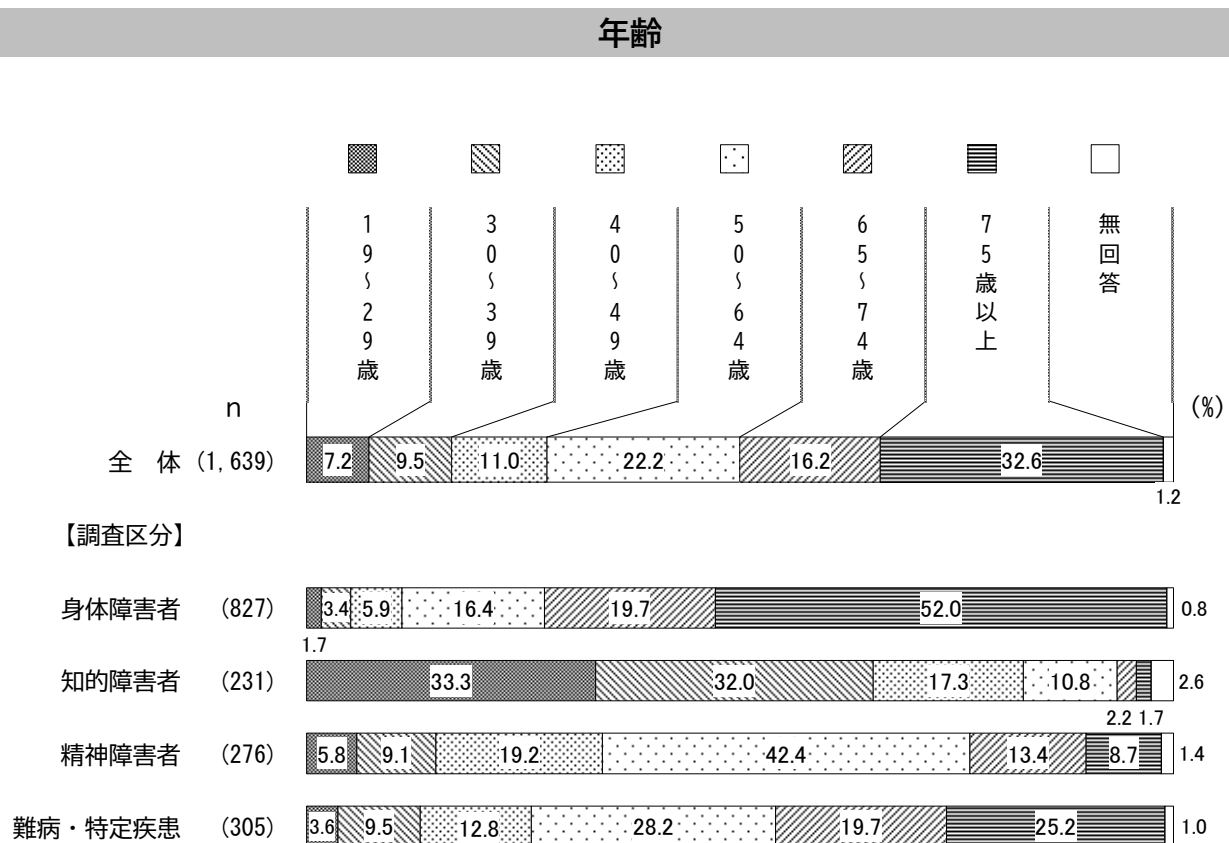
調査区分別にみると、「宛名のご本人が記入」は精神障害者（83.7%）、難病・特定疾患（82.3%）が8割台、身体障害者が71.2%となっているが、知的障害者は19.9%と低く、「宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が5割台半ばとなっている。

以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

2. 本人について

(1) 年齢、性別、居住地域

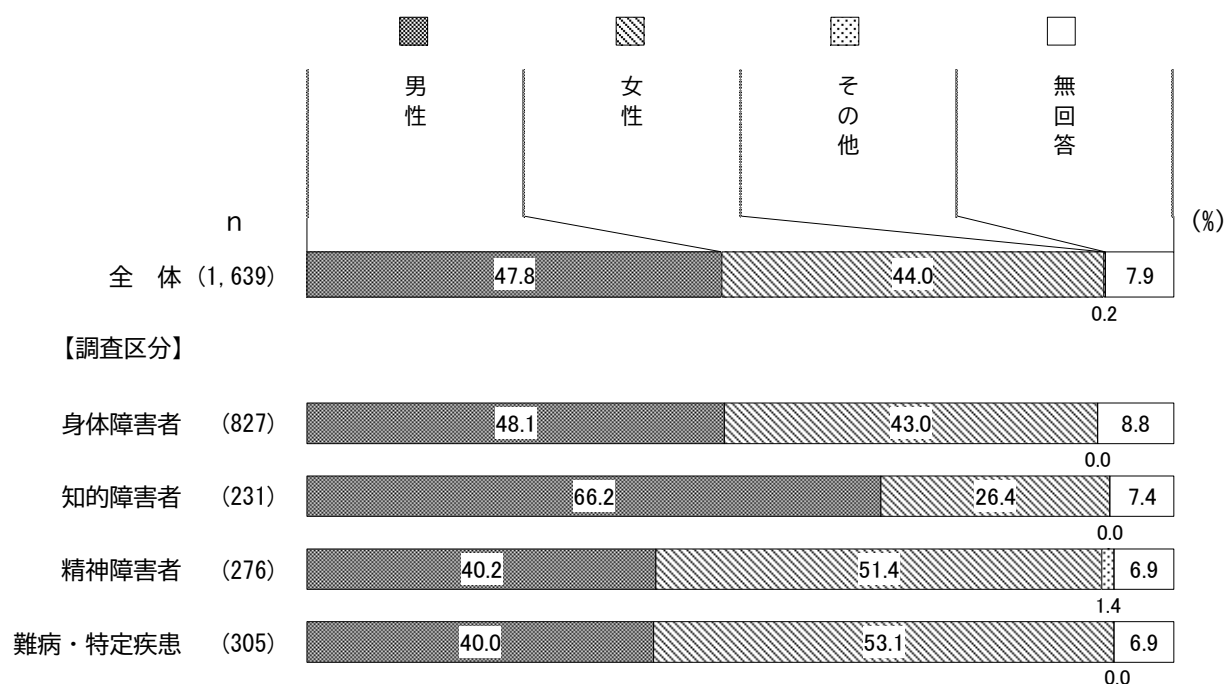
問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)



年齢は「75歳以上」が32.6%と最も高く、「65～74歳」は16.2%で65歳以上の高齢者は48.8%と半数を占めている。

調査区分別にみると、身体障害者では「75歳以上」が52.0%を占める。知的障害者では「19～29歳」「30～39歳」がそれぞれ3割を超え、精神障害者では「50～64歳」が4割超、難病・特定疾患では「50～64歳」「75歳以上」が2割台で高くなっている。

性別



性別は、「男性」が47.8%、「女性」が44.0%、「その他」が0.2%となっている。
 調査区分別にみると、知的障害者では「男性」が66.2%と他の区分より高くなっている。

居住地域

調査区分	回答者数 (n)	居住地域 (%)														
		吉祥寺東町	吉祥寺南町	御殿山	吉祥寺本町	吉祥寺北町	中町	西久保	緑町	八幡町	関前	境	境南町	桜堤	その他	無回答
全体	1639	7.0	7.4	2.7	6.4	10.5	8.7	8.1	9.2	3.9	6.6	11.2	10.1	6.7	0.1	1.6
身体障害者	827	7.1	7.9	3.3	7.4	9.4	8.9	7.4	9.1	3.1	6.3	11.0	11.1	6.7	0.1	1.2
知的障害者	231	6.5	3.5	0.9	2.6	13.4	8.7	8.2	12.6	5.6	13.0	8.7	7.8	6.5	-	2.2
精神障害者	276	6.5	7.6	1.1	6.5	10.1	7.2	10.9	9.4	4.0	5.1	12.3	10.9	6.2	-	2.2
難病・特定疾患	305	7.2	8.9	4.3	6.6	11.5	9.2	7.2	6.6	4.6	3.9	12.8	8.2	7.2	0.3	1.6

居住地域は、「境」(11.2%)、「吉祥寺北町」(10.5%)、「境南町」(10.1%)が1割を超えている。

調査区分別にみると、知的障害者では「吉祥寺北町」「緑町」「関前」が1割を超えて他の区分より高くなっている。

(2) 現在の生活場所

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

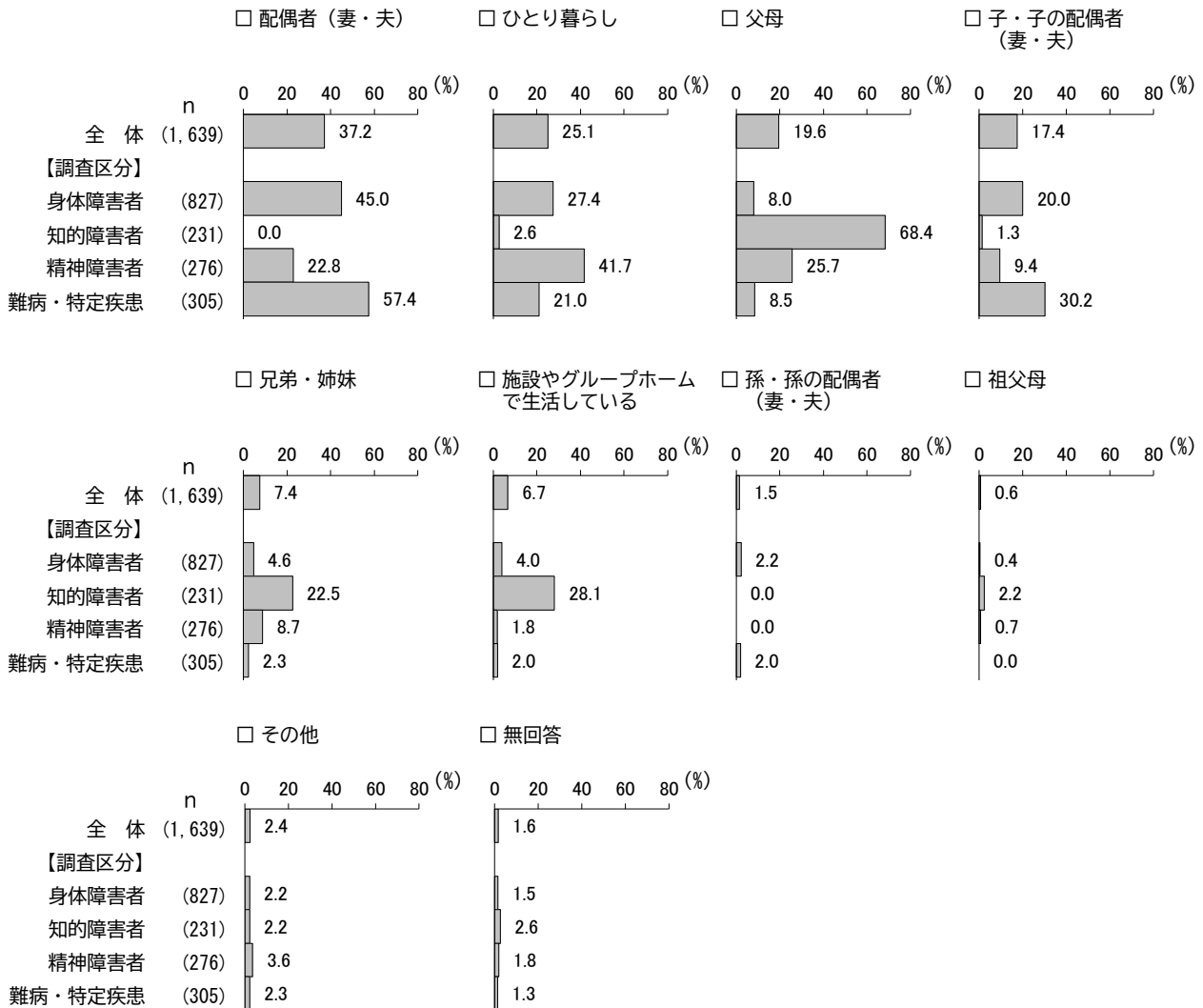
		回答者数 (n)	持ち家・ご家族の持ち家	民間の賃貸住宅	都営・市営住宅	UR都市機構	福祉型住宅	グループホーム	病院に入院中	施設に入所中	その他	無回答
単位：%												
全体		1639	58.3	20.4	7.1	3.2	0.4	3.4	0.9	4.0	0.9	1.2
調査区分	身体障害者	827	61.2	17.9	9.1	3.7	0.6	0.4	0.7	4.5	0.8	1.1
	知的障害者	231	51.9	10.8	2.6	2.6	-	20.8	-	8.7	0.4	2.2
	精神障害者	276	49.3	33.7	8.3	2.9	-	1.4	1.4	1.4	-	1.4
	難病・特定疾患	305	63.6	22.6	4.3	2.6	0.7	0.3	1.6	1.6	2.0	0.7

現在の生活場所は、「持ち家・ご家族の持ち家」が58.3%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」(20.4%)、「都営・市営住宅」(7.1%)となっている。

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも、「持ち家・ご家族の持ち家」が約5割から6割と高くなっている。また、知的障害者では「グループホーム」が、精神障害者では「民間の賃貸住宅」が他の区分より高くなっている。

(3) 同居者

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

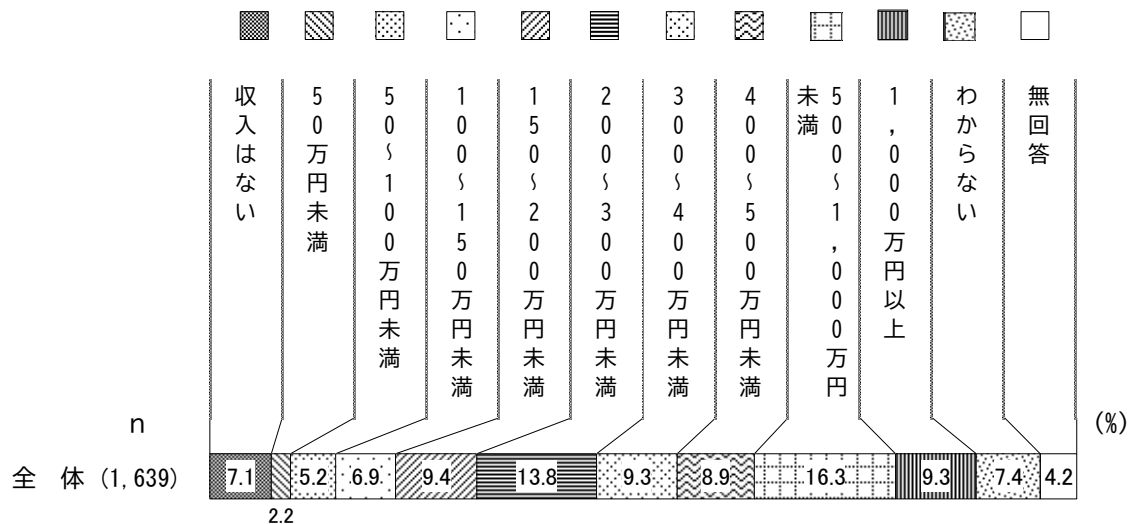


同居者は、「配偶者(妻・夫)」が37.2%と最も高く、次いで「ひとり暮らし」(25.1%)、「父母」(19.6%)、「子・子の配偶者(妻・夫)」(17.4%)となっている。

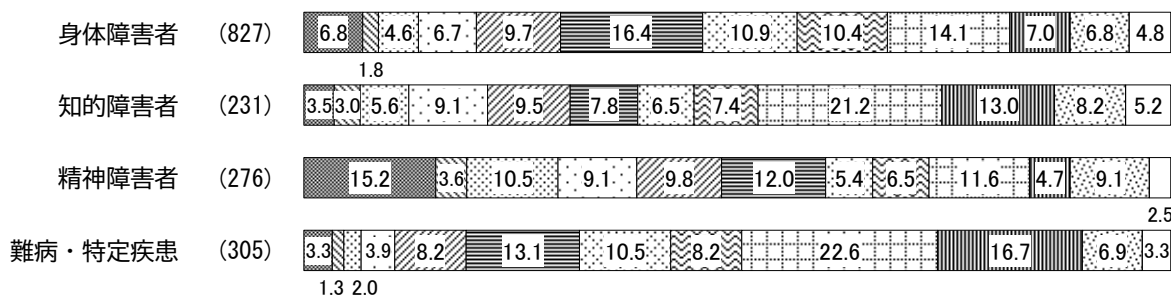
調査区分別にみると、難病・特定疾患では「配偶者(妻・夫)」「子・子の配偶者(妻・夫)」が、精神障害者では「ひとり暮らし」が、知的障害者では「父母」「兄弟・姉妹」「施設やグループホームで生活している」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(4) 世帯収入

問5 あなたの世帯全体の令和6（2024）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）
 ※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。



【調査区分】



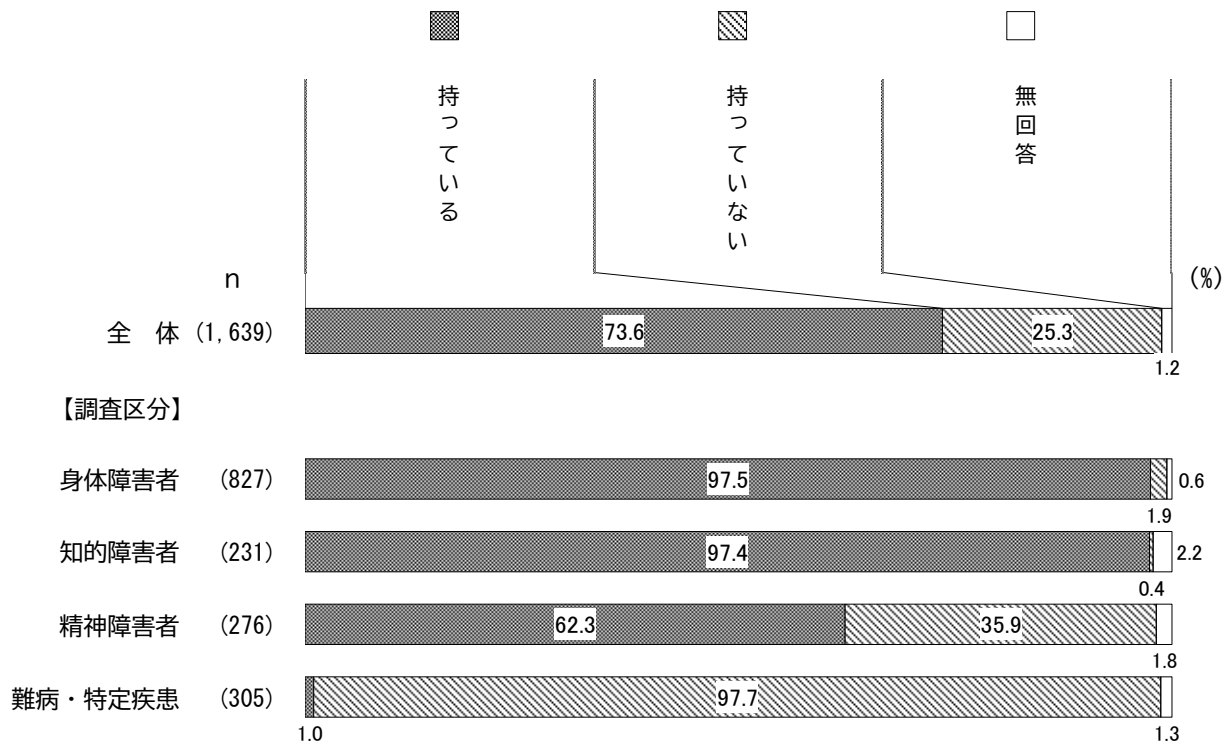
令和6年中の世帯収入額は、「500～1,000万円未満」が16.3%と最も高く、次いで「200～300万円未満」(13.8%)、「150～200万円未満」(9.4%)、「300～400万円未満」「1,000万円以上」(ともに9.3%)となっている。一方、「収入はない」は7.1%となっている。

調査区分別にみると、難病・特定疾患では「500～1,000万円未満」が、精神障害者では「収入はない」「50～100万円未満」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

3. 本人の状況について

(1) 手帳の所持状況

問6 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)



手帳の所持状況は、「持っている」が73.6%、「持っていない」が25.3%となっている。

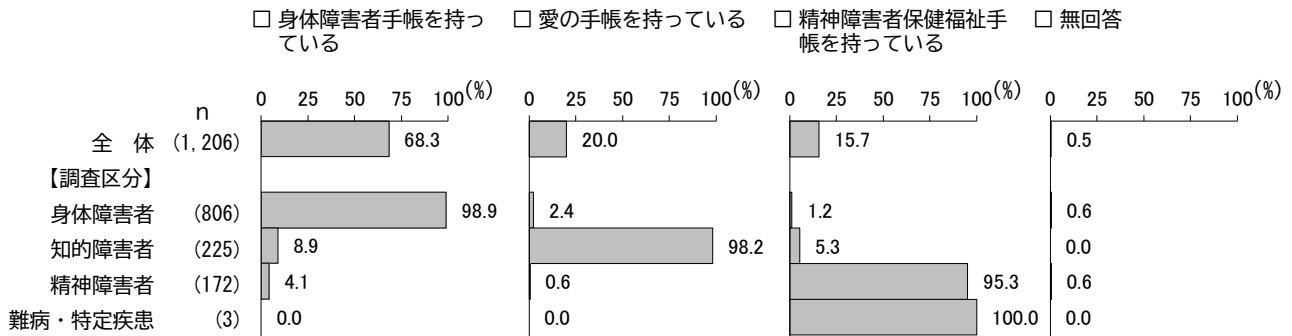
調査区分別にみると、身体障害者と知的障害者では「持っている」が、難病・特定疾患では「持っていない」がそれぞれほぼ全数を占めている。精神障害者では「持っている」が62.3%となっている。

(2) 手帳の種類と等級

【問6で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問6-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

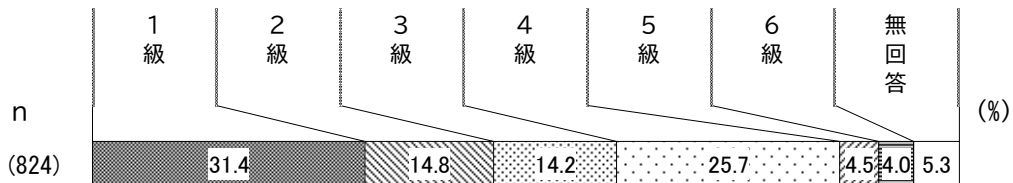
(あてはまるものすべてに○をつけて記入)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

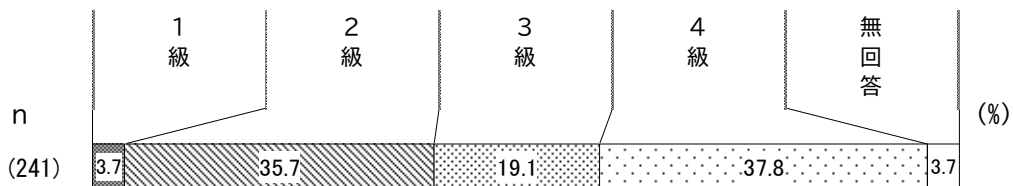
手帳の種類は、「身体障害者手帳を持っている」が68.3%、「愛の手帳を持っている」が20.0%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が15.7%となっている。

身体障害者手帳等級



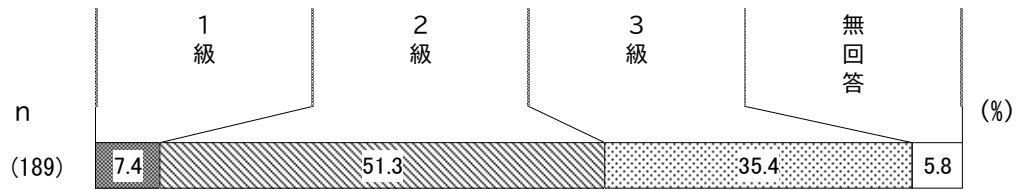
身体障害者手帳の等級は、「1級」が31.4%と最も高く、次いで「4級」(25.7%)、「2級」(14.8%)、「3級」(14.2%)となっている。

愛の手帳等級



愛の手帳の等級は、「4級」が37.8%と最も高く、次いで「2級」(35.7%)、「3級」(19.1%)、「1級」(3.7%)となっている。

精神障害者保健福祉手帳等級

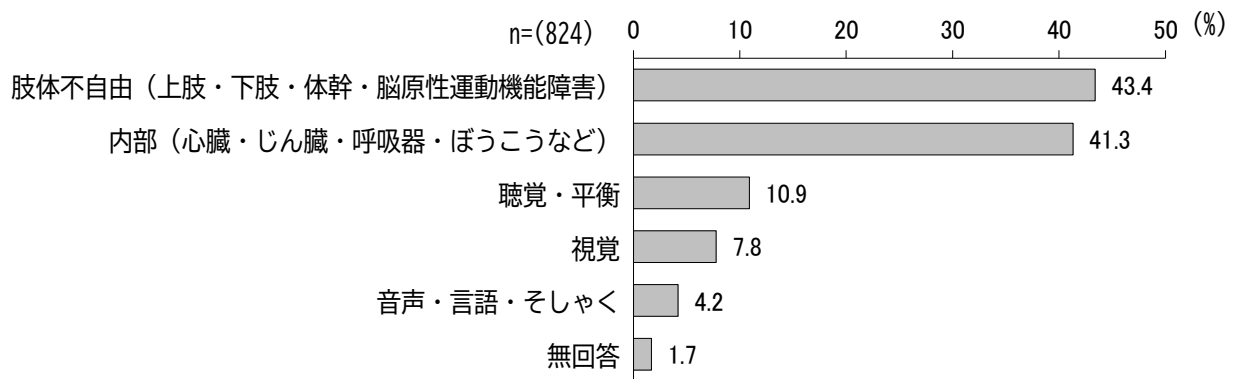


精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が51.3%と最も高く、次いで「3級」(35.4%)、「1級」(7.4%)となっている。

(3) 身体障害の種別

【問6-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問6-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)



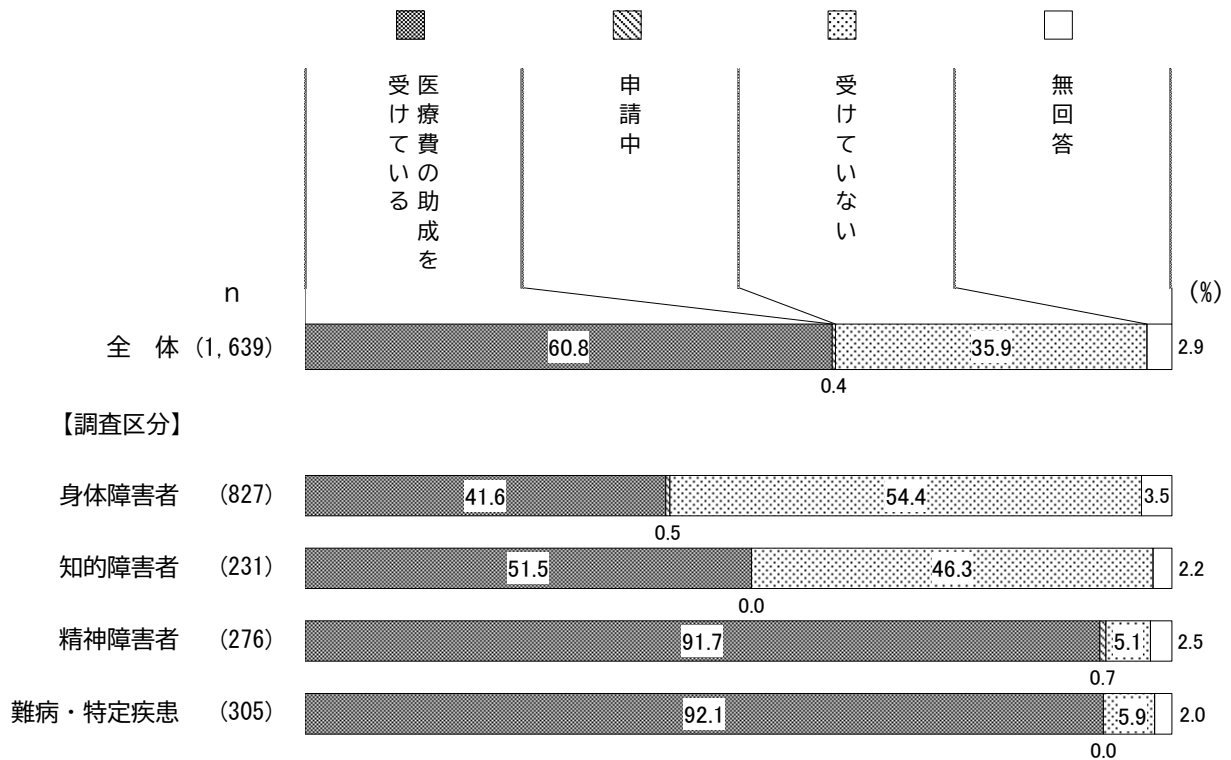
身体障害の種別は、「肢体不自由 (上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害)」が43.4%と最も高く、次いで「内部 (心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど)」(41.3%)、「聴覚・平衡」(10.9%)となっている。

(4) 医療費の助成状況

【すべての方にお聞きします。】

問7 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、更生医療などが含まれます。

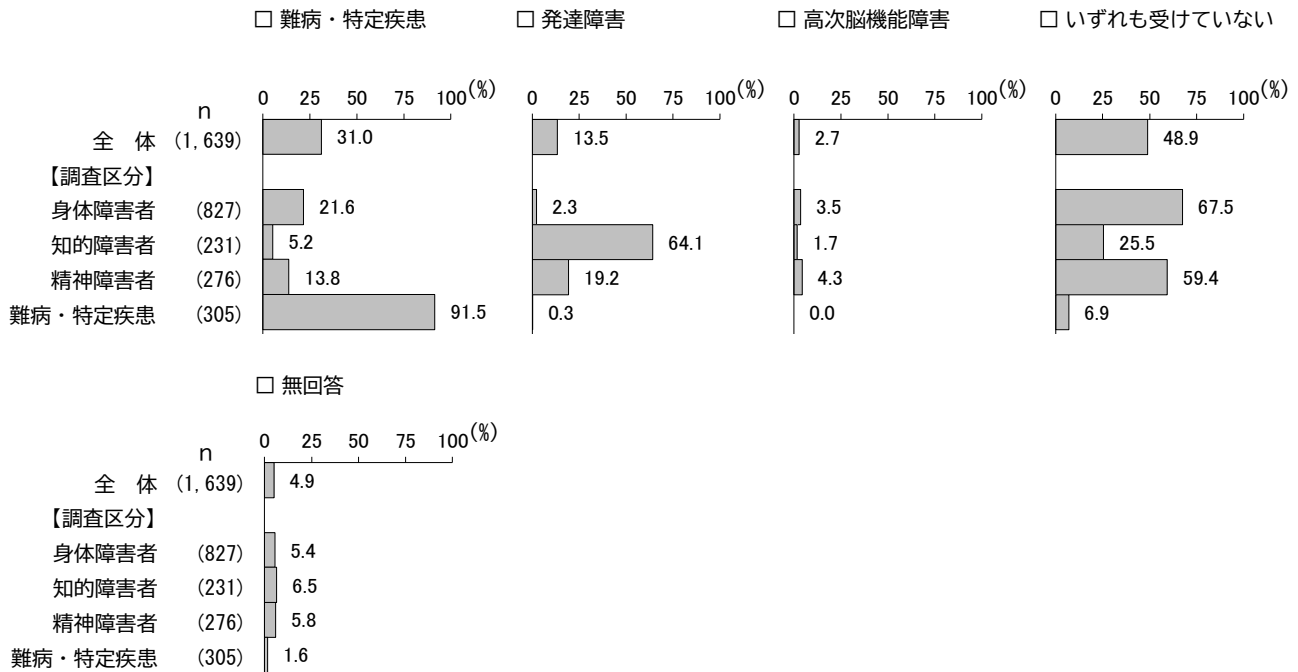


医療費の助成状況は、「医療費の助成を受けている」が60.8%と最も高く、「受けていない」が35.9%、「申請中」が0.4%となっている。

調査区分別にみると、精神障害者と難病・特定疾患では「医療費の助成を受けている」がそれぞれ9割を占めている。身体障害者では「受けている」が41.6%、知的障害者では「受けている」と「受けていない」がそれぞれ半数近くとなっている。

(5) 受けている障害や疾患の診断

問8 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

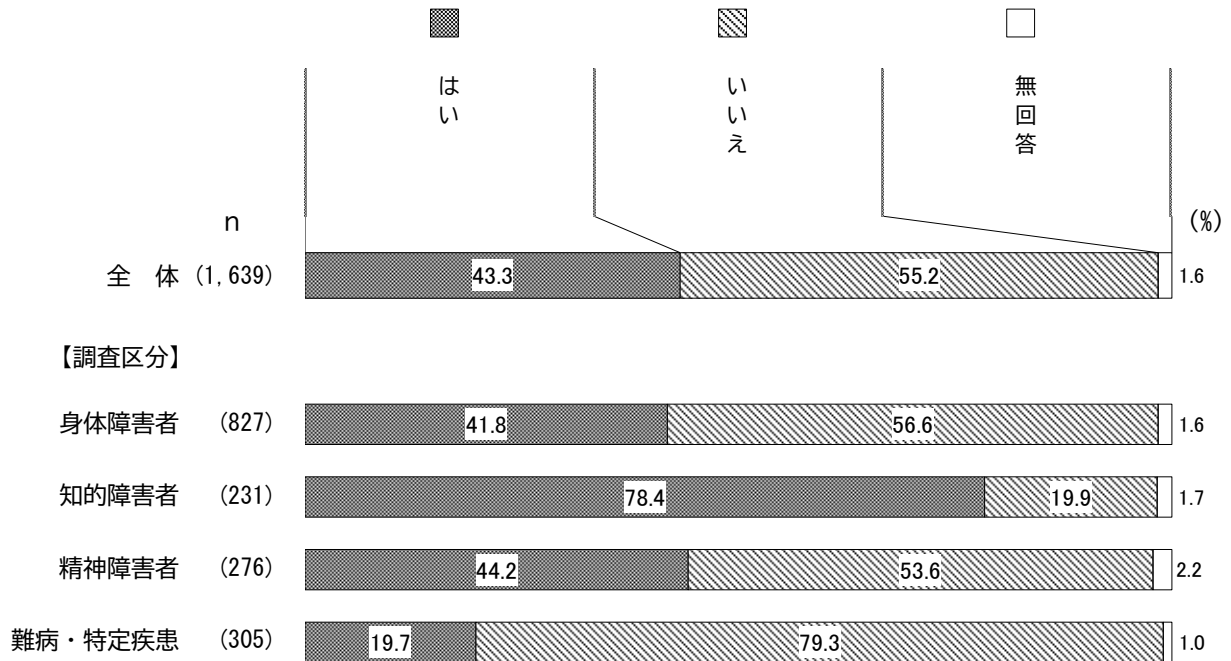


受けている障害や疾患の診断は、「難病・特定疾患」が31.0%、「発達障害」が13.5%、「高次脳機能障害」が2.7%となっている。一方、「いずれも受けていない」が48.9%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「発達障害」が64.1%と他の区分より高くなっている。身体障害者と精神障害者では「いずれも受けていない」が約6割から約7割と他の区分より高くなっている。

(6) 介助や支援の必要性

問9 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)



介助や支援の必要性は、「はい（必要）」は43.3%、「いいえ（不要）」は55.2%となっている。

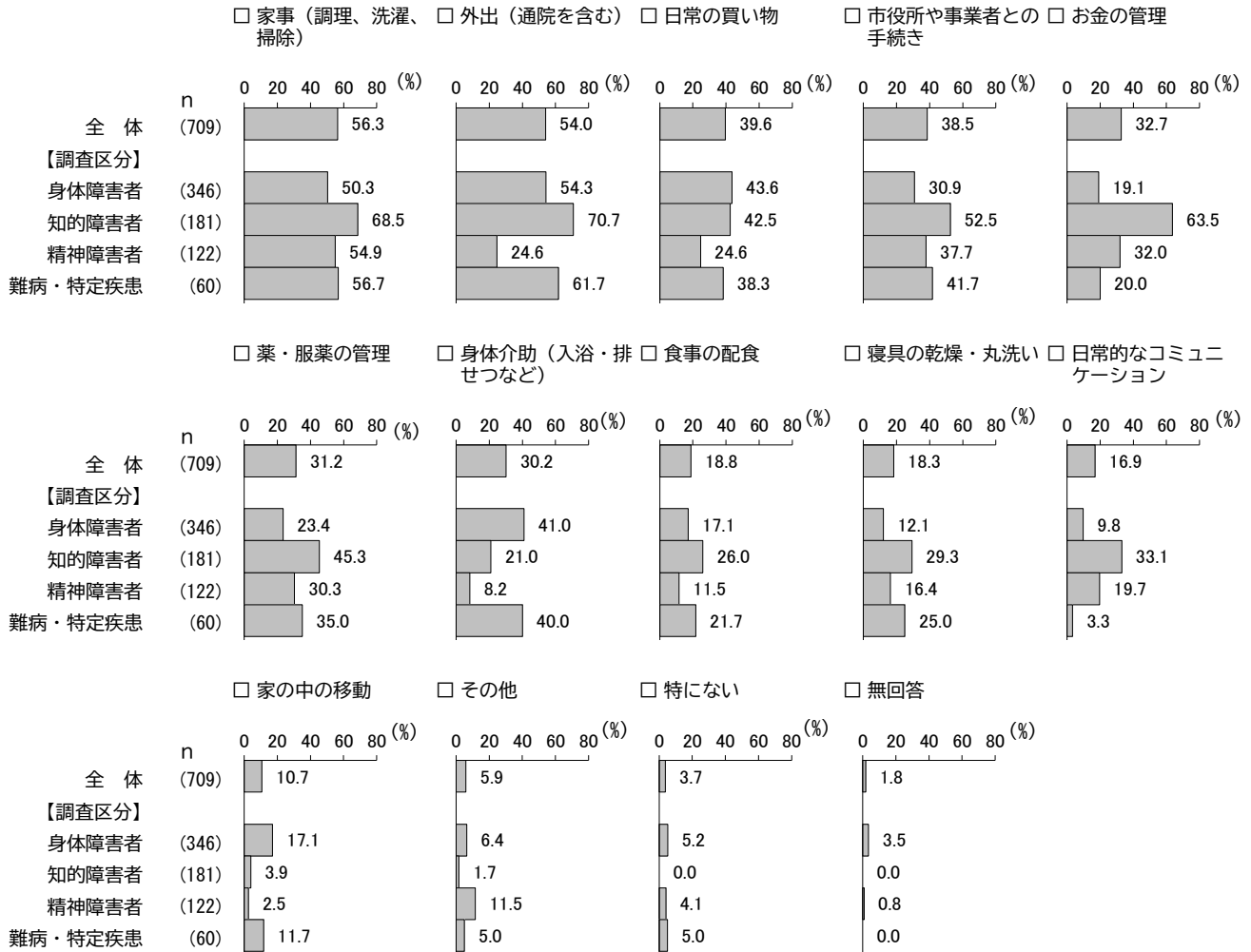
調査区分別にみると、知的障害者では「はい（必要）」が78.4%を占めており、唯一、区分別の中で「いいえ（不要）」を上回っている。難病・特定疾患では「いいえ（不要）」が79.3%と他の区分より高くなっている。

(7) 必要とする介助や支援

【問9で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問9-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。

(主にあてはまるもの5つまでに○)



必要とする介助や支援は、「家事（調理、洗濯、掃除）」が56.3%と最も高く、次いで「外出（通院を含む）」（54.0%）、「日常の買い物」（39.6%）、「市役所や事業者との手続き」（38.5%）となっている。

調査区分別にみると、身体障害者と難病・特定疾患では「身体介助（入浴・排せつなど）」が、知的障害者では「家事（調理、洗濯、掃除）」「外出（通院を含む）」「市役所や事業者との手続き」「お金の管理」「薬・服薬の管理」「寝具の乾燥・丸洗い」「日常的なコミュニケーション」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(8) 主な介助者

問9-2 主に介助しているのはどなたですか。(1つに○)

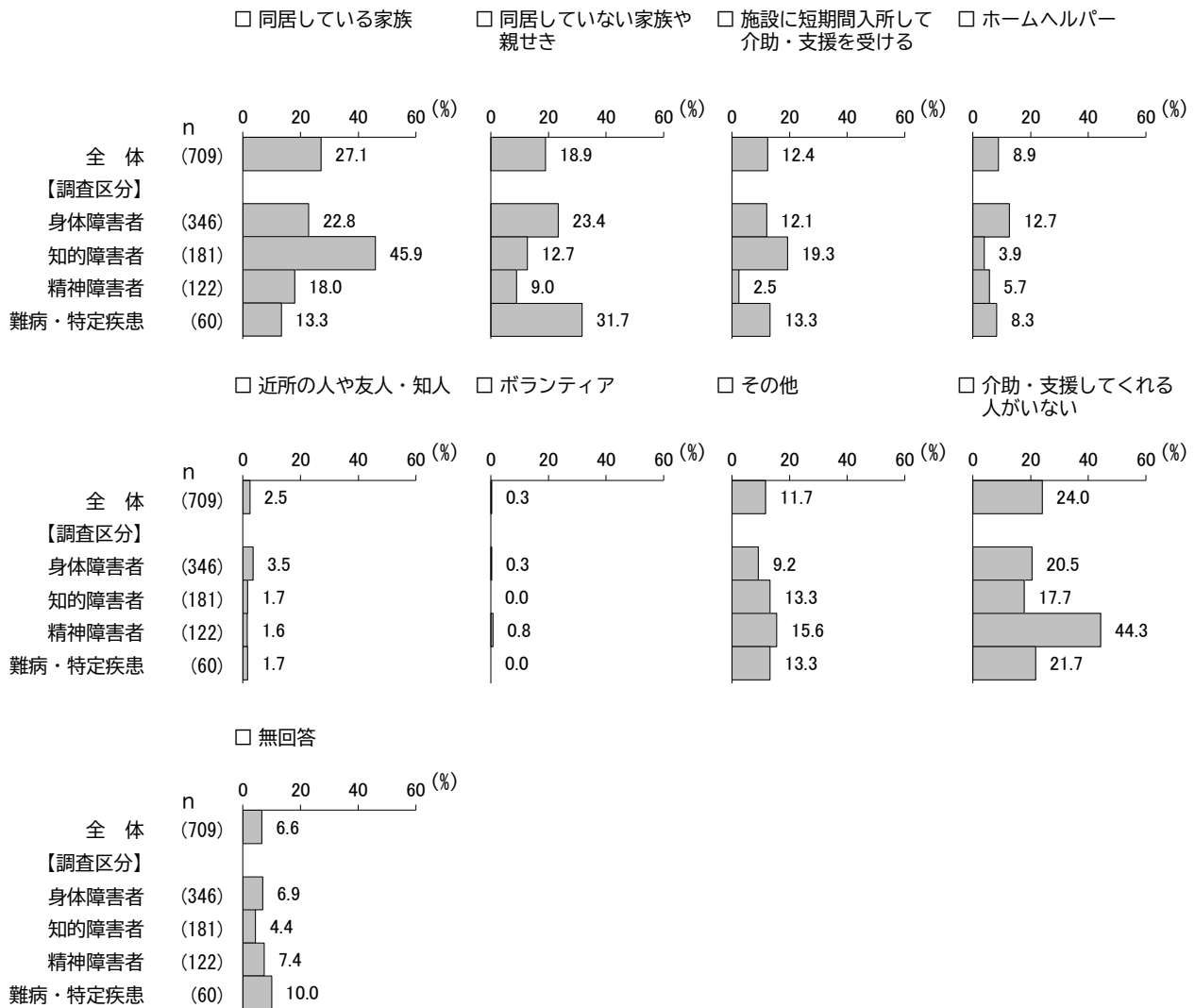
		回答者数 (n)	父母	祖父母	きょうだい	配偶者	子または子の配偶者	孫または孫の配偶者	福祉サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
単位：%												
全 体		709	24.4	-	2.0	20.9	11.7	-	21.7	4.2	6.6	8.5
調査 区分	身体障害者	346	6.9	-	2.0	28.0	18.5	-	23.7	3.8	6.9	10.1
	知的障害者	181	69.1	-	2.2	-	0.6	-	19.3	1.7	1.1	6.1
	精神障害者	122	19.7	-	2.5	18.9	5.7	-	21.3	8.2	15.6	8.2
	難病・特定疾患	60	-	-	-	46.7	18.3	-	18.3	6.7	3.3	6.7

主な介助者は、「父母」が24.4%と最も高く、次いで「福祉サービス事業者」(21.7%)、「配偶者」(20.9%)、「子または子の配偶者」(11.7%)となっている。一方、「誰もいない」は6.6%となっている。

調査区分別にみると、身体障害者と難病・特定疾患では「配偶者」「子または子の配偶者」が、知的障害者では「父母」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、精神障害者では「誰もいない」が他の区分より高くなっている。

(9) 主な介助・支援者がいない際の代理者

問9-3 あなたを主に介助・支援している方が、病気の時や外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助していますか。(あてはまるものすべてに○)



主な介助・支援者がいない際の代理者は、「同居している家族」が27.1%と最も高く、次いで「同居していない家族や親せき」(18.9%)、「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」(12.4%)、「ホームヘルパー」(8.9%)となっている。一方、「介助・支援してくれる人がいない」が24.0%と高くなっている。

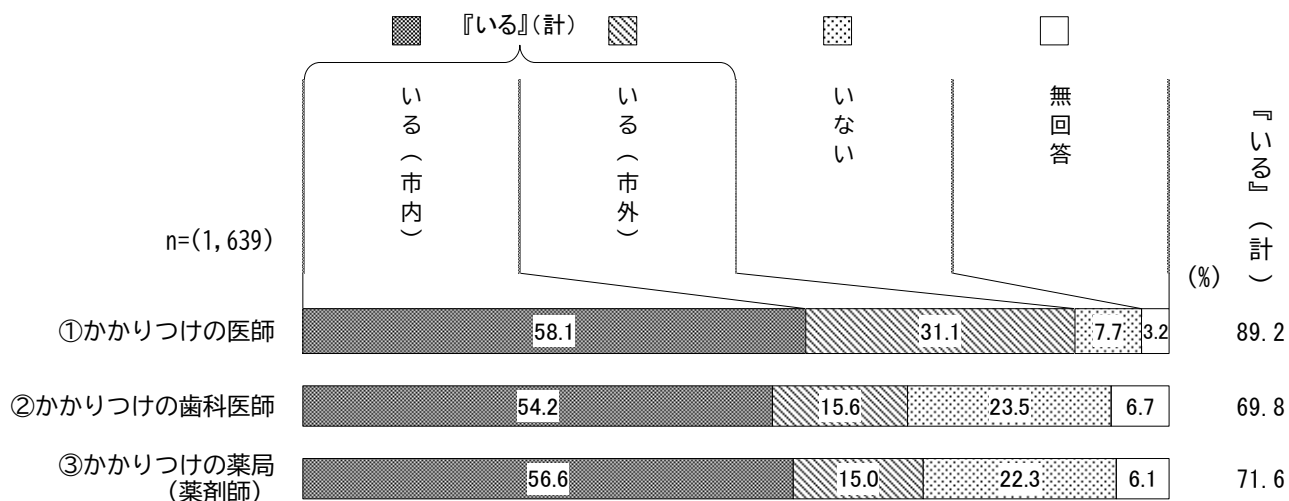
調査区分別にみると、知的障害者では「同居している家族」「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」が、難病・特定疾患では「同居していない家族や親せき」が他の区分より高くなっている。一方、精神障害者では「介助・支援してくれる人がいない」が44.3%と高くなっている。

4. 保健・医療について

(1) かかりつけ医師の有無

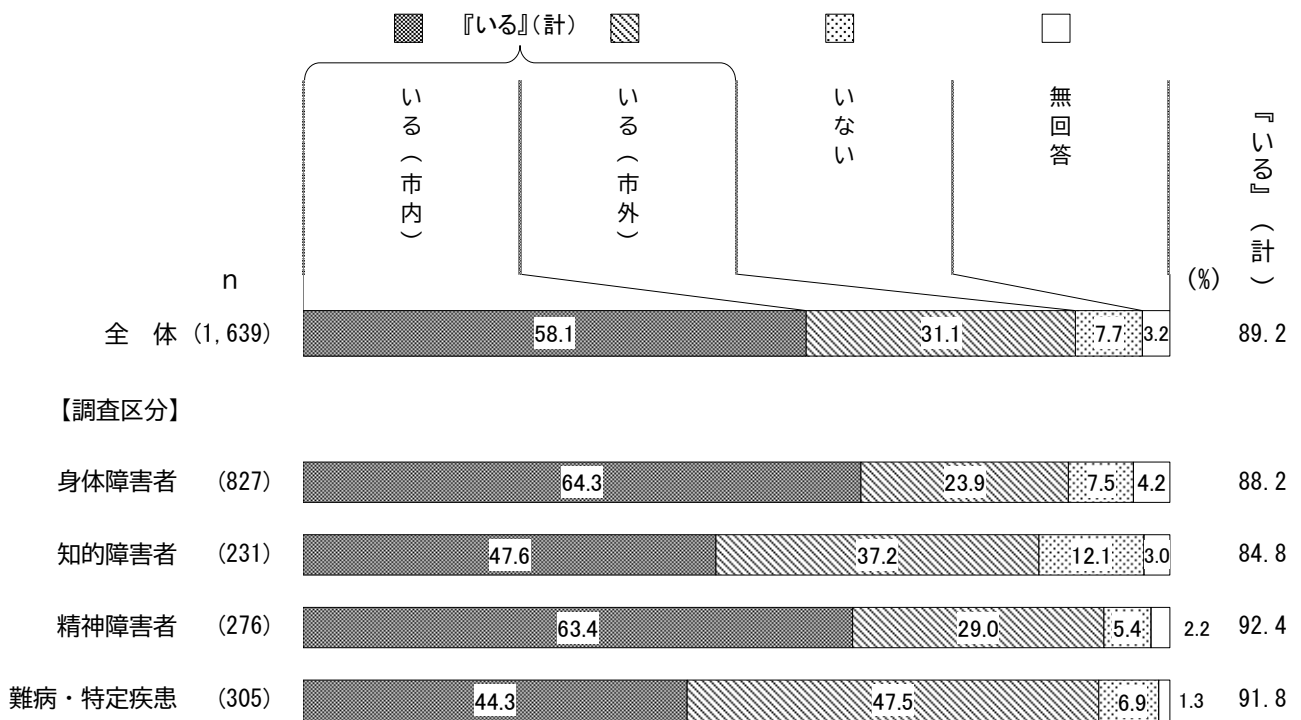
【すべての方にお聞きします。】

問10 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）



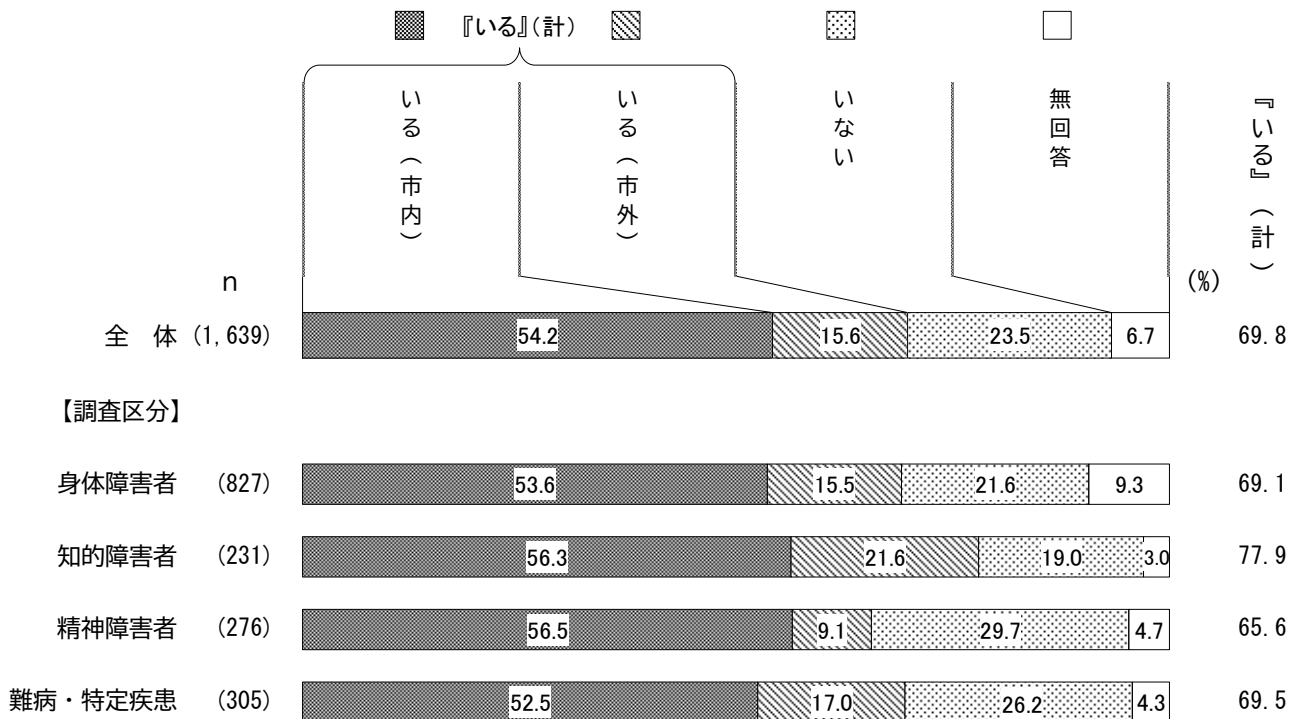
かかりつけ医師の有無は、①医師、②歯科医師、③薬局（薬剤師）いずれも市内に「いる」が5割台となっている。市内外をあわせた『いる』でみると、①医師は89.2%と高く、②歯科医師は69.8%、③薬局（薬剤師）は71.6%となっている。

①かかりつけの医師



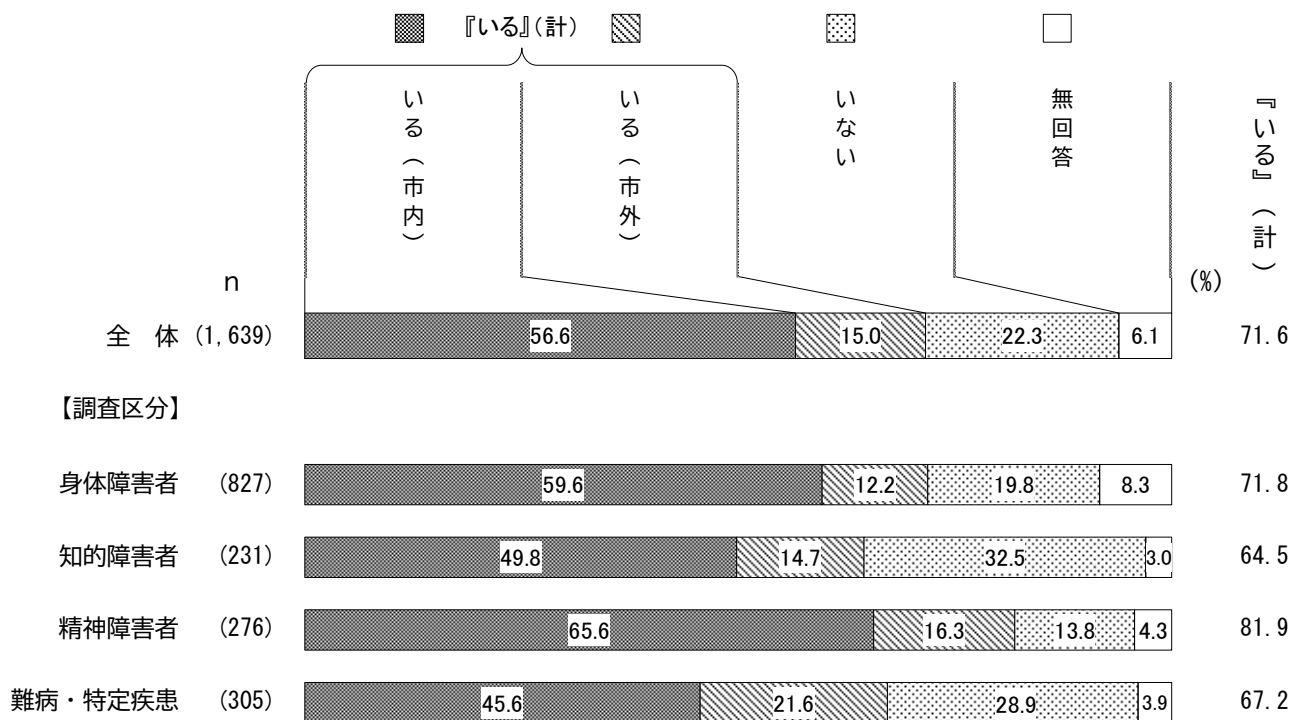
①かかりつけの医師を調査区分別にみると、市外も含めた『いる』は、いずれも8割以上となっている。また、市内に「いる」は身体障害者と精神障害者で6割台半ばと高くなっている。

②かかりつけの歯科医師



②かかりつけの歯科医師を調査区分別にみると、市外も含めた『いる』は、いずれも6割以上となっており、特に知的障害者では77.9%と他の区分より高くなっている。

③かかりつけの薬局(薬剤師)

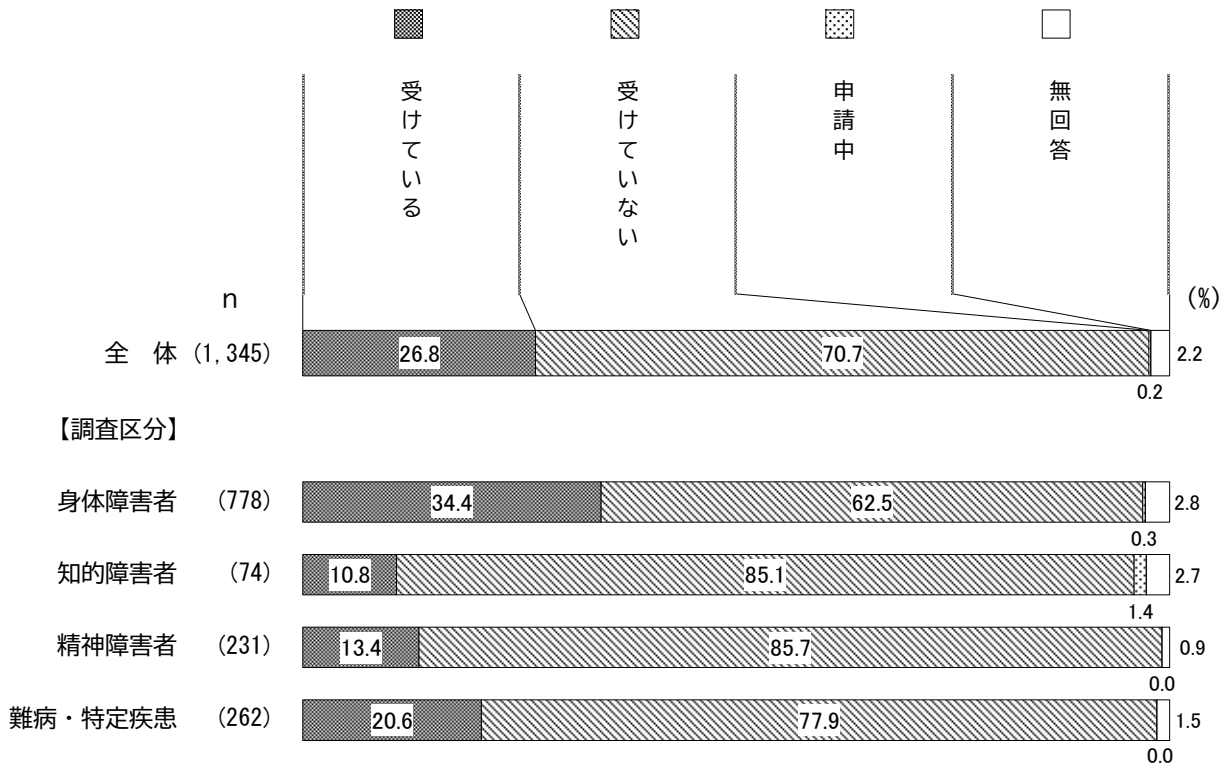


③かかりつけの薬局（薬剤師）を調査区分別にみると、市外も含めた『いる』は、いずれも6割以上となっており、特に精神障害者では81.9%と他の区分より高くなっている。一方、知的障害者では「いない」が32.5%と高くなっている。

(2) 介護保険の認定状況 (40歳以上の方)

【問11は40歳以上の方にお聞きします。(40歳未満の方は問14へ)】

問11 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

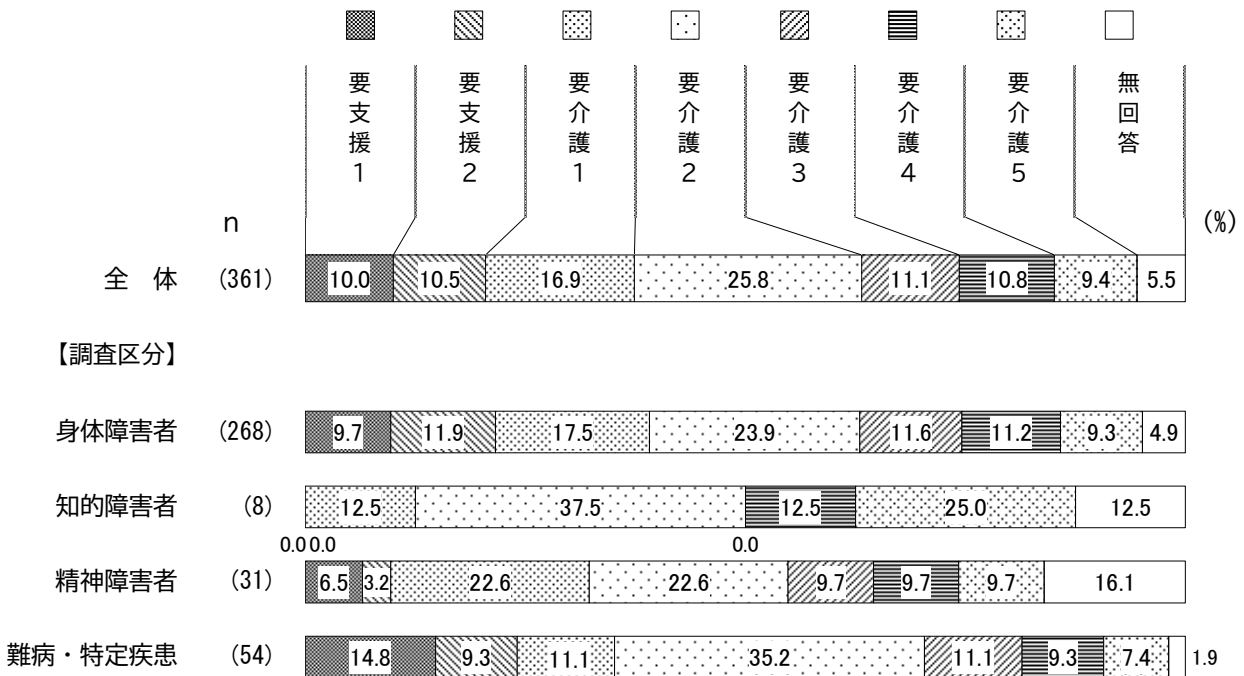


介護保険の認定状況は、「受けている」が26.8%、「受けていない」が70.7%となっている。調査区分別にみると、身体障害者では「受けている」が34.4%と他の区分より高くなっている。

(3) 要介護度 (40歳以上の方)

【問11で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問11-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

要介護度をみると、認定内容は幅広く分布しているが、「要介護2」(25.8%)、「要介護1」(16.9%)が比較的高く、その他の区分も約1割となっている。

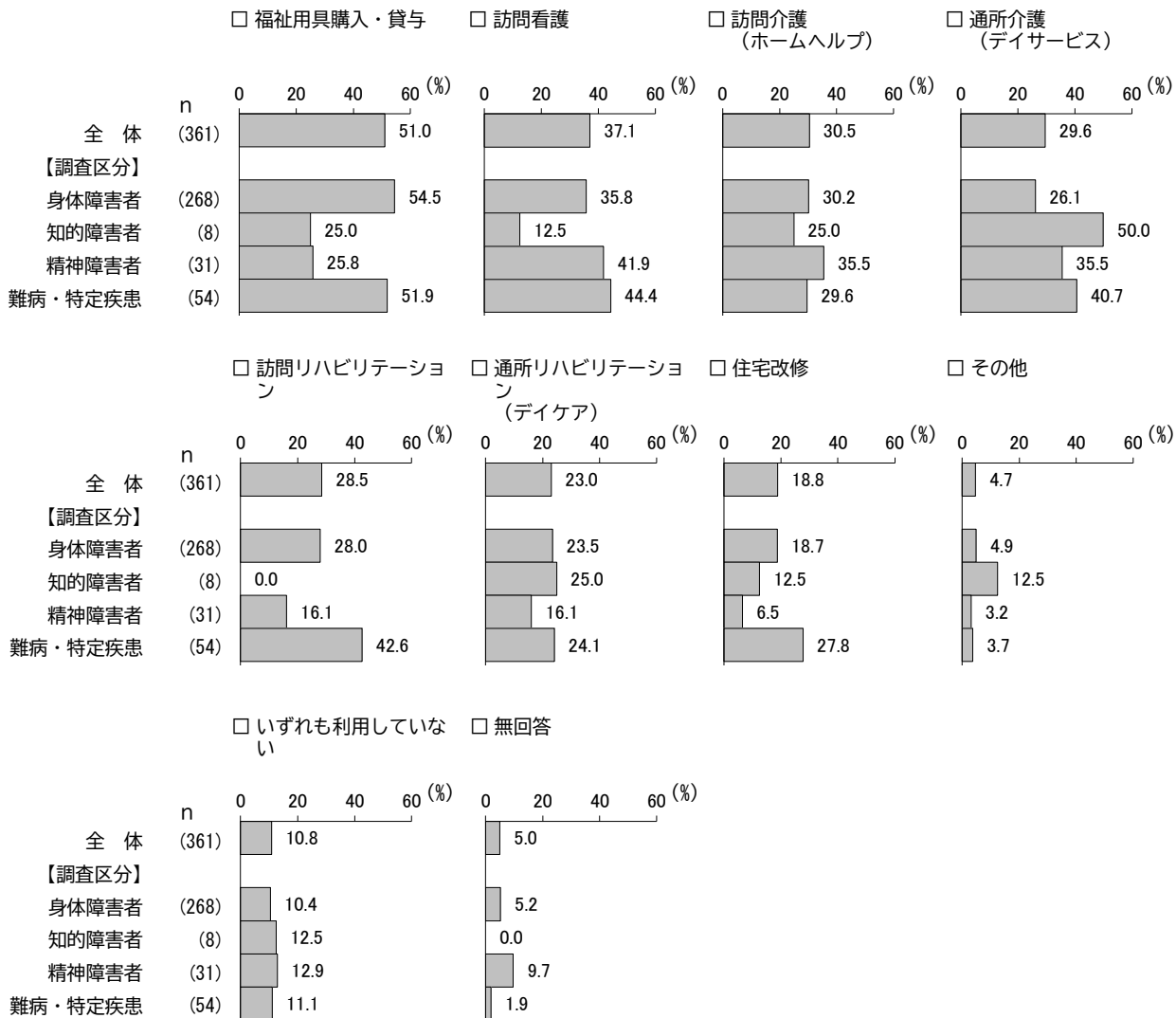
調査区分別にみると、精神障害者では「要介護1」が他の区分より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、知的障害者は「要介護2」が高くなっている。

(4) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス

【問11で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問11-2 利用している、又は利用したことがある介護保険サービスはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

利用中（利用経験あり）の介護保険サービスは、「福祉用具購入・貸与」が51.0%と最も高く、次いで「訪問看護」(37.1%)、「訪問介護（ホームヘルプ）」(30.5%)、「通所介護（デイサービス）」(29.6%)となっている。一方、「いずれも利用していない」は10.8%となっている。

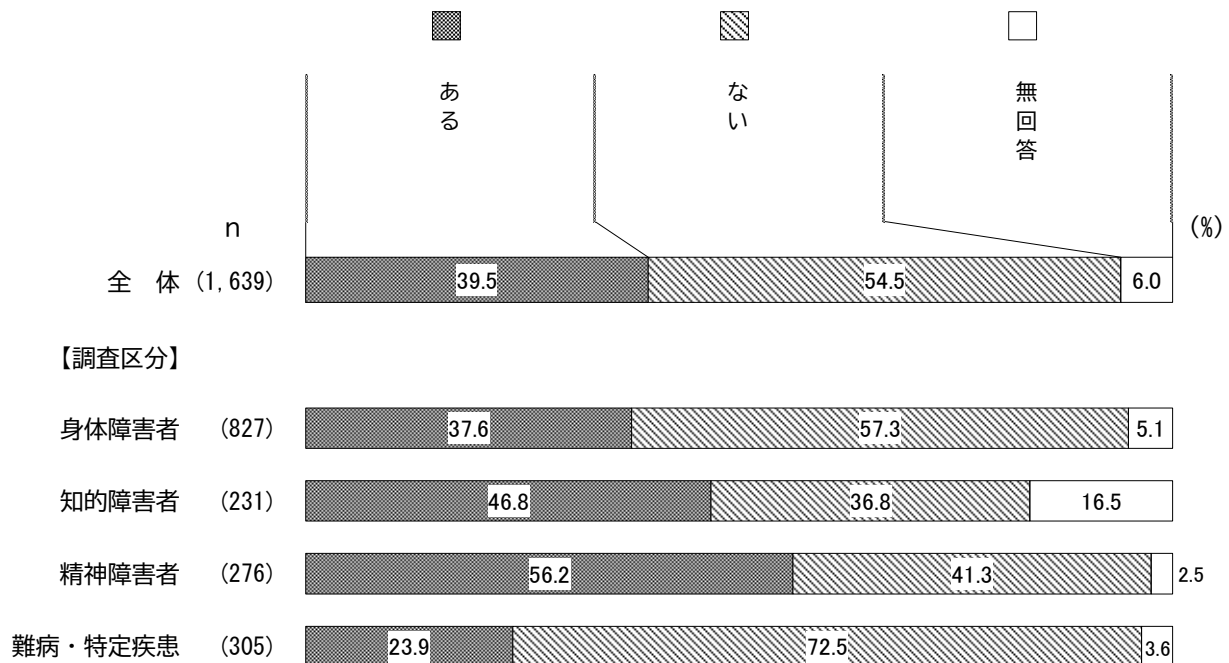
調査区分別にみると、精神障害者では「訪問介護（ホームヘルプ）」が、難病・特定疾患では「訪問看護」「訪問リハビリテーション」「住宅改修」がそれぞれ他の区分より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、知的障害者は「通所介護(デイサービス)」が高くなっている。

5. 相談や情報入手について

(1) 日常生活で困っていること

【すべての方にお聞きします。】

問12 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)



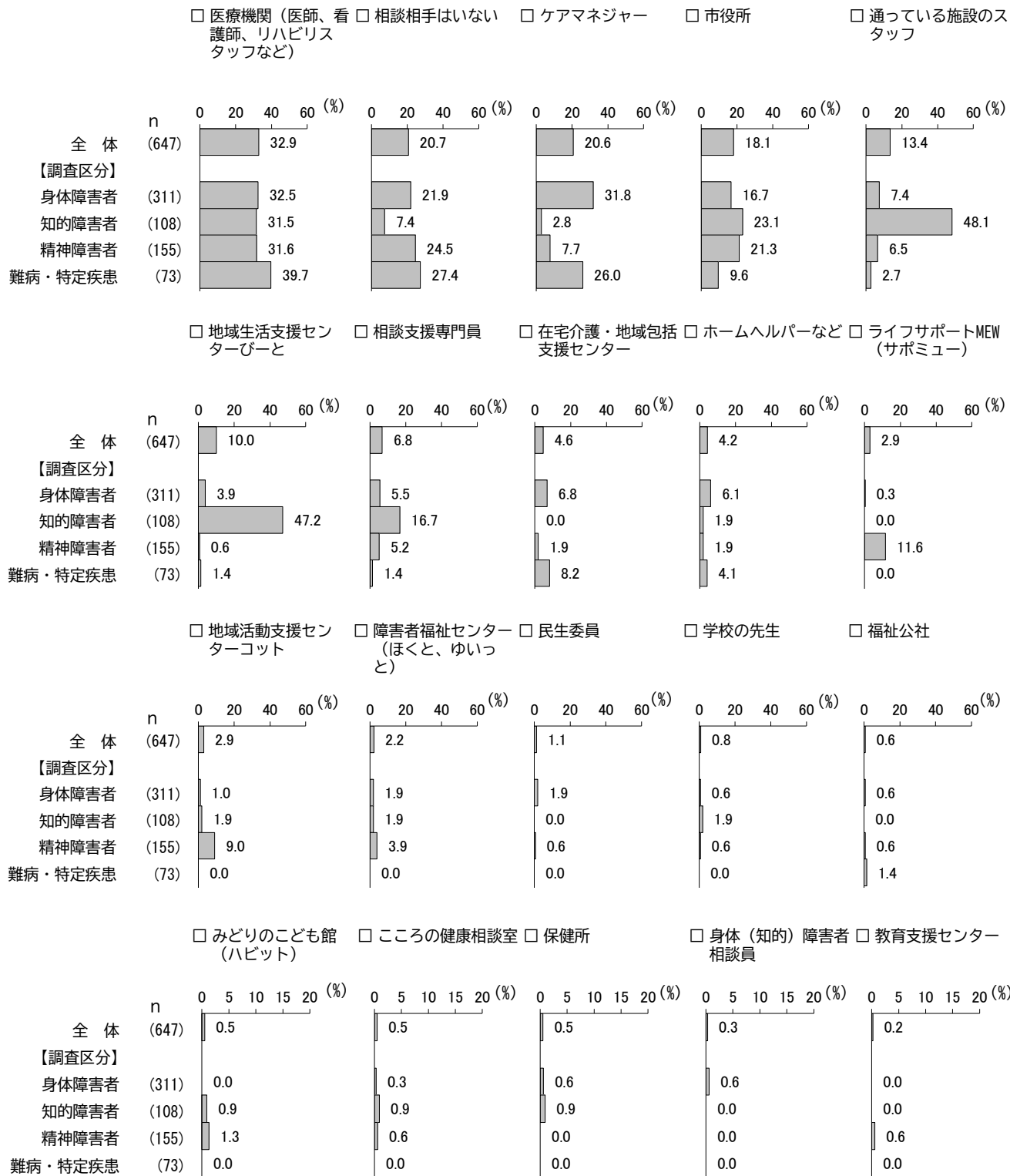
日常生活で困っていることは、「ある」が39.5%、「ない」が54.5%となっている。

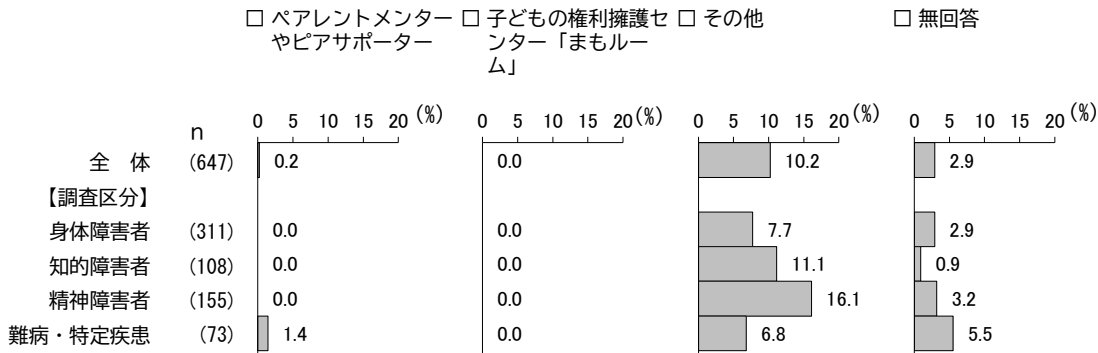
調査区分別にみると、「ある」は精神障害者が56.2%、次いで知的障害者が46.8%と他の区分より高くなっている。

(2) 相談相手の有無

【問12で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問12-1 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)





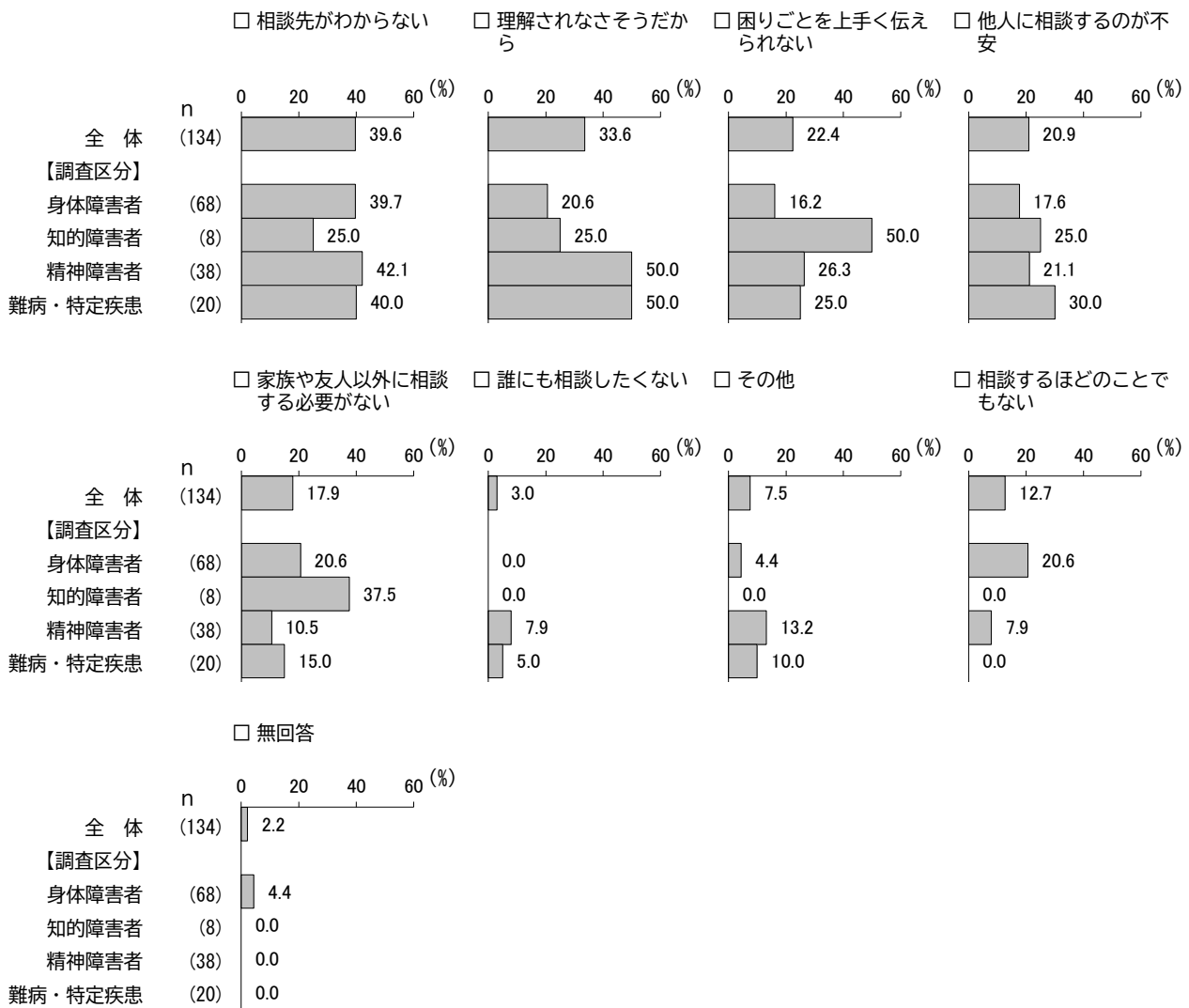
相談相手は、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」が32.9%と最も高く、次いで「ケアマネジャー」（20.6%）、「市役所」（18.1%）、「通っている施設のスタッフ」（13.4%）となっている。一方、「相談相手はいない」が20.7%と高くなっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「ケアマネジャー」が、知的障害者では「通っている施設のスタッフ」「地域生活支援センターびーと」が、精神障害者では「ライフサポートMEW（サポミュー）」「地域活動支援センターコット」が、難病・特定疾患では「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(3) 相談相手がない理由

【問12-1で「1 相談相手はいない」と回答した方にお聞きします。】

問12-2 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

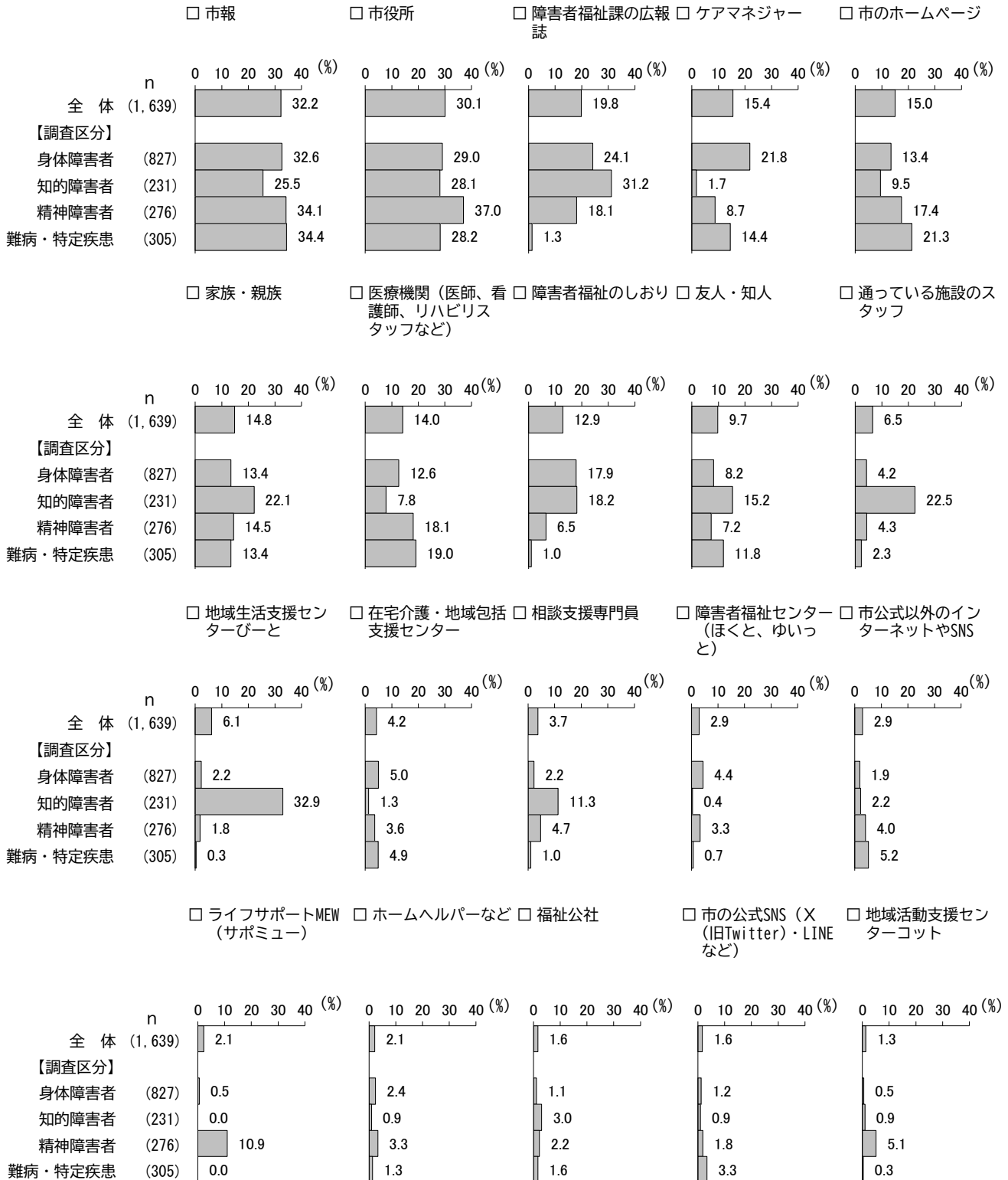
相談相手がない理由は、「相談先がわからない」が39.6%と最も高く、次いで「理解されなさそうだから」(33.6%)、「困りごとを上手く伝えられない」(22.4%)、「他人に相談するのが不安」(20.9%)となっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「相談するほどのことでもない」が、精神障害者では「理解されなさそうだから」がそれぞれ他の区分より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、知的障害者は「困りごとを上手く伝えられない」が高くなっている。

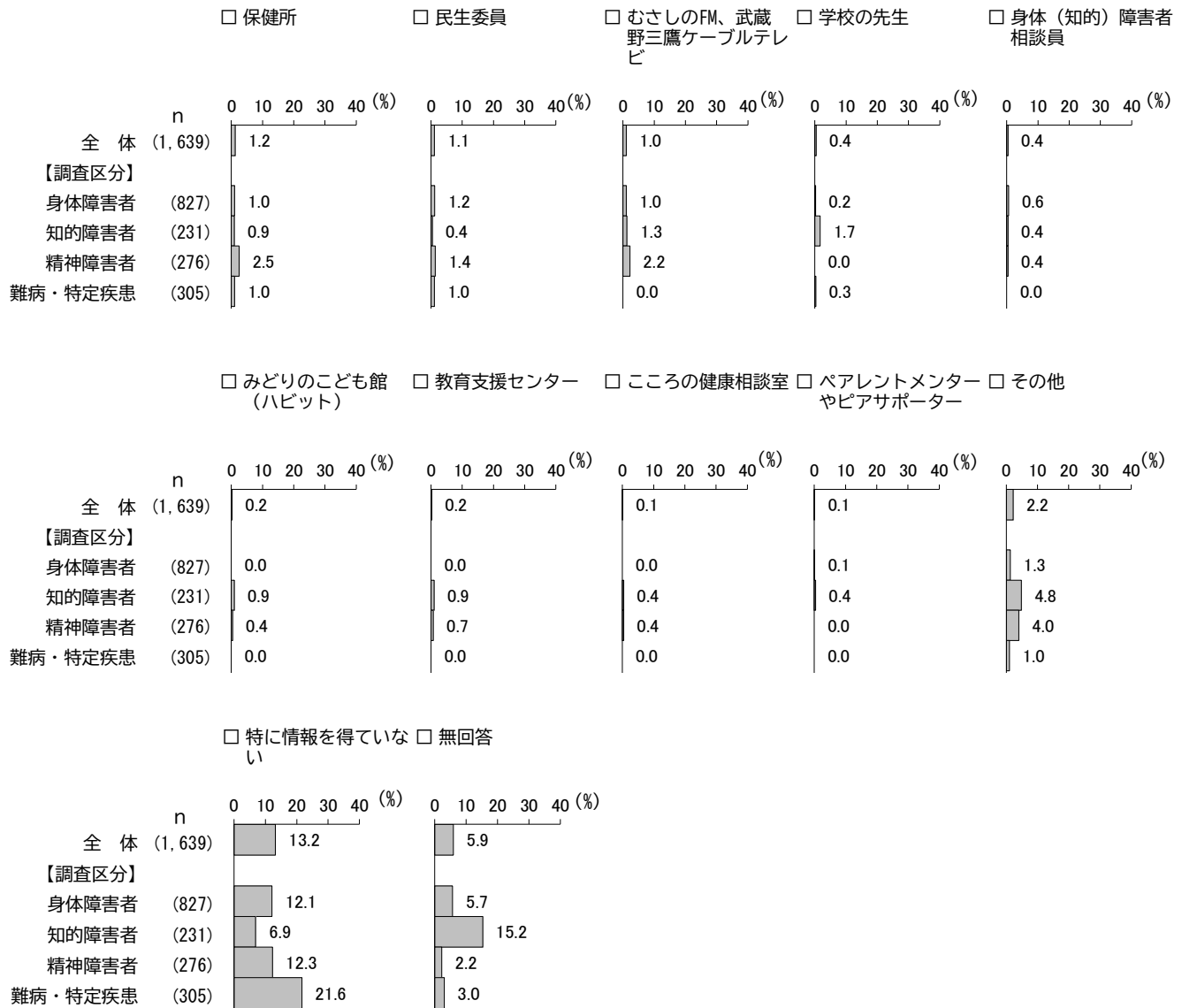
(4) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源

【すべての方にお聞きします。】

問13 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



第3章 調査結果の詳細

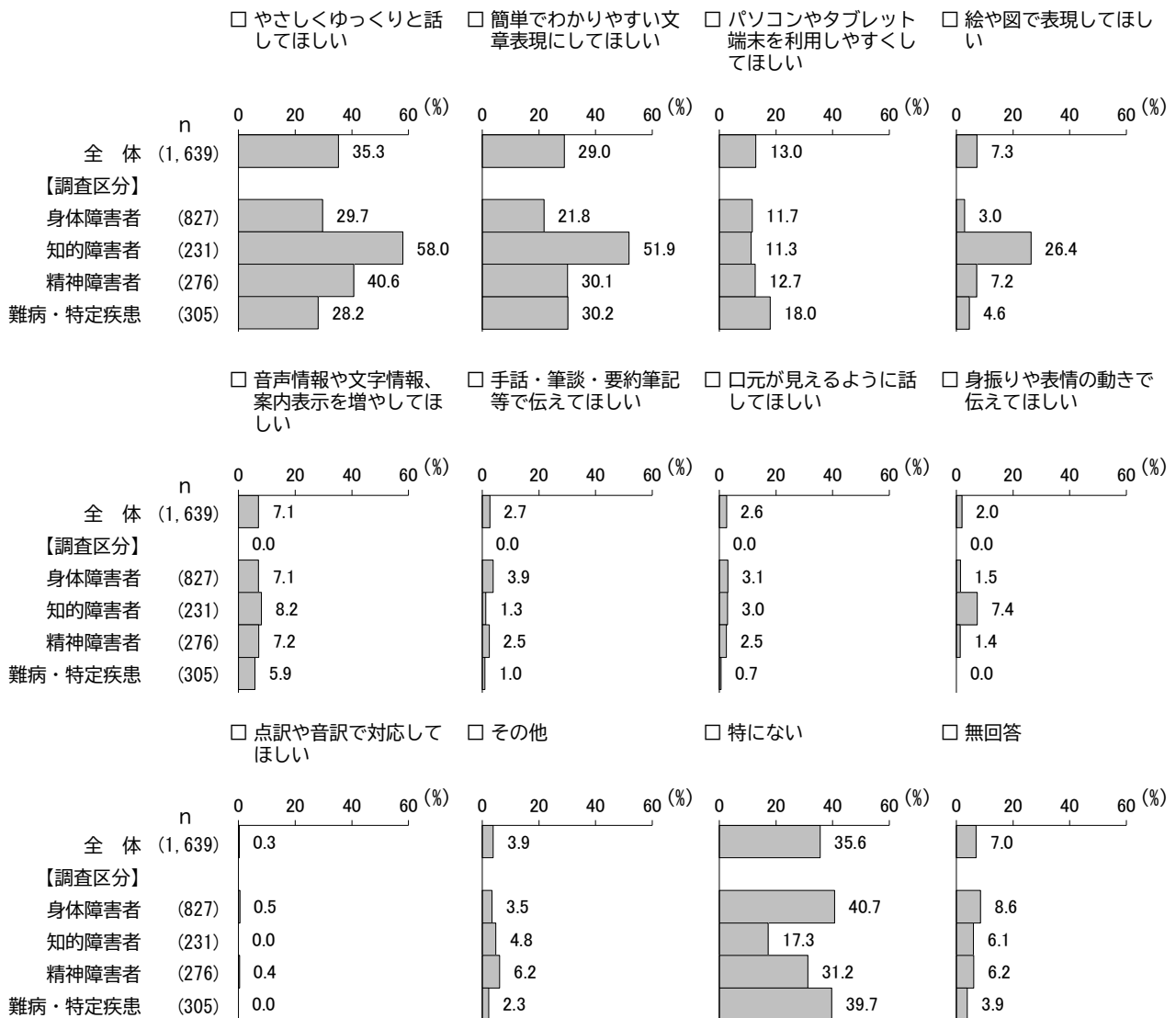


市の生活支援に関するサービスの情報入手源は、「市報」が32.2%と最も高く、次いで「市役所」(30.1%)、「障害者福祉課の広報誌」(19.8%)、「ケアマネジャー」(15.4%)、「市のホームページ」(15.0%)となっている。一方、「特に情報を得ていない」は13.2%となっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「ケアマネジャー」が、知的障害者では「障害者福祉課の広報誌」「家族・親族」「友人・知人」「通っている施設のスタッフ」「地域生活支援センターびと」が、精神障害者では「市役所」「ライフサポートMEW(サポミュー)」「地域活動支援センターコット」が、難病・特定疾患では「市のホームページ」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、難病・特定疾患は「特に情報を得ていない」も高くなっている。

(5) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいこと

問14 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮をしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいことは、「やさしくゆっくりと話してほしい」が35.3%と高く、次いで「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」(29.0%)、「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」(13.0%)となっている。一方、「特にない」が35.6%と最も高くなっている。

調査分別にみると、知的障害者では「やさしくゆっくりと話してほしい」「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」「絵や図で表現してほしい」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「特にない」が約4割と高くなっている。

6. 仕事の状況や今後の希望について

(1) 就労状況

問15 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

『働いている』(計)

	回答者数 (n)	『働いている』(計)							『働いている』 (計)		
		会社員、団体職員などとして働いている	自営業をしている	パート、アルバイト、派遣社員などとして働いている	内職をしている	福祉的就労(就労継続支援・就労移行支援等)を利用している	その他	働いていない		無回答	
全体	1639	16.8	4.5	12.6	0.1	7.3	2.4	51.9	4.5	41.3	
調査区分	身体障害者	827	13.2	6.5	7.5	0.1	0.8	1.9	64.3	5.6	28.1
	知的障害者	231	13.9	-	12.6	-	40.3	6.1	22.9	4.3	66.8
	精神障害者	276	14.1	2.5	21.7	-	6.9	2.5	48.6	3.6	45.2
	難病・特定疾患	305	31.1	3.9	18.4	0.3	0.3	0.7	43.0	2.3	54.0

単位：%

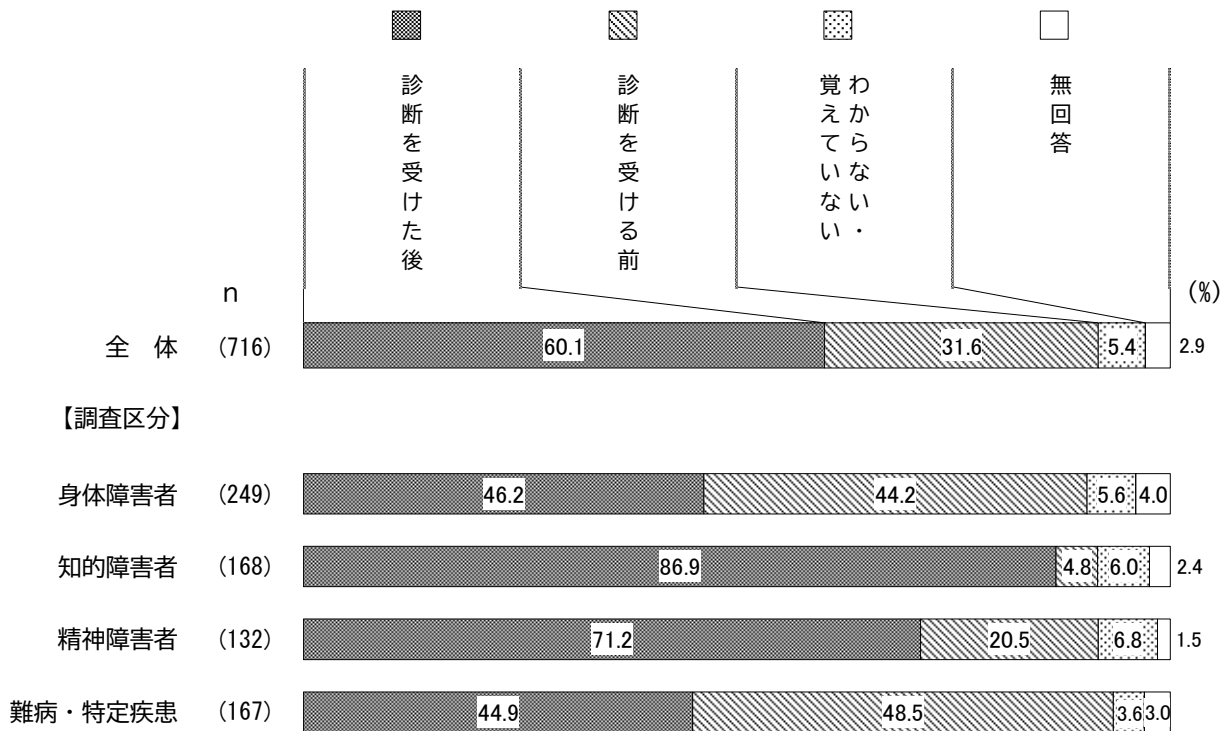
就労状況は、何らかの形で『働いている』人が41.3%、「働いていない」が51.9%となっている。就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」が16.8%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」(12.6%)、「福祉的就労(就労継続支援・就労移行支援等)を利用している」(7.3%)となっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「福祉的就労(就労継続支援・就労移行支援等)を利用している」が、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」が、難病・特定疾患では「会社員、団体職員などとして働いている」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「働いていない」が高くなっている。

(2) 現在の職場へ就職した時期

【問15で働いていると回答した方（1～6のいずれかを選択）にお聞きします。】

問15-1 現在の職場に就職した、または現在の事業所を利用し始めたのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。（1つに○）



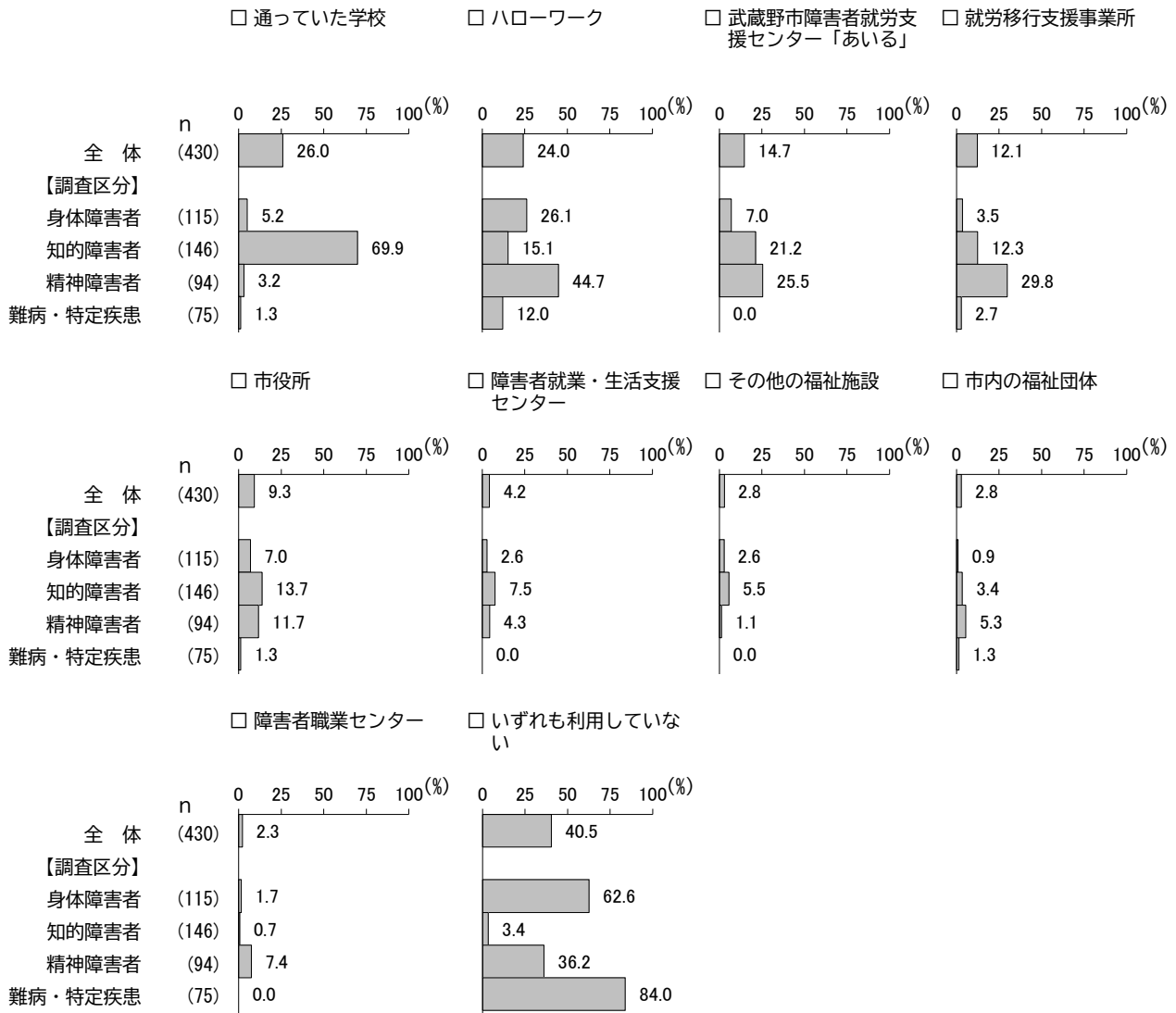
現在の職場へ就職した時期は、疾患や障害の「診断を受けた後」が60.1%、「診断を受ける前」が31.6%となっている。

調査区分別にみると、「診断を受けた後」は知的障害者が86.9%を占めており、精神障害者でも71.2%と高くなっている。一方、「診断を受ける前」は身体障害者と難病・特定疾患が4割台と高くなっている。

(3) 就職の際に利用した機関

【問15-1で「1 診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問15-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)



就職の際に利用した機関は、「通っていた学校」が26.0%と高く、次いで「ハローワーク」(24.0%)、「武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」」(14.7%)、「就労移行支援事業所」(12.1%)となっている。一方、「いずれも利用していない」が40.5%と最も高くなっている。

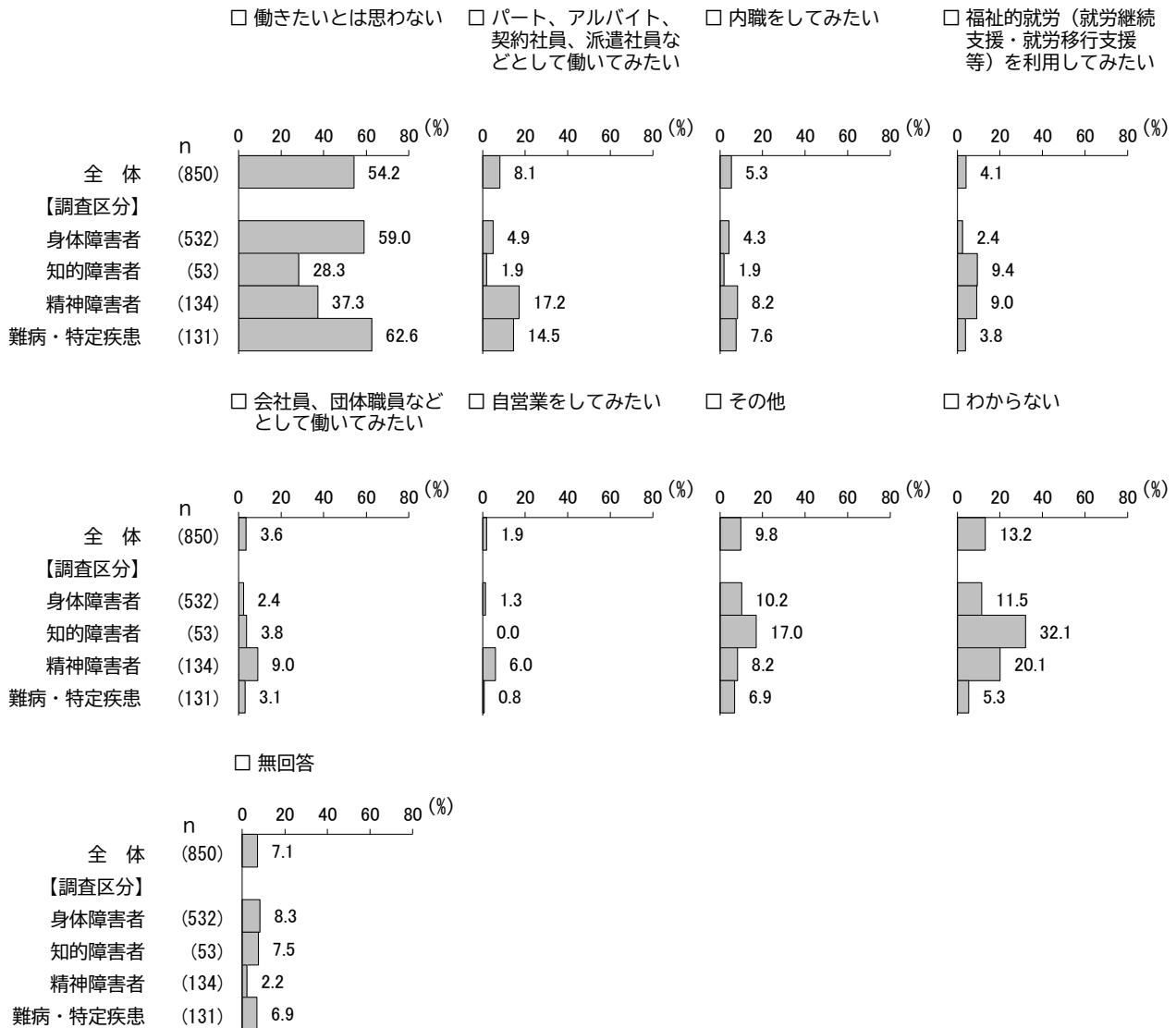
調査区分別にみると、知的障害者では「通っていた学校」が、精神障害者では「ハローワーク」「武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」」「就労移行支援事業所」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「いずれも利用していない」が高くなっている。

(4) 今後の就労意向

【問15で「7 働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問15-3 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



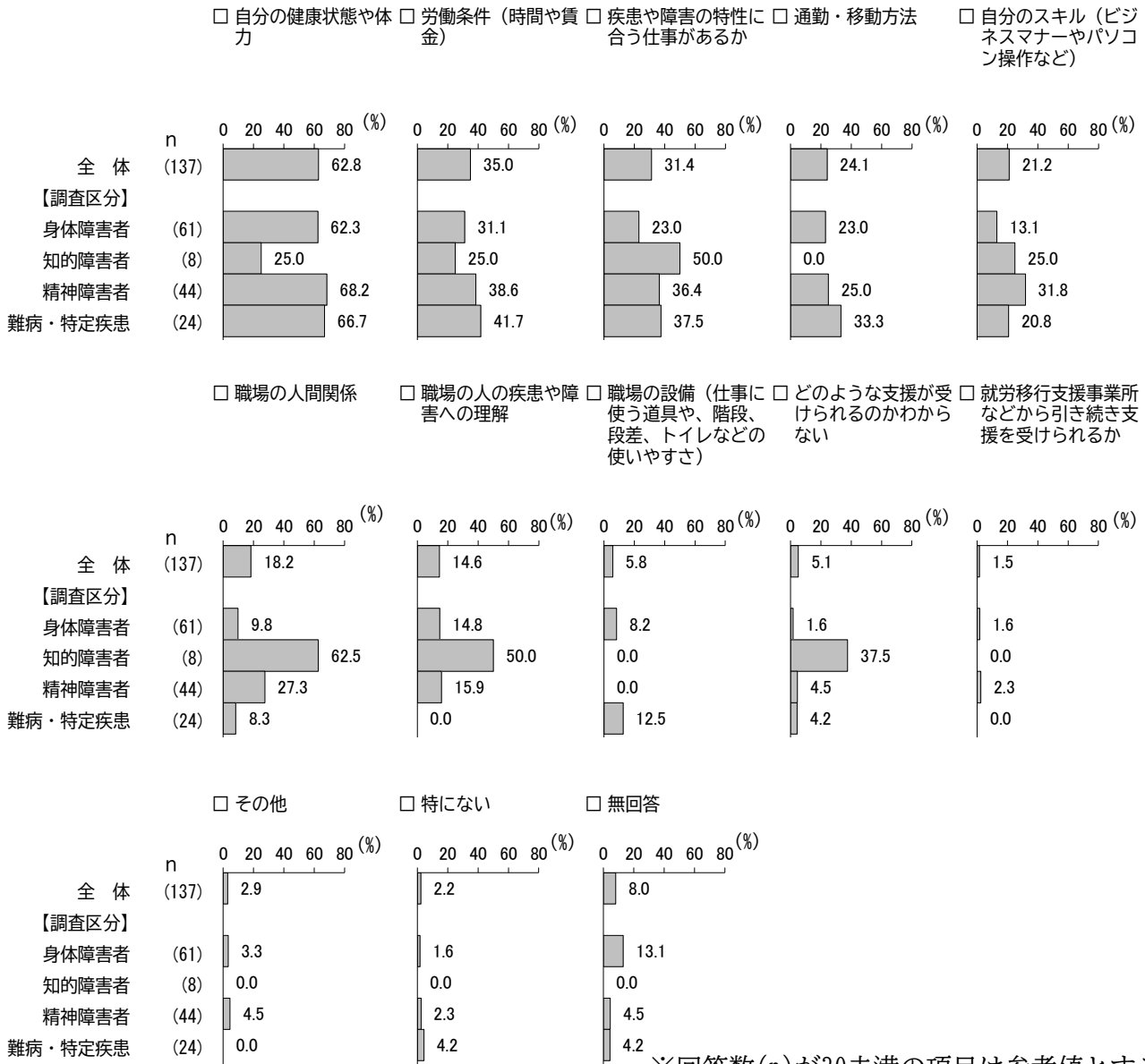
今後の就労意向は、「働きたいとは思わない」が54.2%と最も高くなっている。働きたい人の就労形態としては、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が8.1%で高く、次いで「内職をしてみたい」(5.3%)となっている。

調査区分別にみると、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「働きたいとは思わない」が、知的障害者では「わからない」が高くなっている。

(5) 就労の際に心配なこと

【問15-3で働いてみたいと回答した方（1～5のいずれかを選択）にお聞きします。】

問15-4 働くにあたって、特に心配なことはありますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）



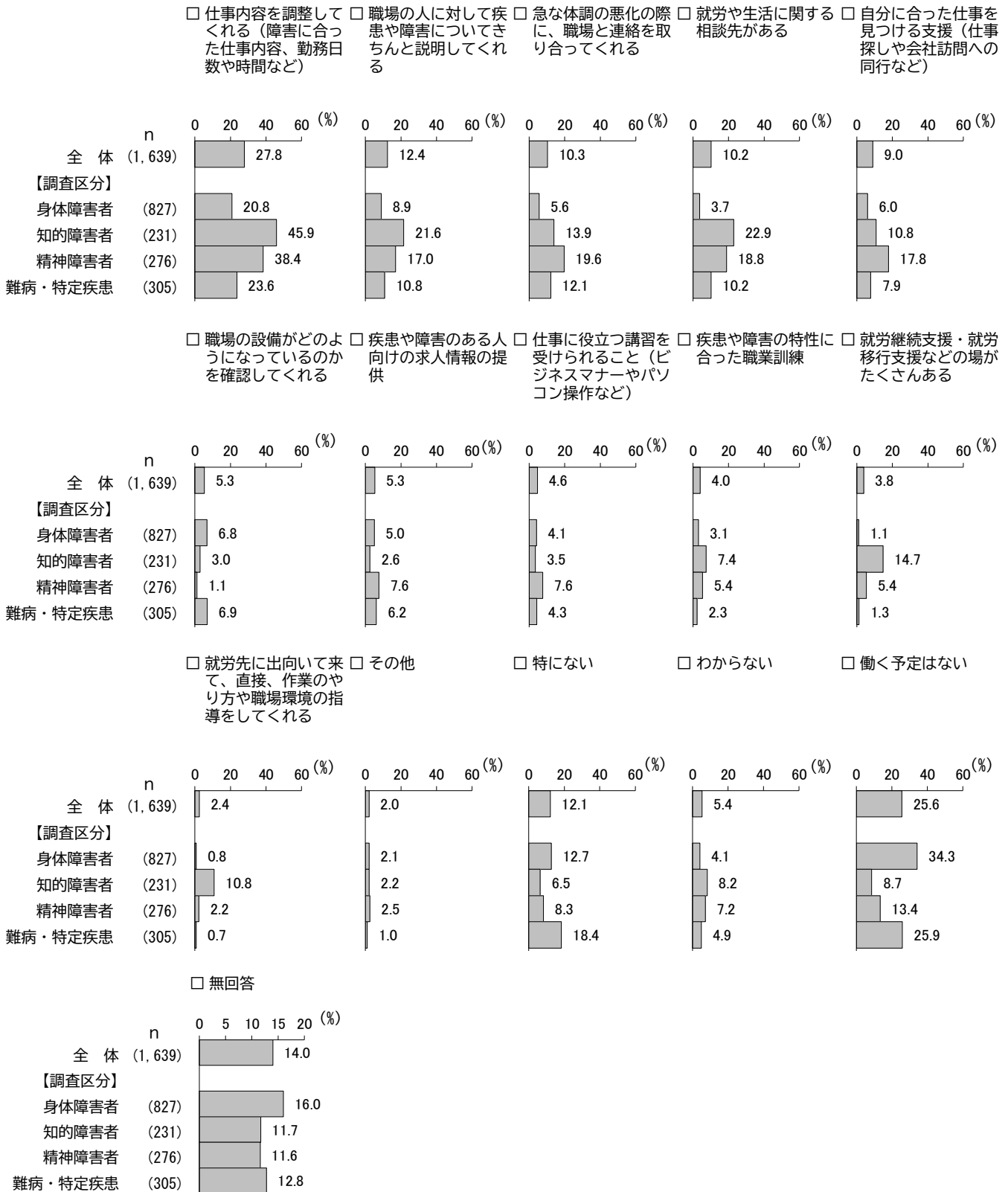
就労の際に心配なことは、「自分の健康状態や体力」が62.8%と最も高く、次いで「労働条件（時間や賃金）」（35.0%）、「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」（31.4%）、「通勤・移動方法」（24.1%）となっている。

調査区分別にみると、精神障害者では「自分の健康状態や体力」「自分のスキル（ビジネスマナーやパソコン操作など）」が他の区分より高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、知的障害者は「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」「職場の人間関係」「職場の人の疾患や障害への理解」「どのような支援が受けられるのかわからない」が高くなっている。

(6) 必要な就労支援

【すべての方にお聞きします。】

問16 あなたが働く際（働いていない方は今後働く場合に）、特にどのような支援があったらよいと思いますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）



第3章 調査結果の詳細

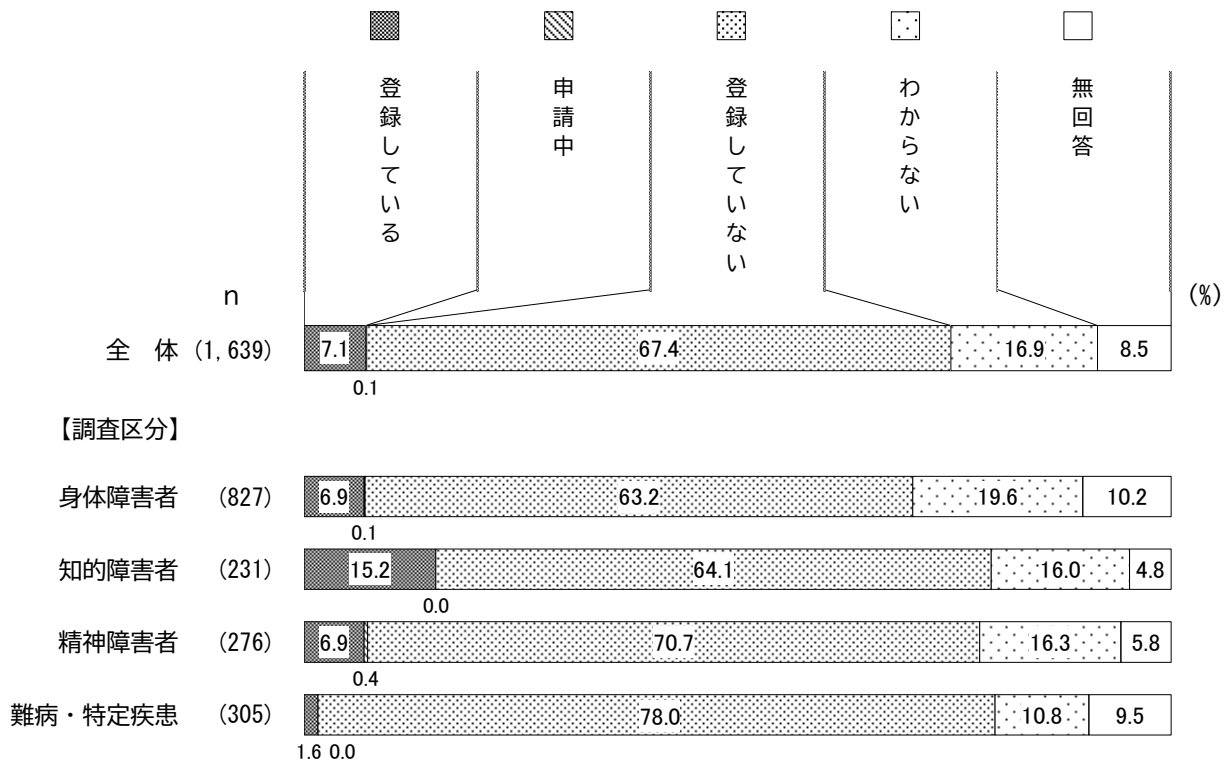
必要な就労支援は、「仕事内容を調整してくれる（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」が27.8%と最も高く、次いで「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」（12.4%）、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」（10.3%）、「就労や生活に関する相談先がある」（10.2%）となっている。一方、「働く予定はない」が25.6%と高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「仕事内容を調整してくれる（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」「就労や生活に関する相談先がある」「就労継続支援・就労移行支援などの場がたくさんある」が、精神障害者では「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」「自分に合った仕事を見つける支援（仕事探しや会社訪問への同行など）」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「働く予定はない」が高くなっている。

7. 災害時の対応について

(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況

問17 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)



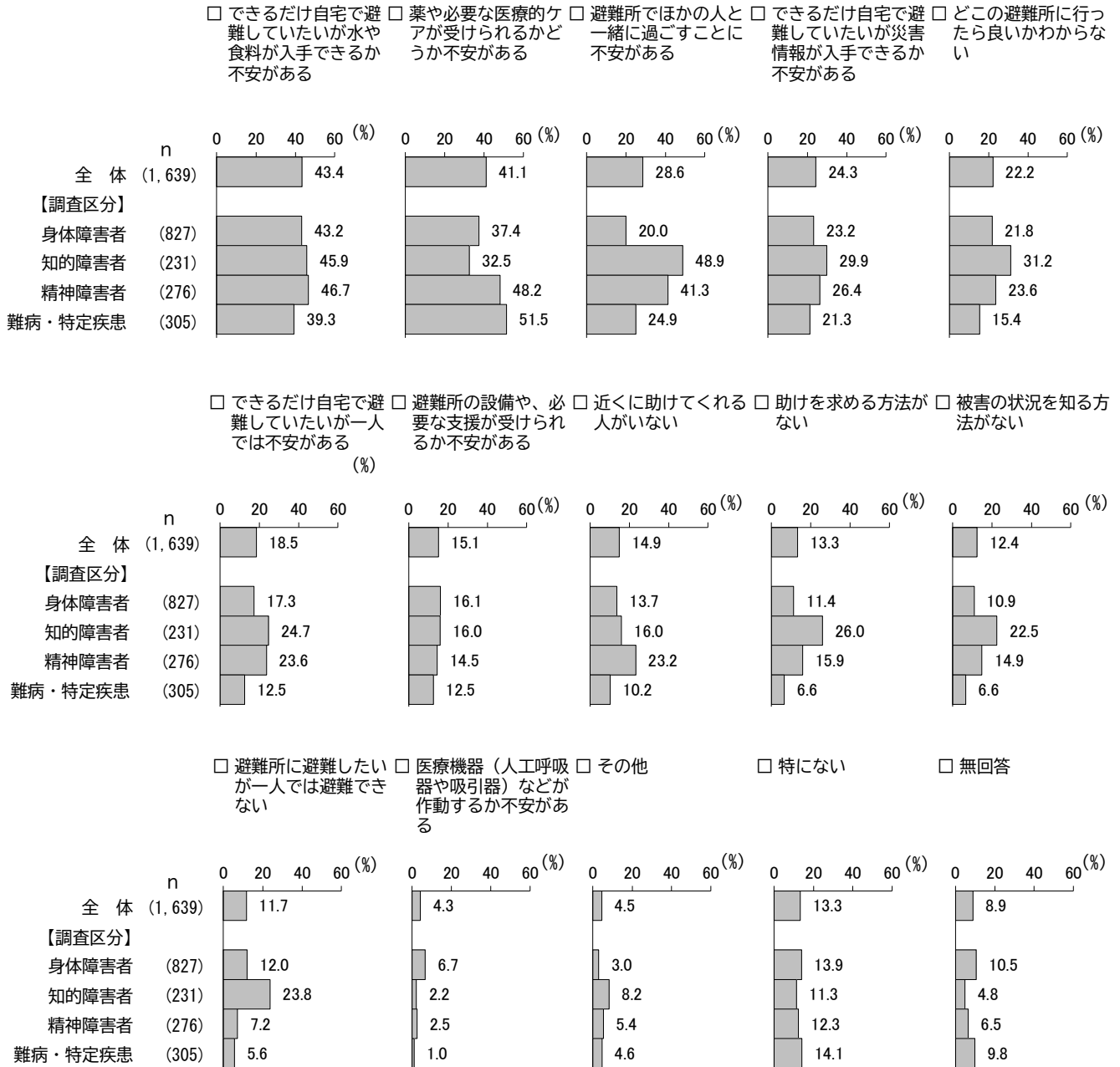
災害時要援護者対策事業への登録状況は、「登録している」が7.1%、「申請中」が0.1%、「登録していない」が67.4%を占めている。

調査区分別にみると、「登録している」は知的障害者で15.2%と他の区分より高くなっている。

(2) 災害時の不安

問18 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)



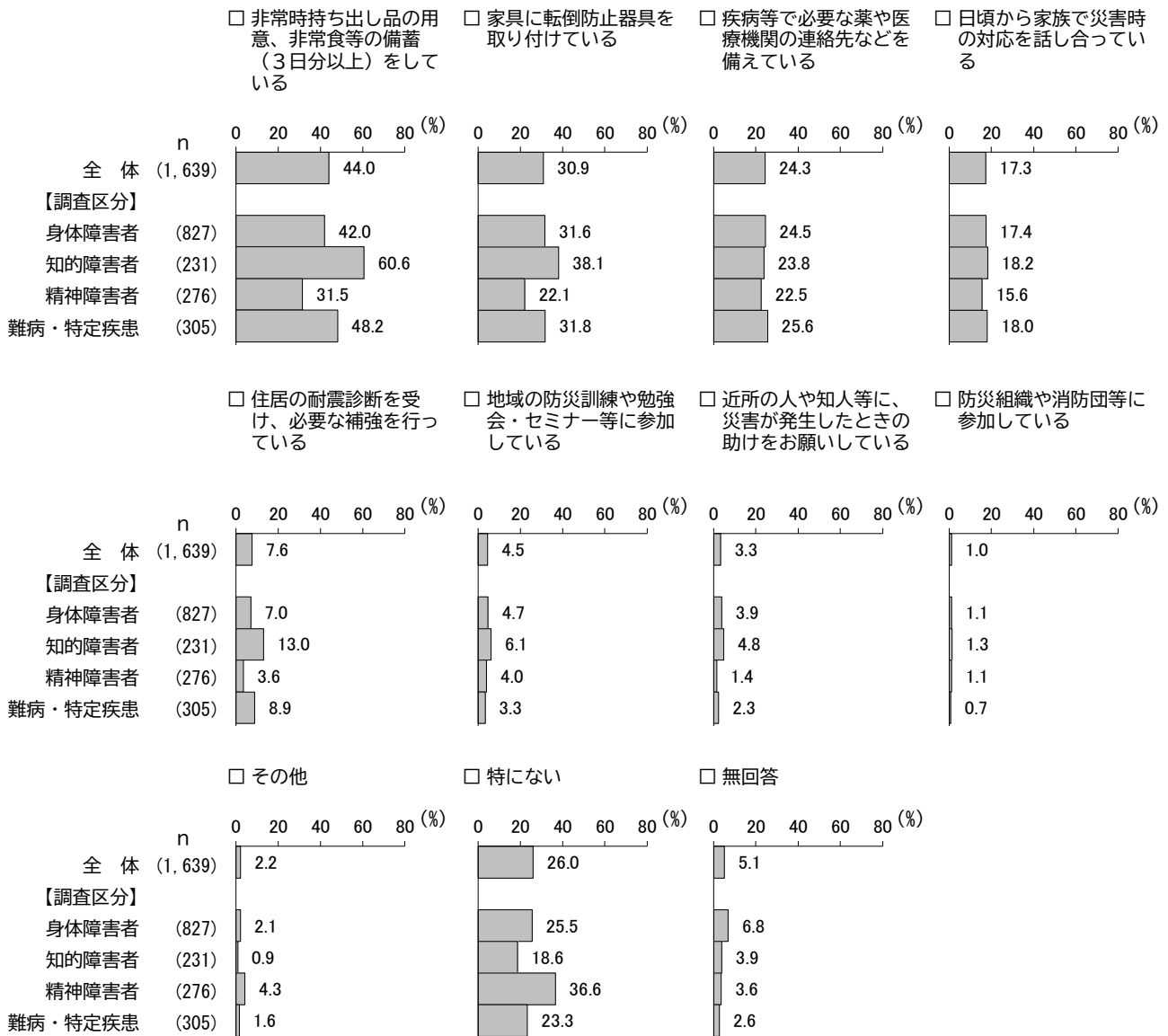
災害時の不安は、「できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある」が43.4%と最も高く、次いで「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」(41.1%)、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」(28.6%)、「できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある」(24.3%)となっている。一方、「特にない」が13.3%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」「助けを求める方法がない」「被害の状況を知る方法がない」が、精神障害者では「近くに助けてくれる人がいない」が、難病・特定疾患では「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(3) 災害時の備え

問19 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)



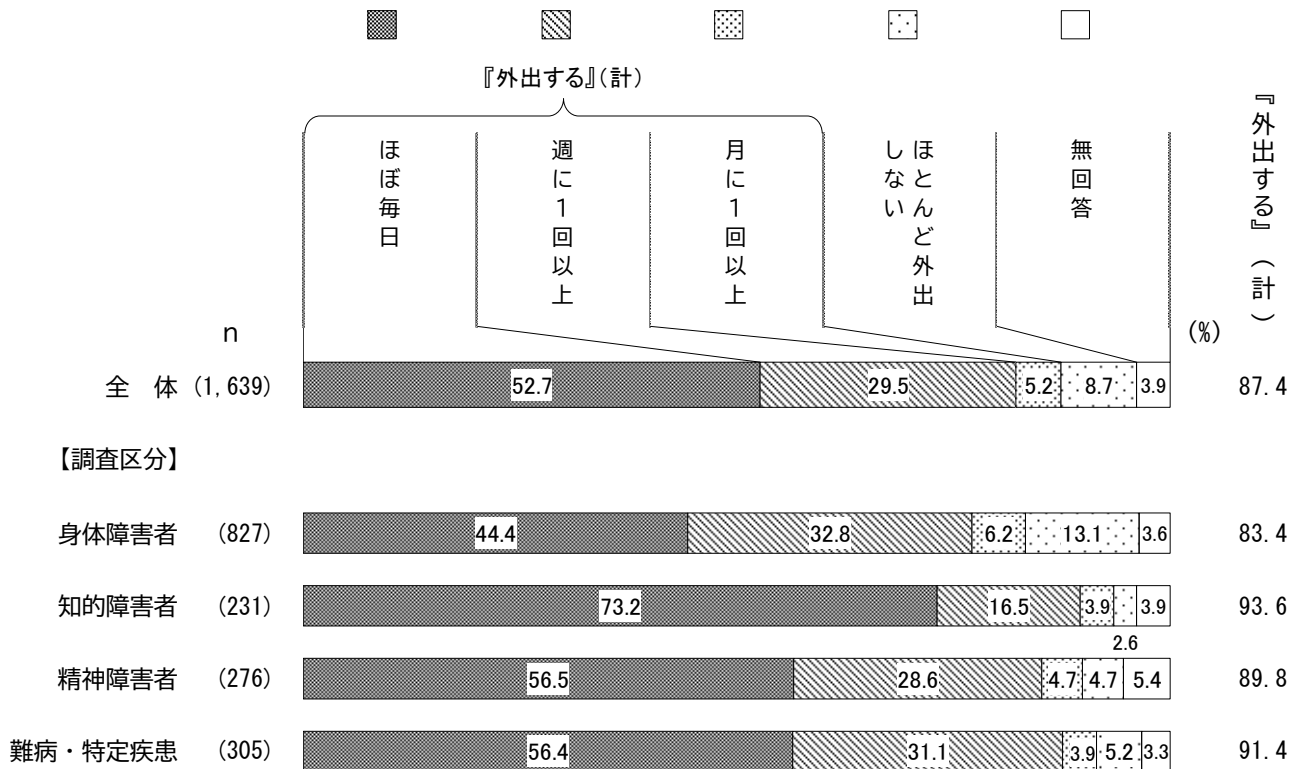
災害時の備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）をしている」が44.0%と最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」（30.9%）、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」（24.3%）、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」（17.3%）となっている。一方、「特にない」が26.0%と高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）をしている」「家具に転倒防止器具を取り付けている」が他の区分より高くなっている。一方、精神障害者では「特にない」が高くなっている。

8. 外出の状況について

(1) 外出頻度

問20 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)



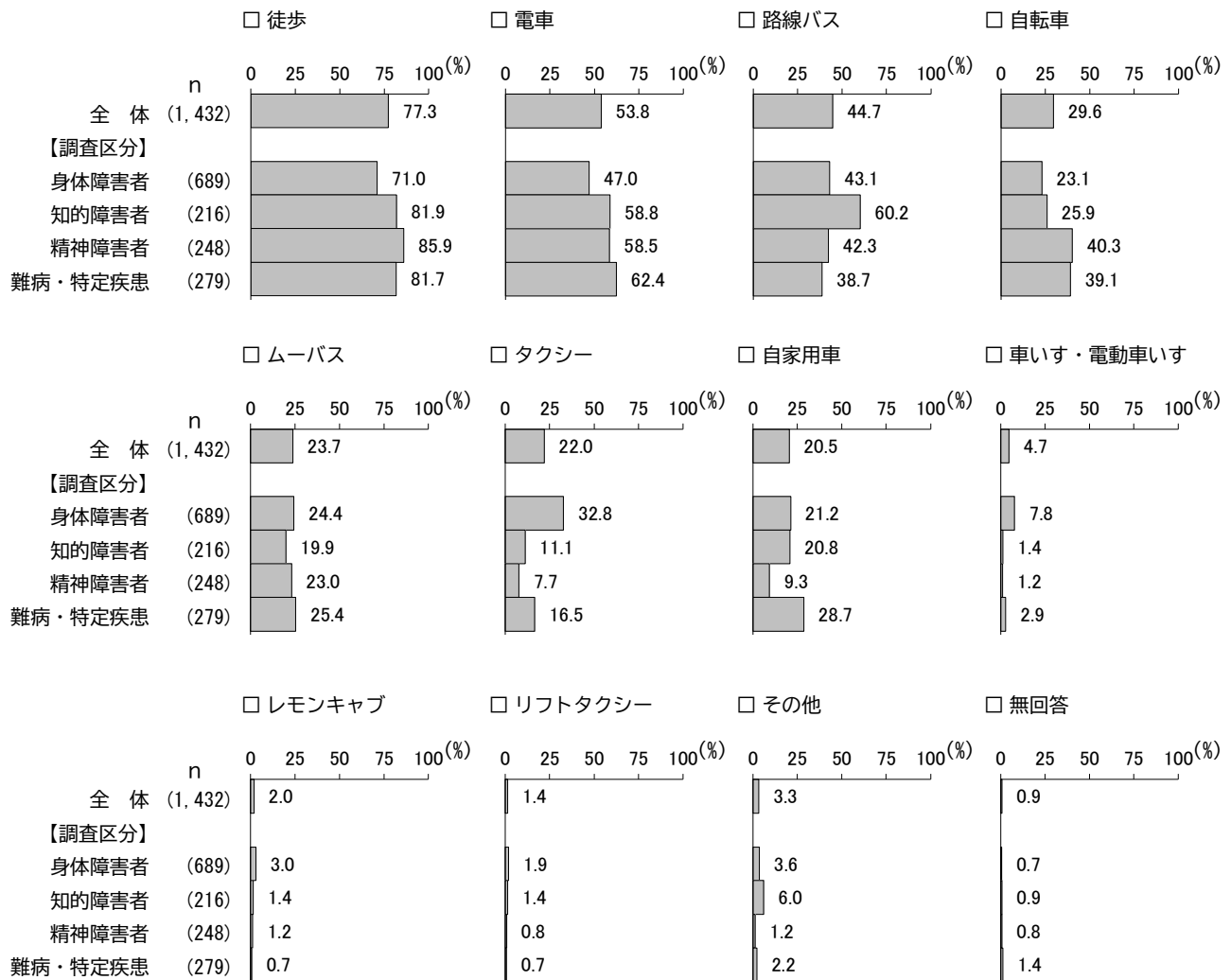
外出頻度は、「ほぼ毎日」が52.7%、「週に1回以上」が29.5%、「月に1回以上」が5.2%となっており、少なくとも月1回以上『外出する』人は87.4%となっている。

調査区分別にみると、『外出する』はいずれの調査区分でも8割以上と高くなっている。知的障害者では「ほぼ毎日」が73.2%と他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「ほとんど外出しない」が13.1%と他の区分より高くなっている。

(2) 外出の際の移動手段

【問20で外出すると回答した方（1～3のいずれかを選択）にお聞きします。】

問20-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）



外出の際の移動手段は、「徒歩」が77.3%と最も高く、次いで「電車」(53.8%)、「路線バス」(44.7%)、「自転車」(29.6%)となっている。

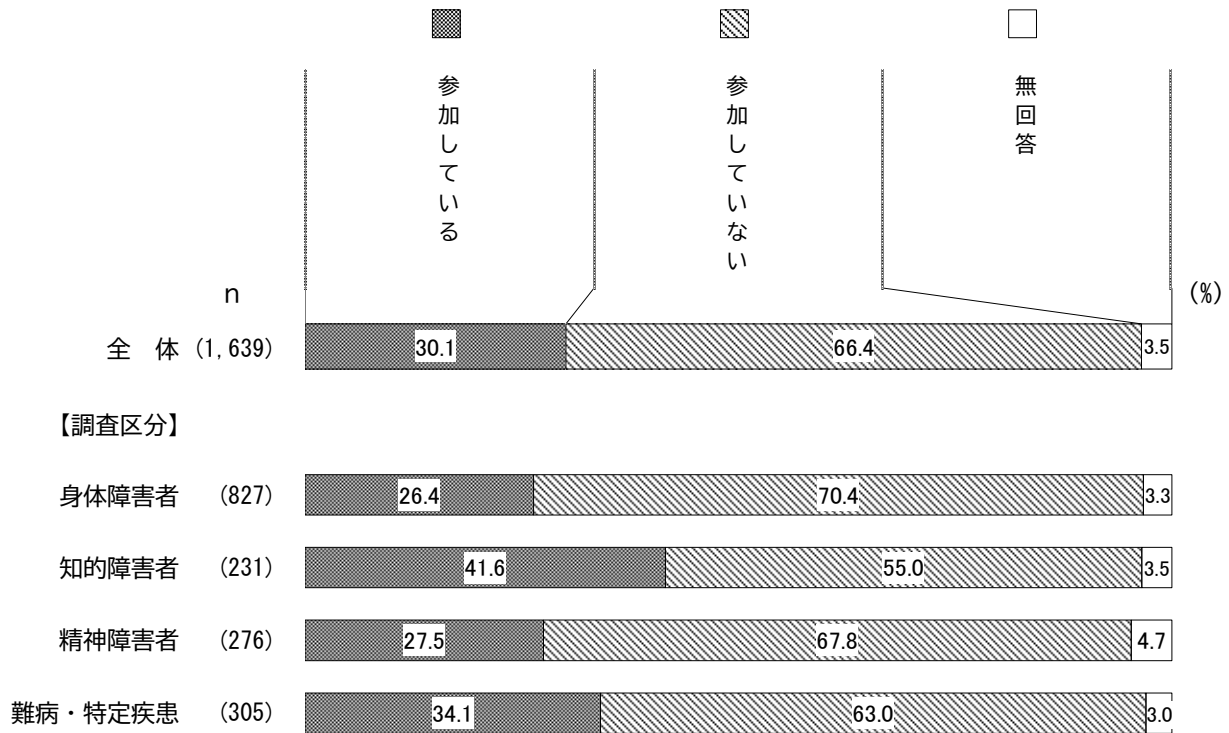
調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「徒歩」や「電車」、「路線バス」の公共交通機関が中心となっている。身体障害者では「タクシー」が、精神障害者では「自転車」が他の区分より高くなっている。

9. 趣味の活動や地域の活動について

(1) 趣味などの活動への参加状況

【すべての方にお聞きします。】

問21 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)



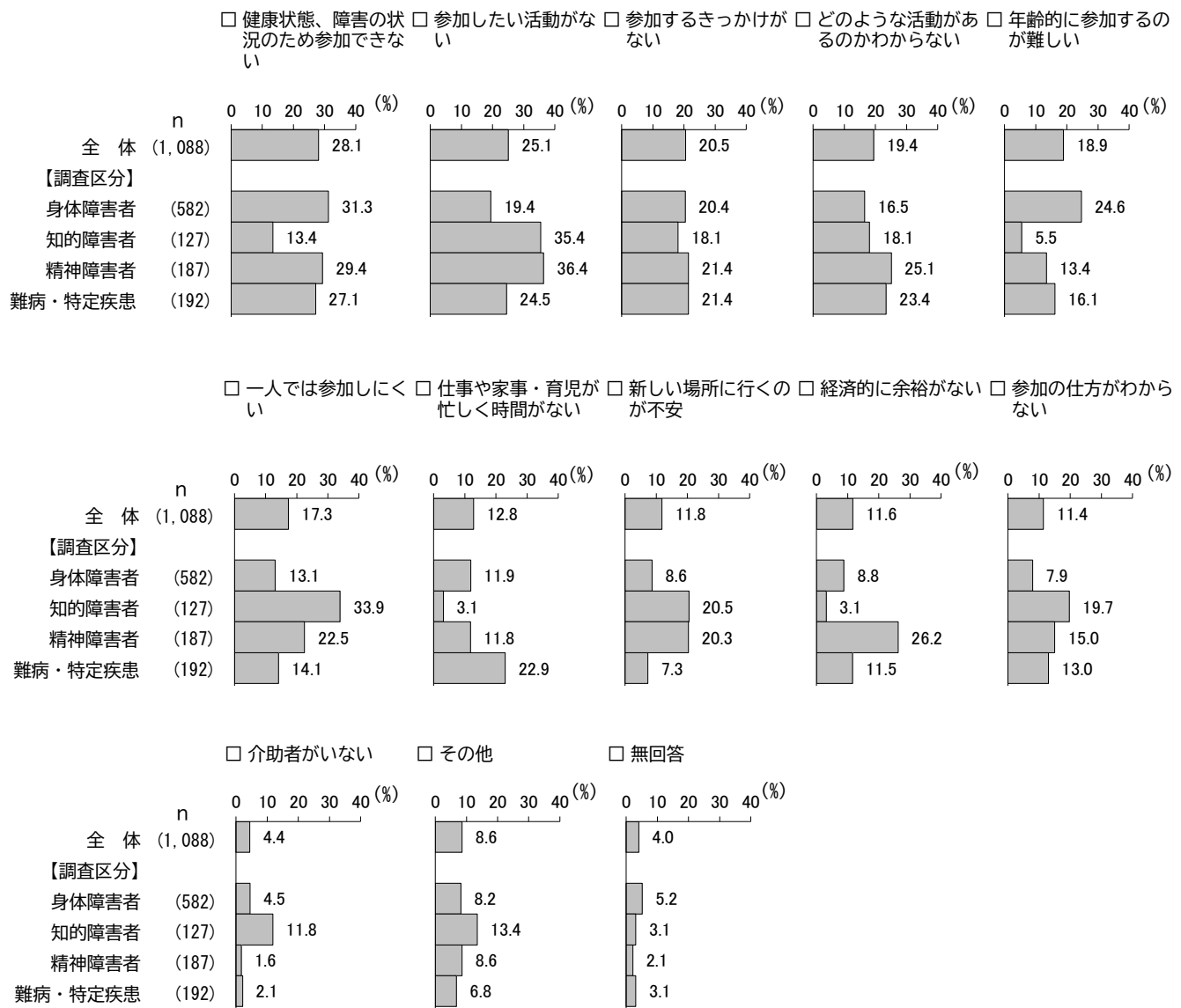
趣味などの活動への参加状況は、「参加している」が30.1%、「参加していない」が66.4%となっている。

調査区分別にみると、「参加している」は知的障害者が41.6%と他の区分より高くなっている。

(2) 参加していない理由

【問21で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問21-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



参加していない理由は「健康状態、障害の状況のため参加できない」が28.1%と最も高く、次いで「参加したい活動がない」(25.1%)、「参加するきっかけがない」(20.5%)、「どのような活動があるのかわからない」(19.4%)となっている。

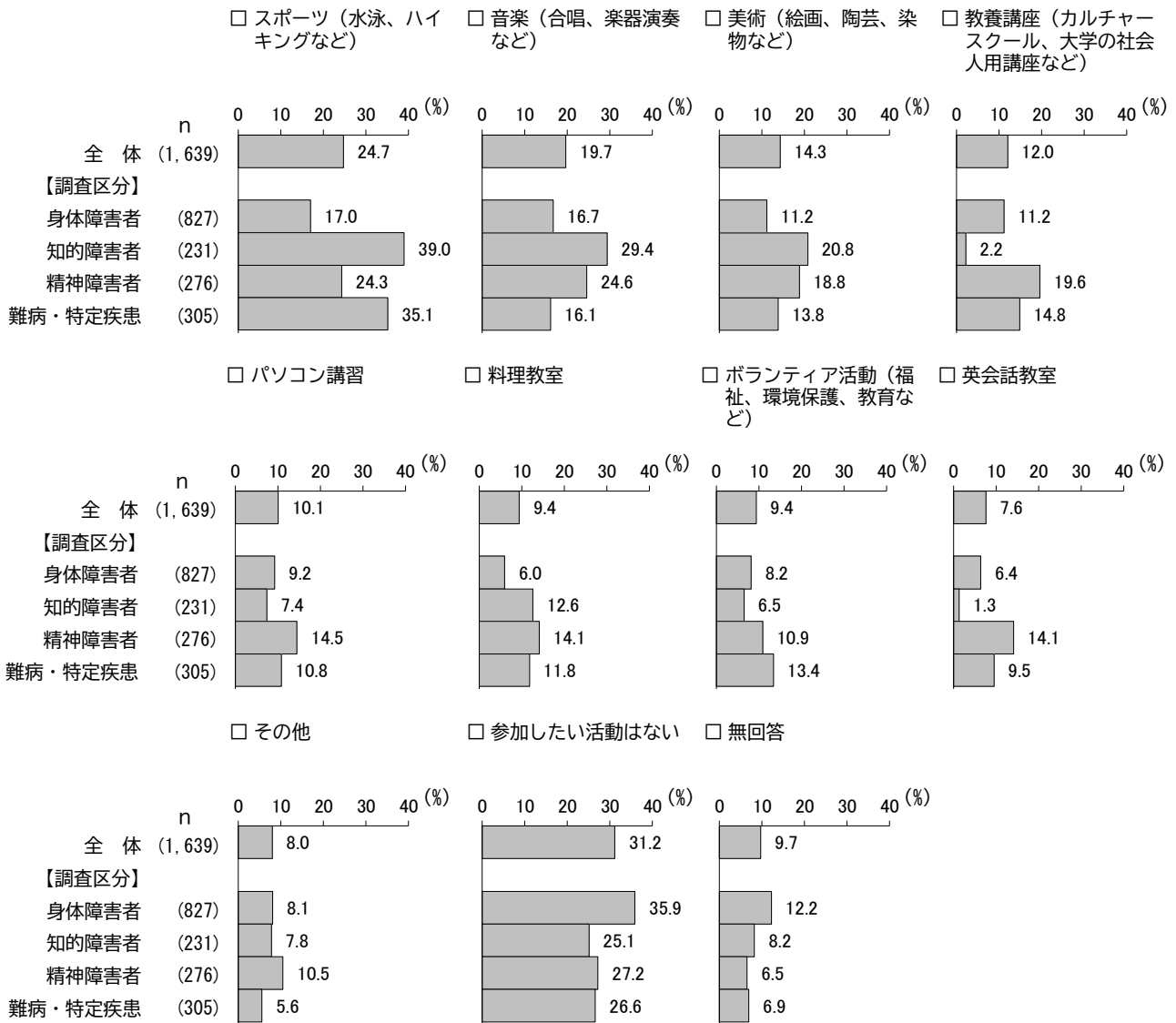
調査区分別にみると、身体障害者では「年齢的に参加するのが難しい」が、知的障害者では「一人では参加しにくい」が、精神障害者では「参加したい活動がない」「経済的に余裕がない」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(3) 参加したい活動（現在参加中も含む）

【すべての方にお聞きします。】

問22 あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。

（あてはまるものすべてに○）

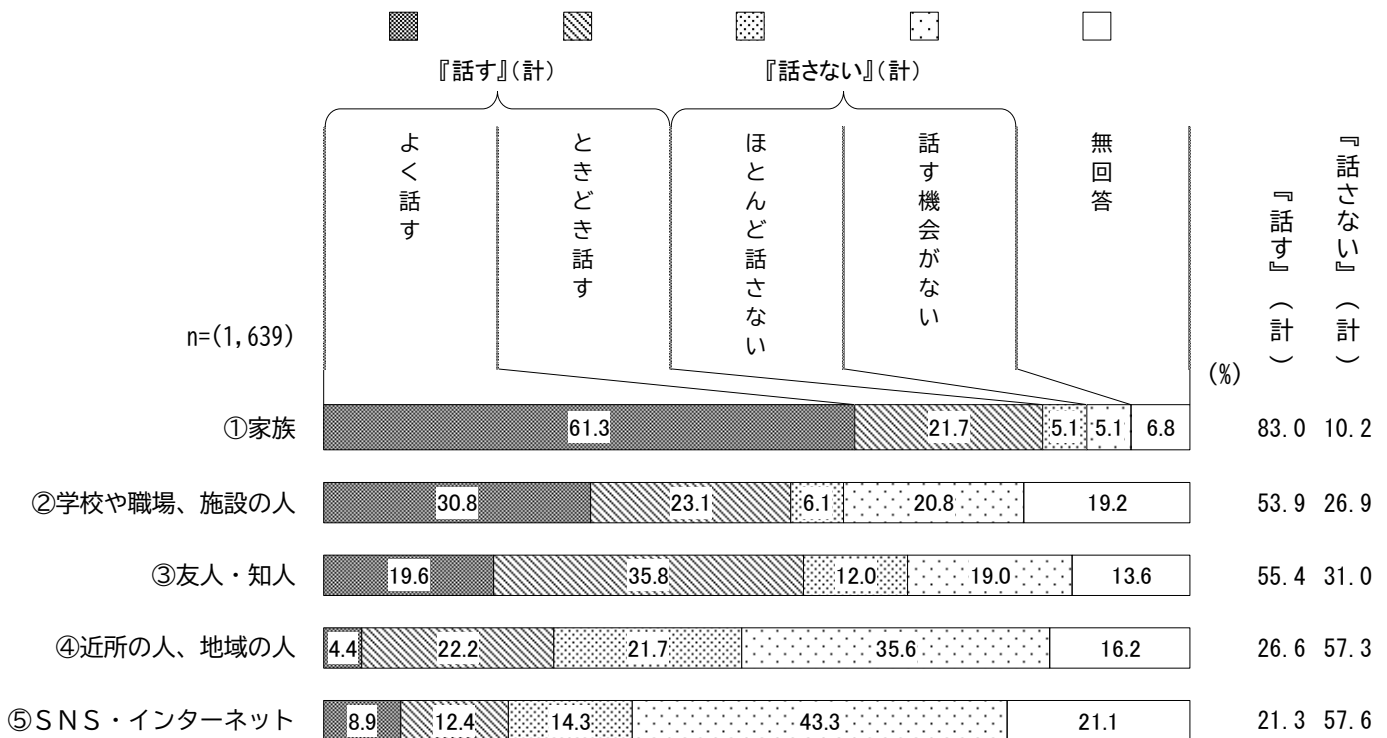


参加したい活動（現在参加中も含む）は、「スポーツ（水泳、ハイキングなど）」が24.7%と高く、次いで「音楽（合唱、楽器演奏など）」（19.7%）、「美術（絵画、陶芸、染物など）」（14.3%）、「教養講座（カルチャースクール、大学の社会人用講座など）」（12.0%）となっている。一方、「参加したい活動はない」が31.2%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「スポーツ（水泳、ハイキングなど）」「音楽（合唱、楽器演奏など）」が、精神障害者では「教養講座（カルチャースクール、大学の社会人用講座など）」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「参加したい活動はない」が他の区分より高くなっている。

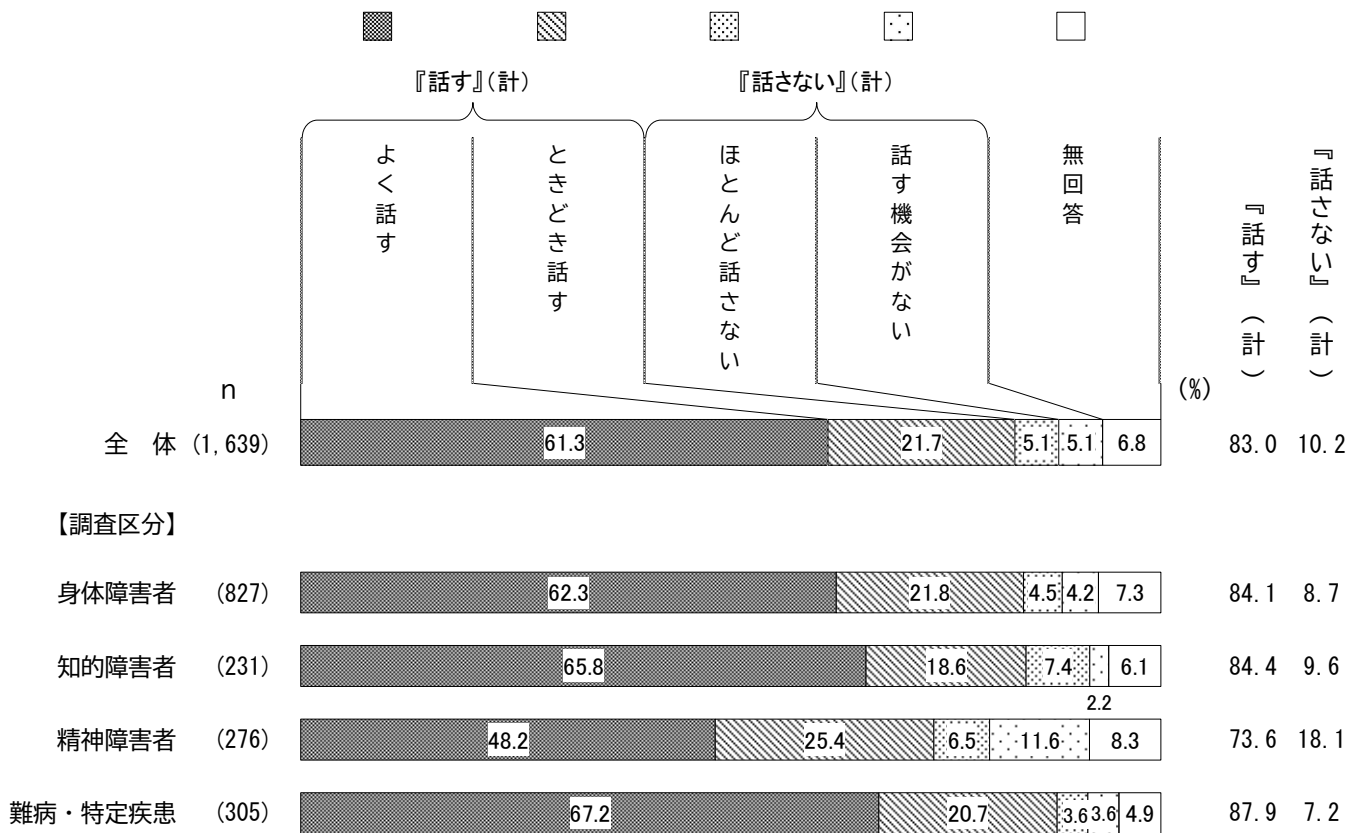
(4) 周囲の人たちとの会話頻度

問23 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。
(それぞれ1つに○)



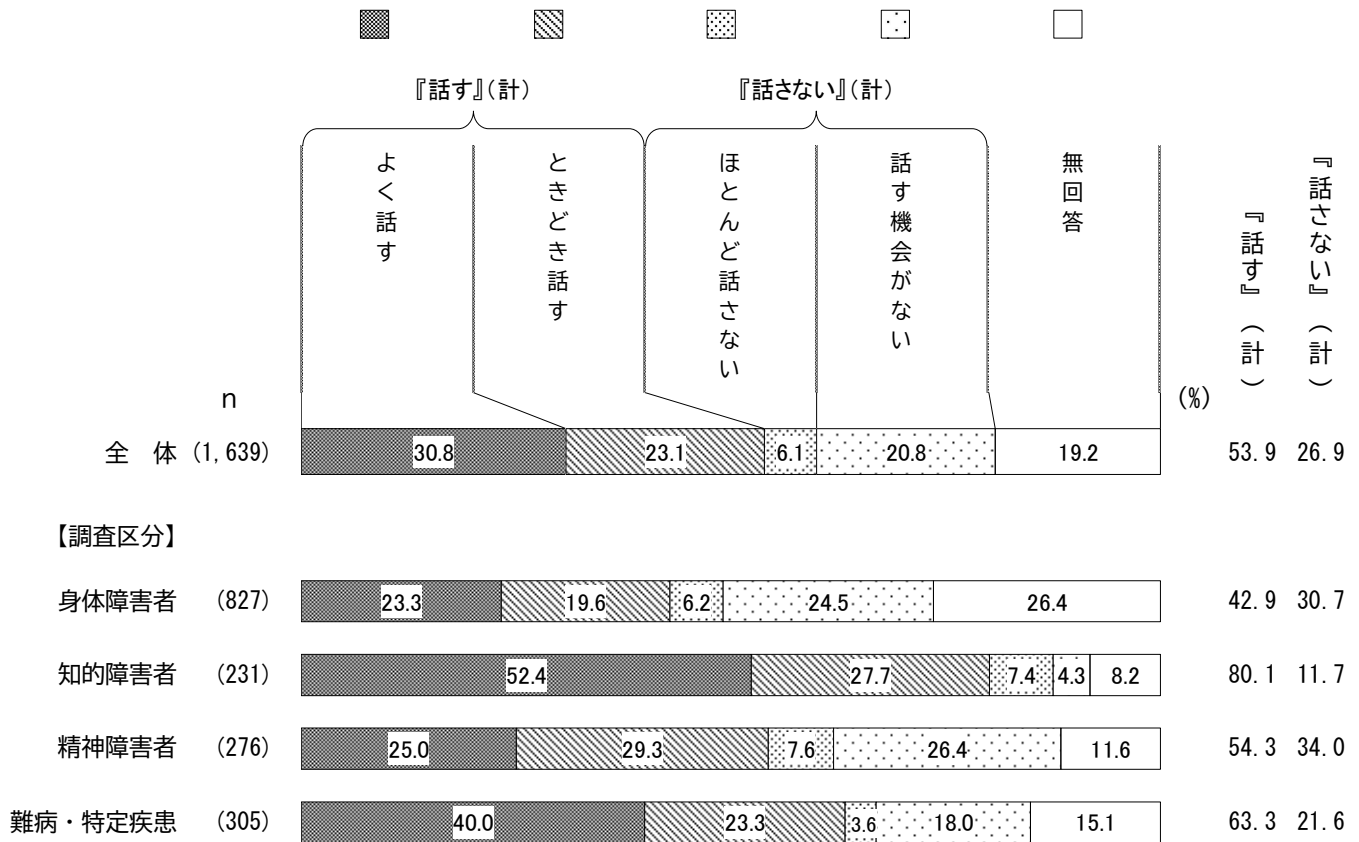
直近の6ヶ月間での周囲の人たちとの会話頻度について、「よく話す」は①家族が61.3%、②学校や職場、施設の人が30.8%、③友人・知人が19.6%となっている。「ときどき話す」をあわせた『話す』で見ると、①家族は83.0%と特に高く、②学校や職場、施設の人は53.9%、③友人・知人は55.4%と半数を超えている。一方、⑤SNS・インターネット、④近所の人、地域の人には『話す』が2割台と低く、「話す機会がない」では⑤SNS・インターネットが43.3%、④近所の人、地域の人が35.6%と高くなっている。

①家族



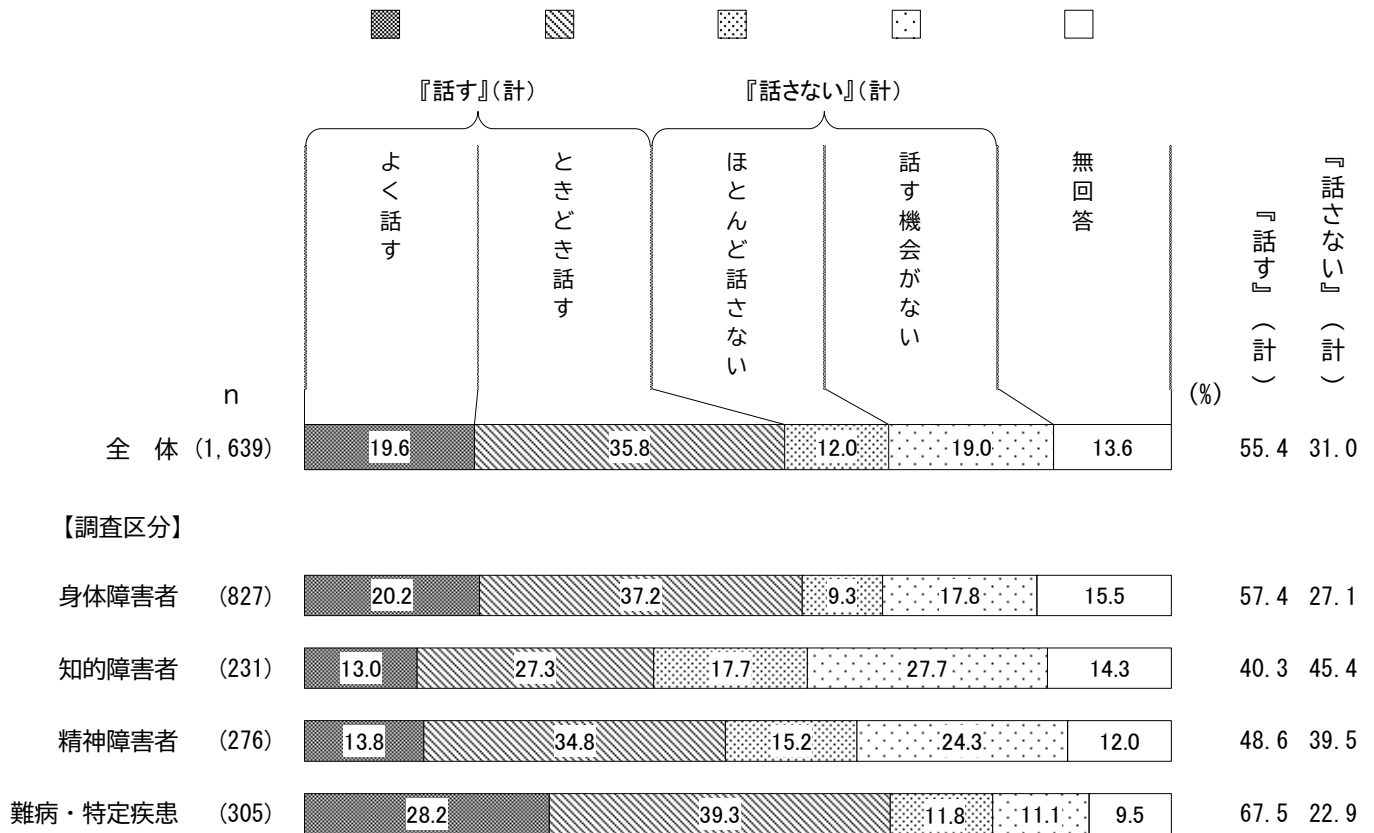
①家族を調査区分別にみると、『話す』は、身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患で8割以上となっている。一方、『話さない』は、精神障害者で18.1%と他の区分より高くなっている。

②学校や職場、施設の人



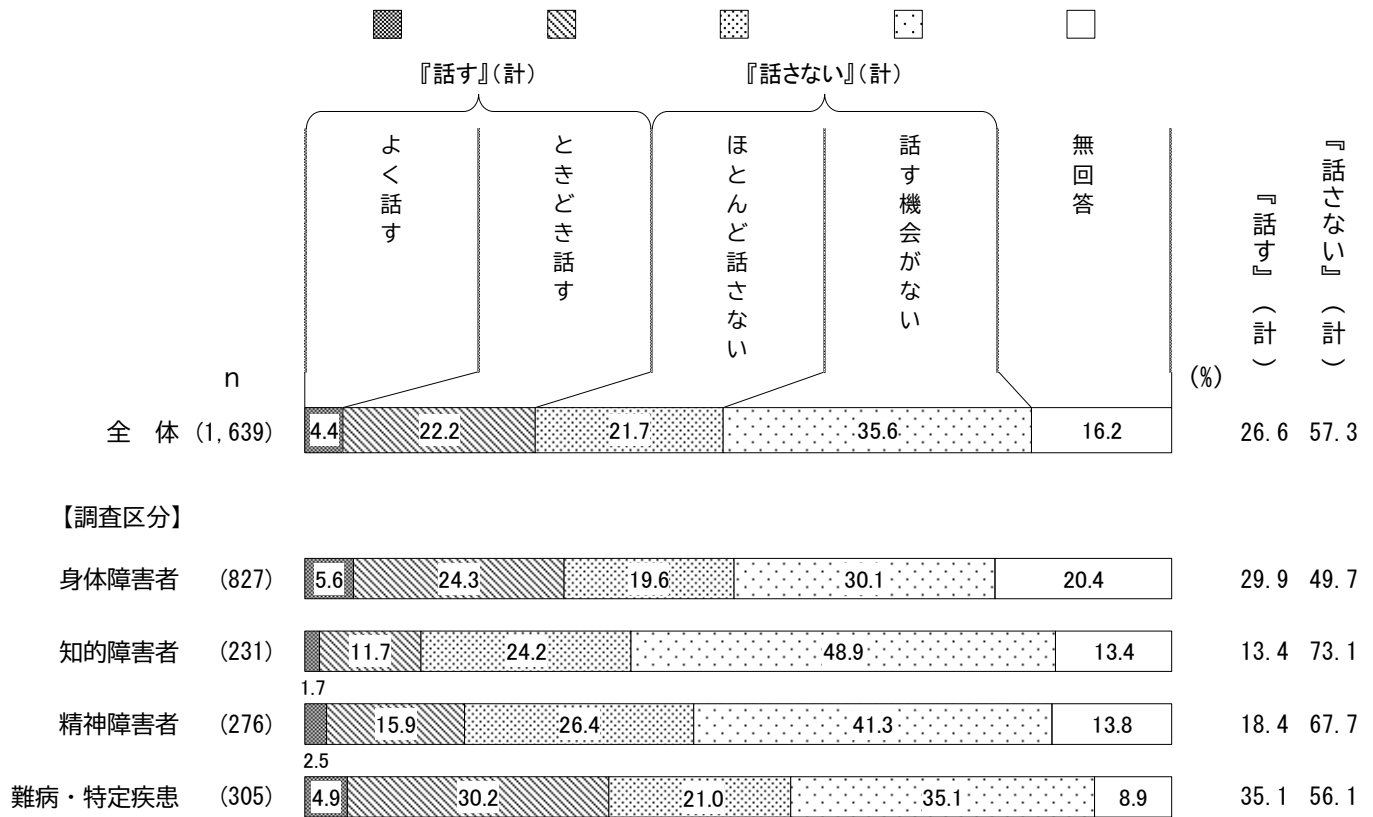
②学校や職場、施設の人を調査区分別にみると、『話す』は、知的障害者で80.1%と他の区分より高くなっている。一方、『話さない』は、精神障害者(34.0%)、身体障害者(30.7%)で3割台とやや高くなっている。

③友人・知人



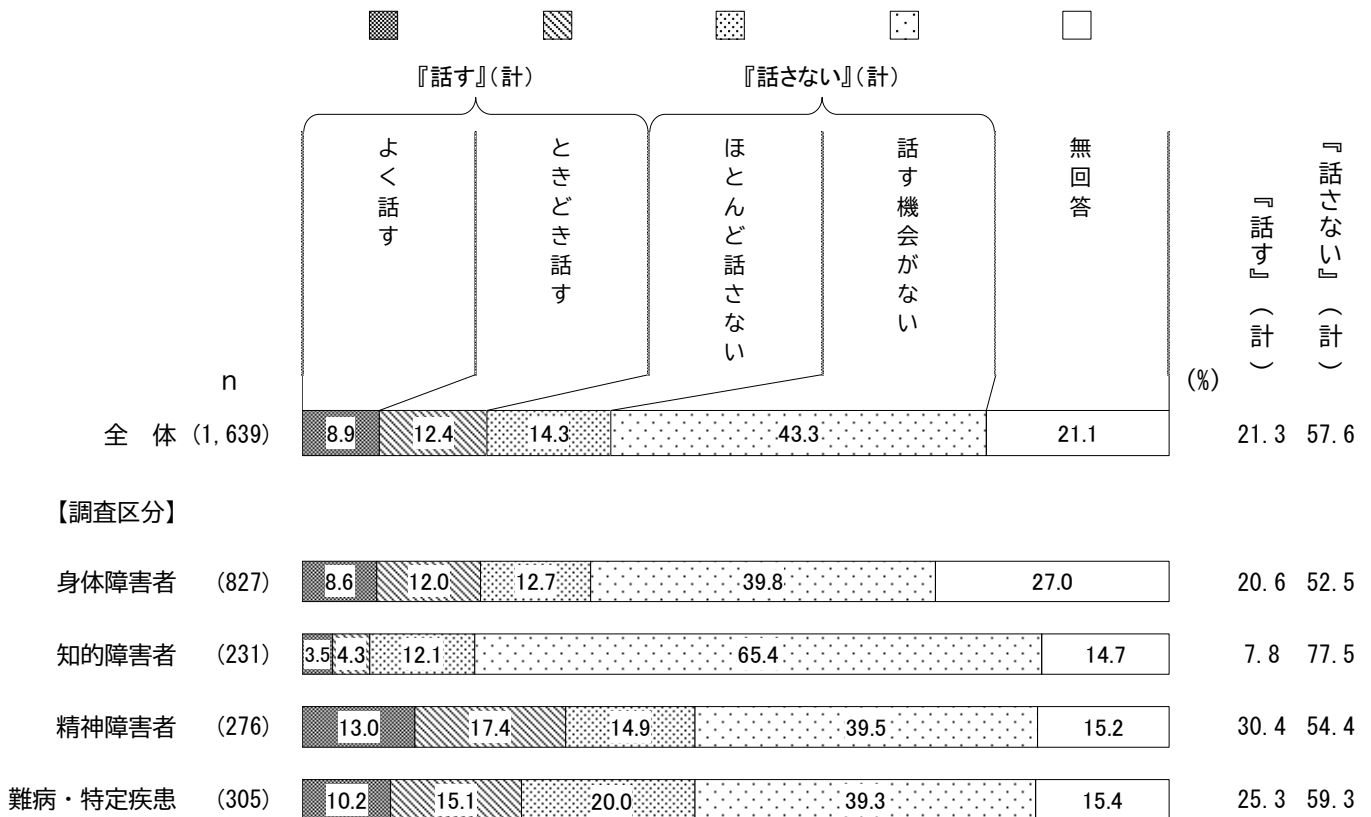
③友人・知人を調査区分別にみると、『話す』は、難病・特定疾患で67.5%と他の区分より高くなっている。一方、『話さない』は、知的障害者で45.4%、精神障害者で39.5%と他の区分より高くなっている。

④近所の人、地域の人



④近所の人、地域の人を調査区分別にみると、『話す』は、難病・特定疾患で35.1%と他の区分より高くなっている。一方、『話さない』は、知的障害者で73.1%、精神障害者で67.7%と他の区分より高くなっている。

⑤ SNS・インターネット

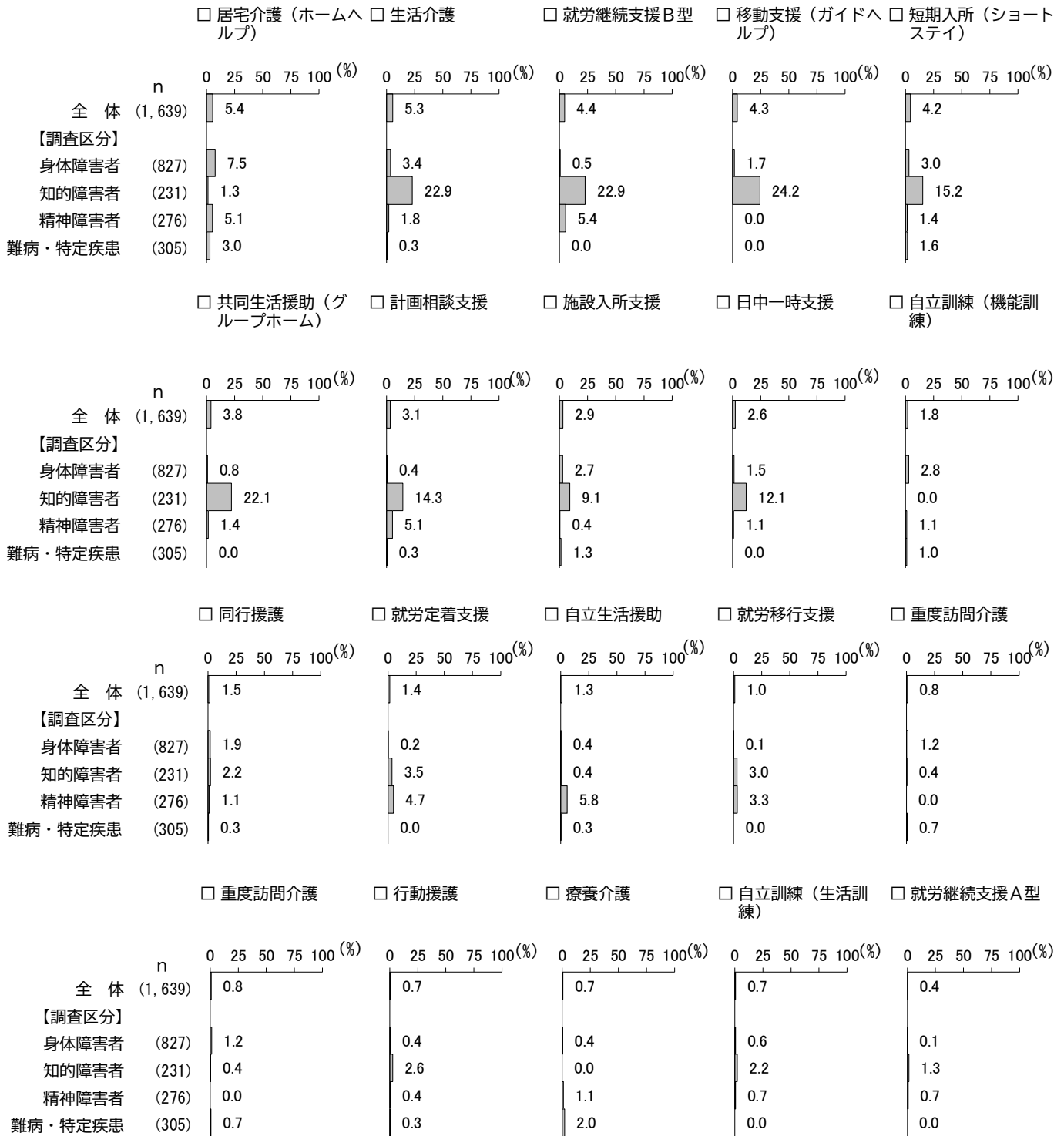


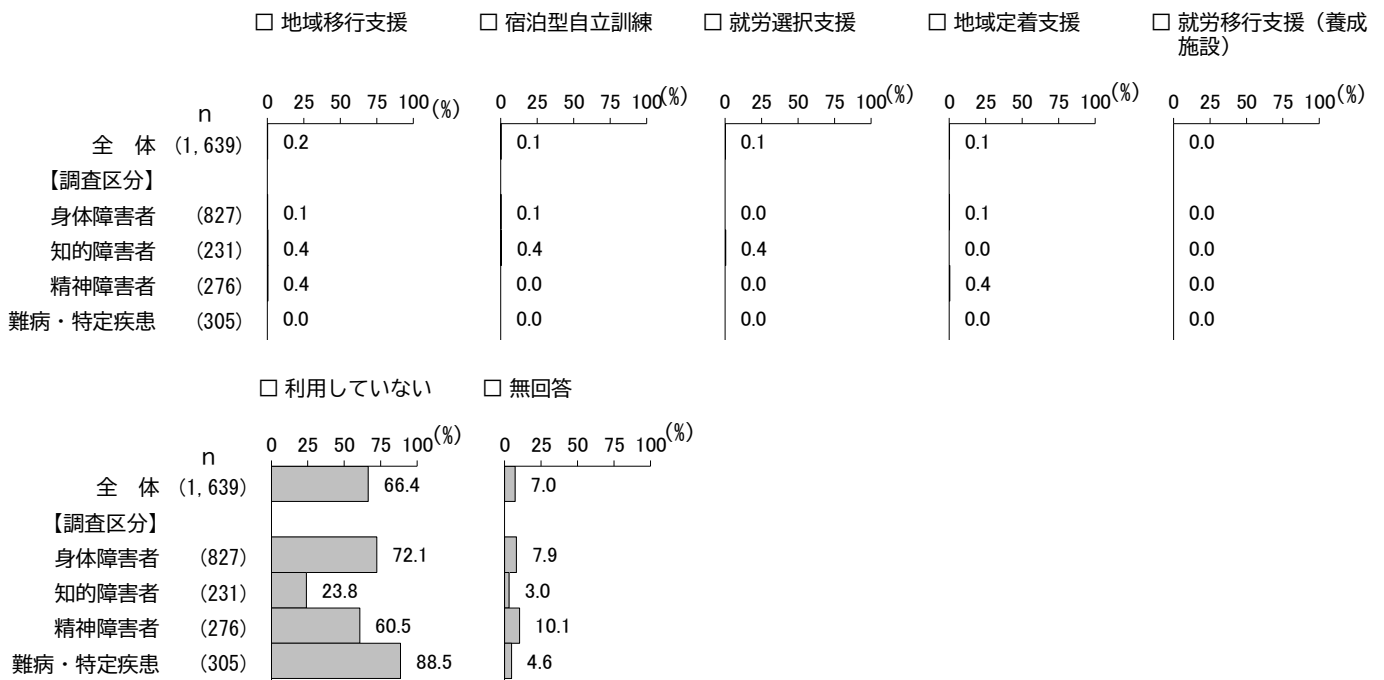
⑤ SNS・インターネットを調査区分別にみると、『話す』は、精神障害者で30.4%と他の区分より高くなっている。一方、『話さない』は、知的障害者で77.5%と他の区分より高くなっている。

10. サービスの利用等について

(1) 障害福祉サービスの利用状況

問24 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



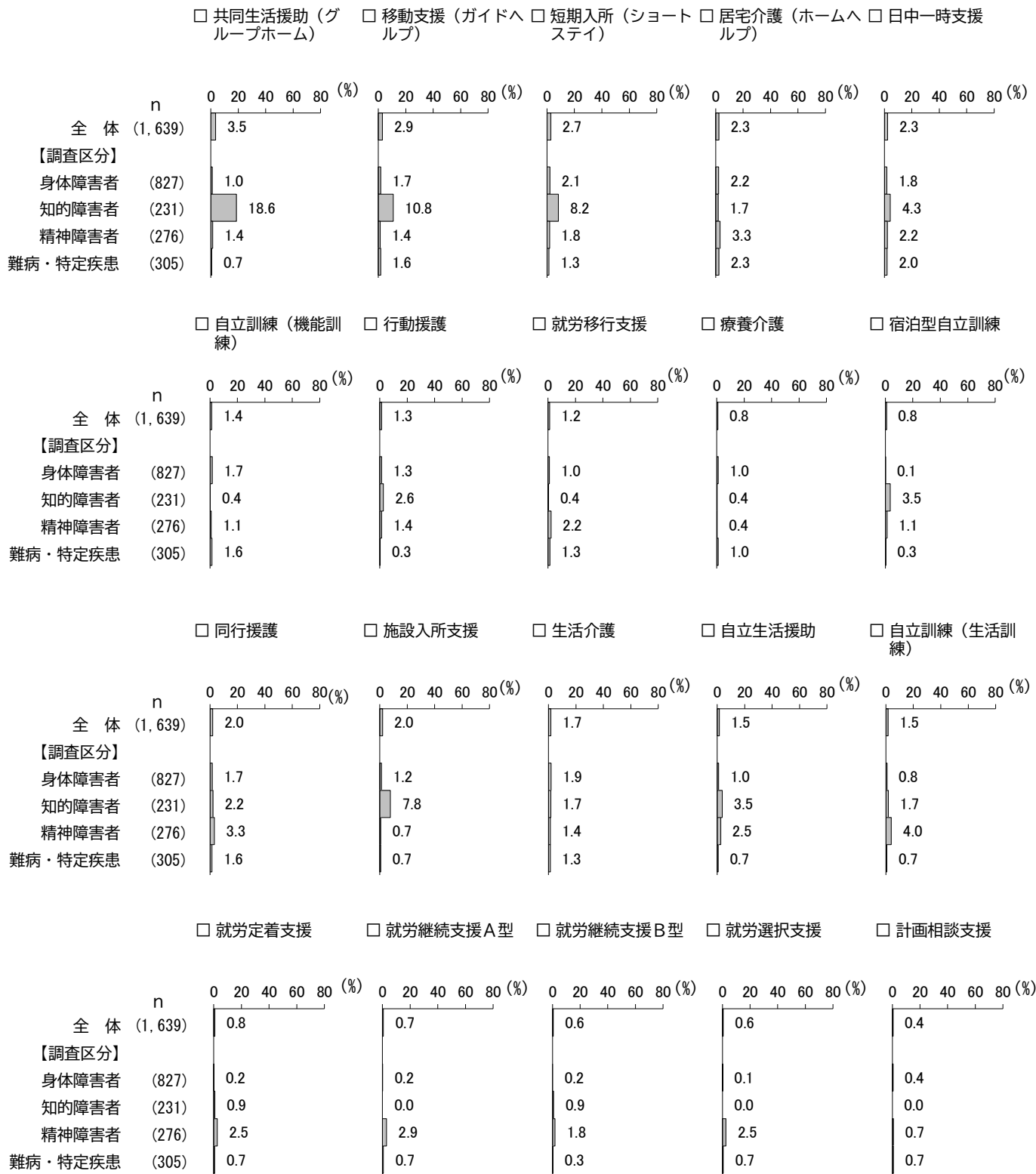


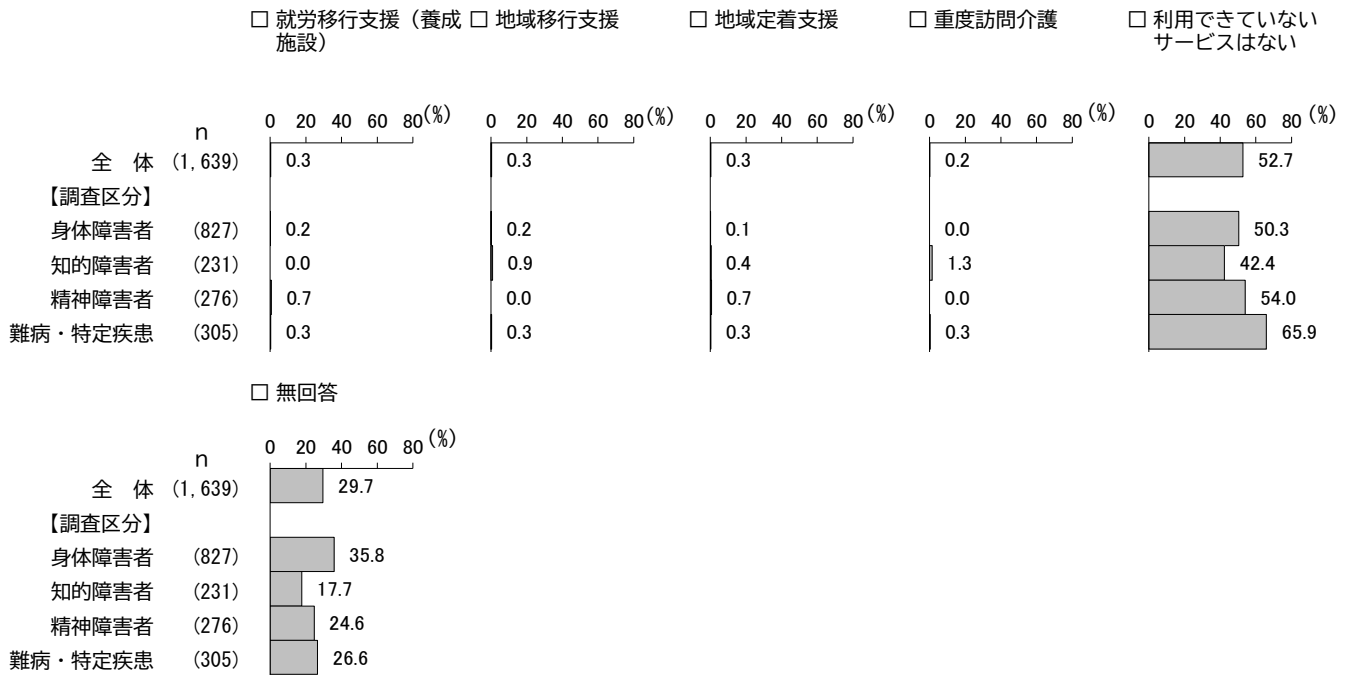
障害福祉サービスの利用状況は、「居宅介護（ホームヘルプ）」（5.4%）、「生活介護」（5.3%）、「就労継続支援B型」（4.4%）、「移動支援（ガイドヘルプ）」（4.3%）、「短期入所（ショートステイ）」（4.2%）が比較的高くなっている。一方、「利用していない」が66.4%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「生活介護」「就労継続支援B型」「移動支援（ガイドヘルプ）」「短期入所（ショートステイ）」「共同生活援助（グループホーム）」「計画相談支援」「日中一時支援」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「利用していない」が高くなっている。

(2) 利用できていないサービス

問25 本当は利用したいが、利用できていないサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)





利用できていないサービスは、「共同生活援助（グループホーム）」（3.5%）、「移動支援（ガイドヘルプ）」（2.9%）、「短期入所（ショートステイ）」（2.7%）、「居宅介護（ホームヘルプ）」（2.3%）、「日中一時支援」（2.3%）が比較的高くなっている。一方、「利用できていないサービスはない」が52.7%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「共同生活援助（グループホーム）」「移動支援（ガイドヘルプ）」「短期入所（ショートステイ）」「施設入所支援」が他の区分より高くなっている。一方、難病・特定疾患では「利用できていないサービスはない」が高くなっている。

(3) 利用できていない理由

【問25で利用できていないサービスがあると回答した方（1～26のいずれかを選択）にお聞きします。】

問25-1 利用できていない理由を教えてください。太枠に、利用できていないサービスの番号（問25）を記入し、それぞれの理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

	回答者数 (n)	定員が いっぱい	待機が 長い	費用が 負担	内容・ 設備が 不満	交通不 便	医療的 ケア非 対応	時間 が合わ ない	その 他	無回 答
単位：%										
居宅介護（ホームヘルプ）	24	8.3	-	8.3	4.2	-	4.2	8.3	75.0	-
重度訪問介護	4	-	-	-	-	-	25.0	-	75.0	-
行動援護	17	11.8	5.9	-	5.9	-	11.8	5.9	64.7	-
同行援護	24	8.3	4.2	12.5	12.5	-	8.3	16.7	50.0	-
療養介護	7	14.3	28.6	28.6	-	14.3	28.6	-	42.9	-
生活介護	15	-	-	13.3	6.7	-	13.3	6.7	60.0	-
短期入所（ショートステイ）	37	16.2	5.4	10.8	10.8	2.7	13.5	21.6	27.0	8.1
施設入所支援	25	48.0	16.0	4.0	-	-	8.0	4.0	32.0	4.0
共同生活援助（グループホーム）	50	66.0	22.0	8.0	8.0	4.0	2.0	4.0	18.0	4.0
宿泊型自立訓練	10	10.0	-	10.0	10.0	10.0	10.0	30.0	40.0	-
自立生活援助	18	-	-	16.7	11.1	5.6	-	5.6	72.2	5.6
自立訓練（機能訓練）	11	9.1	-	9.1	-	-	-	9.1	54.5	27.3
自立訓練（生活訓練）	17	-	-	11.8	5.9	-	-	17.6	58.8	11.8
就労移行支援	15	-	-	13.3	20.0	-	-	13.3	66.7	-
就労移行支援（養成施設）	3	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
就労継続支援A型	11	18.2	18.2	9.1	18.2	9.1	-	27.3	63.6	-
就労継続支援B型	8	-	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0	75.0	-
就労定着支援	8	-	12.5	-	12.5	12.5	-	25.0	50.0	-
就労選択支援	7	-	14.3	-	14.3	28.6	-	42.9	28.6	-
計画相談支援	4	-	-	25.0	-	-	-	-	75.0	-
地域移行支援	3	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
地域定着支援	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0
移動支援（ガイドヘルプ）	37	29.7	5.4	2.7	10.8	5.4	2.7	16.2	43.2	5.4
日中一時支援	30	20.0	6.7	6.7	3.3	3.3	13.3	16.7	36.7	13.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

利用できていない理由は、短期入所（ショートステイ）では、「その他」が27.0%と最も高く、次いで「時間が合わない」（21.6%）、「定員がいっぱい」（16.2%）、「医療的ケア非対応」（13.5%）となっている。

共同生活援助（グループホーム）では、「定員がいっぱい」が66.0%と最も高く、次いで「待機が長い」（22.0%）、「その他」（18.0%）、「費用が負担」「内容・設備が不満」（ともに8.0%）となっている。

移動支援（ガイドヘルプ）では、「その他」が43.2%と最も高く、次いで「定員がいっぱい」（29.7%）、「時間が合わない」（16.2%）、「内容・設備が不満」（10.8%）となっている。

日中一時支援では、「その他」が36.7%と最も高く、次いで「定員がいっぱい」（20.0%）、「時間が合わない」（16.7%）、「医療的ケア非対応」（13.3%）となっている。

(4) 利用できていない理由（その他の内訳）

問25-1で「その他」を回答した人は具体的な内容をお答えください。

※意見は誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

◆居宅介護（ホームヘルプ）

- ・もう少し年齢が高くなってからお願いしたいと思っている。
- ・今のところ支援してもらわなくてもどうにか自分でできる。
- ・介護認定を受けていない、難病では利用できない。
- ・制度のはざまというか、対象ではないと言われる夫のサービスとのかね合い？
- ・居宅介護を申請したかったとき、相談支援事業所の職員に「申請できない」と言われた。
- ・家の片付けを手伝って欲しいが、具体的な指示が出来ない。
- ・知らない。
- ・家に人が入ってくると不安になるから。
- ・現在入院中のため、退院後にどうするか検討中。
- ・働いているため対象ではないと言われた。
- ・今は家族と同居していて、全て家族にサポートしてもらっているのに、特に必要としていないが将来的な支援は必要なのかも、と思っています。
- ・食事を週に一回でも作ってもらえたら助かる。
- ・わからない。
- ・まだホームヘルパーの詳しい説明を自分から聞いてない為。
- ・利用や体験をしてみたいが、サービス該当する場所や施設名、申し込み方法がわからない。

◆重度訪問介護

- ・支援区分で対象とされていない。
- ・支給が難しい。利用するための諸条件のハードルが高い。
- ・市から認められていない。

◆行動援護

- ・支援区分で対象とされていない。
- ・不定期でいきたい。
- ・自分が申請してよいものか迷ってしまう。人と会う事、話しをする事がプレッシャーでストレスとなり疲れてしまう。

- ・相談先がわからない。
- ・条件など情報がわからないため。
- ・日によって移動支援中に走り出しやパニックがあるため、行動援護にした方がよいのか考えていますが、まだ具体的に事業所に相談していません。
- ・重複障害のため難しいとのことだが、これから検討していただく予定。
- ・電動車椅子を主治医の指導通りに変更したく、診断書を持参して市役所に何度も何度もお願い申し上げておりますが、無視される。
- ・自分が受けたい、あるいは受けられるサービス・援助が何かわからない。

◆同行援護

- ・弱視なので手続きをしていいものか考えている。
- ・同行支援を受けていたが、対応しきれないと言われ断られるガイドヘルパーが多く気持ちになえてしまった。厚労省のガイドラインでは同行に食事の介助もはっきり明記してあるのに、食事介助の訓練は受けていないのが現状だということで非常に困っている。
- ・介護保険で利用できない。
- ・具体的な内容がいまひとつよくわからない。
- ・自分が申請してよいものか迷ってしまう。人と会う事、話しをする事がプレッシャーでストレスとなり疲れてしまう。
- ・しくみがよくわからない。
- ・どこに頼んで良いかわからない。
- ・相談先がわからない。
- ・重複障害のため難しいとのことだが、これから検討していただく予定。
- ・自分が受けたい、あるいは受けられるサービス・援助が何かわからない。

◆療養介護

- ・今の補助で十分です。

◆生活介護

- ・忙しく入れる日がない。
- ・条件など情報がわからないため。
- ・今は家族と同居していて、全て家族にサポートしてもらっているので、特に必要としていないが将来的な支援は必要なのかも、と思っています。
- ・そもそも、障害者への生活支援の具体実態を紹介されたことがない。
- ・重複障害のため難しいとのことだが、これから検討していただく予定。
- ・連絡が取れない。

- ・認定を受けていない、内容がわからない。

◆短期入所（ショートステイ）

- ・情報がない。
- ・利用可能日数は15日／月もらっているが、受け入れ先がない。特に市内（なごみ）では1日しかとれない。予約があまりとれない。
- ・グループホーム利用者は土日でもショートステイ利用はできない決まりになっていると言われた。
- ・現状早急に必要ではないが、数年以内に利用を始めたいと考えており、これから施設を探したいと考えています。
- ・ショートステイは利用の仕方がよくわからない。
- ・現在準備、調整中です。
- ・体験入所をしたいが、都合がつかない。
- ・本人が行って欲しくない。

◆施設入所支援

- ・要介護「2」で、入所対象外のため。
- ・わくらすが出来た時に応募したが選外。体験入所を入所にするに応募したが選外。半年前入所を応募したが選外3回落ちている。
- ・現状早急に必要ではないが、数年以内に利用を始めたいと考えており、これから施設を探したいと考えています。
- ・十分な介護を受けられない。家族への精神的負担が掛かるのではないかと不安。
- ・現在入院中のため、退院後にどうするか検討中。
- ・将来的な独り立ちが心配なので現在情報収集中。
- ・しゃべれず本人の意思が伝えられないので受け入れしてもらえるのか不安。
- ・利用や体験をしてみたいが、サービス該当する場所や施設名、申し込み方法がわからない。

◆共同生活援助（グループホーム）

- ・自分で決心がつかず、利用できていない。
- ・グループホームの情報もほしい。
- ・健康上の理由で利用できない（病気）
- ・グループホームは、何処に、どんなのがあるか、どんな人達がいるのか、全くわからない。
- ・情報がない。
- ・今年から体験しているので、数年後には、グループホームに入りたい。

- ・RENGA があると思っていたがなくなり、現在は重身が入れるグループホームはない。（特に男性）
- ・20才生活スキルが身についていない、知的障害なし。市内及び近郊で生活スキルが無い中入れるグループホームが無い。
- ・コミュニケーションが上手にとれないので意志の疎通ができず、いろいろと抜けてしまうので共同生活が送れるか不安、体験でトラブル経験あり。
- ・現状早急に必要ではないが、数年以内に利用を始めたいと考えており、これから施設を探したいと考えています。
- ・しゃべれず本人の意思が伝えられないので受け入れしてもらえるのか不安。

◆宿泊型自立訓練

- ・自分で決心がつかず、利用できていない。
- ・そもそも、武蔵野市にあるのでしょうか。
- ・訓練の内容、施設の場所がわからない。
- ・将来的には利用したい。
- ・宿泊型自立訓練は遠方しか無く現在のB型作業所に通えない。
- ・利用や体験をしてみたいが、サービス該当する場所や施設名、申し込み方法がわからない。

◆自立生活援助

- ・自分で決心がつかず、利用できていない。
- ・そもそも、武蔵野市にあるのでしょうか。
- ・現在は未だ一人でも誰も頼れる人は居ない（親友8人皆、死亡）けれども自立生活。高齢になり心細い時もあります。時々、様子を見に来て下さったり、時に心要な場合に、日中に少し家事支援して下さったりのサービスが、利用できれば、よいと願います。
- ・具体的な内容がいまひとつよくわからない。
- ・利用したいと思っているが、体が動かない。（精神的に）
- ・情報を入手していない。
- ・知らない。
- ・生活の援助をする者が心身ともに老々介護で負担になって来ていますが、どこに相談したらいいかわかりません。
- ・今は家族と同居していて、全て家族にサポートしてもらっているので、特に必要としていないが将来的な支援は必要なのかも、と思っています。
- ・連絡が取れない。
- ・自立した生活が大きな目標になっています。自立に向けた練習や学習が出来るところが欲しい。

◆自立訓練（機能訓練）

- ・具体的内容が解らない。機能訓練の具体例（パンフレット又は見学ルーム、実際のテスト場等）不明。
- ・以前は月に2回（又は1回）東大和のリハビリを受けていたが、親が高齢の為、つれていけない。
- ・よくわからない。
- ・以前の地区担当の方に、働いているのであれば福祉を利用するための手帳？を返すよう言われ、返してしまった為。
- ・重複障害のため難しいとのことだが、これから検討していただく予定。
- ・リハビリが出来る所が無い。

◆自立訓練（生活訓練）

- ・具体的内容が解らない。生活訓練の具体例（パンフレット又は見学ルーム、実際のテスト場等）不明。
- ・B型に通っている為、自立訓練に通う事が出来ない。料理や洗濯等の家事スキルを学べる場が無い。
- ・以前の地区担当の方に、働いているのであれば福祉を利用するための手帳？を返すよう言われ、返してしまった為。
- ・今は家族と同居していて、全て家族にサポートしてもらっているので、特に必要としていないが将来的な支援は必要なのかも、と思っています。
- ・重複障害のため難しいとのことだが、これから検討していただく予定。
- ・連絡が取れない。

◆就労移行支援

- ・役所が利用したいサービスと他のサービスを推してくるため、希望のものに就けない。
- ・手続きの方法が分からないため。
- ・健康上の理由で。主に疲れやすい為継続的に通所できない。
- ・以前の地区担当の方に、働いているのであれば福祉を利用するための手帳？を返すよう言われ、返してしまった為。
- ・安定した職を持ちたいとなった際に、難病がネックになるかもしれないと考えたが、それぞれのサービスの内容についてよくわからない。あと求人についてあまり期待できない。
- ・支援の内容をあまり知らない。
- ・どうしたらいいかわからない。
- ・サービスの内容が分からない。

◆就労移行支援（養成施設）

- ・サービスの内容が分からない。
- ・よく分からないから。

◆就労継続支援A型

- ・募集があまりない。
- ・相談先がわからない。
- ・自身の健康状態・障害について来年以降もリハビリが必要なため、まだ就労できる状態にないと言われているため。
- ・安定した職を持ちたいとなった際に、難病がネックになるかもしれないと考えたが、それぞれのサービスの内容についてよくわからない。あと求人についてあまり期待できない。
- ・勇気が出ない。
- ・サービスの内容が分からない。
- ・よく分からないから。

◆就労継続支援B型

- ・希望していたが、地域活動支援センターが一方向的にハキしていた。
- ・自身の健康状態・障害について来年以降もリハビリが必要なため、まだ就労できる状態にないと言われているため。
- ・サービスの内容が分からない。
- ・入院中だから。退院したとしても介護保険優先になってしまうから。
- ・今は難しいが、将来的には、利用できればと思う。
- ・よく分からないから。

◆就労定着支援

- ・以前の地区担当の方に、働いているのであれば福祉を利用するための手帳？を返すよう言われ、返してしまった為。
- ・安定した職を持ちたいとなった際に、難病がネックになるかもしれないと考えたが、それぞれのサービスの内容についてよくわからない。あと求人についてあまり期待できない。
- ・サービスの内容が分からない。
- ・相談に行く時間がない。

◆就労選択支援

- ・利用の仕方がわからない。

- ・以前の地区担当の方に、働いているのであれば福祉を利用するための手帳？を返すよう言われ、返してしまった為。

◆計画相談支援

- ・相談内容の理解が得られるか不安。
- ・現在は必要性がない。

◆地域移行支援

- ・どんなことを支援していただけるのか、何処が窓口か解からない。また、障害者福祉サービス種別なる手帳は1度も手にしたことも目にしたこともない。
- ・支給が難しい。利用するための諸条件のハードルが高い。

◆移動支援（ガイドヘルプ）

- ・申込の仕方がわからない。
- ・自分程度の障害で利用して良いのかわからない。
- ・てんかんの人をどういうふうにあつかって良いのかわからないとヘルパー事業所（ガイド）に言われた。
- ・今のところは親が運転して施設に迎えに行き送りもします。羽村市なので車で1時間半近くかかります。30歳になっても未だにパニックを起こすことがあり電車は勇気がいります。両親とも免許返納になったらタクシーでむかえに行こうかな、いや引っ越しちゃおうかなとも考えますか住み慣れた武蔵野市を離れたくないなと思います。今すぐのことではないのですが、長距離移動支援、車での移動支援があったらありがたいなあ…と思います。
- ・利用してみたいとは思っているんですけど、相手がいることなので合わない時に大丈夫かとまだ不安があります。今の所、あまり問題もないので、このままでもいいかなとも思っています。
- ・月一回で融通が利きづらい。
- ・1人住まいになった時。
- ・市外にいるため。
- ・何処にどのようなサービスが有るのかわからない。
- ・移動支援をもっと利用したいが人手不足で必要な時に利用出来ない。
- ・条件など情報がわからないため。
- ・車椅子だし家から階段なので難しい。
- ・手続きが、解らない。
- ・本人も親以外の人と行動したがる。また、親も初めての人に託すのが不安。
- ・本人が行ってくれない。

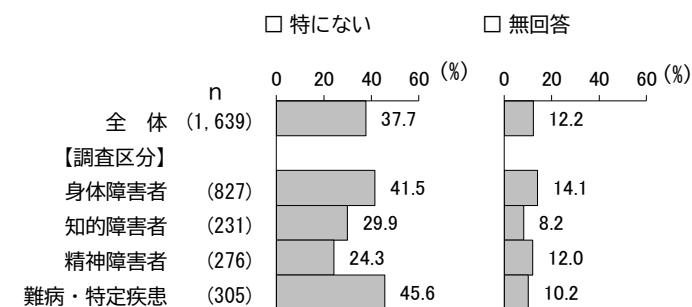
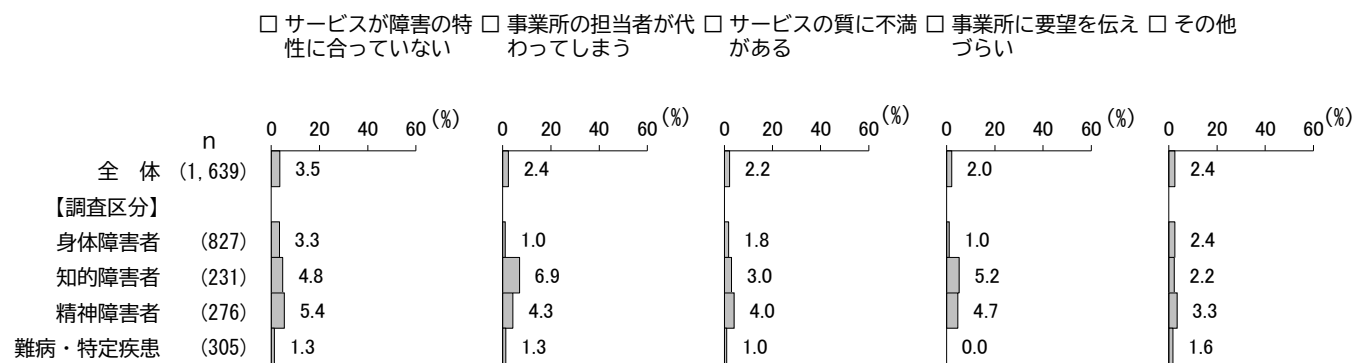
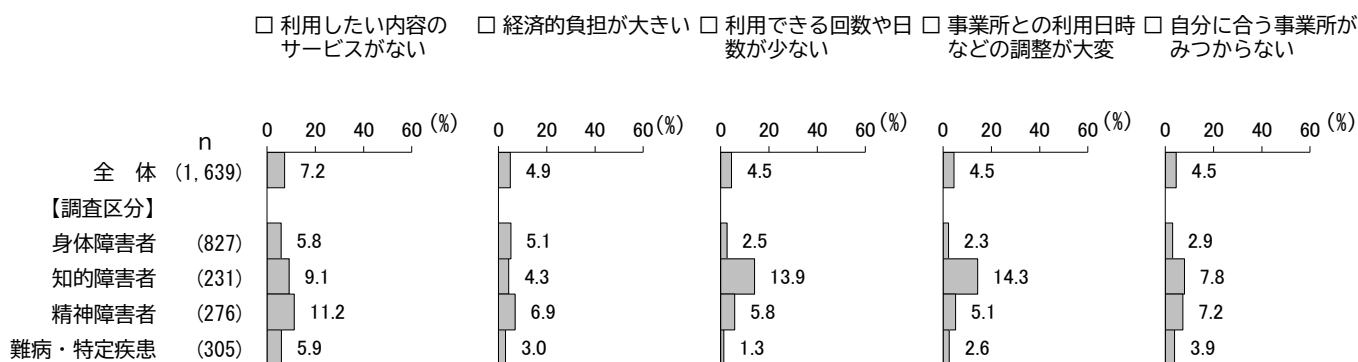
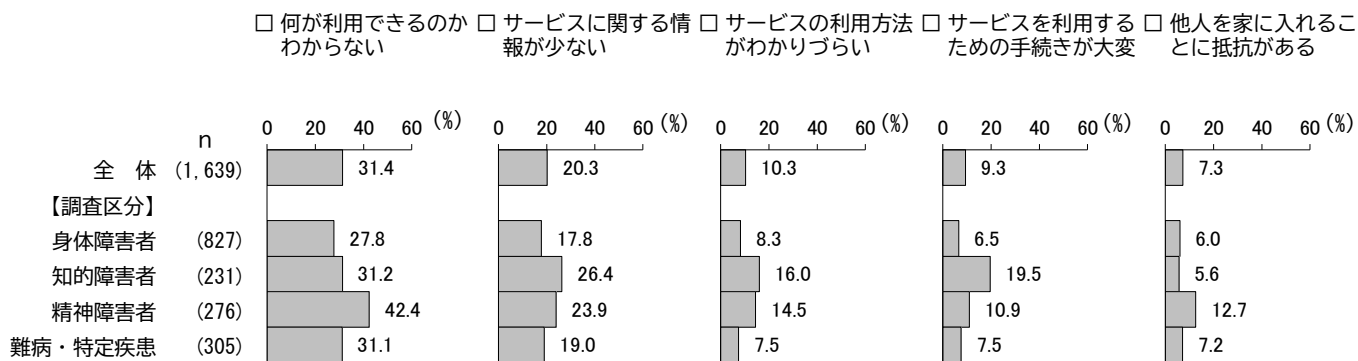
◆日中一時支援

- ・これから支援を希望したい所存です。
- ・現在は未だ一人でも誰も頼れる人は居ない（親友8人皆、死亡）けれども自立生活。高齢になり心細い時もあります。時々、様子を見に来て下さったり、時に心要な場合に、日中に少し家事支援して下さったりのサービスが、利用できれば、よいと願います。
- ・お願いしたいと思いつつも家族の中でできてしまっていたり、一人で行ける所だったりする為。
- ・どういうものがあるか知らない。
- ・利用の方法が分からない。
- ・条件など情報がわからないため。
- ・手続きが、解らない。
- ・入院中だから。退院したとしても介護保険優先になってしまうから。
- ・何とかなっているため。
- ・体調の日々変化が大きい。

(5) 障害福祉サービスを利用する際の不便

【すべての方にお聞きします。】

問26 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思
うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



第3章 調査結果の詳細

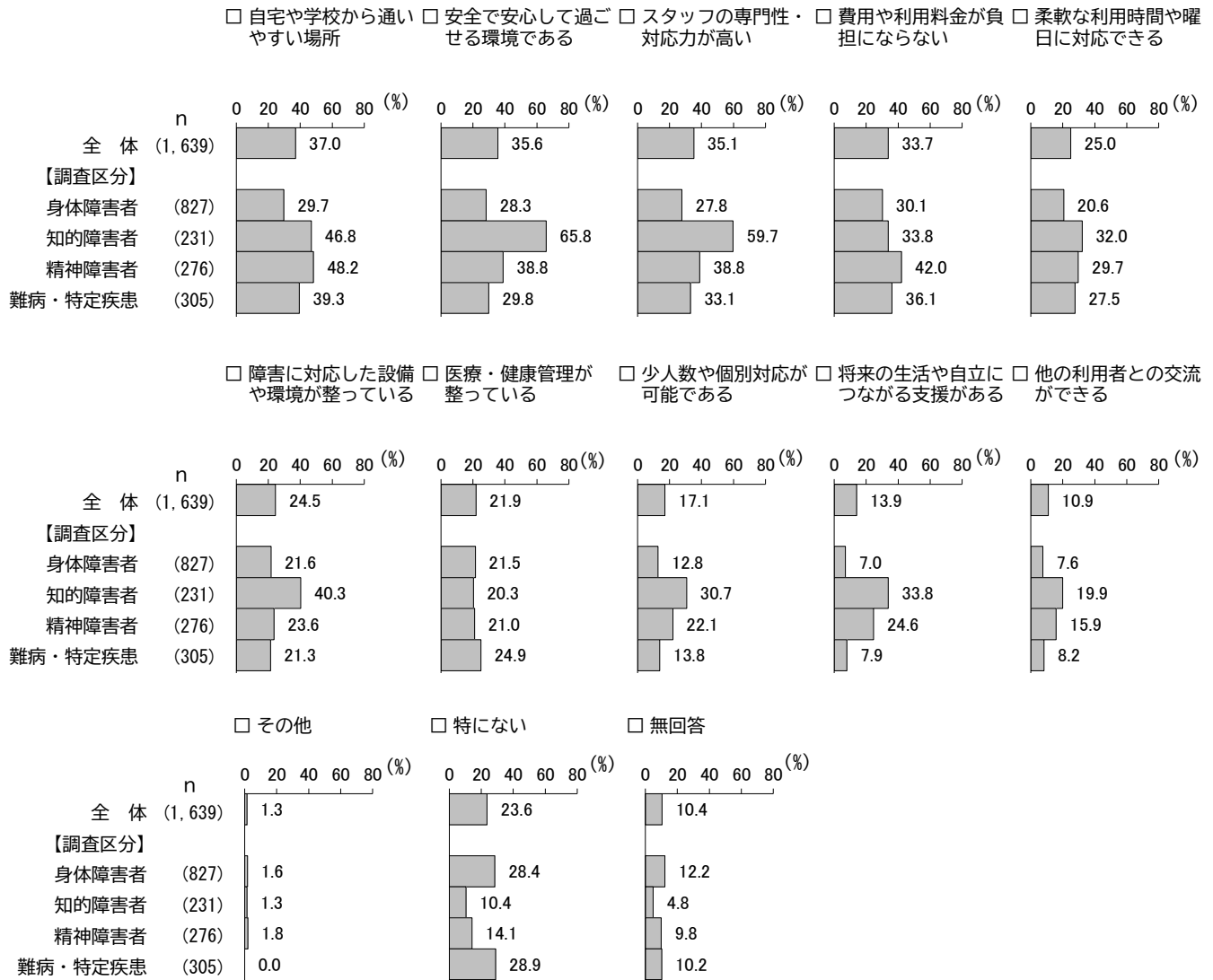
障害福祉サービスを利用する際の不便は、「何が利用できるのかわからない」が31.4%と高く、次いで「サービスに関する情報が少ない」(20.3%)、「サービスの利用方法がわかりづらい」(10.3%)、「サービスを利用するための手続きが大変」(9.3%)となっている。一方、「特にない」が37.7%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「サービスの利用方法がわかりづらい」「サービスを利用するための手続きが大変」「利用できる回数や日数が少ない」「事業所との利用日時などの調整が大変」が、精神障害者では「何が利用できるのかわからない」「他人を家に入れることに抵抗がある」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「特にない」が高くなっている。

(6) 福祉サービスを選ぶ際に重視すること

問27 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に、特に重視することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

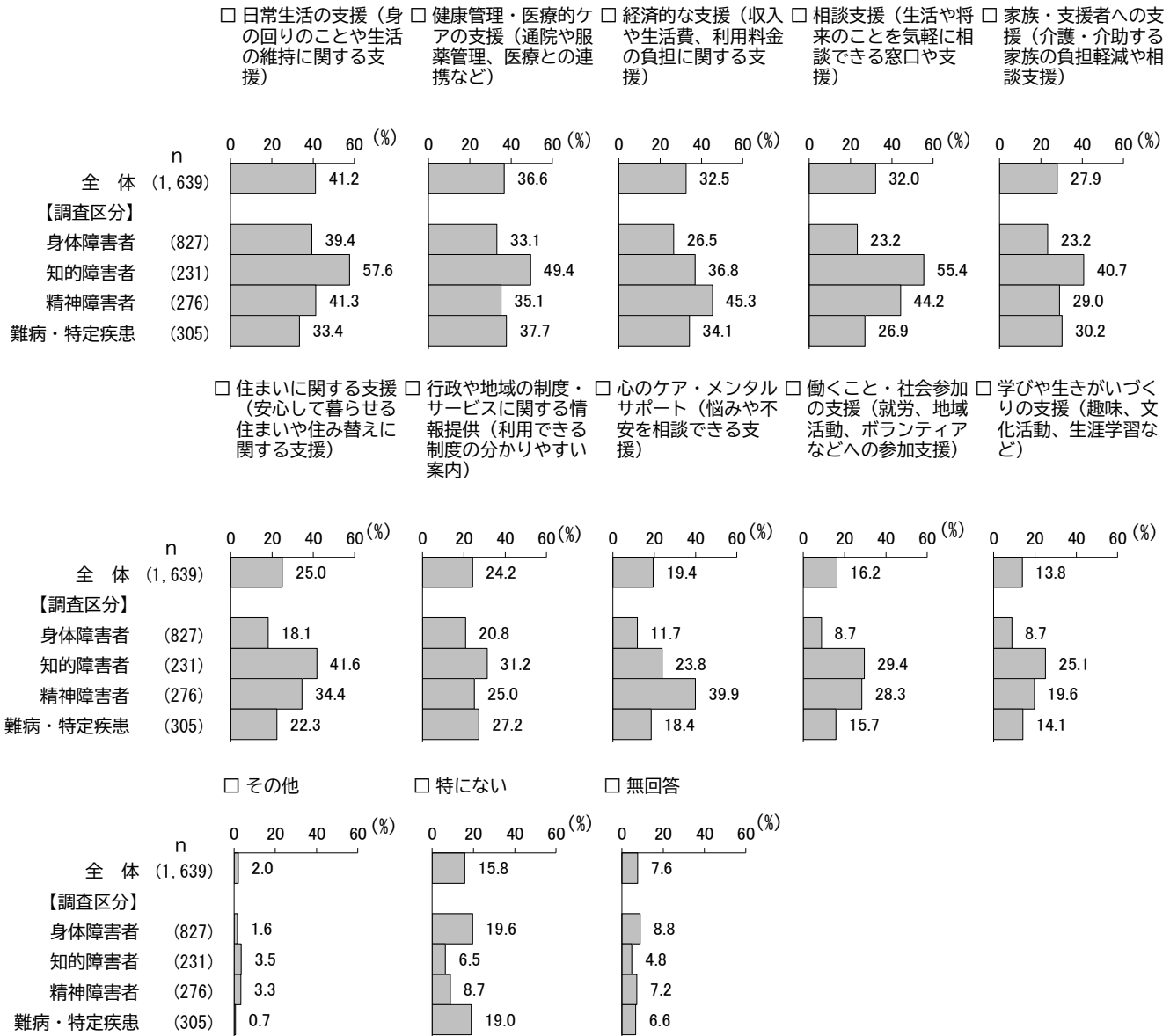


福祉サービスを選ぶ際に重視することは、「自宅や学校から通いやすい場所」が37.0%と最も高く、次いで「安全で安心して過ごせる環境である」(35.6%)、「スタッフの専門性・対応力が高い」(35.1%)、「費用や利用料金が負担にならない」(33.7%)となっている。一方、「特にない」が23.6%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者は「自宅や学校から通いやすい場所」「費用や利用料金が負担にならない」「医療・健康管理が整っている」を除く全ての項目で他の区分より高く、「安全で安心して過ごせる環境である」は65.8%と特に高くなっている。精神障害者では「自宅や学校から通いやすい場所」「費用や利用料金が負担にならない」が高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「特にない」がやや高くなっている。

(7) 将来の生活における不安と必要な支援

問28 あなたや家族の方が、将来、生活をしていくうえで、不安に感じていることや受けたい支援を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



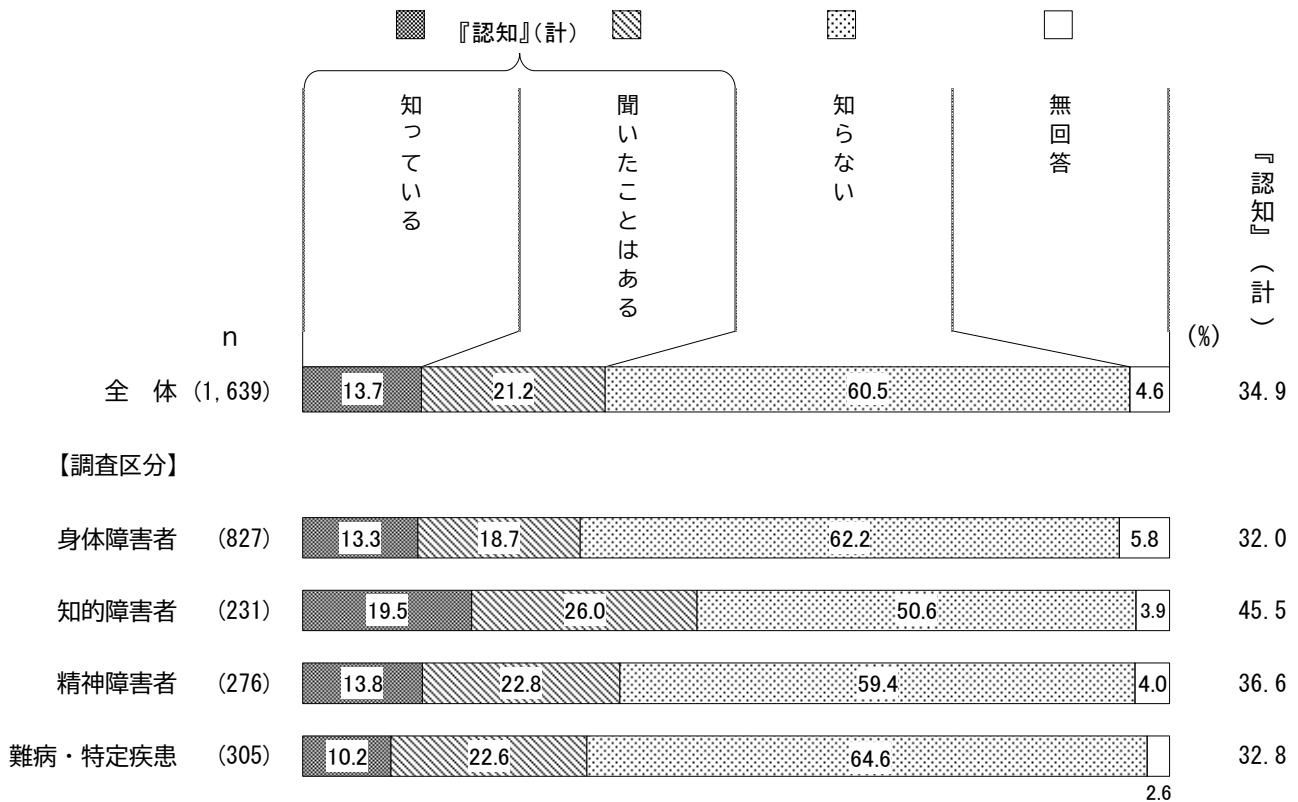
将来の生活における不安と必要な支援は、「日常生活の支援（身の回りのことや生活の維持に関する支援）」が41.2%と最も高く、「健康管理・医療的ケアの支援（通院や服薬管理、医療との連携など）」(36.6%)、「経済的な支援（収入や生活費、利用料金の負担に関する支援）」(32.5%)、「相談支援（生活や将来のことを気軽に相談できる窓口や支援）」(32.0%)となっている。一方、「特になし」が15.8%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者は大半の項目で他の区分より高く、「日常生活の支援」は57.6%と特に高くなっている。精神障害者では「経済的な支援」「心のケア・メンタルサポート」が他の区分より高くなっている。

11. 障害者差別について

(1) 障害者差別解消法の認知状況

問29 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)



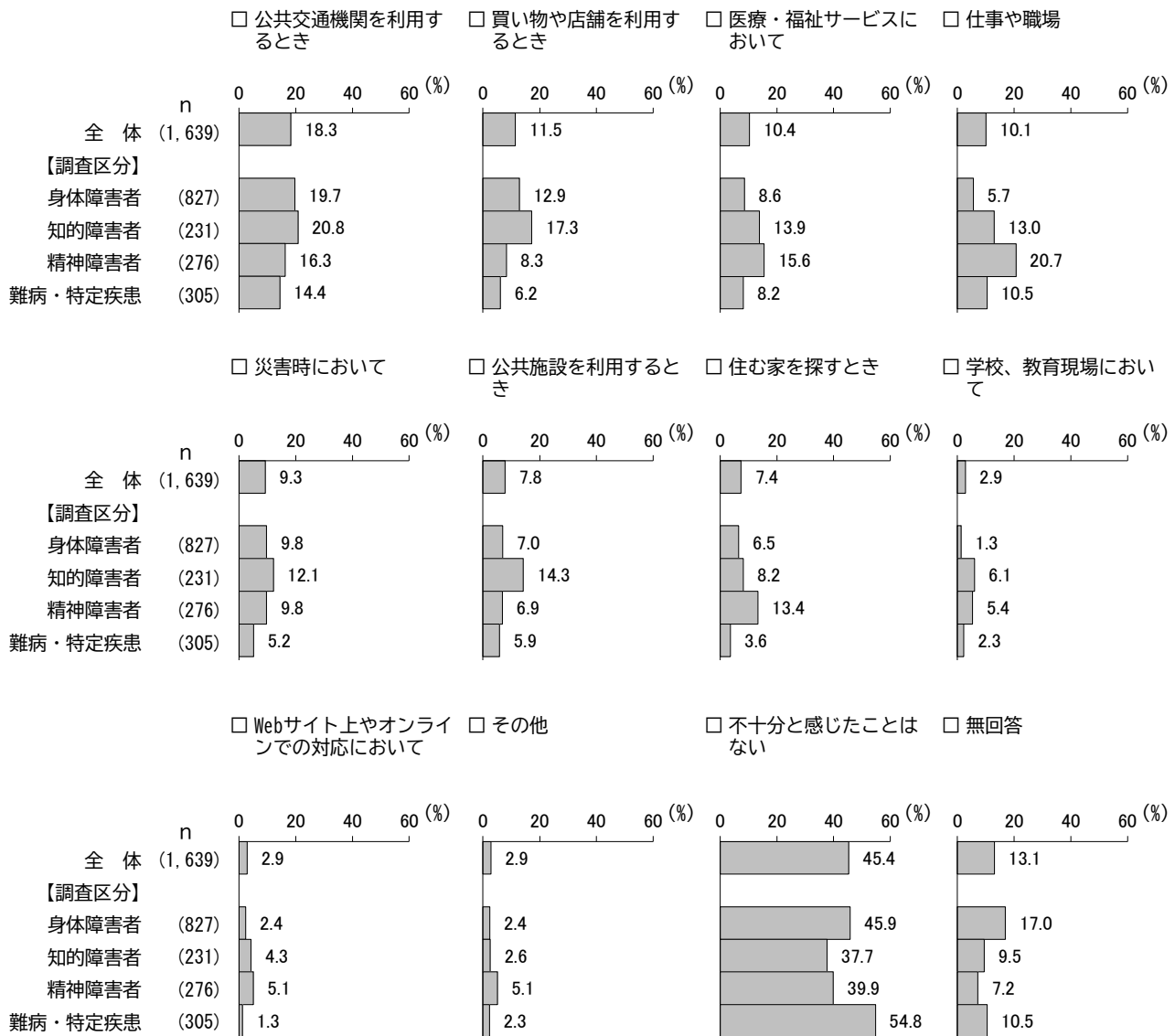
障害者差別解消法の認知状況は、「知っている」は13.7%、「聞いたことはある」は21.2%となり、両者をあわせた『認知』は34.9%となっている。

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「知っている」は1割台となっている。『認知』は知的障害者では45.5%と半数近くとなっており、それ以外の区分は3割台となっている。

(2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面

問30 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)



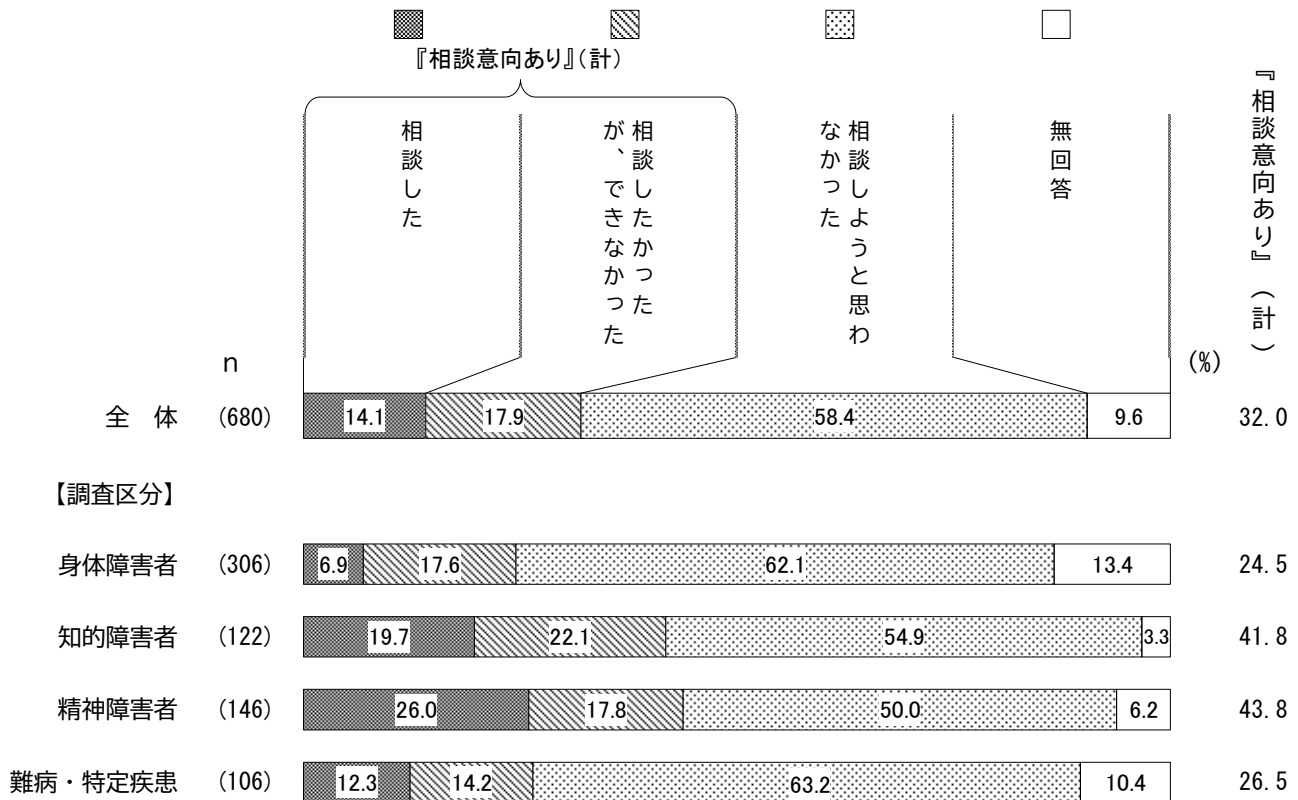
合理的配慮が不十分だと感じる場面は、「公共交通機関を利用するとき」が18.3%と高く、次いで「買い物や店舗を利用するとき」(11.5%)、「医療・福祉サービスにおいて」(10.4%)、「仕事や職場」(10.1%)となっている。一方、「不十分と感じたことはない」が45.4%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「買い物や店舗を利用するとき」「公共施設を利用するとき」が、精神障害者では「医療・福祉サービスにおいて」「仕事や職場」「住む家を探すとき」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験

【問30で不十分だと感じた場面があったと回答した方（1～10のいずれかを選択）にお聞きします。】

問30-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。（家族や友人を除く）（1つに○）



差別を受けたと感じたときの相談経験は、「相談した」は14.1%にとどまっている。「相談したかったが、できなかった」は17.9%、「相談しようと思わなかった」は58.4%となっている。「相談した」と「相談したかったが、できなかった」の両者をあわせたものを『相談意向あり』として捉えると、32.0%となっている。

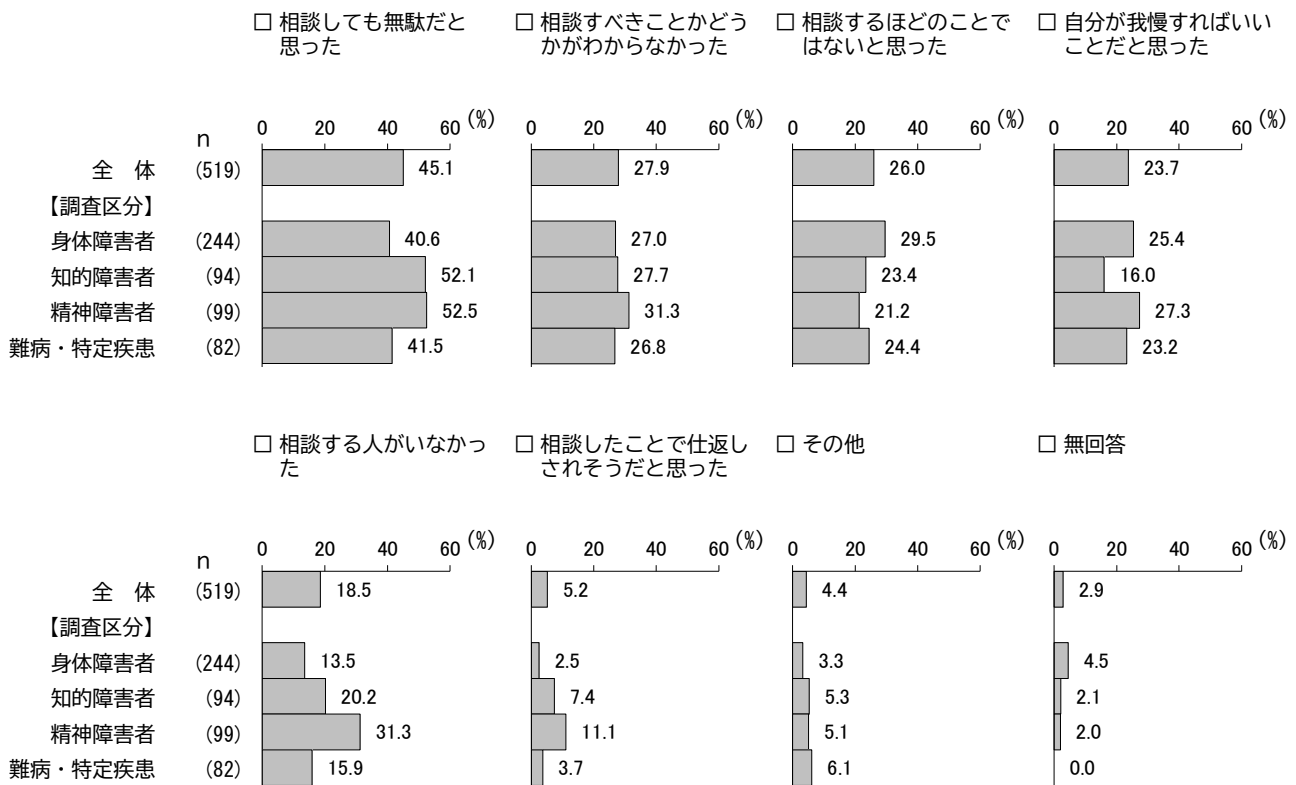
調査区分別にみると、「相談した」は精神障害者で26.0%と高く、それ以外の区分では身体障害者を除き1割台となっている。『相談意向あり』は、知的障害者と精神障害者で4割台となっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「相談しようと思わなかった」が6割台と高くなっている。

(4) 相談しなかった（できなかった）理由

【問30-1で相談できなかった/しなかったと回答した方（2・3のいずれかを選択）にお聞きします。】

問30-2 どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。

（あてはまるものすべてに○）



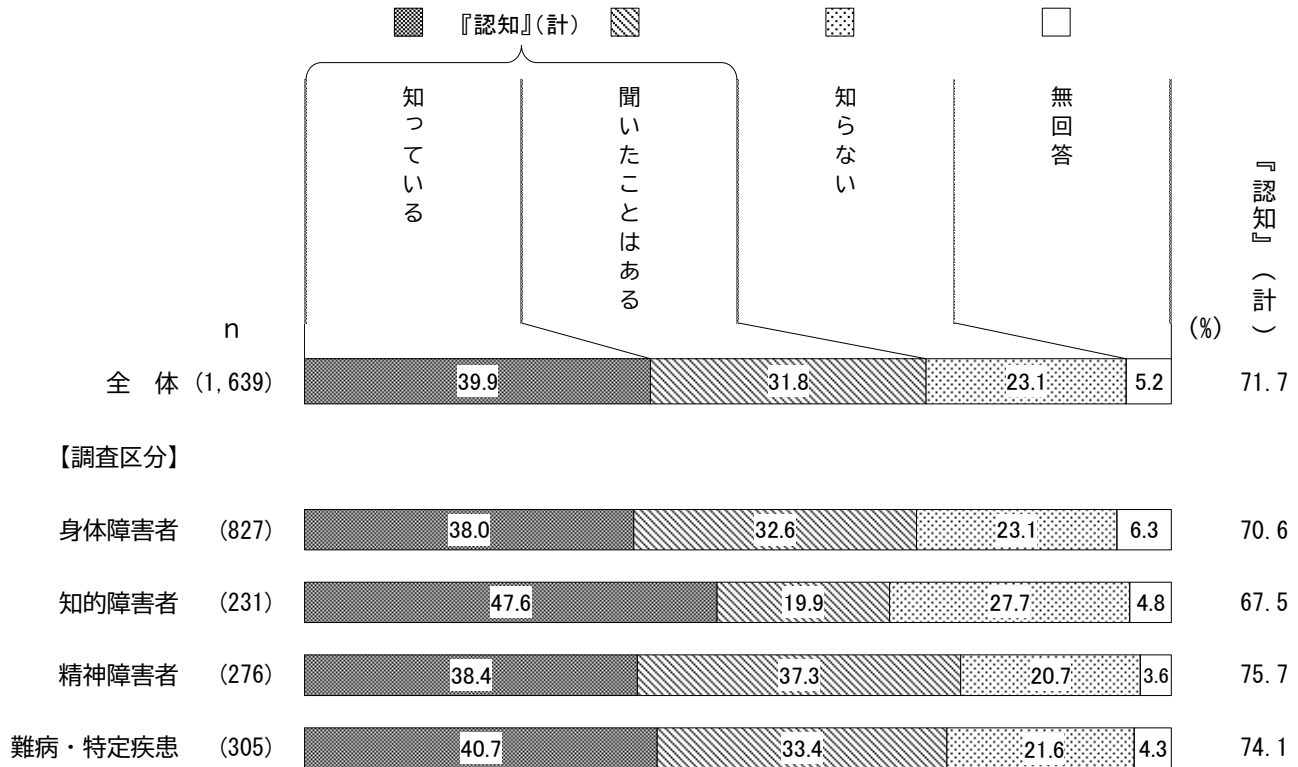
相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても無駄だと思った」が45.1%と最も高く、次いで「相談すべきことかどうかがわからなかった」（27.9%）、「相談するほどのことではないと思った」（26.0%）、「自分が我慢すればいいことだと思った」（23.7%）となっている。

調査区分別にみると、知的障害者と精神障害者では「相談しても無駄だと思った」が他の区分より高く、そのほか精神障害者は「相談する人がいなかった」も高くなっている。

(5) 成年後見制度の認知

【すべての方にお聞きします。】

問31 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)



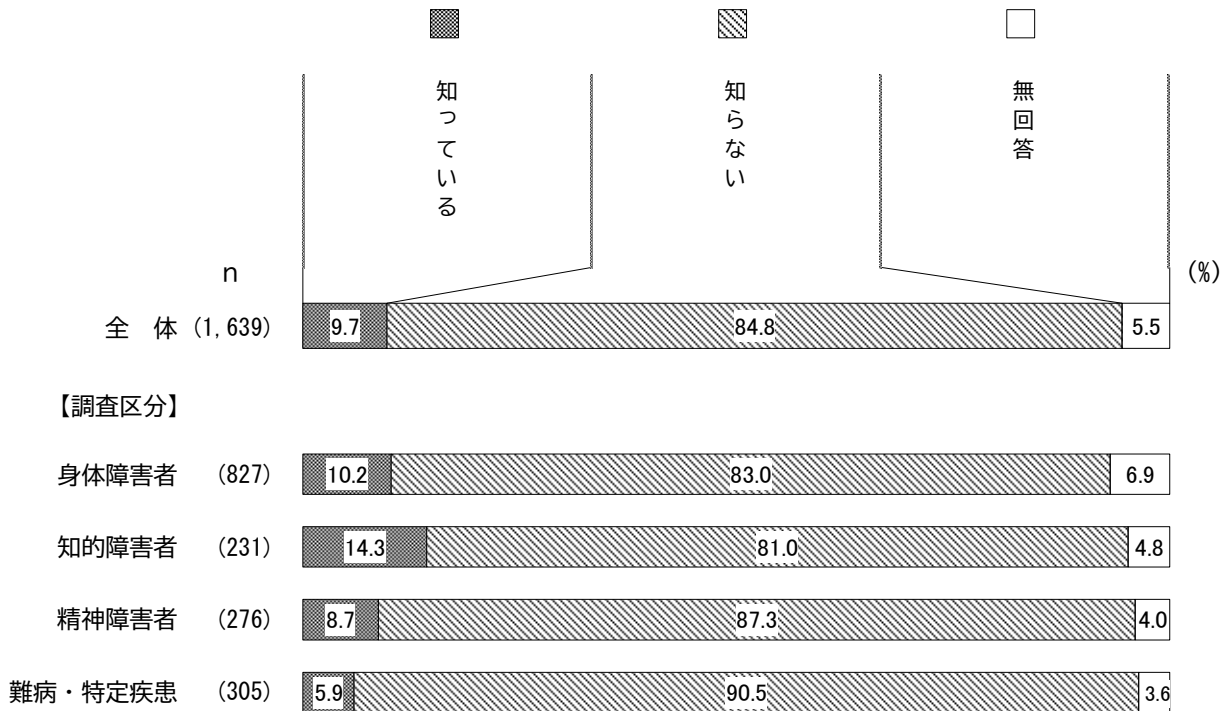
成年後見制度の認知は、「知っている」は39.9%、「聞いたことはある」は31.8%となり、両者をあわせた『認知』は71.7%となっている。

調査区分別にみると、「知っている」は知的障害者で47.6%と他の区分より高くなっている。『認知』は身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患で7割台となっている。

12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について

(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知

問32 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)

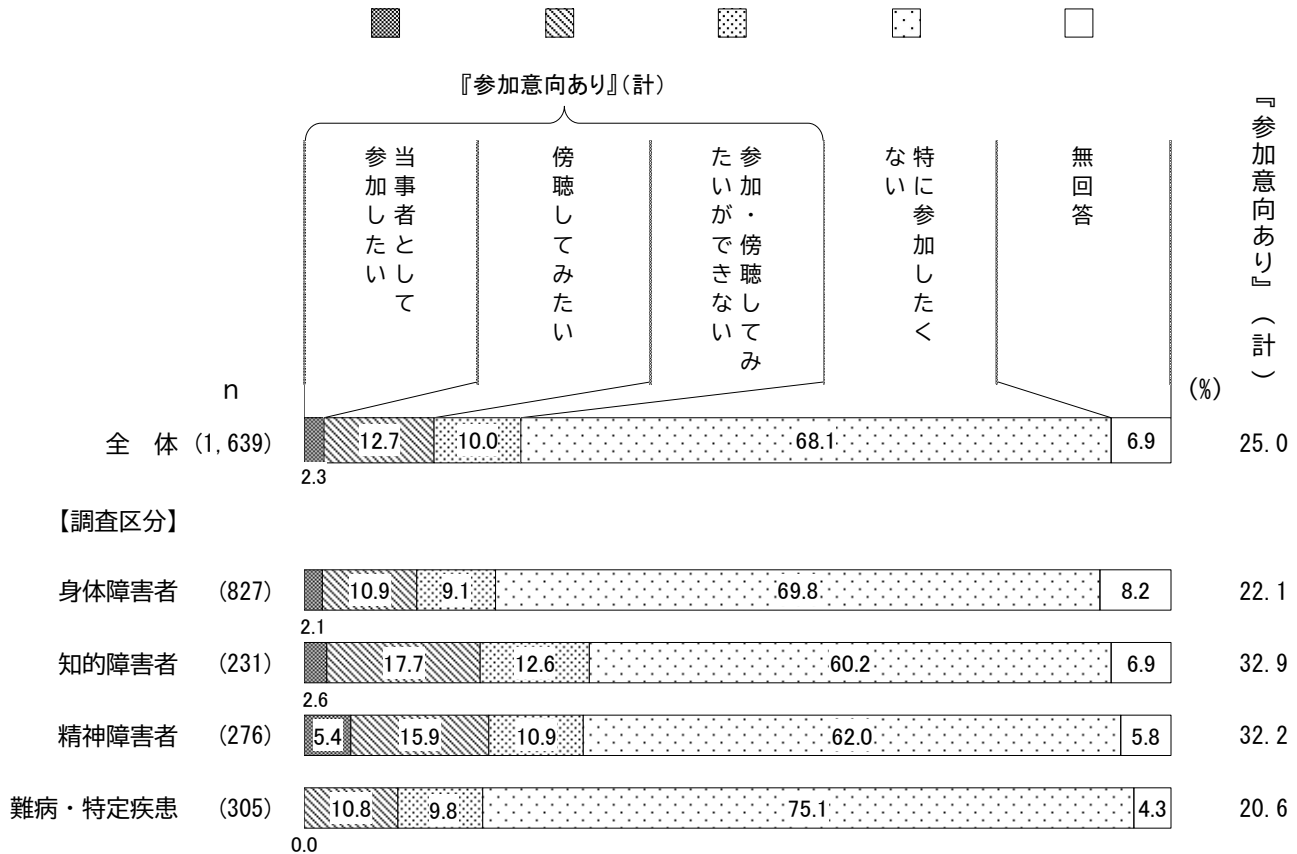


武蔵野市地域自立支援協議会の認知は、「知っている」が9.7%、「知らない」が84.8%を占めている。

調査区分別にみると、身体障害者と知的障害者では「知っている」が1割台となっている。

(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向

問33 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)



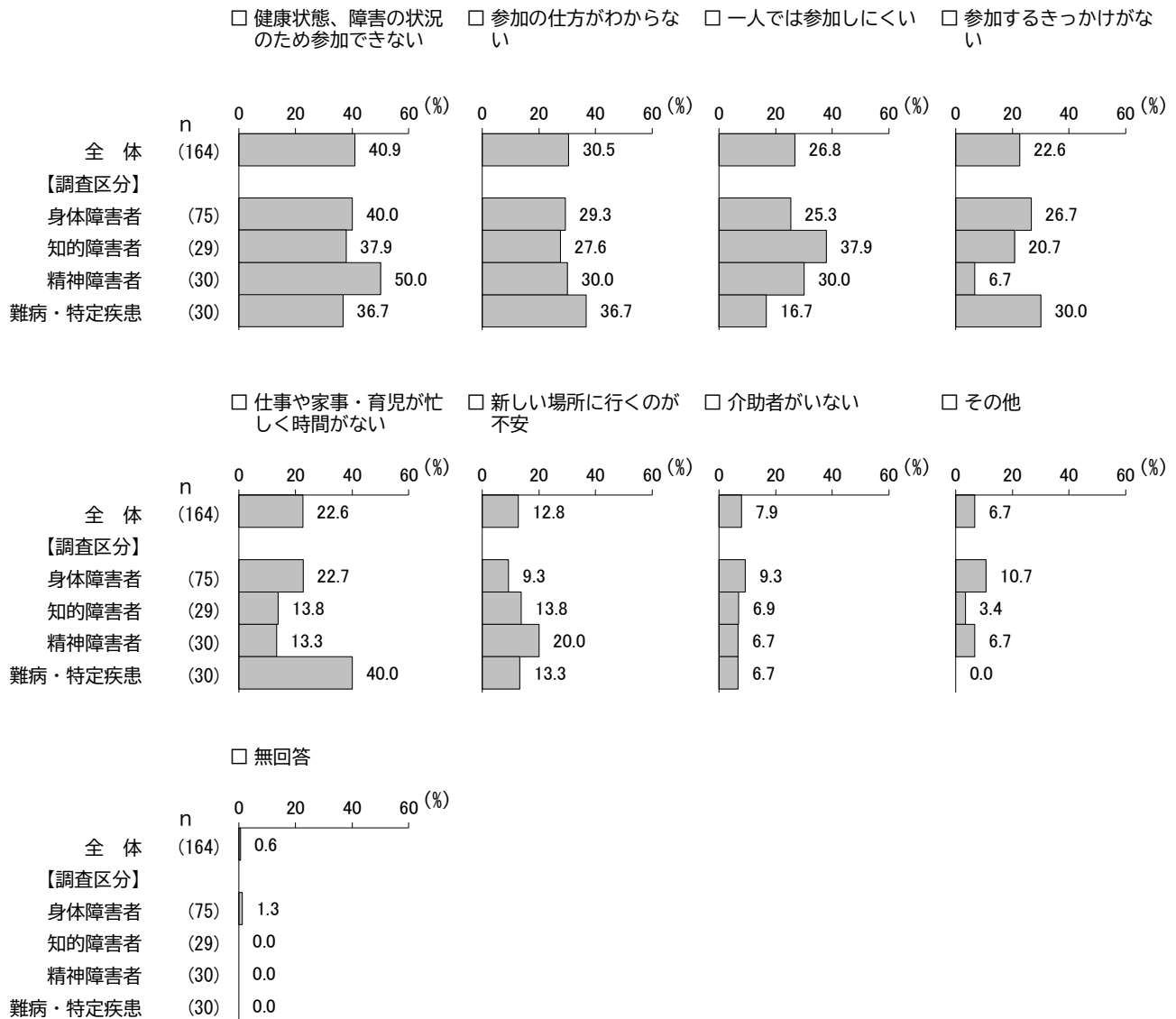
武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向は、「当事者として参加したい」は2.3%、「傍聴してみたい」は12.7%、「参加・傍聴してみたいができない」は10.0%となっている。なお、「特に参加したくない」が68.1%と高い。「当事者として参加したい」と「傍聴してみたい」、「参加・傍聴してみたいができない」をあわせたものを『参加意向あり』として捉えると、25.0%となっている。

調査区分別にみると、精神障害者では「当事者として参加したい」が5.4%となっている。『参加意向あり』としてみると、知的障害者と精神障害者で3割台となっている。一方、いずれの調査区分でも「特に参加したくない」が6割以上と高くなっている。

(3) 参加・傍聴できない理由

【問33で「3 参加・傍聴してみたいができない」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 参加・傍聴できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

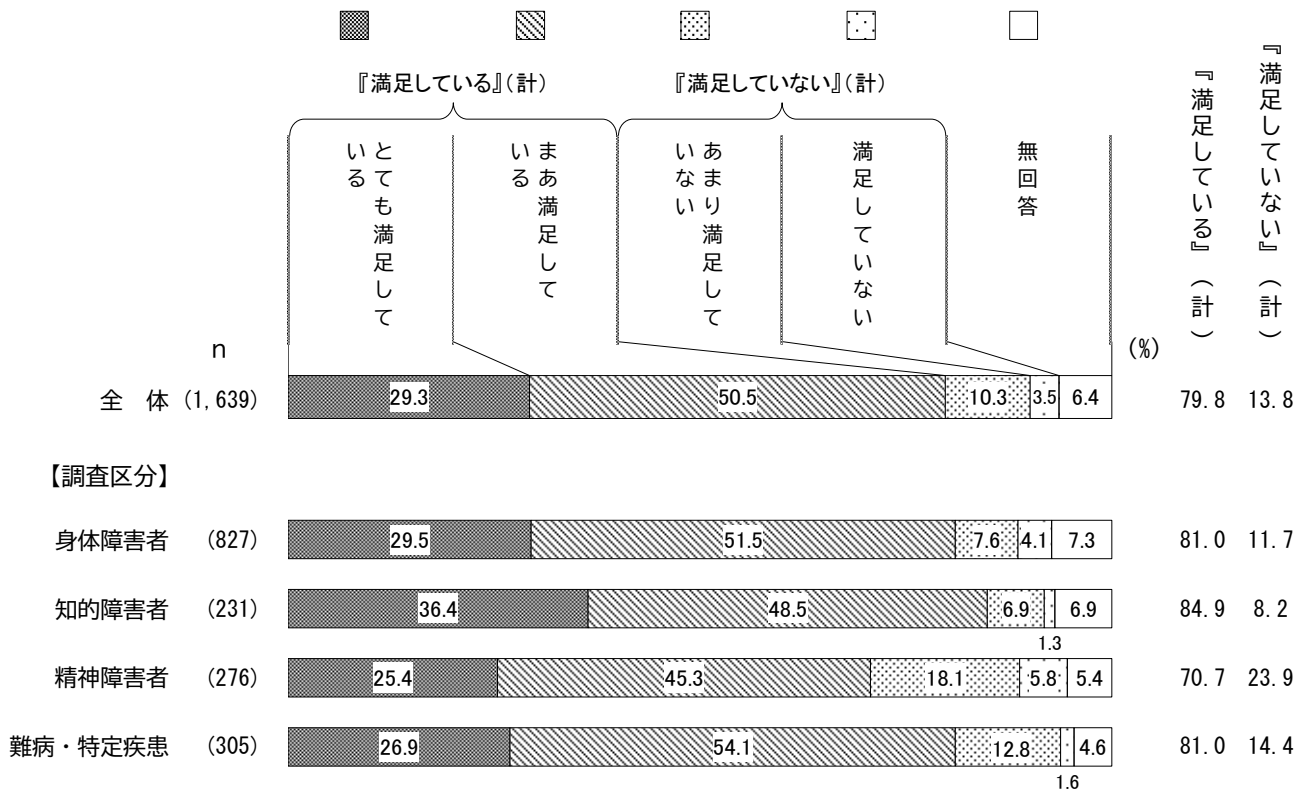
参加・傍聴できない理由は、「健康状態、障害の状況のため参加できない」が40.9%と最も高く、次いで「参加の仕方がわからない」(30.5%)、「一人では参加しにくい」(26.8%)となっている。

調査区分別にみると、精神障害者では「健康状態、障害の状況のため参加できない」が、難病・特定疾患では「参加の仕方がわからない」「参加するきっかけがない」「仕事や家事・育児が忙しく時間がない」がそれぞれ他の区分より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、知的障害者は「一人では参加しにくい」が高くなっている。

13. 住まいについて

(1) 現在の住まいの満足度

問34 あなたは、現在の住まいに満足していますか。(1つに○)



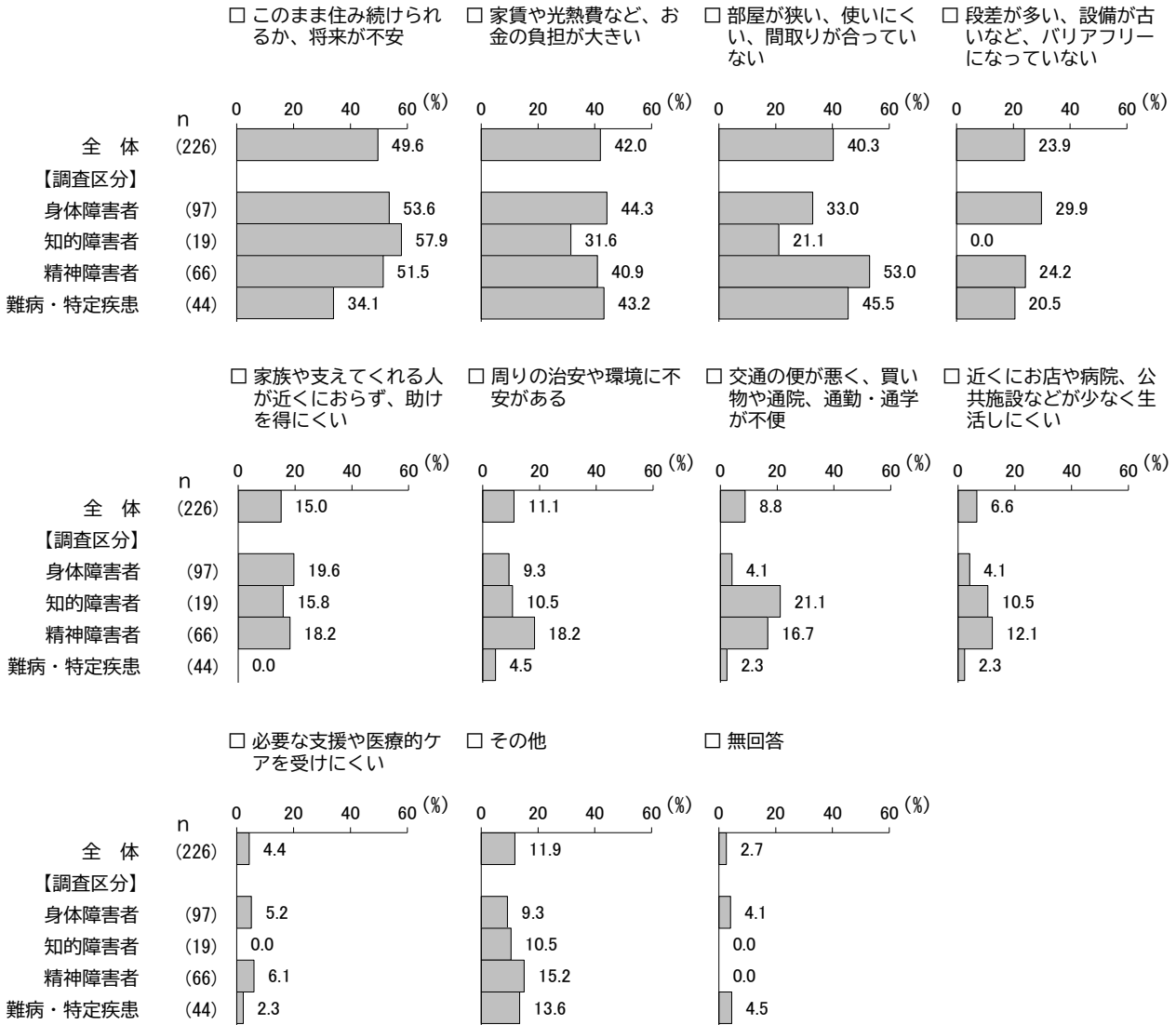
現在の住まいの満足度は、「とても満足している」は29.3%で、「まあ満足している」(50.5%)をあわせた『満足している』は79.8%となっている。『満足していない』(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は13.8%となっている。

調査区分別にみると、『満足している』は、身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患で8割台、精神障害者で7割台となっている。また知的障害者では「とても満足している」が36.4%と他の区分より高くなっている。

(2) 満足していない理由

【問34で満足していないと回答した方（3・4のいずれかを選択）にお聞きします。】

問34-1 満足していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

満足していない理由は、「このまま住み続けられるか、将来が不安」が49.6%と最も高く、次いで「家賃や光熱費など、お金の負担が大きい」(42.0%)、「部屋が狭い、使いにくい、間取りが合っていない」(40.3%)、「段差が多い、設備が古いなど、バリアフリーになっていない」(23.9%)となっている。

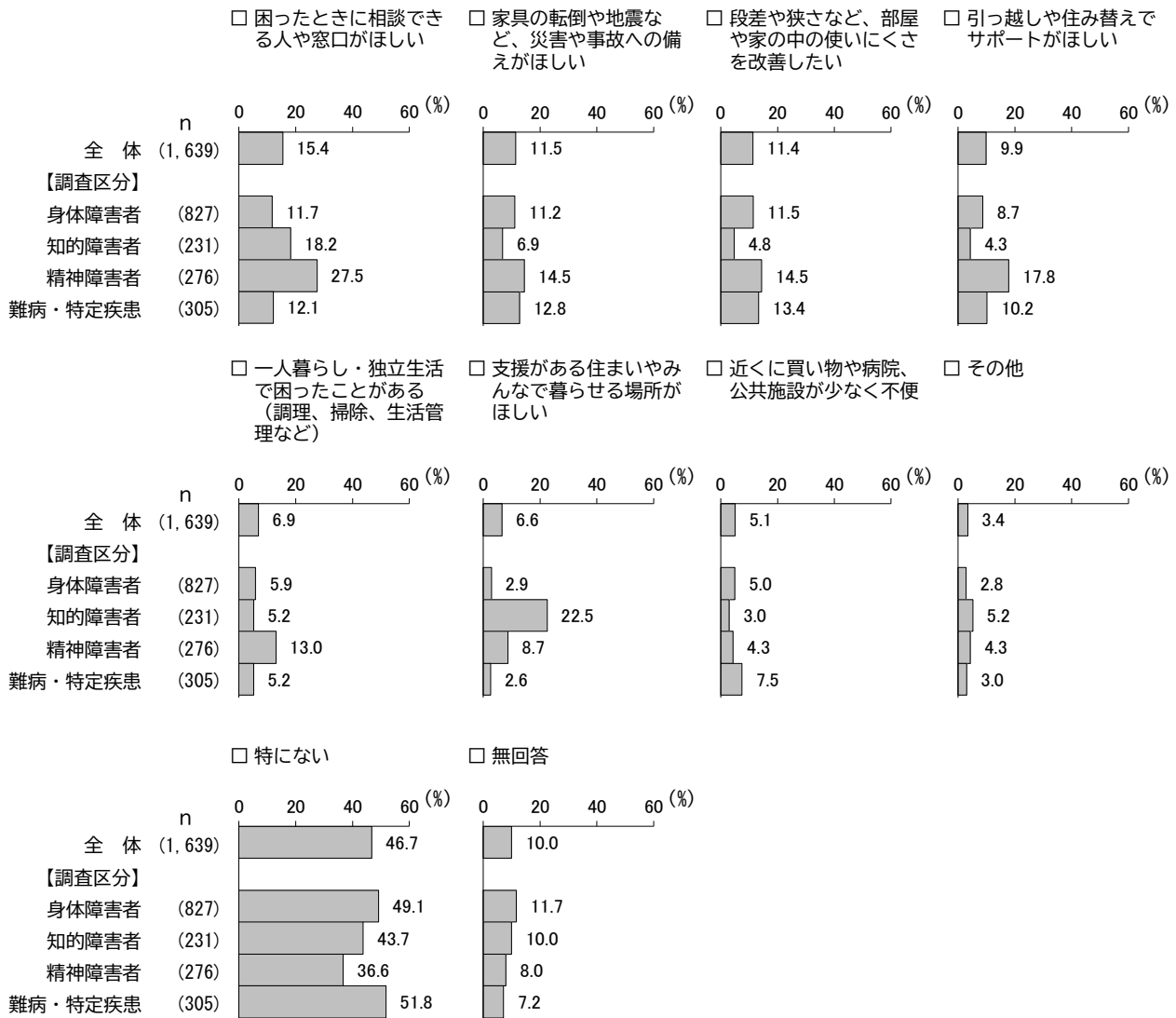
調査区分別にみると、精神障害者では「部屋が狭い、使いにくい、間取りが合っていない」「周りの治安や環境に不安がある」が他の区分より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、知的障害者は「このまま住み続けられるか、将来が不安」「交通の便が悪く、買い物や通院、通勤・通学が不便」が高くなっている。

(3) 住まいに関する困りごとや必要な支援

【すべての方にお聞きします。】

問35 あなたの住まいで困っていることや、必要としている支援はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

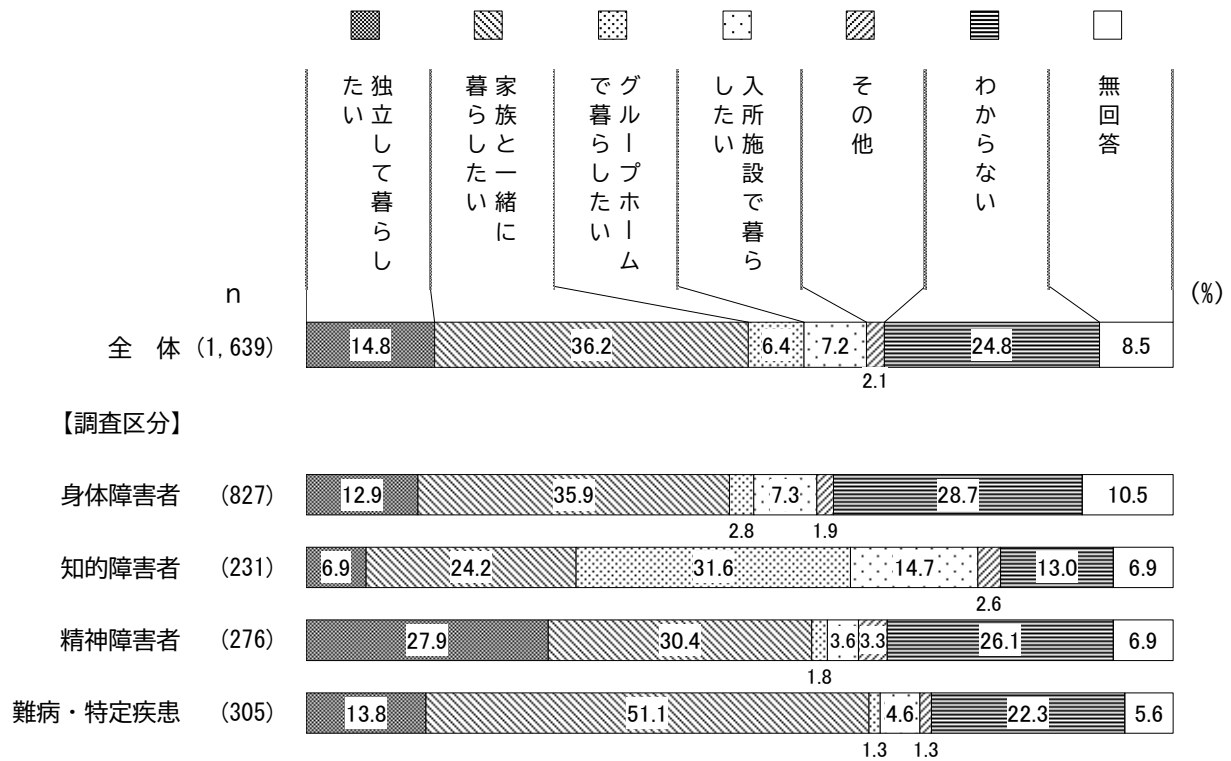


住まいに関する困りごとや必要な支援は、「困ったときに相談できる人や窓口がほしい」が15.4%と高く、次いで「家具の転倒や地震など、災害や事故への備えがほしい」(11.5%)、「段差や狭さなど、部屋や家の中の使いにくさを改善したい」(11.4%)となっている。一方、「特にない」が46.7%と最も高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「支援がある住まいやみんなで暮らせる場所がほしい」が、精神障害者では「困ったときに相談できる人や窓口がほしい」「引っ越しや住み替えてサポートがほしい」「一人暮らし・独立生活で困ったことがある(調理、掃除、生活管理など)」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(4) 10年後の暮らし方

問36 あなたは、10年後どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)



10年後の暮らし方は、「家族と一緒に暮らしたい」が36.2%と最も高く、次いで「独立して暮らしたい」(14.8%)、「入所施設で暮らしたい」(7.2%)となっている。一方、「わからない」が24.8%と高くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が、精神障害者では「独立して暮らしたい」が、難病・特定疾患では「家族と一緒に暮らしたい」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(5) グループホームへの入居希望時期

【問36で「3 グループホームで暮らしたい」と回答した方にお聞きします。】

問36-1 グループホームへの入居は、いつ頃から希望しますか。(1つに○)

		回答者数 (n)	1年以内に入居したい	3年以内に入居したい	5年以内に入居したい	10年以内に入居したい	10年以上先に入居したい	その他	わからない	具体的な時期は決めていない	無回答
単位：%											
全 体		105	6.7	2.9	10.5	28.6	8.6	28.6	1.9	9.5	2.9
調査 区分	身体障害者	23	4.3	-	8.7	43.5	8.7	4.3	4.3	26.1	-
	知的障害者	73	8.2	4.1	9.6	26.0	5.5	38.4	1.4	2.7	4.1
	精神障害者	5	-	-	20.0	20.0	20.0	-	-	40.0	-
	難病・特定疾患	4	-	-	25.0	-	50.0	25.0	-	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

グループホームへの入居希望時期は、「10年以内に入居したい」と「その他」がともに28.6%と最も高く、次いで「5年以内に入居したい」(10.5%)、「10年以上先に入居したい」(8.6%)となっている。一方、「具体的な時期は決めていない」は9.5%となっている。

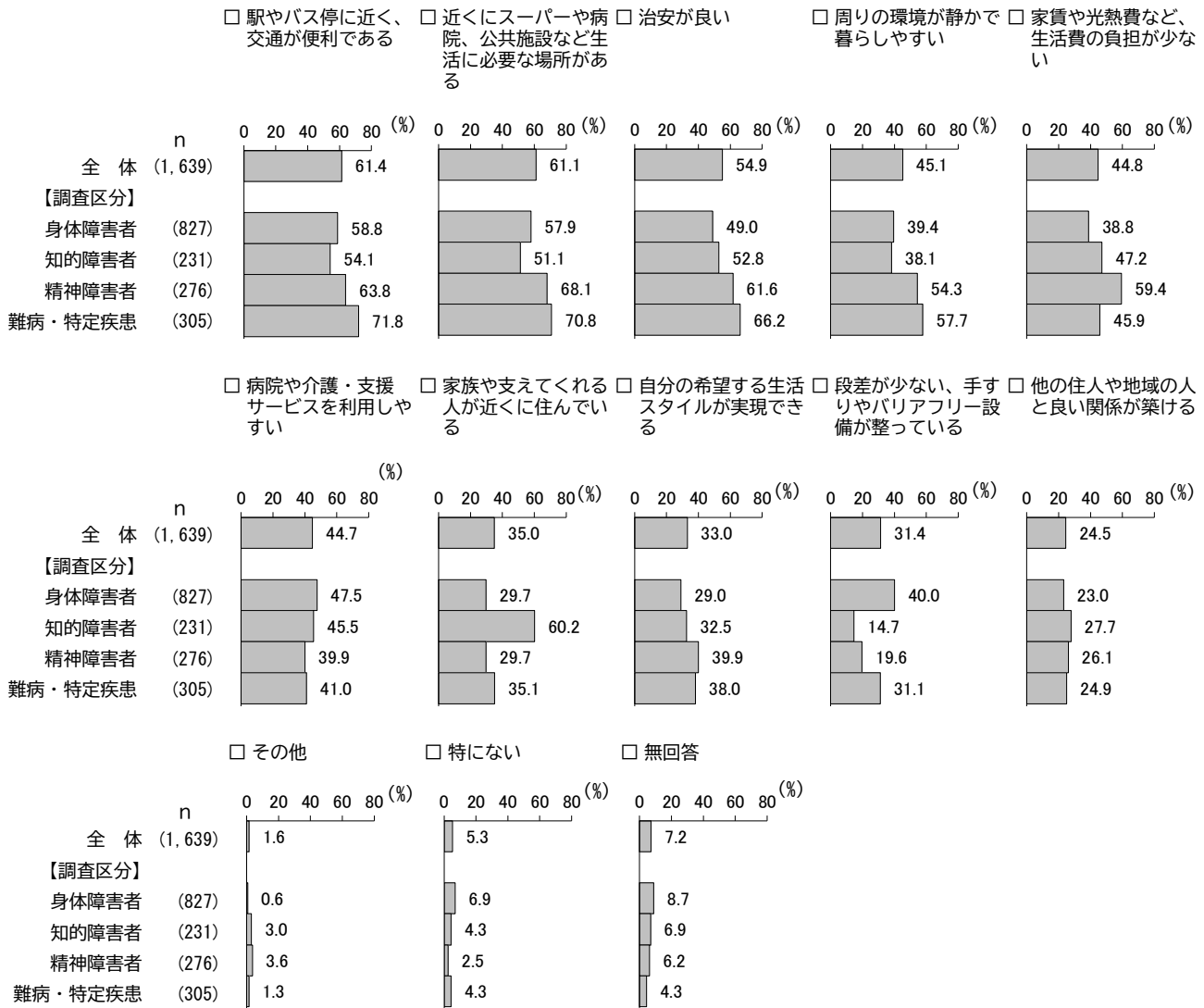
調査区分別にみると、知的障害者では「その他」が38.4%と高くなっている。「その他」の記述回答の内訳は「健康状態が改善すれば」「すでに入居済」等が多い。

また、回答数は30件未満と少ないが、身体障害者は「10年以内に入居したい」が、精神障害者では「具体的な時期は決めていない」が、難病・特定疾患では「10年以上先に入居したい」が高くなっている。

(6) 住まいを選ぶ際に重視すること

【すべての方にお聞きします。】

問37 住まいを選ぶ際に特に重視することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



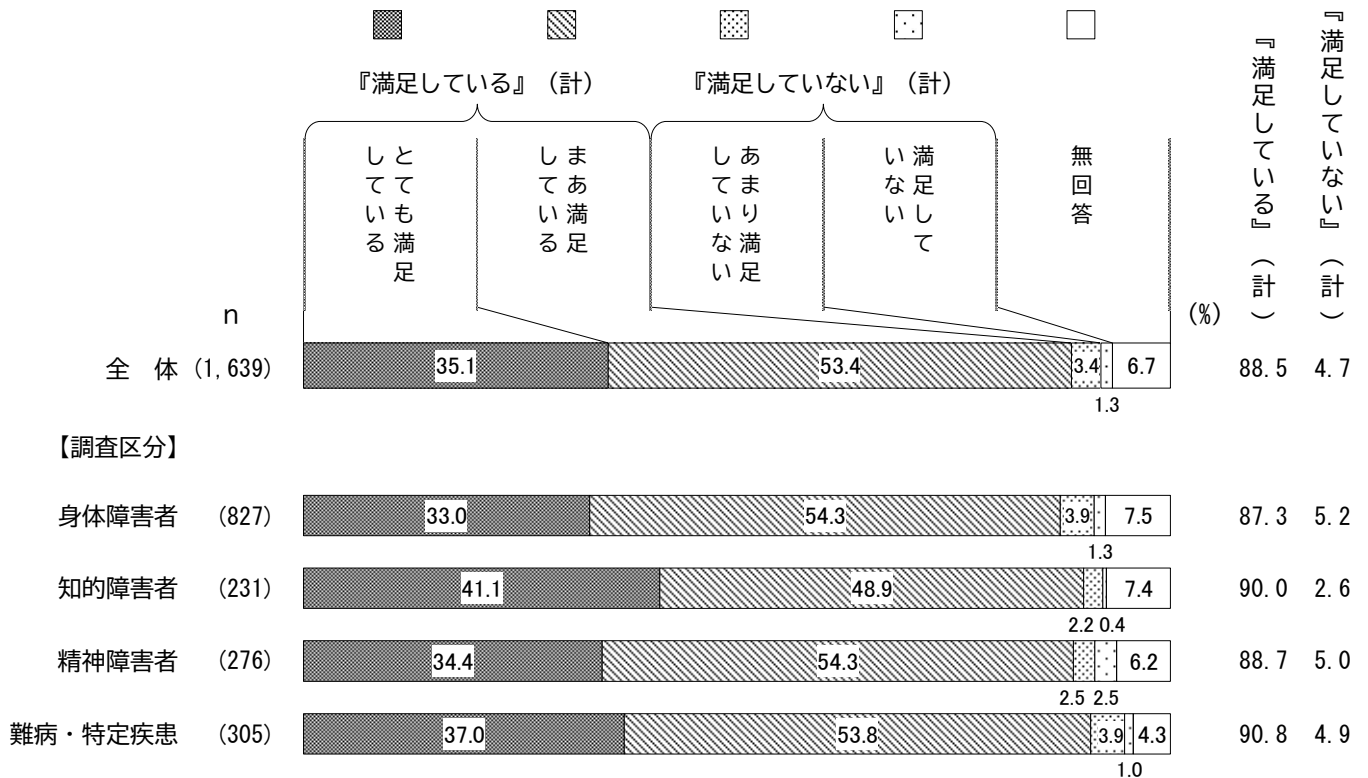
住まいを選ぶ際に重視することは、「駅やバス停に近く、交通が便利である」が61.4%と最も高く、次いで「近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある」(61.1%)、「治安が良い」(54.9%)、「周りの環境が静かで暮らしやすい」(45.1%)となっている。一方、「特にない」は5.3%となっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「段差が少ない、手すりやバリアフリー設備が整っている」が、知的障害者では「家族や支えてくれる人が近くに住んでいる」が、精神障害者では「家賃や光熱費など、生活費の負担が少ない」が、難病・特定疾患では「駅やバス停に近く、交通が便利である」「近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある」「治安が良い」「周りの環境が静かで暮らしやすい」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

14. 今後のことについて

(1) 武蔵野市での暮らしの満足度

問38 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

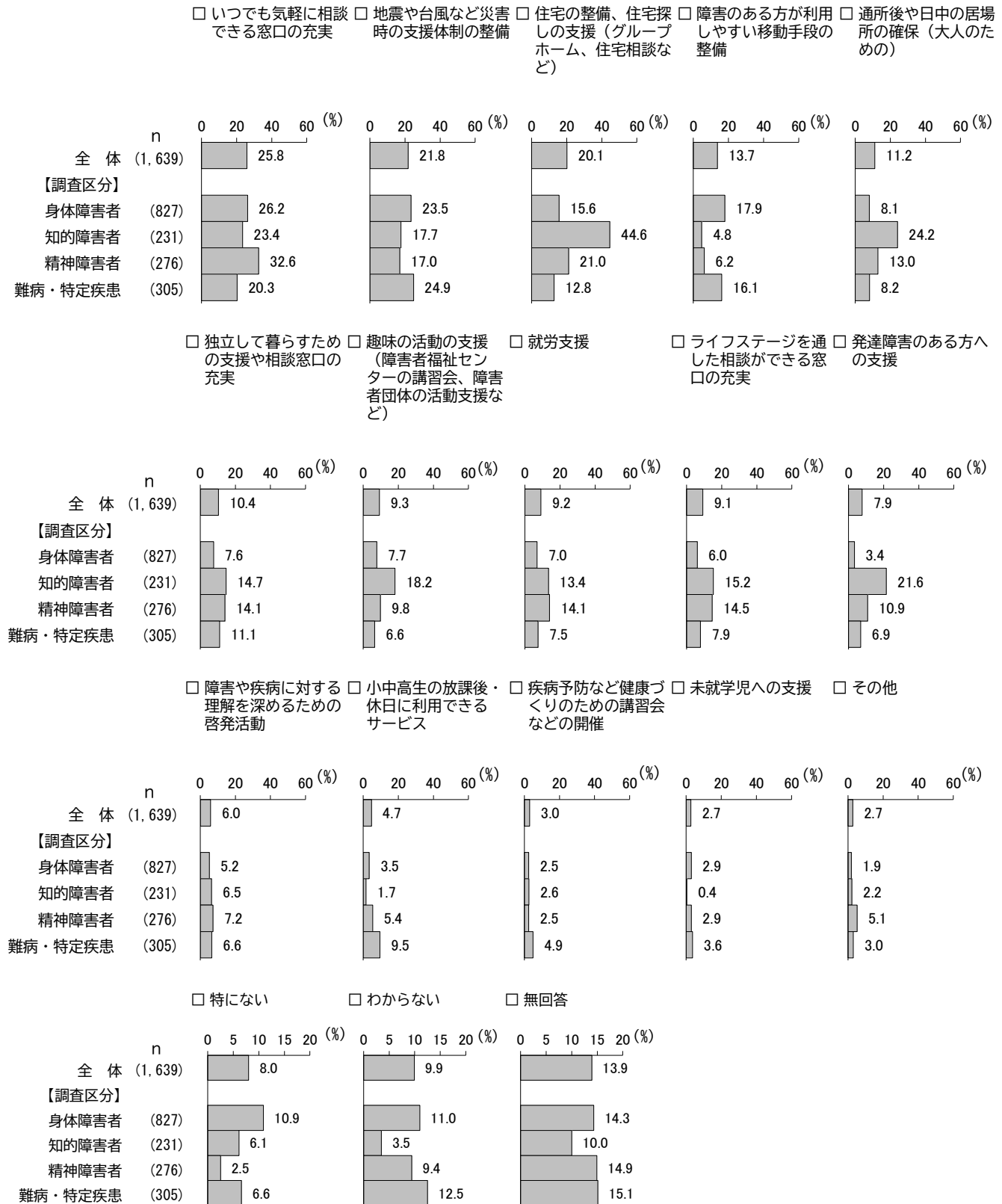


武蔵野市での暮らしの満足度は、「とても満足している」は35.1%で、「まあ満足している」の53.4%をあわせた『満足している』は88.5%となっている。『満足していない』（「満足していない」と「あまり満足していない」の計）は4.7%となっている。

調査区分別にみると、『満足している』は、いずれの調査区分でも約9割となっている。また知的障害者では「とても満足している」が41.1%と高くなっている。

(2) 充実すべき障害者福祉施策

問39 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)



充実すべき障害者福祉施策は、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が25.8%と最も高く、次いで「地震や台風など災害時の支援体制の整備」(21.8%)、「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」(20.1%)、「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」(13.7%)となっている。一方、「特にない」は8.0%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」「通所後や日中の居場所の確保（大人のための）」「趣味の活動の支援（障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など）」「発達障害のある方への支援」が、精神障害者では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」がそれぞれ他の区分より高くなっている。

(3) 自由回答

問40 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、334件の記述があった。その内容を分類し、公開可（公開不可、不明を除く）とされている意見から、代表的なものを抽出した。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述、また同じ分類枠でも内容が大きく異なる場合は、それぞれをカウントするため、件数は延べ件数となる。

※意見は誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

◆市の福祉施策の評価（52件）

- ・大変住みやすい地域でありがたく思っています。私が一番大事に思っているのは、とにかく自分で自分を守ること、それでもだめなら地域の方の助けをお願いしたいと思います。
- ・日々将来に対して不安があるものの、あまり自分で活動や情報収集をしていないな、と痛感した。親の介護で得た知識、経験を生かしながら、いろいろと知っていきたいと思いました。武蔵野市はとても福祉が充実していると思います。
- ・今年武蔵野市に引っ越して来ました。以前いたところより、支援も充実しており、説明も分かりやすく助かりました。
- ・現在ご支援いただいている状況に満足しております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・今は健康で夫婦（妻も障害者）で生活しています。（+子供）この先利用することがありましたら宜しく願いいたします。大変ありがとうございました。

◆相談・情報（50件）

- ・（今は元気ですが）もしこの先、私の実家の家族・主人が亡くなって一人になってしまって、持病が悪化して入院…なんてことになったら、誰も頼れる人がいない為、おひとりさまになって頼れるサービス（公的・民間）があれば相談できる窓口がほしいです。もし既にあるならもう少し声を大にしてあることをPRしてほしいです。
- ・障害者福祉課さんと、本当は、もっとつながりたいと思っている。でも、気軽には、話しづらくて。福祉課さんの方から、定期的に、TELなどして、何か困ってないか、必要な支援はないか、聞いてくれたら、うれしいです。
- ・現在は自立して生活していますが、あと何年この暮らしができるかはわかりません。そういう方が多いと思います。自立した生活ができなくなった時にどのようなことが可能か、どのようにしたらいいのか、前もって、相談してシミュレーションができればと思います。
- ・福祉に関する情報収集の方法がわかりづらい。また、「障害者」という名称について、とてもさげすまれたような気持ちになる。

- ・ 障害者手帳を申請出来る人が申請し忘れたままで、色々な助成等が受けられていない人を無くして欲しい。(病院に障害者手帳の申請の案内チラシを設置)

◆外出・バリアフリー・移動 (44 件)

- ・ 腰、足が弱くなってしまい病院の通院にタクシーを乗るのが多くなりました。毎年1冊もらってありますが(最初から)もう少し金額があるとたすかります。ムーバスを利用できない病院が増えて来ました。
- ・ レモンキャブがあって本当に助かっています。タクシーと違って1ヶ月前に日時の予約ができ、家と病院の送り迎えをしてもらえるので安心して通院できます。レモンキャブのような車があるのは、武蔵野市だけだと聞きました。武蔵野市に住んでいて良かったとつくづく思っています。
- ・ 道路にガードレールがなく、段差もあり、車イスでの走行に不安がある。自転車も多く走っていて、車イス移動への理解をもっとして欲しい。
- ・ 車椅子を利用しているため移動手段が少なく民間のリフトタクシーは値段が違い過ぎるため利用出来ません。市で運営するタクシーを増やして欲しいです。
- ・ 体調により、停留所の間隔が短いムーバスには空いていれば乗れるので、赤字経営で難しいとは聞いていますが、武蔵境駅から市役所まで行けるルートを作っていただいたり、もう少し遅い時間まで運行してくれると、とても助かります。

◆住居やグループホーム、施設入所等 (30 件)

- ・ ホームヘルプ、グループホームを充実させていただけるとありがたいです。住み慣れた街に住み続けられることを望みます。
- ・ グループホームにいる平日は良いのですが、土日や休みの時に必ず自宅に戻ってくるので、何か用事があっても断わることとなります。慶弔など止むを得ない時は対応してもらえますが、イベントの様な時は諦めるしかありません。回数に制限があっても構わないので、受け入れて欲しいです。
- ・ 知的障害の無いASDです。支援の少なさを常に感じています。寮の様なグループホームが理想ですが、近隣にはありません。生活スキルを学べる場がありません。家族が相談出来る場がありません。障害者年金とB型の給金だけで暮らせるはずがありません。現在は、全て親が公的支援を受ける為の手続き等していますが将来的に本人がひとりで出来るのかが不安です。B型を利用しているても生活上のスキルを学べる機会や場所を作って欲しい。生活スキルが無くても自宅の様に暮らせるグループホームを作って欲しい。
- ・ 重度知的障害者の住む施設を作って欲しい。近隣では空きがなく地方まで探しに行く現状。住み慣れた場所、職場で安心して生活が続けられることが本人の幸せだと思うので、切にお願いしたい。
- ・ 障害者も高齢者も一緒に暮らせる施設を作ってほしい。

◆職員・市役所（25件）

- ・市役所へ市民が手続きに行く際たらい回しにせず何課に行くのかすみやかに案内してほしい。話を良くきいて案内して。
- ・市役所の窓口で番号札を渡されるのはよいのですが、職員のかたに気づいてもらうのがいつも少々大変と感じます。（声かけをするには執務スペースは少し離れている）ベルなどを置いてもらえると助かります。
- ・障害者福祉課で対応してくださる職員の方々はいつも丁寧に説明してくださり、また、該当する支援を教えてくださいと、非常に親切で大変ありがたいです。
- ・地域の担当者の方の対応が、優しく、とても話しやすいので、何か相談したい時には、この担当者の方がいらっしゃるという安心感が常にあり日々を過ごせるのは、とても幸せなことだと感じています。
- ・特に武蔵野市は障害者が多いにもかかわらず、市役所の窓口が少ない。かなり待たされることが多いと、諦めて帰ったことがある。

◆経済的支援（手当・助成・各種年金等）（23件）

- ・福祉全搬として、インフルエンザ、コロナのワクチン接種の無料化を進めるべきである。他自治体で実行できているのに何故武蔵野市はできないのか？75才以上の夫婦で18,000円必要でした。（住民税を長期に納めた見返りとしても）
- ・安心して生活できる様に資金・支援を強化して下さい。
- ・金銭的な援助（特に医歯薬費用）が欲しいです。
- ・手当の所得制限を撤廃してほしい。
- ・年金と工賃で生活することは不可能だと思います。親の援助なしでグループホーム、外出支援を利用できるのでしょうか？年金受給額でまかなえるようにしてほしいです。

◆実態調査について（19件）

- ・実態調査をいつもやっていただいているのには感謝しています。出来ればみなさんの希望とかアンケートのようすが実現出来た事など何かに載せていただくとか、そういうのがあると私達としては、とても嬉しく思いますし、はげみにもなると思います。いつもアンケートをうまく活用してみてください、宣しくお願い致します。
- ・記入すべきことが多すぎるもっと単純に。
- ・コミュニケーションを取る事が出来ないので回答するのが難しい項目が多々ありました。
- ・「障害者」とひとくくりにしても、器具を使ったりやり方を工夫することで自立して健常者と同じかそれ以上に能力を発揮できる人もいれば、どうしても他者の支援や介助を必要とする人がいて、その内容も様々なので、障害別、重度別にアンケートを採っていただけるとありがたいです。

◆サービスや生活補助、施設利用（19件）

- ・MEWで良く買い物をしています。不要品を引き取っていただくこともあります。とても良い取り組みだと思いますので、市内に、2号店、3号店と増やしていただきたいです。
- ・身体のケアやフィットネスが出来て、かつ危険でない施設が欲しい。何処に行っても看護師や医者がない。介護士はせめて療法士と連携して欲しい。
- ・いつでも気軽に相談できる体制と定期的な見回りを希望。
- ・一人ひとりに、専属のケアサポート(相談員)がいると、相談がしやすくなると思います。また、専属ケアサポートの方は、その人の障害の経歴を知ってくれたらなお良いと思います。担当が変わった時の、引き継ぎもしっかりして欲しいです。
- ・親と同居し、介助していますが、親も高齢になり体力的に厳しくなってきました。又、急に通院することも増え、子供の帰宅時間を考えると間に合わなく困ったことが何度もあります。武蔵野市は、日中一時支援先やショートステイ先が少ないです。当日でも、利用できる緊急時の支援先を設置して欲しいです。

◆申請・手続き（18件）

- ・補助装具の申請事務事務手続の簡素化、医療費補助の拡大をお願いいたします。
- ・市役所まで行くのが大変な時があるので、もっと市政センターで対応できることが増えたら嬉しいです。
- ・インターネットで各種申請書を申請できるようになると利便性が向上すると思います。
- ・手帳の発行を早くしてほしい。（早くて一か月くらい）
- ・各支援制度の年度毎の更新手続きで添付資料を複数用意する必要があるなど作成の手間と負担が大きいです。マイナンバーカードを活用した紐づけなどで、収入や公的な年金の受給状況、国民健康保険税の支払い状況などは市役所で集められるものも多いと思いますし、前年度と同じ申請内容であれば申請書を書き直さなくても継続希望に印をつけて終わりにするなどの簡素化ができないか、本人に作成能力がない重度障害者については家族の負担になっておりますのでご検討ください。

◆福祉全般・制度（16件）

- ・健康であった時には障害者の苦勞は少々、分かっていたが、自身が障害者になって日常生活における困難さ、苦勞に直面して、淋しく悲しい思いでいる。障害者が心安らかに生きていけるような配慮を願う。
- ・独居の住人への、サポート・支援、給付などを充実させてほしい。児童手当や扶養手当などはあるのに、独居や、家族がいない住人への関心がないように思う。これから、ふえていくと予想されるので、充実させて、安心して、生きていけるようにしてほしい。
- ・ヘルパーさんの不足への支援。

- ・ガイドヘルパー等の成り手が少なく市としても人材育成として取り組んでいるがそのまま働いてくれる人が少ないと聞いたので武蔵野市教育委員会が行っている子どもと家庭の支援員のような有償ボランティアを市が主導で登録や派遣等を行ってくれると助かります。
- ・もっと、障害者の人が生きやすい社会を作ってほしいと思います。障害が軽い人が辛い思いをしているということをもっと知って欲しいと思うけど、分かって貰えないと思います。

◆保健・医療（12件）

- ・医療機関、病院が少なく時間がかかる。
- ・医療に関し相談出来る医師、専門家の方がいて下さると助かります。40代になり健康面に不安が生じるようになってきましたが、普通の方と同様の検査は出来ません。アドバイスして下さる方の存在を求めます。
- ・独身で68歳男性です。先々入院など必要になった時、保証人が誰もいません。入院など医療だけは、市が支援してもらいたい。

◆障害の理解、健常者の意識啓発（11件）

- ・知的障害者という事を福祉や世の中もわかっていないと思う。それだけ理解がむずかしい障害なんだと。自分自身のこと、世の中のことなども本人できえ理解に至らない。理解して「はい」と返事をしている訳ではない。
- ・手話講習会拡大などで聞こえないことについての啓発を増やしてほしい。
- ・ヘルプマークに対する理解を深めてほしい。
- ・そもそも、この調査は障害者本人に向けて用意されたものなののでしょうか。文章が大量、表現も複雑でルビもふっていません。ルビ入りが必要な方が、この調査票が届いたときにご自身でルビ入りをください、と窓口にお問い合わせできるのでしょうか。障害特性によっては内容理解できず、回答できない表現が多いと思います。このような作りで、障害福祉についての実態調査が成立するのか疑問に感じます。これから改定される計画の内容についても、本当に障害当事者の実態が反映されたものとなるのでしょうか。まずは職員の皆さんが障害者とは、というところを障害当事者から学ぶべきだと思います。毎日窓口立つ、それだけでも多少の実態把握、課題抽出のヒントになるのではないのでしょうか。
- ・障害等級2級だったり3級だったり行き来していますが、そのぐらいの人でもタクシーの利用に援助があると嬉しいです。日常の買い物ではほぼ毎日徒歩で行きますが、通院にはバスで行っています。ですがヘルプマーク付けていても、見た目でわからない＝体力はあると思われがちで、席を譲ってもらえることはまれです。見た目は健康でも体力がない、身体的にも病気であったりする、ということへの理解があまりにもありません。乗客だけでなく、割引前に交通系ICカードを間違えてタッチしてしまった時、差額料金を返さない、とバス運転手さんに言われたこともあったりして、理解がないなあ、バスに乗るの嫌だなあとしばしば思います。今日は具合がよくないなあという時、もっと気軽にタクシーを利用できるようになったら有難いです。

◆不安に感じていること、困りごと（10件）

- ・もっと優しくしてほしい。
- ・今は家族とささえあい生活していますので福祉の方々のお手をかりる事はないので上記の答えですが1人になったら、又家族に何かあったら考えも変わると思います。
- ・一人になった場合、生活できるようにしてほしい。（グループホームにいたい）
- ・障害者手帳の文字が小さいので大判のものも用意していただけますか。
- ・ボランティアが少ない。ヘルパーさん断られた。予定にあうヘルパーさんがみつからない。

◆活動・交流・講座等（9件）

- ・一方的に支援を受けるのはいや、障害の程度に見合った対価を支払うつもりはある。つまり困った時には助けてほしいがそうでない時にはボランティアくらいはできるので、そのようなシステムを構築できないか。
- ・公共施設の一部を利用して、高齢者が他人と話合ったり、趣味を楽しんだりする。イベントを行う事。

◆就労／雇用（9件）

- ・市役所での障害者就労を増やしてほしい。
- ・在宅で出来る仕事を斡旋して頂きたい。
- ・生活保護などによる直接の生活支援もいいが、自立した生活ができるための就労支援を福祉にウエイトしてほしい。経済的自立を得るための雇用の場や、産業の育成に力を入れてくれると助かる。
- ・育児中に中途障害となった人（特に若年者）への情報・支援が少ない。子供が小さいと、就労支援施設での活動が家事・育児に影響を及ぼしてしまう。子供のためにまた仕事をしたいと思っているが、自身の通院・リハビリ・就労訓練と家事育児の両立がとても難しい。
- ・障害者雇用についてです。企業に対して障害者雇用についての説明会を開く障害者雇用についての資料を配布するなどして、障害者を積極的に雇う事を考えていただくのはどうでしょうか。もしそうされるようでしたら含めていただきたい内容があります。それは、障害者と雇う側が良いコミュニケーションを取るようにすることです。同じ障害でも、その現れ方は一人一人違います。雇う側が、配慮したほうがいいことなのに配慮しなかったり、配慮しない方がいいことなのに配慮したり（結構あることだと思います）ということが出てくる可能性もあります。

◆親なき後の不安（8件）

- ・親なき後の娘（障害者）の生活が心配です。後見人制度なども勉強中ですが、使いやすく安心できるサポートが継続的に受けられるようお願いします。（親）

- ・親が年をとってしまい親亡き後の子供をみてくれるところの支援をお願い致します。子供は31才、母64才です。あと10年はがんばろうと思いますが、だんだん年をとってきて介助もつらくなっています。
- ・発達障害のある者が、親亡き後、安心して一人暮らしができるよう、ハード面ソフト面共にサポートしていただけるよう整備していただきたいと思います。
- ・知的障害者が保護者がいなくなった後に一人で生活できる施設の充実。

◆災害時の対応（2件）

- ・災害への備えを充実させてほしい。合理的配慮が受けられること。プライバシーが保たれるような避難所の設備を整えることなど。普段は市外の大学病院で難病の治療を受けているが、災害時は市外のかかりつけ医と連携して武蔵野市の病院で難病の治療が受けられるとよい。
- ・ペット同伴の避難所と、そうでない避難所の完全棲み分けをしてほしい。動物アレルギーで、直接触らなくても毛や羽根が舞うだけでアレルギーを起こすからである。また動物もナーバスになって普段と違う行動を取るだろうし、ペットは自分たちの家族だから、可哀そうだからとルールを守らない人も出てきそうで不安である。

◆学校等卒業後の受け皿や自立支援（1件）

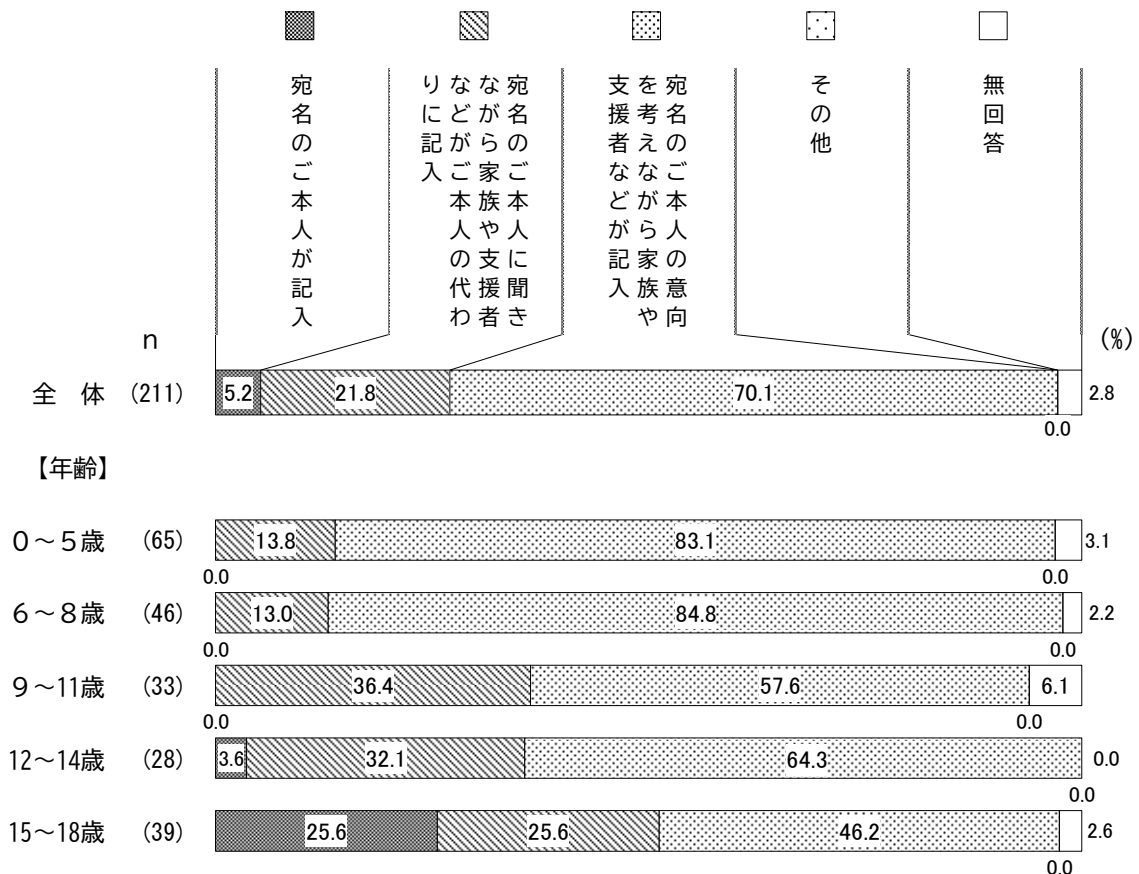
- ・高校卒業後の障害者(特に知的障害者)にとって、放課後等デイサービスのような、作業所終了後や土日祝に過ごせる場所を早急に作っていただきたい。自ら赴いて趣味を嗜んだり、交流関係を深めたりなど自らを成長させるための経験を自力で積むことが、知的障害者にはとても難しい。高校まで利用できた放課後等デイサービスでは、畑作りや調理などの自立に繋がるレクリエーションがあったり、工場見学や博物館、美術館、水族館など文化的な楽しみを同年代の仲間と共有出来るなど、知的障害をもつ子ども達にもその保護者にも、たいへん価値ある存在であった。しかし高校卒業後は、毎日作業所との往復のみになってしまっている。また、高校までは学校の後18時前後までは放課後等デイサービスが利用できたので、保護者も定期的な仕事につくことができたが、作業所が16時で終了した後に、1人で過ごせない障害者がいる家庭では、従来通りの仕事が続けられず、経済的な面でも負担が大きくなってしまう。新宿区ではすでに、地域生活支援事業の地域生活支援給付費で一部の放課後等デイサービス事業所が利用できるサービスもあるようです。武蔵野市でもぜひ検討をお願い申し上げます

II 障害児調査

1. 回答者について

(1) 回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

回答者は、「宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が70.1%と最も高く、「宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入」が21.8%、「宛名のご本人が記入」が5.2%となっている。

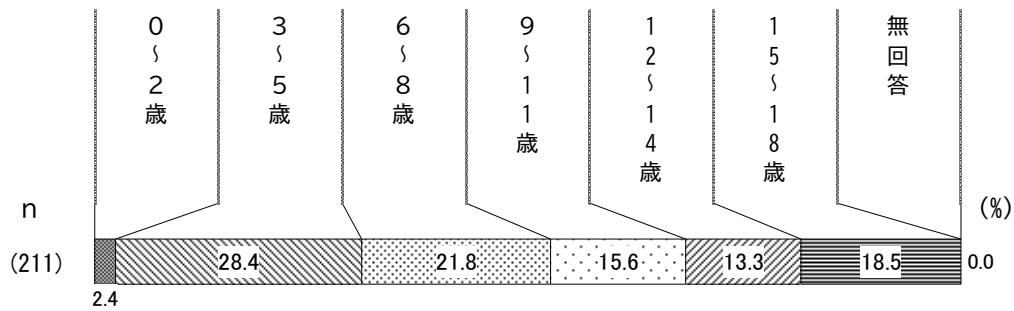
年齢別にみると、0～5歳と6～8歳では「宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が8割台半ばを占めている。15～18歳では「宛名のご本人が記入」が25.6%と他の年齢層より高くなっている。

2. 本人について

(1) 年齢、性別、居住地域

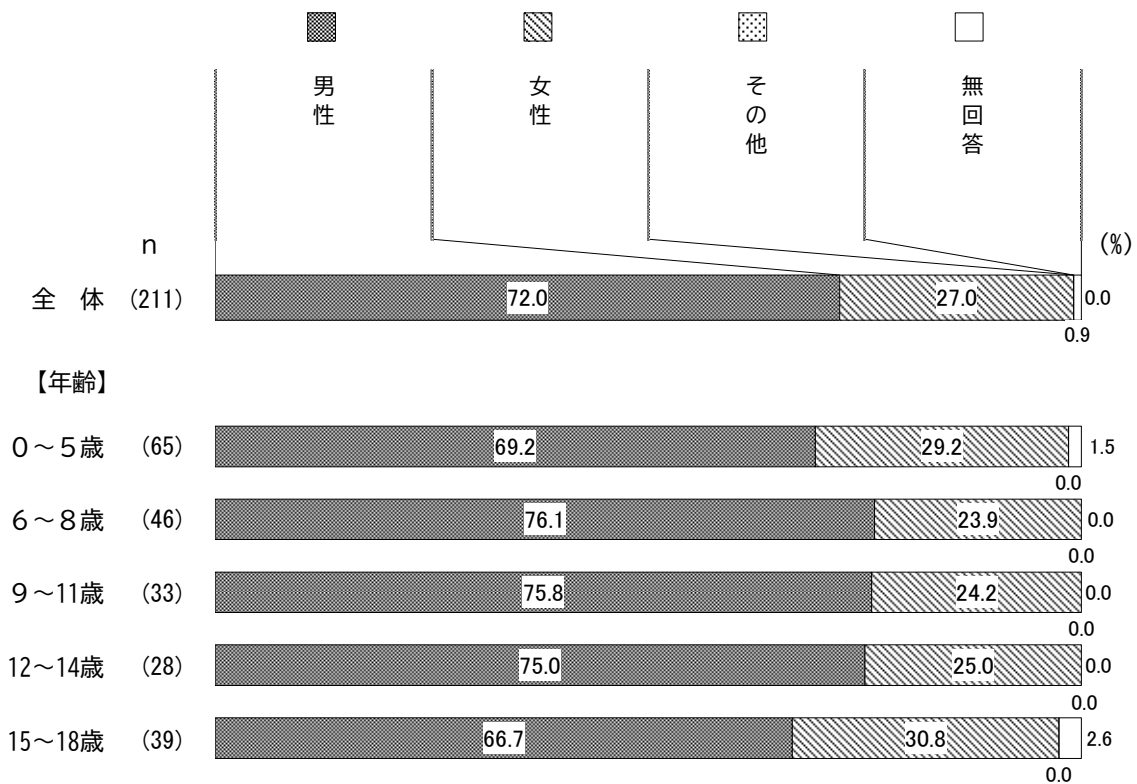
問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

年齢



年齢は、「3～5歳」が28.4%で最も高く、次いで「6～8歳」(21.8%)、「15～18歳」(18.5%)となっている。

性別



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

性別は、「男性」が72.0%、「女性」が27.0%、「その他」が0.9%となっている。
年齢別にみると、全ての年齢層で「男性」が6割台から7割台を占めている。

居住地域

	回答者数 (n)	吉祥寺東町	吉祥寺南町	御殿山	吉祥寺本町	吉祥寺北町	中町	西久保	緑町	八幡町	関前	境	境南町	桜堤	その他	無回答	
単位：%																	
全体	211	5.2	2.8	2.8	2.8	10.0	12.3	8.1	11.4	5.2	7.1	11.4	7.6	12.8	0.5	-	
年齢	0～5歳	65	4.6	3.1	4.6	3.1	12.3	12.3	7.7	6.2	6.2	6.2	15.4	9.2	9.2	-	-
	6～8歳	46	6.5	2.2	-	4.3	8.7	19.6	6.5	8.7	6.5	8.7	10.9	10.9	6.5	-	-
	9～11歳	33	9.1	6.1	3.0	3.0	6.1	9.1	12.1	15.2	6.1	-	12.1	6.1	12.1	-	-
	12～14歳	28	-	3.6	3.6	3.6	3.6	10.7	3.6	10.7	-	14.3	7.1	10.7	25.0	3.6	-
	15～18歳	39	5.1	-	2.6	-	15.4	7.7	10.3	20.5	5.1	7.7	7.7	-	17.9	-	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

居住地域は、「桜堤」(12.8%)、「中町」(12.3%)、「緑町」(11.4%)、「境」(11.4%)、「吉祥寺北町」(10%)、が1割超となっている。

年齢別にみると、6～8歳では「中町」が、15～18歳では「吉祥寺北町」「緑町」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「桜堤」が高くなっている。

(2) 現在の生活場所

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

	回答者数 (n)	持ち家・ご家族の持ち家	民間の賃貸住宅	都営・市営住宅	UR都市機構	福祉型住宅	グループホーム	病院に入院中	施設に入所中	その他	無回答
単位：%											
全体	211	59.2	27.0	4.3	5.7	-	-	0.5	-	3.3	-
年齢	0～5歳	65	49.2	29.2	4.6	9.2	-	-	-	7.7	-
	6～8歳	46	60.9	32.6	-	2.2	-	-	-	4.3	-
	9～11歳	33	57.6	33.3	6.1	3.0	-	-	-	-	-
	12～14歳	28	75.0	3.6	10.7	7.1	-	-	3.6	-	-
	15～18歳	39	64.1	28.2	2.6	5.1	-	-	-	-	-

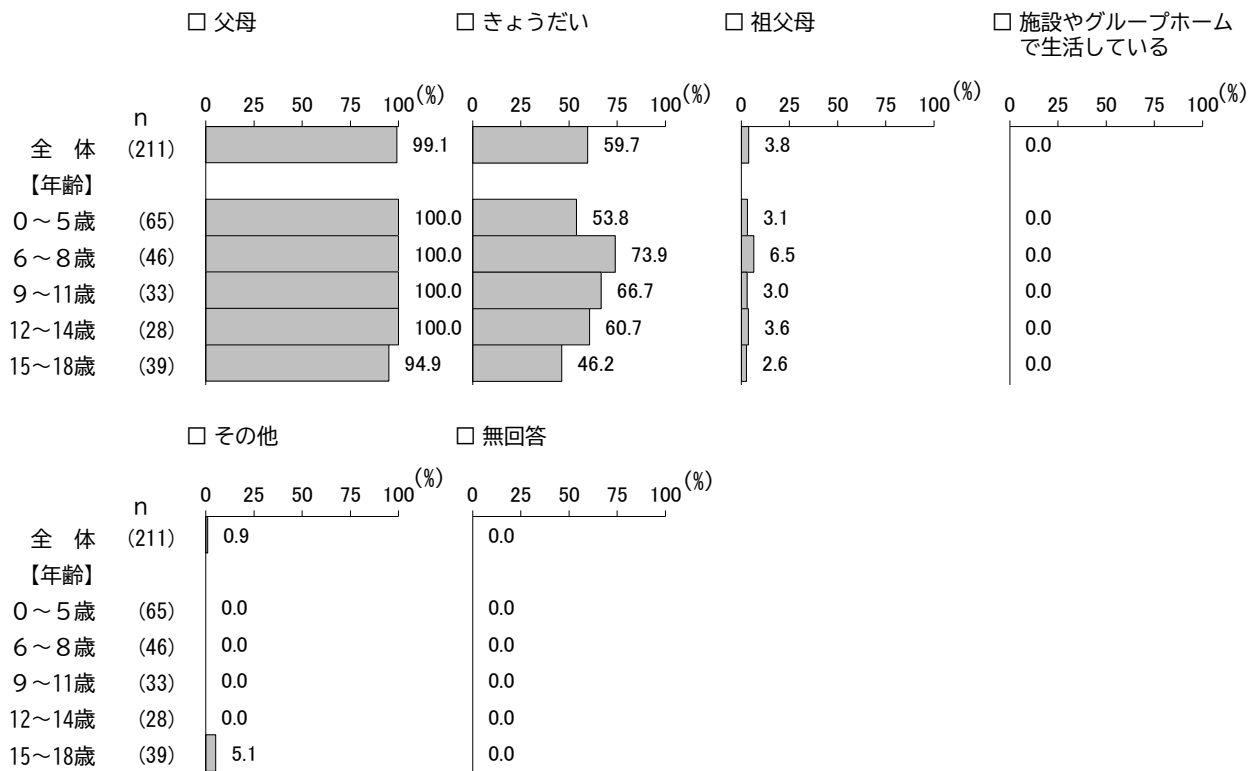
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

現在の生活場所は、「持ち家・ご家族の持ち家」が59.2%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」(27.0%)となっている。

年齢別にみると、9～11歳では「民間の賃貸住宅」が他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳では「持ち家・ご家族の持ち家」が高くなっている。

(3) 同居者

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

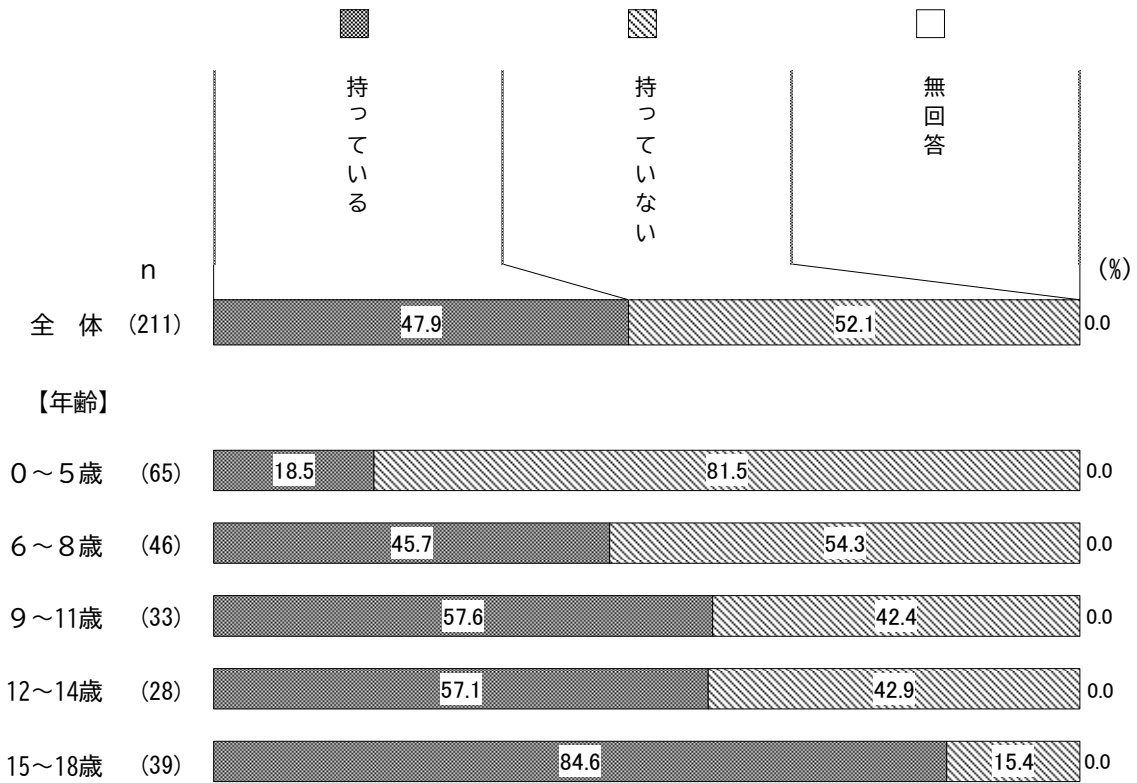
同居者は、「父母」が99.1%とほぼ全数を占めており、次いで「きょうだい」(59.7%)、「祖父母」(3.8%)となっている。

年齢別にみると、6～8歳では「きょうだい」が他の年齢層より高くなっている。

3. 本人の状況について

(1) 手帳の所持状況

問5 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

手帳の所持状況は、「持っている」が47.9%、「持っていない」が52.1%となっている。

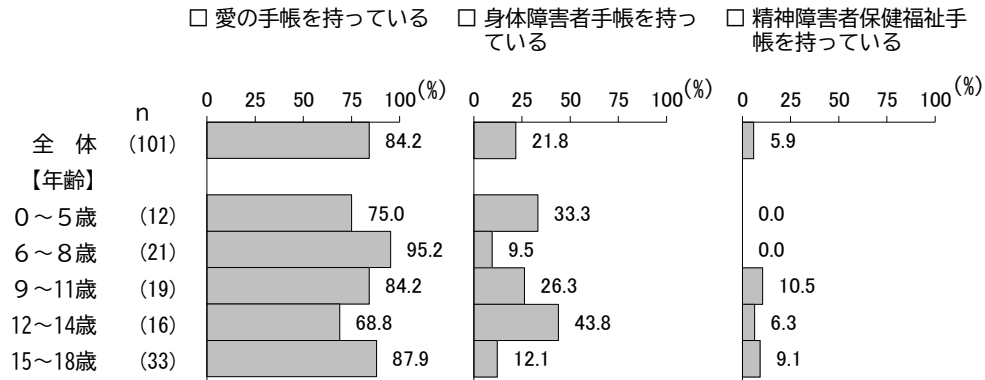
年齢別にみると、「持っている」はおおむね年齢層が上がるにつれて高くなり、15～18歳では84.6%を占めている。

(2) 手帳の種類と等級

【問5で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

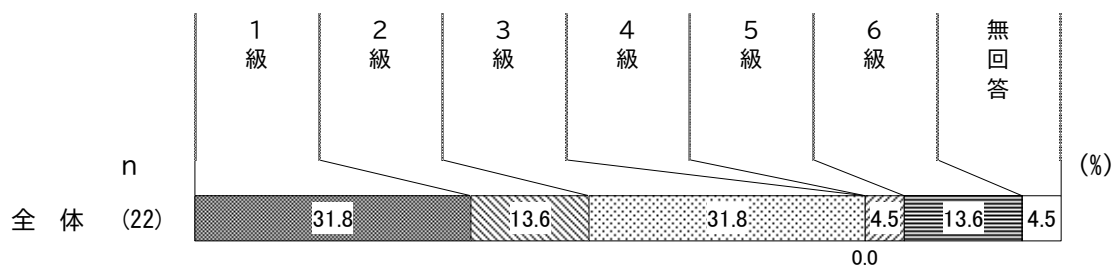
(あてはまるものすべてに○をつけて記入)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

手帳の種類は、「愛の手帳を持っている」が84.2%、「身体障害者手帳を持っている」が21.8%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が5.9%となっている。

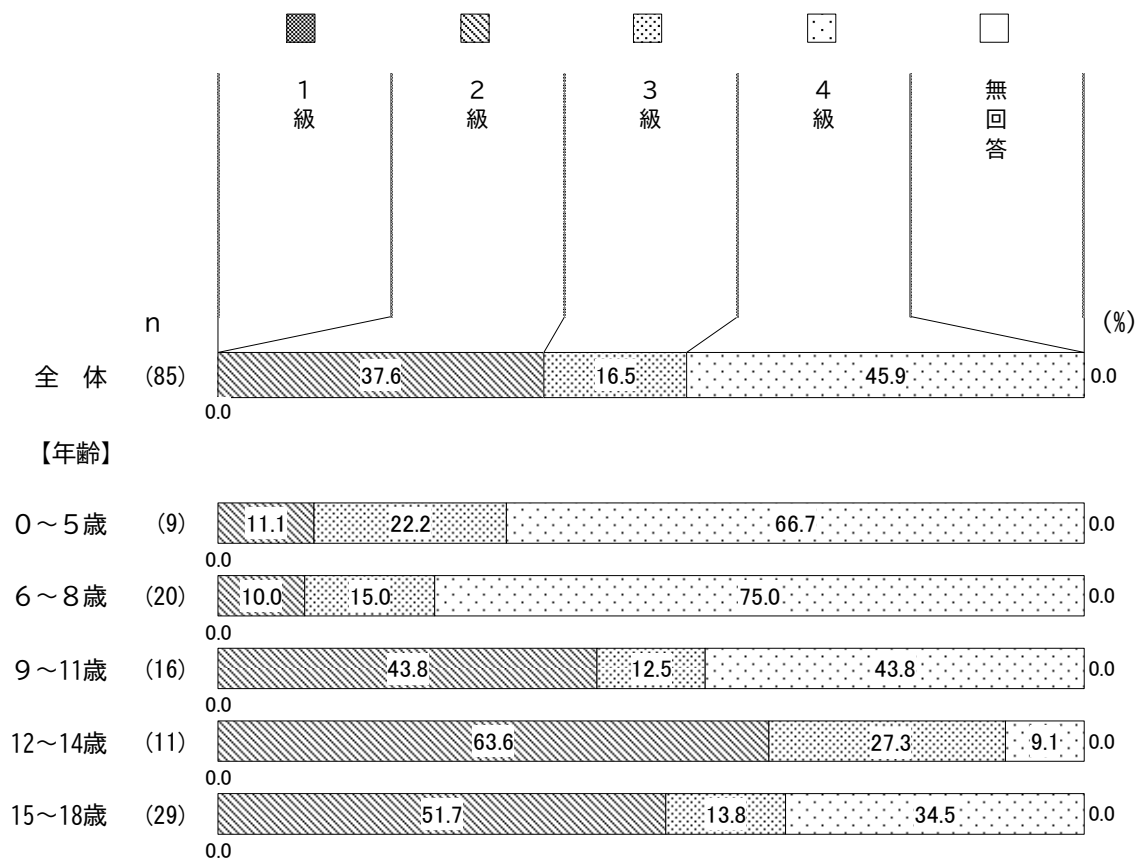
身体障害者手帳等級



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

身体障害者手帳の等級は、回答数は30件未満と少ないが、「1級」と「3級」がともに31.8%と高くなっている。

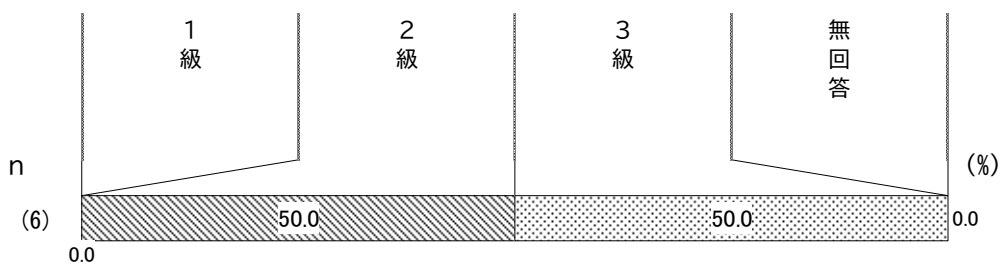
愛の手帳等級



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

愛の手帳の等級は、「4級」が45.9%、「2級」が37.6%、「3級」が16.5%となっている。年齢別にみると、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「2級」が高くなっている。

精神障害者保健福祉手帳等級



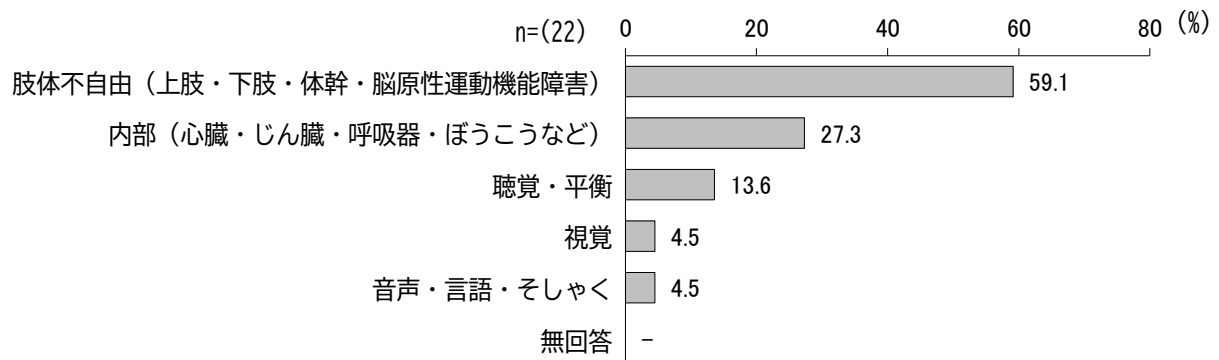
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

精神障害者保健福祉手帳の等級は、回答数は30件未満と少ないが、「2級」と「3級」がそれぞれ半数となっている。

(3) 身体障害の種別

【問5-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問5-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

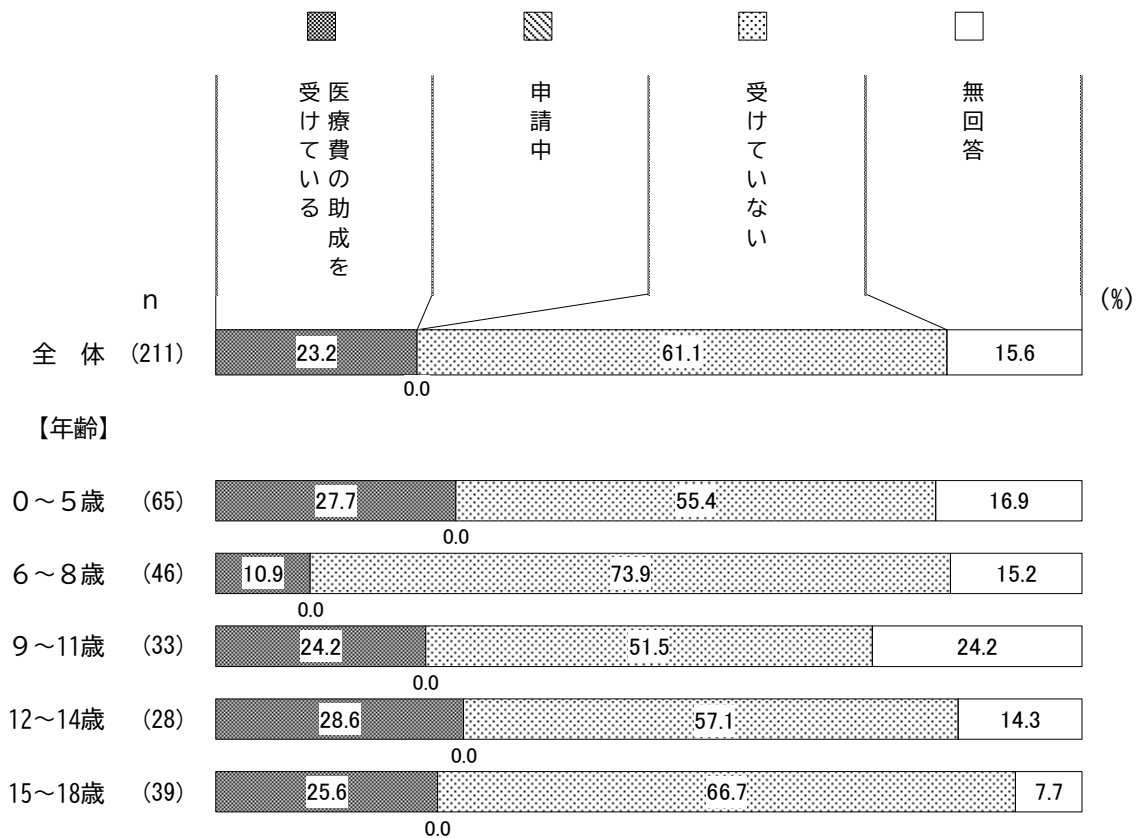
身体障害の種別は、回答数は30件未満と少ないが、「肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害）」が59.1%と最も高くなっている。

(4) 医療費の助成状況

【すべての方にお聞きします。】

問6 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。(マル青、マル子、マル乳等のこどもの医療費助成を除く)



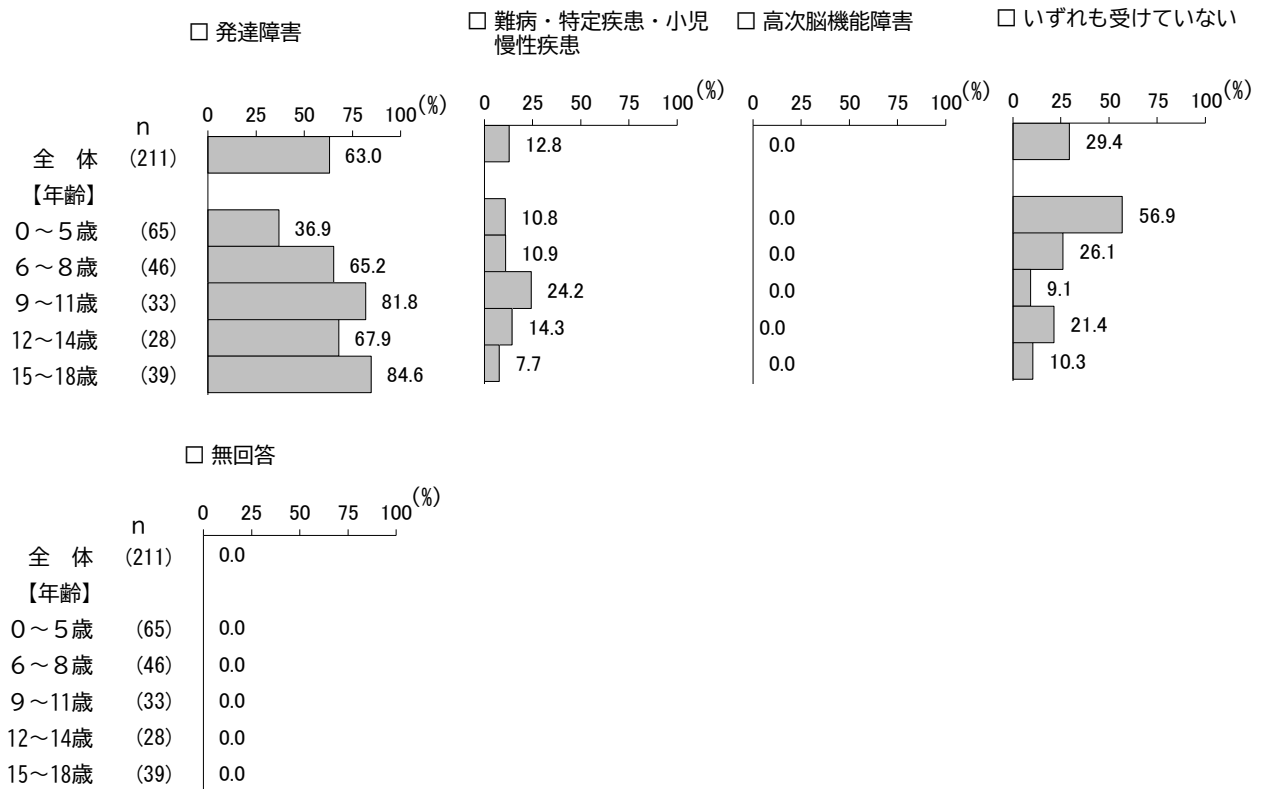
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

医療費の助成状況は、「受けていない」が61.1%と高く、「医療費の助成を受けている」は23.2%となっている。

年齢別にみると、6～8歳では「受けていない」が73.9%と他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「医療費の助成を受けている」が高くなっている。

(5) 受けている障害や疾患の診断

問7 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

受けている障害や疾患の診断は、「発達障害」が63.0%、「難病・特定疾患・小児慢性疾患」が12.8%となっている。一方、「いずれも受けていない」は29.4%となっている。

年齢別にみると、9～11歳では「難病・特定疾患・小児慢性疾患」が、15～18歳では「発達障害」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。一方、0～5歳では「いずれも受けていない」が56.9%と他の年齢層より高くなっている。

(6) 障害や心身の不調に気づいた時期

問8 あなたの障害や心身の不調に、最初に気づいたのはいつごろですか。(1つに○)

		回答者数 (n)	生後すぐ～1歳未満	1歳～2歳未満	2歳～3歳未満	3歳～4歳未満	4歳～5歳未満	5歳～6歳未満	6歳～小学校入学前	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中学校1～3年生	高校1～3年生
単位：%													
全体		211	21.8	29.9	19.0	10.0	6.6	2.4	0.5	3.8	1.4	0.5	-
年齢	0～5歳	65	23.1	43.1	16.9	7.7	4.6	1.5	-	-	-	-	-
	6～8歳	46	15.2	28.3	19.6	17.4	13.0	2.2	-	-	-	-	-
	9～11歳	33	27.3	24.2	21.2	9.1	6.1	3.0	-	3.0	-	-	-
	12～14歳	28	28.6	10.7	21.4	10.7	7.1	3.6	-	7.1	3.6	-	-
	15～18歳	39	17.9	28.2	17.9	5.1	2.6	2.6	2.6	2.8	5.1	2.6	-

		回答者数 (n)	わからない	無回答
単位：%				
全体		211	4.3	-
年齢	0～5歳	65	3.1	-
	6～8歳	46	4.3	-
	9～11歳	33	6.1	-
	12～14歳	28	7.1	-
	15～18歳	39	2.6	-

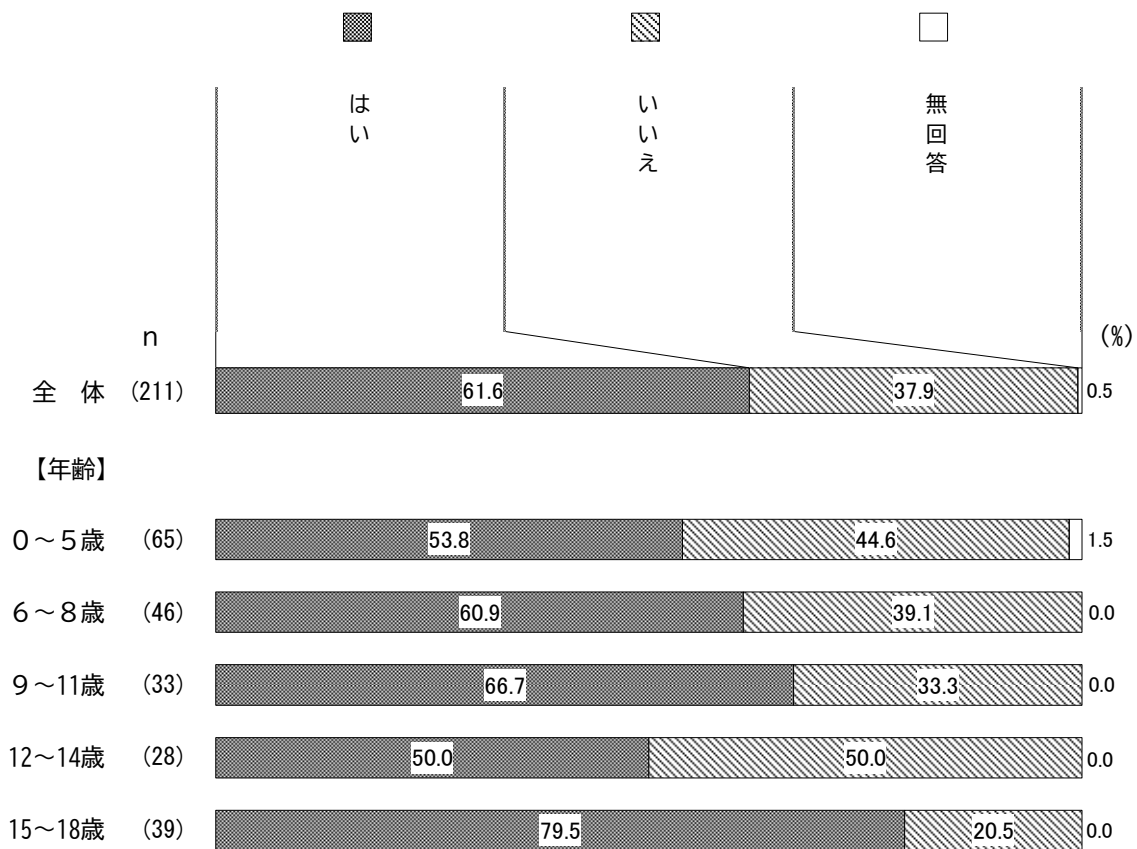
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

障害や心身の不調に気づいた時期は、「1歳～2歳未満」が29.9%と最も高く、次いで「生後すぐ～1歳未満」(21.8%)、「2歳～3歳未満」(19.0%)、「3歳～4歳未満」(10.0%)となっている。「生後すぐ～1歳未満」「1歳～2歳未満」「2歳～3歳未満」を合わせると約7割を占めており、多くが3歳までに不調に気づいている。一方、「わからない」は4.3%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「1歳～2歳未満」が、6～8歳では「3歳～4歳未満」が、15～18歳では「小学校1～3年生」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、12～14歳は「生後すぐ～1歳未満」が高くなっている。

(7) 介助や支援の必要性

問9 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

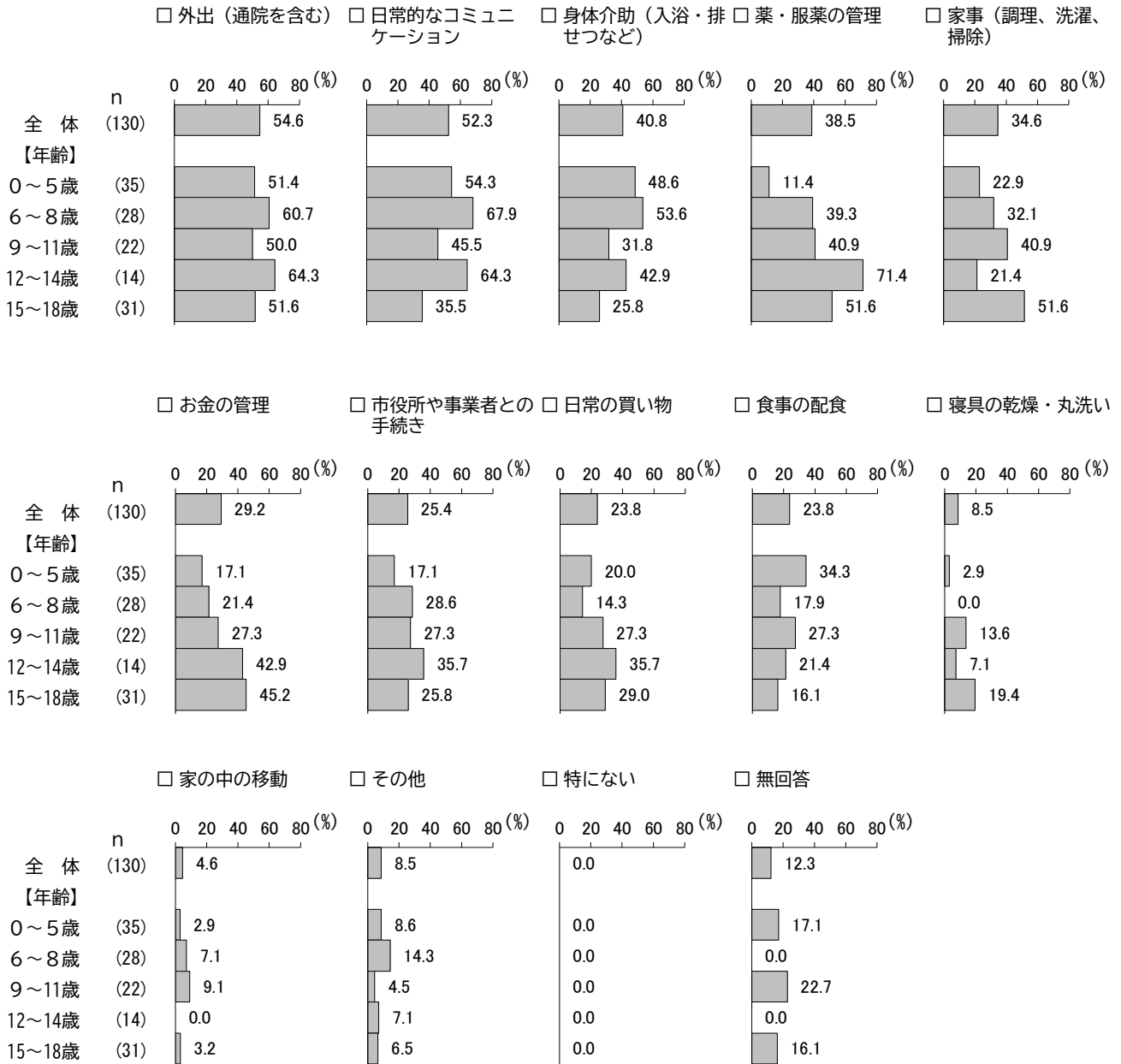
介助や支援の必要性は、「はい (必要)」が61.6%、「いいえ (不要)」が37.9%となっている。
 年齢別にみると、おおむね年齢層が上がるにつれて「はい (必要)」の割合は高くなり、15～18歳では79.5%を占めている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「はい (必要)」と「いいえ (不要)」が半数となっている。

(8) 必要とする介助や支援

【問9で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問9-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。

(主にあてはまるもの5つまでに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

必要とする介助や支援は、「外出（通院を含む）」が54.6%と最も高く、次いで「日常的なコミュニケーション」（52.3%）、「身体介助（入浴・排せつなど）」（40.8%）、「薬・服薬の管理」（38.5%）となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「食事の配食」が、15～18歳では「家事（調理、洗濯、掃除）」「お金の管理」「寝具の乾燥・丸洗い」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「外出（通院を含む）」「薬・服薬の管理」「市役所や事業者との手続き」「日常の買い物」が高くなっている。

(9) 主な介助者

問9-2 主に介助しているのはどなたですか。（1つに○）

	回答者数（n）	父母	祖父母	きょうだい	福祉サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
単位：%								
全体	130	90.8	-	0.8	0.8	2.3	-	5.4
年齢	0～5歳	35	88.6	-	2.9	-	-	8.6
	6～8歳	28	96.4	-	-	-	-	3.6
	9～11歳	22	81.8	-	-	4.5	4.5	9.1
	12～14歳	14	92.9	-	-	-	7.1	-
	15～18歳	31	93.5	-	-	-	3.2	3.2

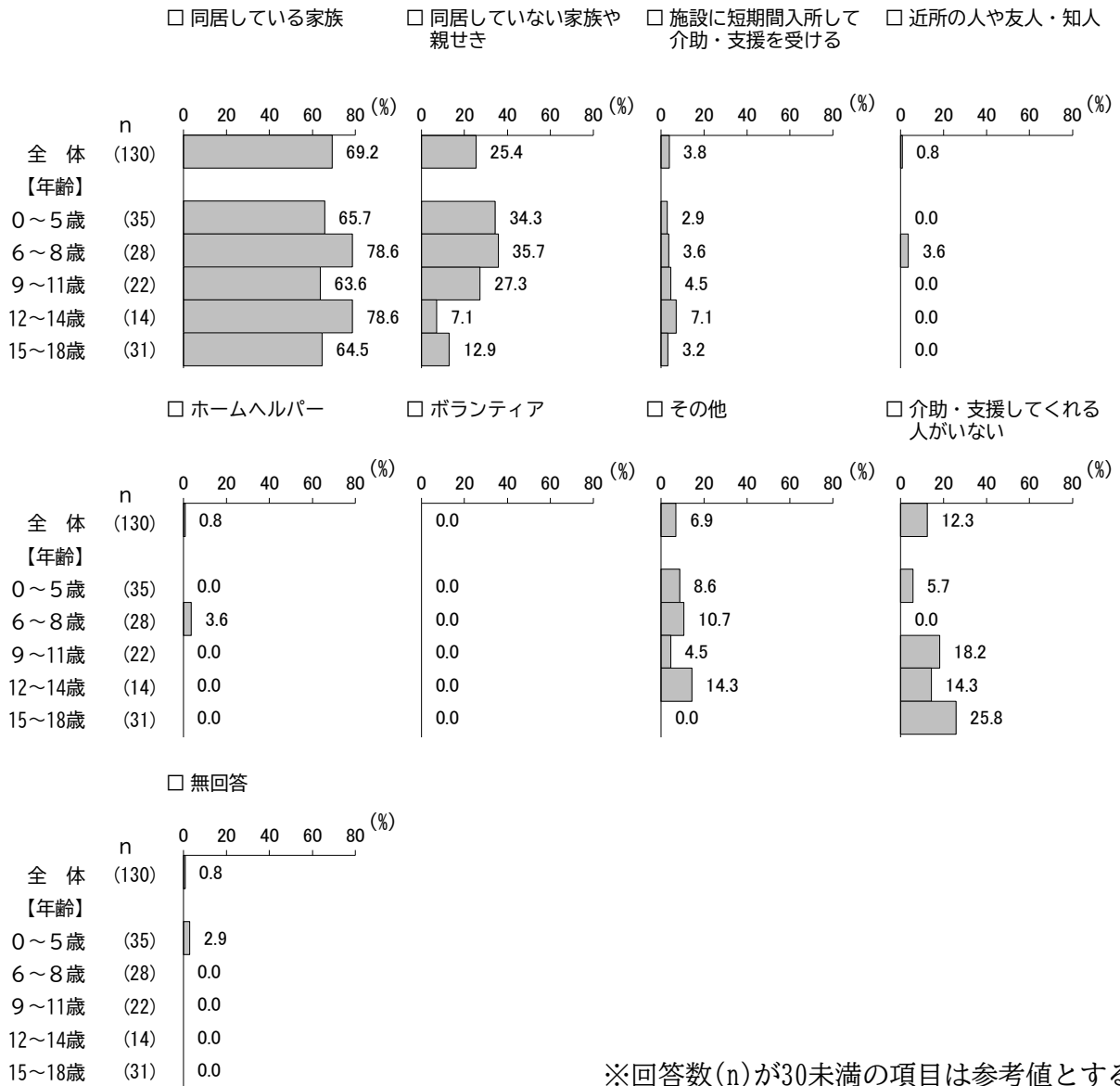
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

主な介助者は、「父母」が90.8%とほぼ全数を占めている。

年齢別にみると、回答数は30件未満と少ないが、6～8歳は「父母」が96.4%と高くなっている。

(10) 主な介助・支援者がいない際の代理者

問9-3 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助していますか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

主な介助・支援者がいない際の代理者は、「同居している家族」が69.2%と最も高く、次いで「同居していない家族や親せき」(25.4%)、「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」(3.8%)となっている。一方、「介助・支援してくれる人がいない」が12.3%となっている。

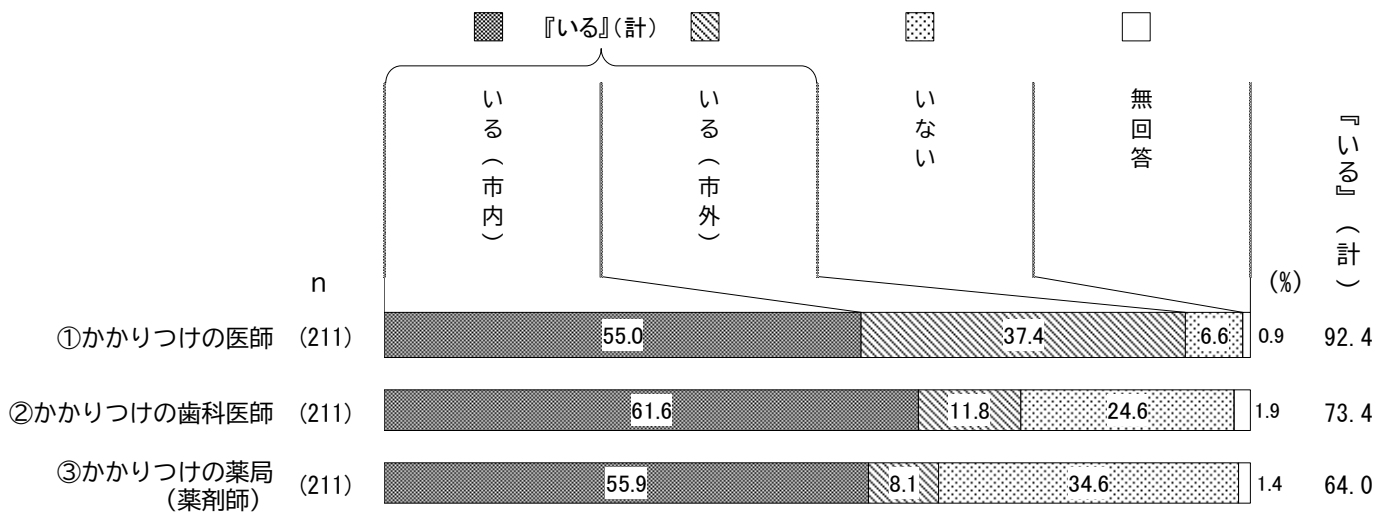
年齢別にみると、回答数は30件未満と少ないが、6～8歳と12～14歳では「同居している家族」が高くなっている。一方、15～18歳では「介助・支援してくれる人がいない」が高くなっている。

4. 保健・医療について

(1) かかりつけ医師の有無

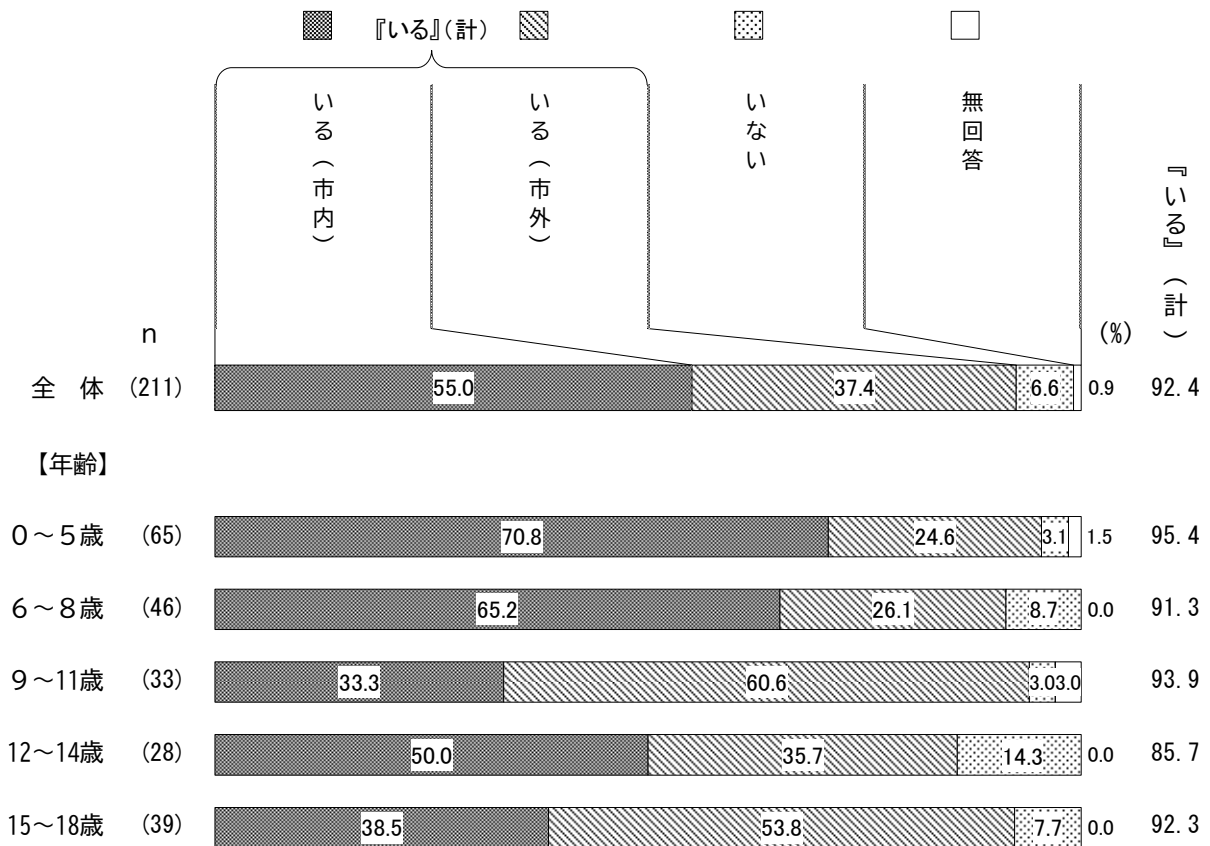
【すべての方にお聞きします。】

問10 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）



かかりつけ医師の有無は、①医師、②歯科医師、③薬局（薬剤師）いずれも市内に「いる」が5割台半ばから6割超となっている。市内外をあわせた『いる』で見ると、①医師は92.4%と高く、②歯科医師は73.4%、③薬局（薬剤師）は64.0%となっている。

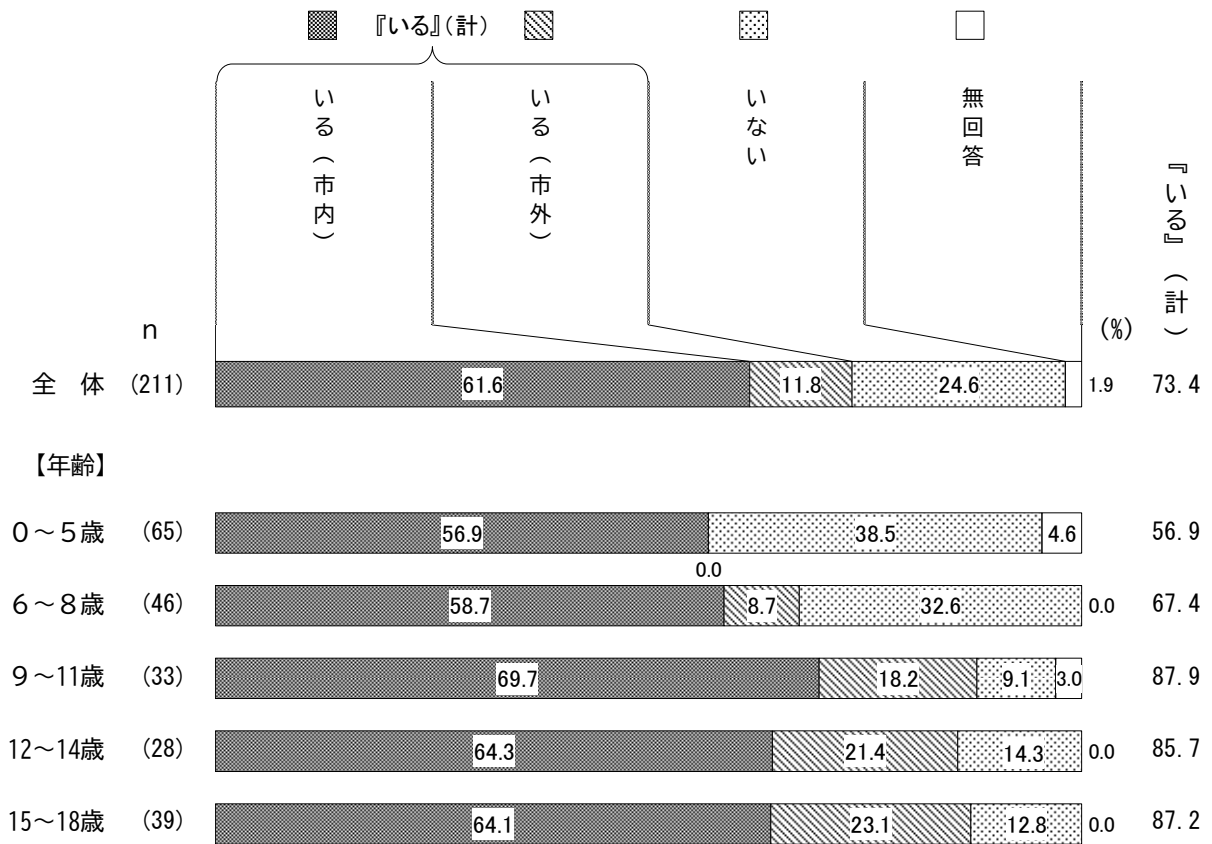
①かかりつけの医師



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

①かかりつけの医師を年齢別にみると、市外も含めた『いる』は、いずれも8割以上となっている。また、市内に「いる」は0～5歳が70.8%と特に高くなっている。

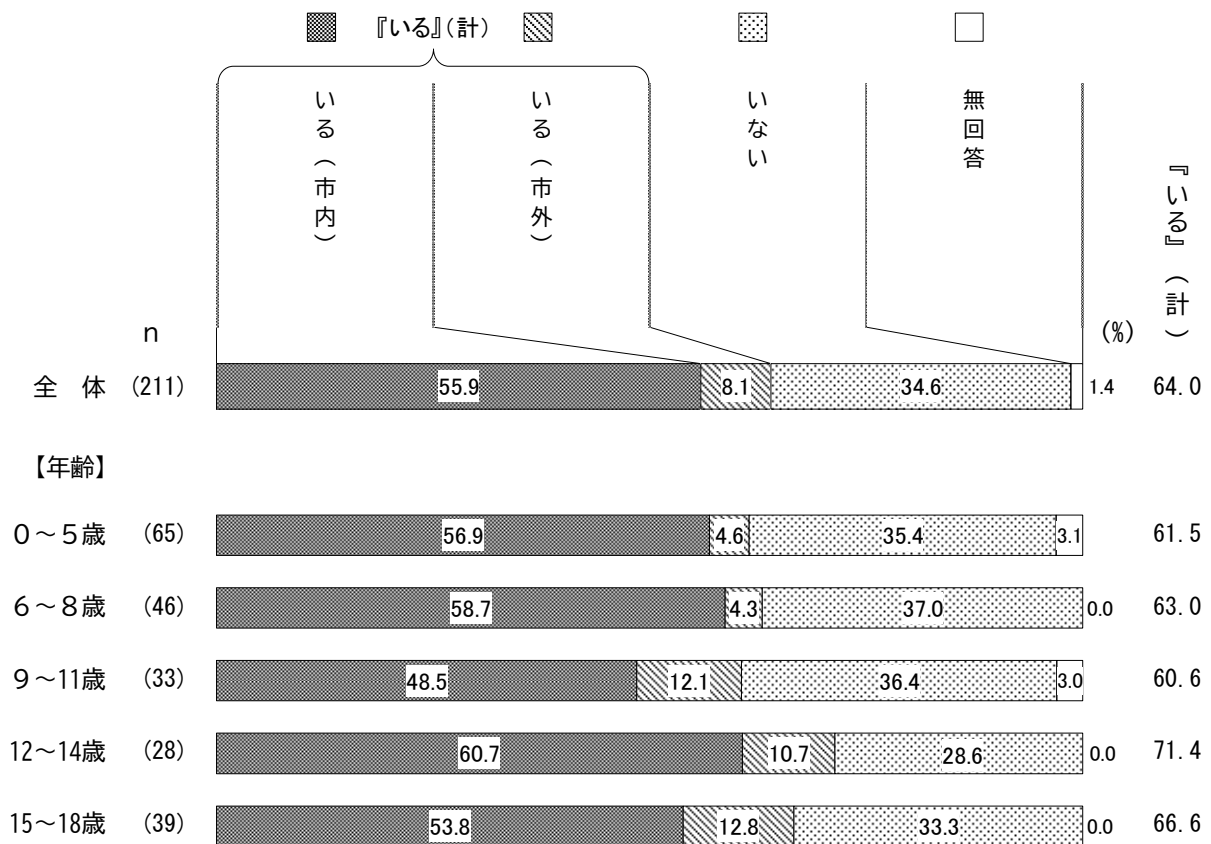
②かかりつけの歯科医



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

②かかりつけの歯科医師を年齢別にみると、市外も含めた『いる』は、9～11歳、12～14歳、15～18歳で8割台半ばとなっており、市内に「いる」は9～11歳で69.7%と高くなっている。

③かかりつけの薬局（薬剤師）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

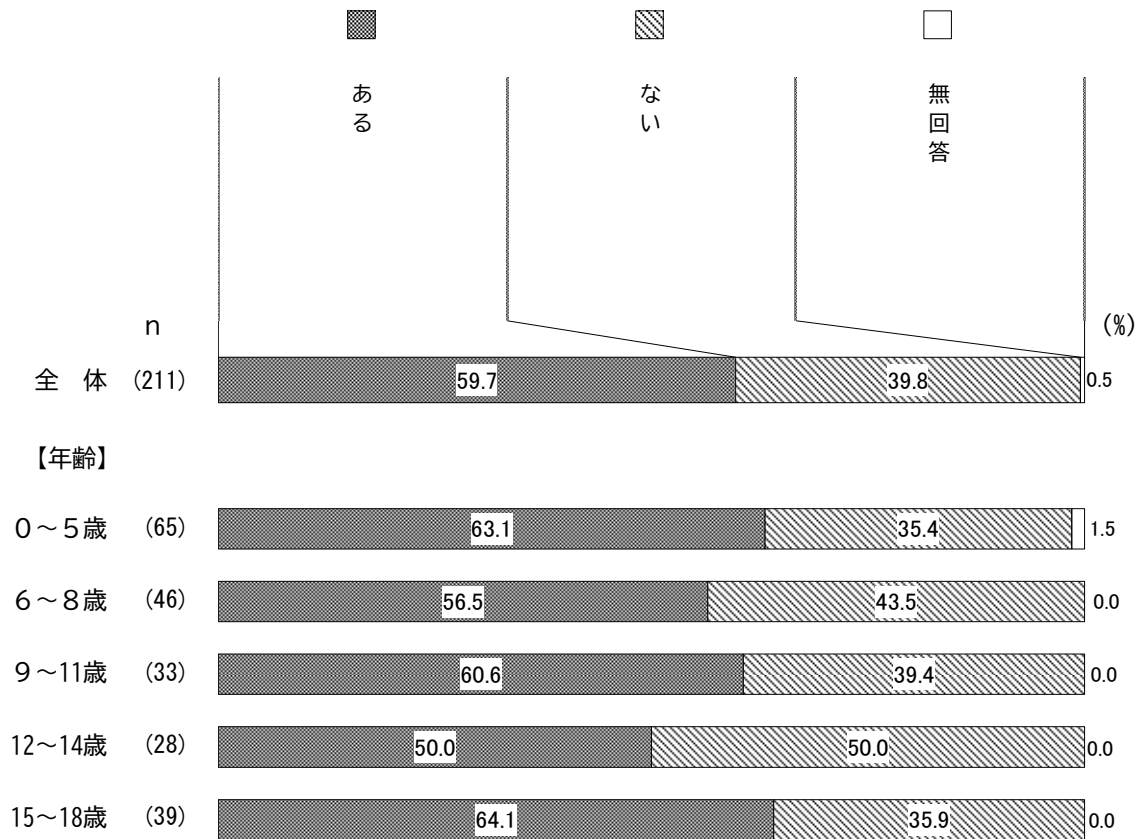
③かかりつけの薬局（薬剤師）を年齢別にみると、市外も含めた『いる』は、いずれも6割以上となっている。回答数は30件未満と少ないが、市内に「いる」は12～14歳で60.7%と高くなっている。

5. 相談や情報入手について

(1) 日常生活で困っていること

【すべての方にお聞きします。】

問11 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに〇)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

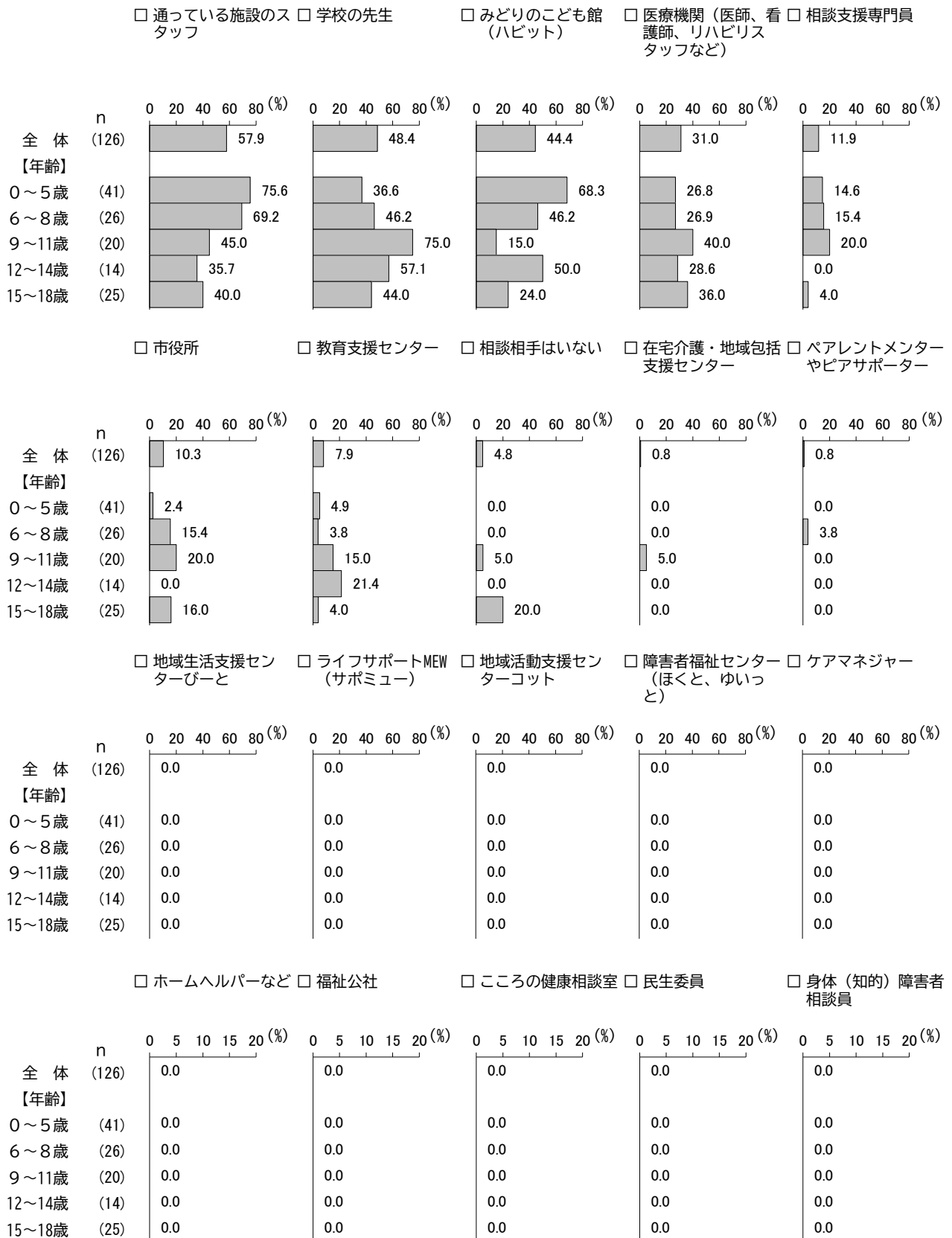
日常生活で困っていることは、「ある」が59.7%、「ない」が39.8%となっている。

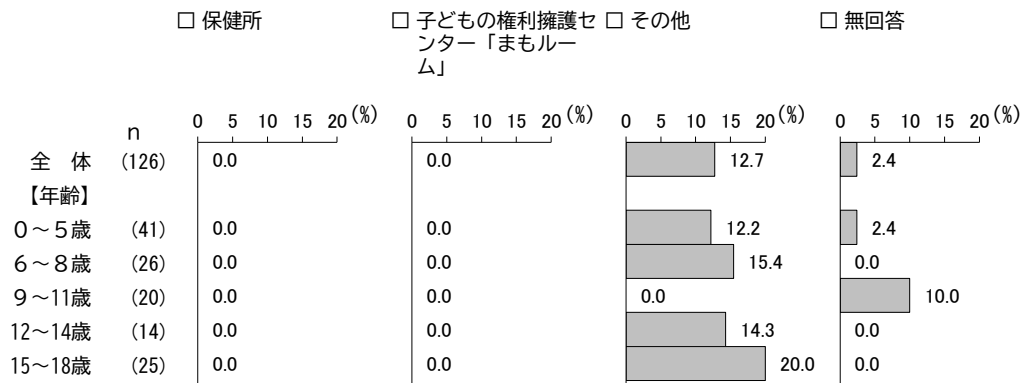
年齢別にみると、15～18歳では「ある」が64.1%と他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「ない」が高くなっている。

(2) 相談相手

【問11で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問11-1 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)





※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

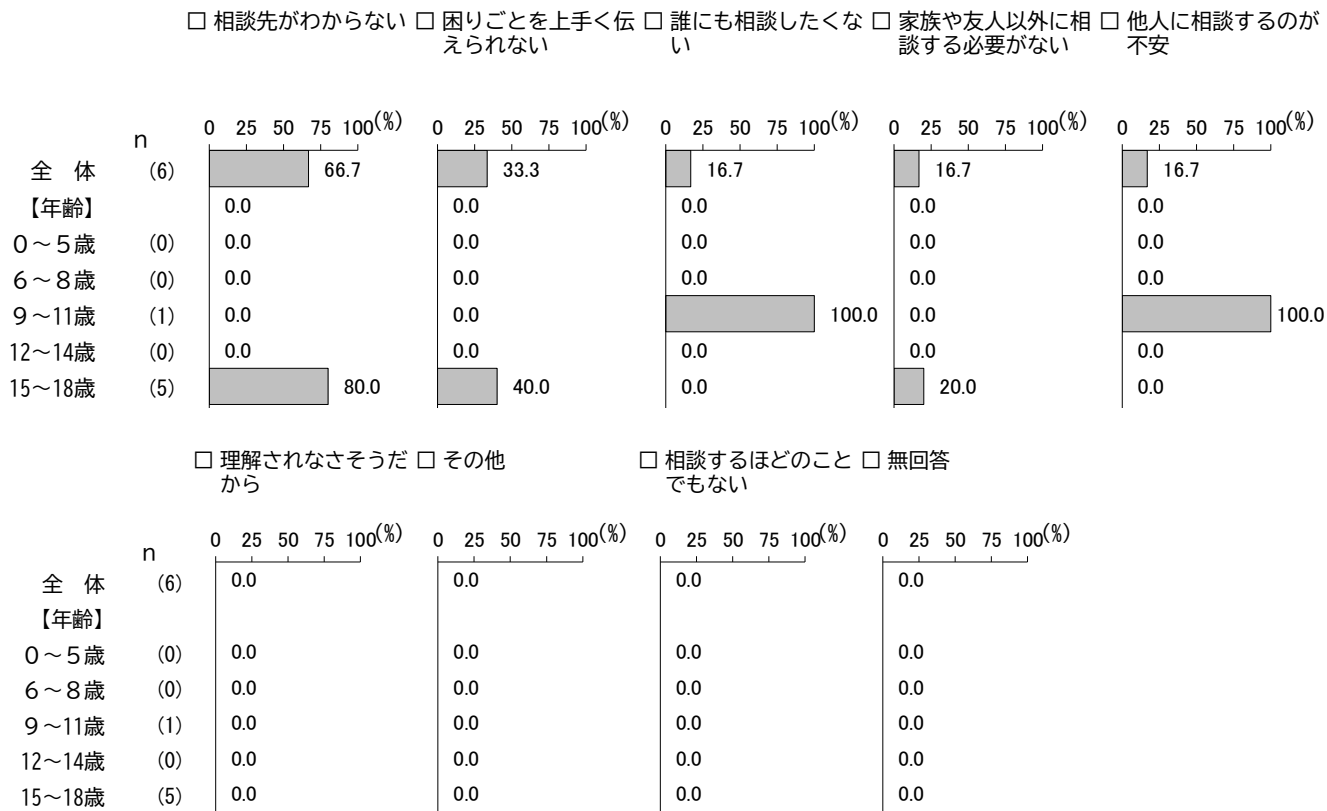
相談相手は、「通っている施設のスタッフ」が57.9%と最も高く、次いで「学校の先生」(48.4%)、「みどりのこども館 (ハビット)」(44.4%)、「医療機関 (医師、看護師、リハビリスタッフなど)」(31.0%)となっている。一方、「相談相手はいない」は4.8%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「通っている施設のスタッフ」「みどりのこども館 (ハビット)」が高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、6～8歳でも「通っている施設のスタッフ」が高くなっている。一方、サンプル数は30件未満と少ないが、15～18歳では「相談相手はいない」が高くなっている。

(3) 相談相手がない理由

【問11-1で「1 相談相手はいない」と回答した方にお聞きします。】

問11-2 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

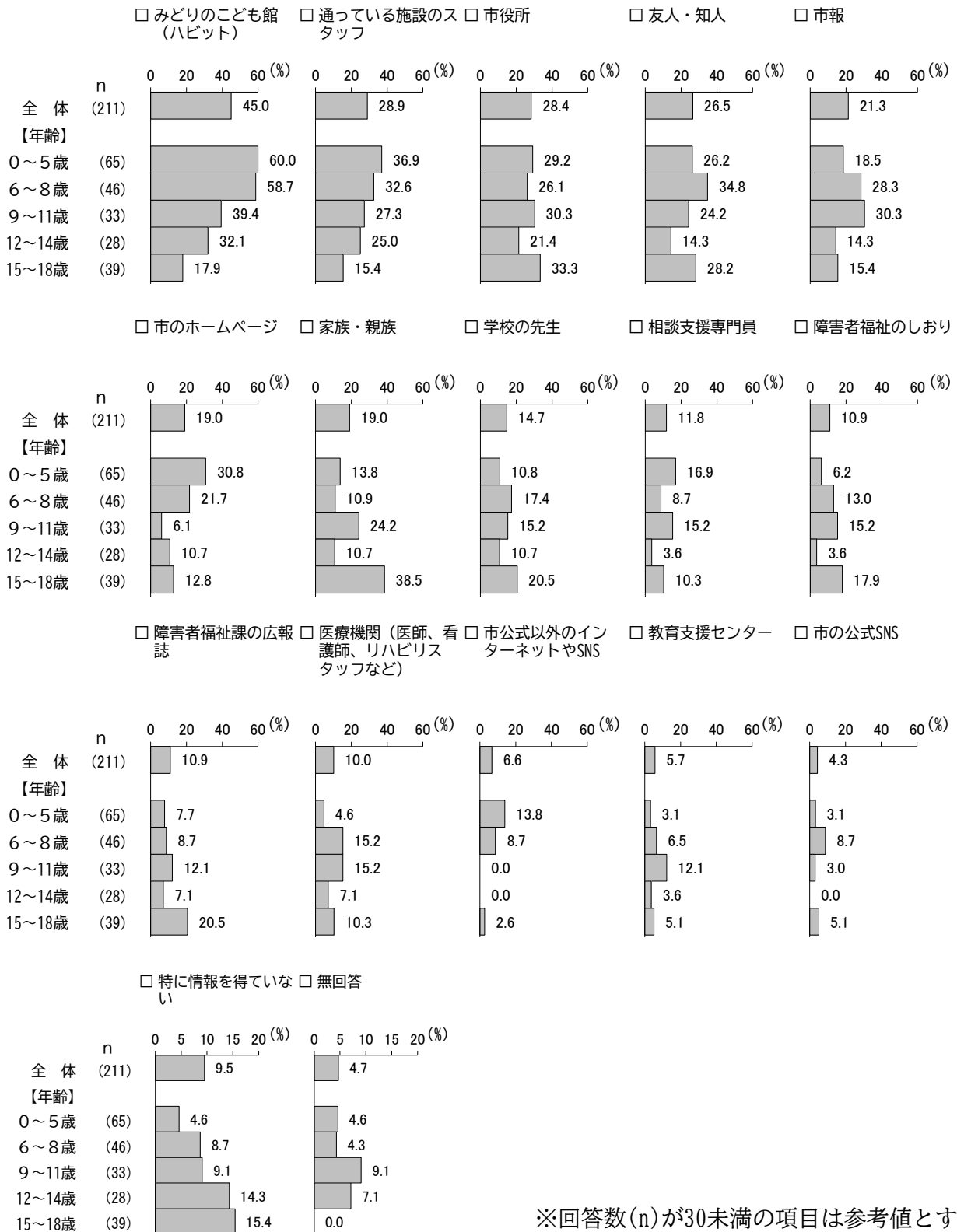


相談相手がない理由は、回答数が30件未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外している。

(4) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源

【すべての方にお聞きします。】

問12 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



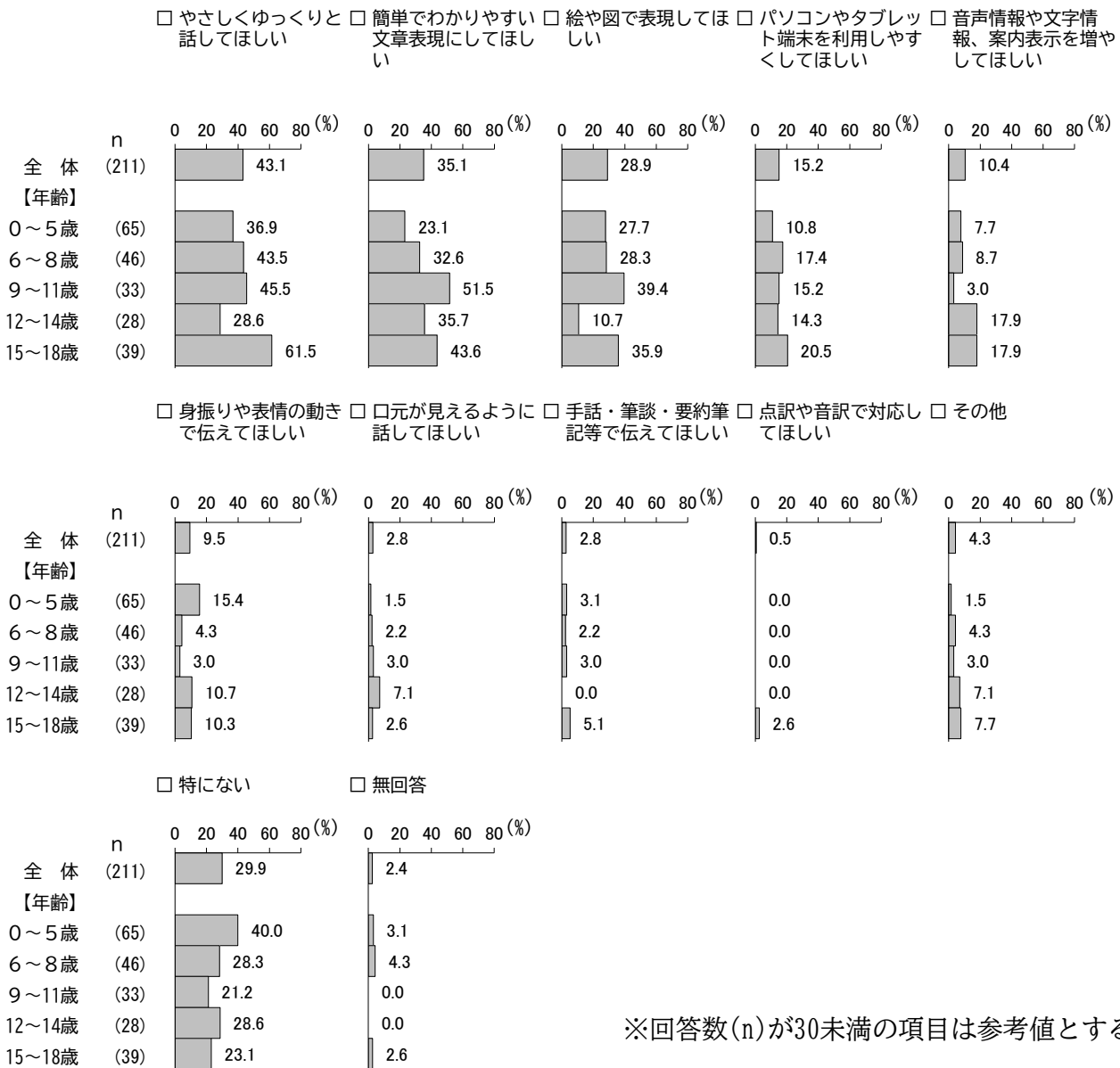
第3章 調査結果の詳細

市の生活支援に関するサービスの情報入手源は、「みどりのこども館（ハビット）」が45.0%と最も高く、次いで「通っている施設のスタッフ」（28.9%）、「市役所」（28.4%）、「友人・知人」（26.5%）となっている。一方、「特に情報を得ていない」は9.5%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「みどりのこども館（ハビット）」「通っている施設のスタッフ」「市のホームページ」が、6～8歳では「友人・知人」が、9～11歳では「市報」が、15～18歳では「市役所」「家族・親族」「学校の先生」「障害者福祉のしおり」「障害者福祉課の広報誌」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

(5) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいこと

問13 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮をしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいことは、「やさしくゆっくりと話してほしい」が43.1%と最も高く。次いで「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」(35.1%)、「絵や図で表現してほしい」(28.9%)、「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」(15.2%)となっている。一方、「特にない」が29.9%と高くなっている。

年齢別にみると、9～11歳では「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」「絵や図で表現してほしい」が、15～18歳は「やさしくゆっくりと話してほしい」「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。一方、0～5歳では「特にない」が40.0%と高くなっている。

6. 通園・通学について

(1) 通園・通学状況

問14 現在、保育園・幼稚園・学校に通っていますか。通っている場合は、どこに通っているかも教えてください。(1つに○)

	回答者数 (n)	通っていない	保育園	幼稚園	小学校・中学校 (特別支援学級)	小学校・中学校 (通常の学級)	特別支援学校	高等学校	大学	専門学校、 各種学校専	職業能力開発校	児童発達支援など その他	無回答
単位：%													
全体	211	3.3	14.2	18.0	15.2	17.5	12.3	5.7	-	4.7	-	5.7	3.3
年齢	0～5歳	65	4.6	33.8	43.1	-	-	-	-	-	-	12.3	6.2
	6～8歳	46	-	17.4	21.7	23.9	19.6	8.7	-	-	-	4.3	4.3
	9～11歳	33	6.1	-	-	33.3	39.4	15.2	-	-	-	3.0	3.0
	12～14歳	28	3.6	-	-	28.6	50.0	17.9	-	-	-	-	-
	15～18歳	39	2.6	-	-	5.1	2.6	30.8	30.8	-	25.6	-	2.6

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

通園・通学状況は、「幼稚園」が18.0%と最も高く、次いで「小学校・中学校（通常の学級）」(17.5%)、「小学校・中学校（特別支援学級）」(15.2%)、「保育園」(14.2%)、「特別支援学校」(12.3%)となっている。一方、「通っていない」は3.3%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「幼稚園」「保育園」が多く、「児童発達支援などその他」もみられる。6～8歳では「小学校・中学校（特別支援学級）」「小学校・中学校（通常の学級）」が中心となっている。9～11歳と12～14歳では「小学校・中学校（通常の学級）」「小学校・中学校（特別支援学級）」が大半を占め、「特別支援学校」もみられる。15～18歳では「特別支援学校」「高等学校」に加え「専門学校、高等専修学校、各種学校」と多様な通学先がみられる。

(2) 父親・母親の就労状況

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。（それぞれ1つに○）

父親の就労状況

	回答者数 (n)	正社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	働きたいが、働けない	働いていないし、意向もない	その他	父親はいない	無回答
単位：%								
全体	197	87.3	1.0	-	0.5	6.1	4.6	0.5
年齢	0～5歳	58	91.4	-	-	6.9	1.7	-
	6～8歳	44	100.0	-	-	-	-	-
	9～11歳	30	86.7	-	-	10.0	3.3	-
	12～14歳	27	81.5	-	-	11.1	7.4	-
	15～18歳	38	71.1	5.3	-	2.6	5.3	13.2

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

父親の就労状況は「正社員として働いている」が87.3%を占め、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は88.3%となっている。

年齢別にみると、『就労中』はおおむね年齢層が低い層ほど高くなっている。6～8歳では「正社員として働いている」が全数を占めており、0～5歳でも91.4%と高くなっている。

母親の就労状況

	回答者数 (n)	正社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	働いていないが、できれば働きたい	働いていないし、その意向もない	その他	母親はいない	無回答
単位：%								
全体	197	25.9	27.4	26.4	13.7	6.6	-	-
年齢	0～5歳	58	27.6	13.8	36.2	15.5	6.9	-
	6～8歳	44	25.0	38.6	22.7	9.1	4.5	-
	9～11歳	30	36.7	20.0	16.7	16.7	10.0	-
	12～14歳	27	18.5	37.0	18.5	18.5	7.4	-
	15～18歳	38	21.1	34.2	28.9	10.5	5.3	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

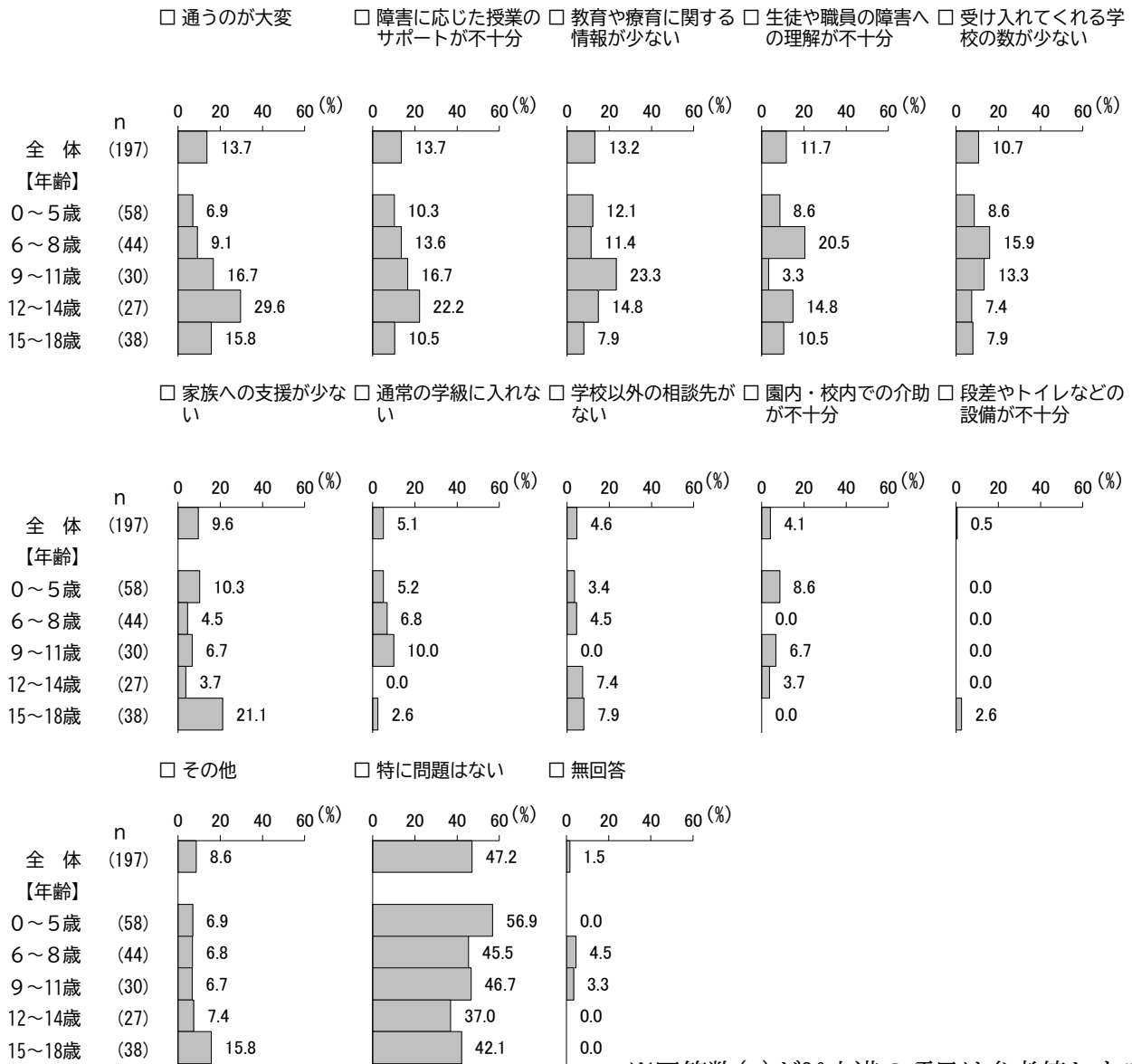
母親の就労状況は「正社員として働いている」が25.9%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は53.3%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は26.4%となっている。

年齢別にみると、6～8歳、12～14歳、15～18歳では「パート・アルバイトなどで働いている」が、9～11歳では「正社員として働いている」が高くなっている。

(3) 通園・通学する上で困っていること

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-2 通園・通学する上で困っていることはありますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

通園・通学する上で困っていることは、「通うのが大変」と「障害に応じた授業のサポートが不十分」がともに13.7%と高く、次いで「教育や療育に関する情報が少ない」（13.2%）、「生徒や職員の障害への理解が不十分」（11.7%）となっている。一方、「特に問題はない」が47.2%と最も高くなっている。

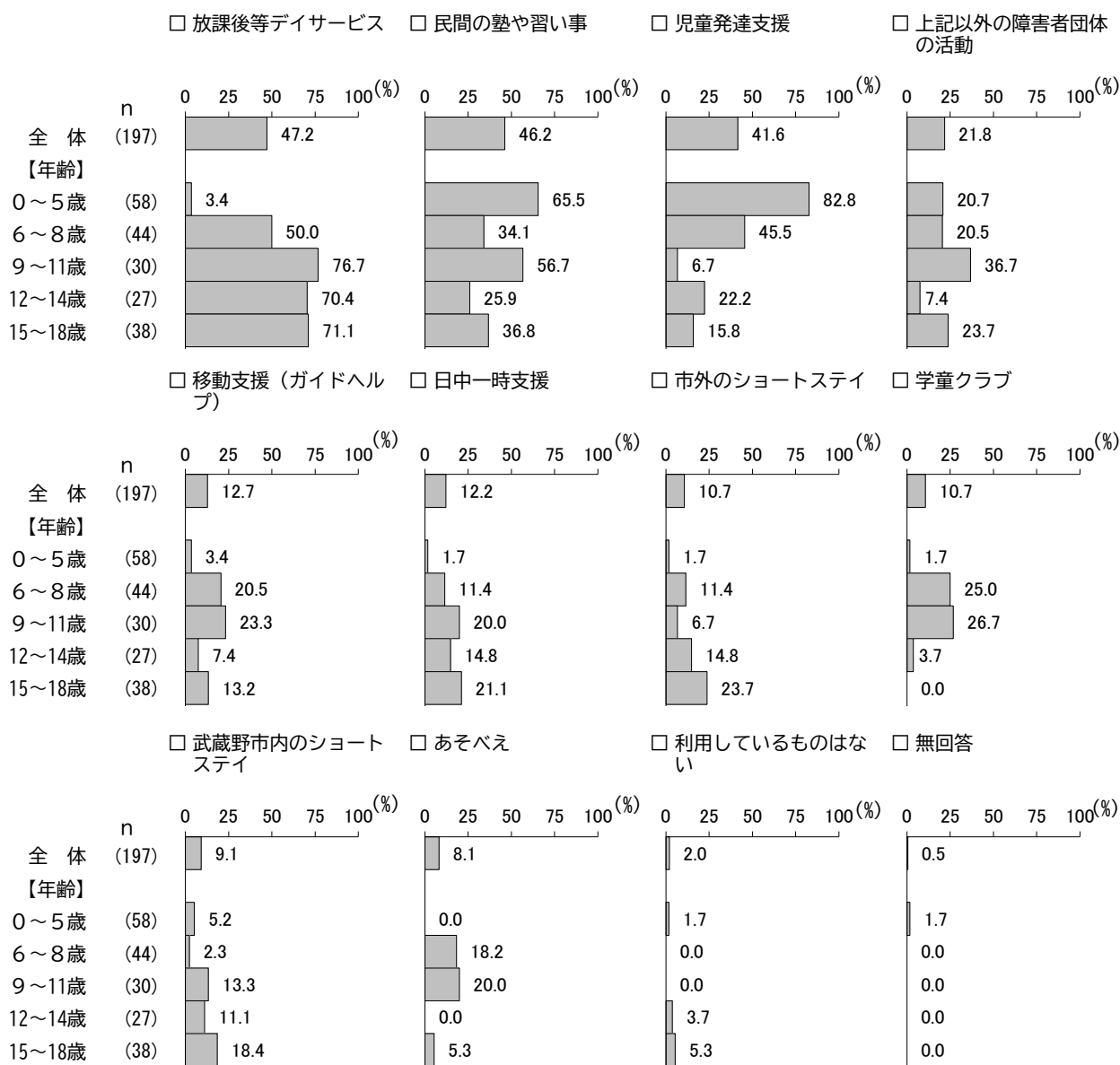
年齢別にみると、6～8歳では「生徒や職員の障害への理解が不十分」が、9～11歳では「教育や療育に関する情報が少ない」が、15～18歳では「家族への支援が少ない」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「通うのが大変」「障害に応じた授業のサポートが不十分」が高くなっている。一方、0～5歳では「特に問題はない」が56.9%と高くなっている。

(4) サービスの利用状況

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-3 日中・放課後・休みの日などに、どんなサービスを利用していますか①現在の利用状況、②今後の利用意向、③現在の利用回数、④希望する利用回数をお答えください。（①、②はあてはまるものすべて、③は①の「1」から「10」のいずれかに○をつけた方、④は②の「1」から「10」のいずれかに○をつけた方）

①現在、利用しているもの

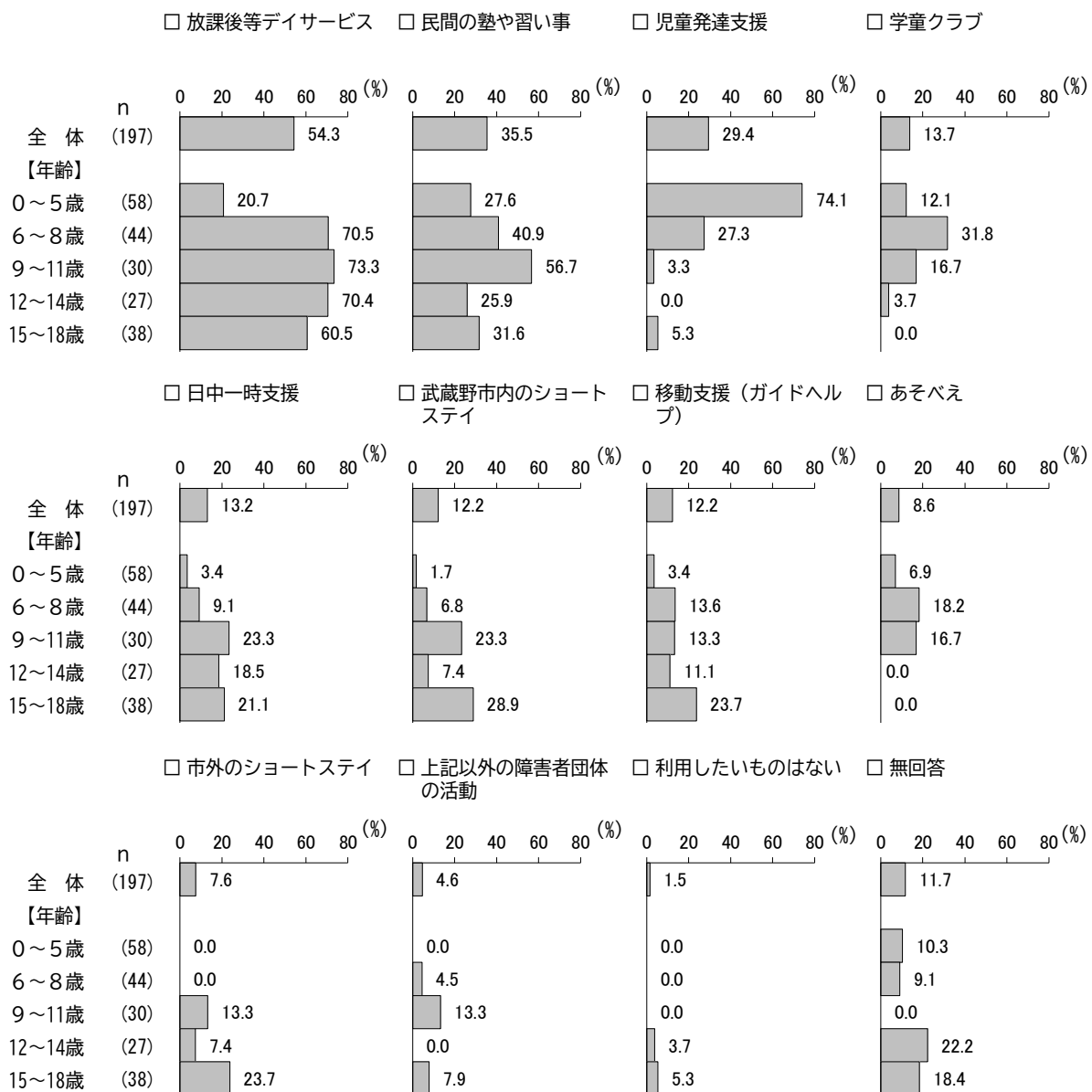


※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

①サービスの利用状況は、「放課後等デイサービス」が47.2%と最も高く、次いで「民間の塾や習い事」(46.2%)、「児童発達支援」(41.6%)、「上記以外の障害者団体の活動」(21.8%)となっている。一方、「利用しているものはない」は2.0%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「民間の塾や習い事」「児童発達支援」が、9～11歳では「放課後等デイサービス」「上記以外の障害者団体の活動」「移動支援(ガイドヘルプ)」「学童クラブ」「あそべえ」が、15～18歳では「日中一時支援」「市外のショートステイ」「武蔵野市内のショートステイ」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳でも「放課後等デイサービス」が高くなっている。

②今後、利用したいもの



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

第3章 調査結果の詳細

②今後、利用したいものは、「放課後等デイサービス」が54.3%と最も高く、次いで「民間の塾や習い事」(35.5%)、「児童発達支援」(29.4%)、「学童クラブ」(13.7%)となっている。一方、「利用したいものはない」は1.5%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「児童発達支援」が、6～8歳では「学童クラブ」「あそべえ」が、9～11歳では「放課後等デイサービス」「民間の塾や習い事」「日中一時支援」が、15～18歳では「武蔵野市内のショートステイ」「移動支援(ガイドヘルプ)」「市外のショートステイ」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳でも「放課後等デイサービス」が高くなっている。

①現在利用しているサービスと②今後、利用したいサービスを比較すると、現在よりも今後の希望が伸びている主なサービスとしては、「放課後等デイサービス」(7.1ポイント増)、「武蔵野市内のショートステイ」(3.1ポイント増)、「学童クラブ」(3.0ポイント増)、となっている。

③現在の利用回数

	回答者数 (n)	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回	週6回	週7回	無回答
単位：%									
放課後デイサービス	92	23.9	25.0	16.3	13.0	15.2	2.2	-	4.3
日中一時支援	14	64.3	14.3	7.1	7.1	-	-	-	7.1
移動支援（ガイドヘルプ）	12	50.0	-	8.3	8.3	8.3	-	-	25.0
学童クラブ	14	-	14.3	21.4	28.6	35.7	-	-	-
あそべえ	11	63.6	9.1	18.2	-	-	-	-	9.1
民間の塾や習い事	62	33.9	27.4	17.7	11.3	3.2	1.6	-	4.8
児童発達支援	66	42.4	24.2	15.2	6.1	10.6	-	-	1.5

	回答者数 (n)	月1回	月2回	月3回	月4回	月5回以上	無回答
単位：%							
武蔵野市内のショートステイ	10	70.0	-	-	-	-	30.0
市外のショートステイ	5	40.0	-	-	-	40.0	20.0
上記以外の障害者団体の活動	4	-	25.0	-	50.0	25.0	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

③現在の利用回数は、「放課後等デイサービス」では「週1回」と「週2回」がともに2割超、「民間の塾や習い事」では「週1回」が33.9%、「児童発達支援」では「週1回」が42.4%と高くなっている。

④希望する利用回数

	回答者数 (n)	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回	週6回	週7回	無回答
単位：%									
放課後デイサービス	107	23.4	21.5	15.9	7.5	19.6	2.8	-	9.3
日中一時支援	26	57.7	7.7	3.8	-	7.7	-	-	23.1
移動支援（ガイドヘルプ）	24	54.2	8.3	12.5	-	12.5	-	-	12.5
学童クラブ	27	3.7	11.1	18.5	11.1	48.1	-	-	7.4
あそべえ	17	47.1	11.8	5.9	-	17.6	-	-	17.6
民間の塾や習い事	70	27.1	25.7	12.9	8.6	4.3	-	-	21.4
児童発達支援	58	27.6	19.0	12.1	5.2	10.3	-	-	25.9

	回答者数 (n)	月1回	月2回	月3回	月4回	月5回以上	無回答
単位：%							
武蔵野市内のショートステイ	24	58.3	20.8	-	4.2	-	16.7
市外のショートステイ	15	53.3	13.3	-	6.7	13.3	13.3
上記以外の障害者団体の活動	9	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	33.3

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

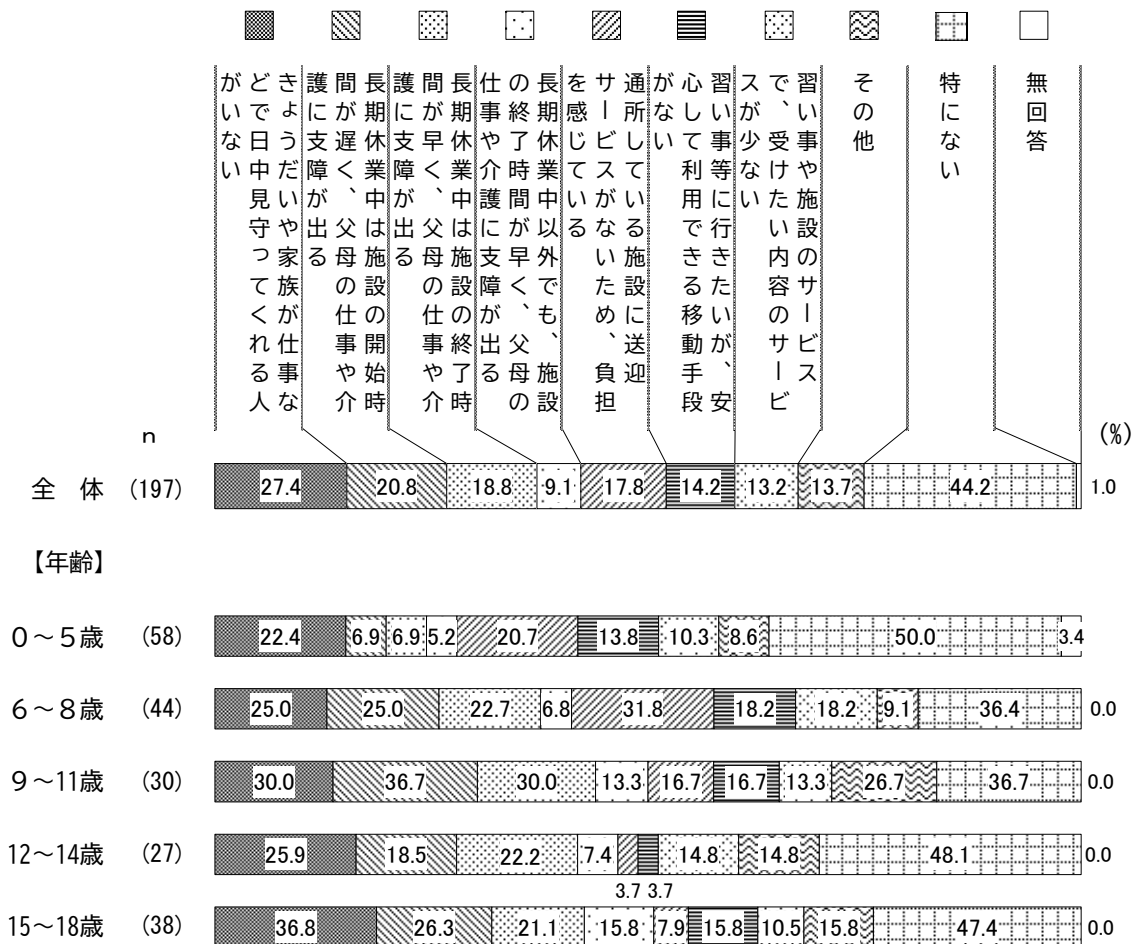
④希望する利用回数は、「放課後等デイサービス」と「民間の塾や習い事」では「週1回」と「週2回」がいずれも2割超、「児童発達支援」では「週1回」が27.6%と高くなっている。

③現在の利用回数と④希望する利用回数を比較すると、放課後等デイサービスでは「週5回」が4.4ポイント増加している。また、回答数は30件未満と少ないが、移動支援は「週1回」が4.2ポイント、学童クラブは「週5回」が12.4ポイント増加している。

(5) 放課後や長期休業中に困っていること

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-4 放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間に、困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

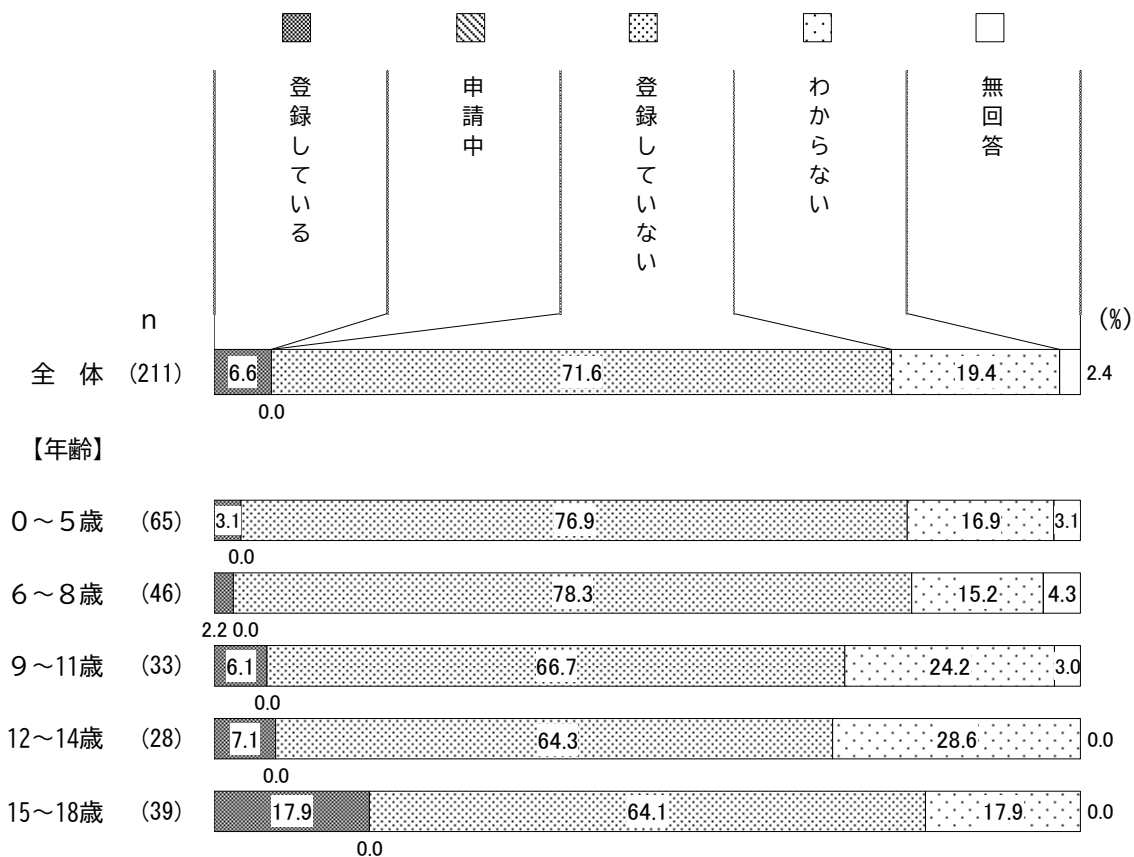
放課後や長期休業中に困っていることは、「きょうだいや家族が仕事などで日中見守ってくれる人がいない」が27.4%と最も高く、次いで「長期休業中は施設の開始時間が遅く、父母の仕事や介護に支障が出る」(20.8%)、「長期休業中は施設の終了時間が早く、父母の仕事や介護に支障が出る」(18.8%)、「通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている」(17.8%)となっている。

年齢別にみると、6～8歳では「通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている」が、9～11歳では「長期休業中は施設の開始時間が遅く、父母の仕事や介護に支障が出る」「長期休業中は施設の終了時間が早く、父母の仕事や介護に支障が出る」が、15～18歳では「きょうだいや家族が仕事などで日中見守ってくれる人がいない」「長期休業中以外でも、施設の終了時間が早く、父母の仕事や介護に支障が出る」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。一方、0～5歳では「特にない」がやや高くなっている。

7. 災害時の対応について

(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況

問15 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)



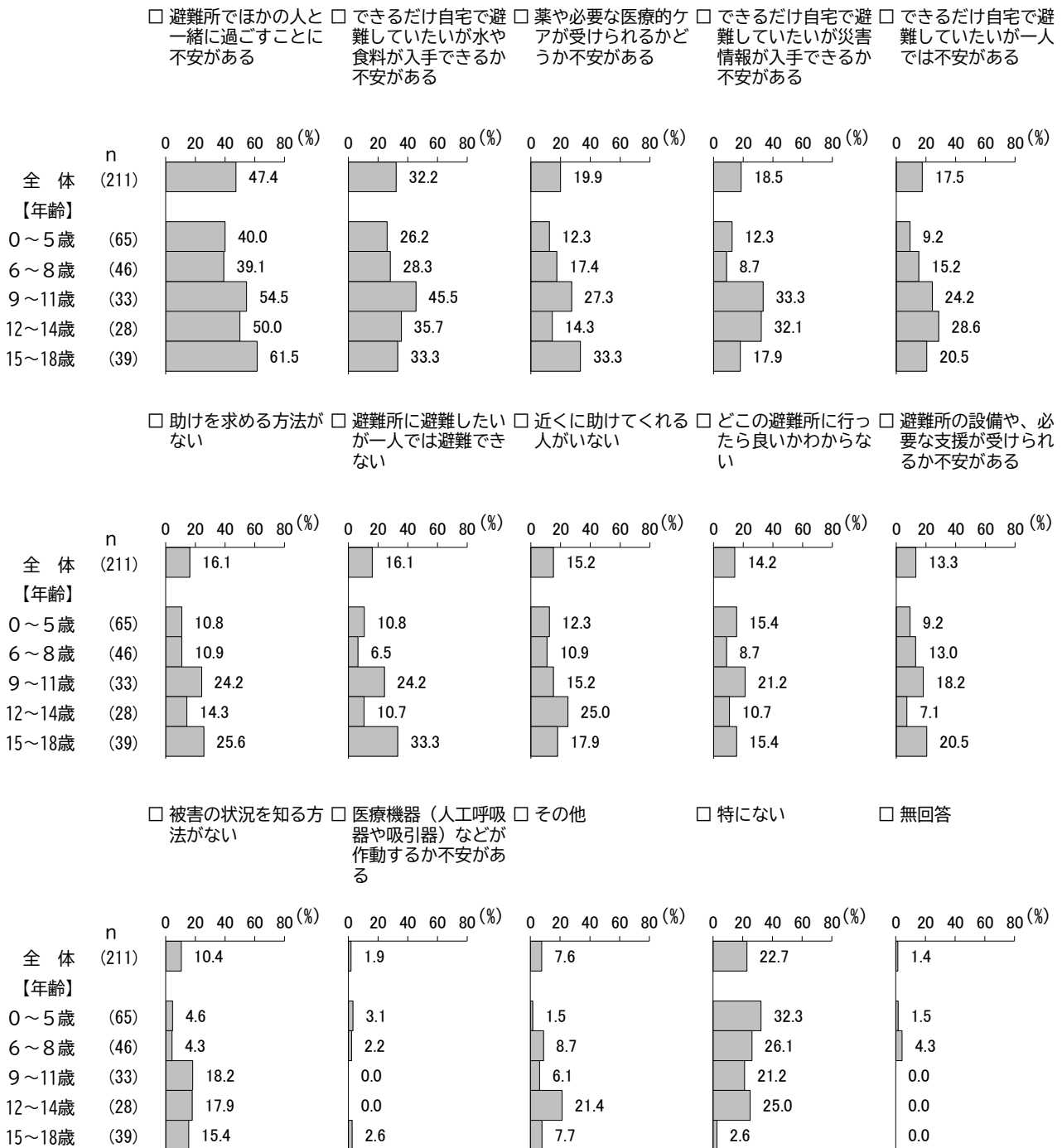
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

災害時要援護者対策事業への登録状況は、「登録している」が6.6%、「登録していない」が71.6%を占めている。

年齢別にみると、「登録している」はおおむね年齢層が上がるにつれ高くなっている。

(2) 災害時の不安

問16 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

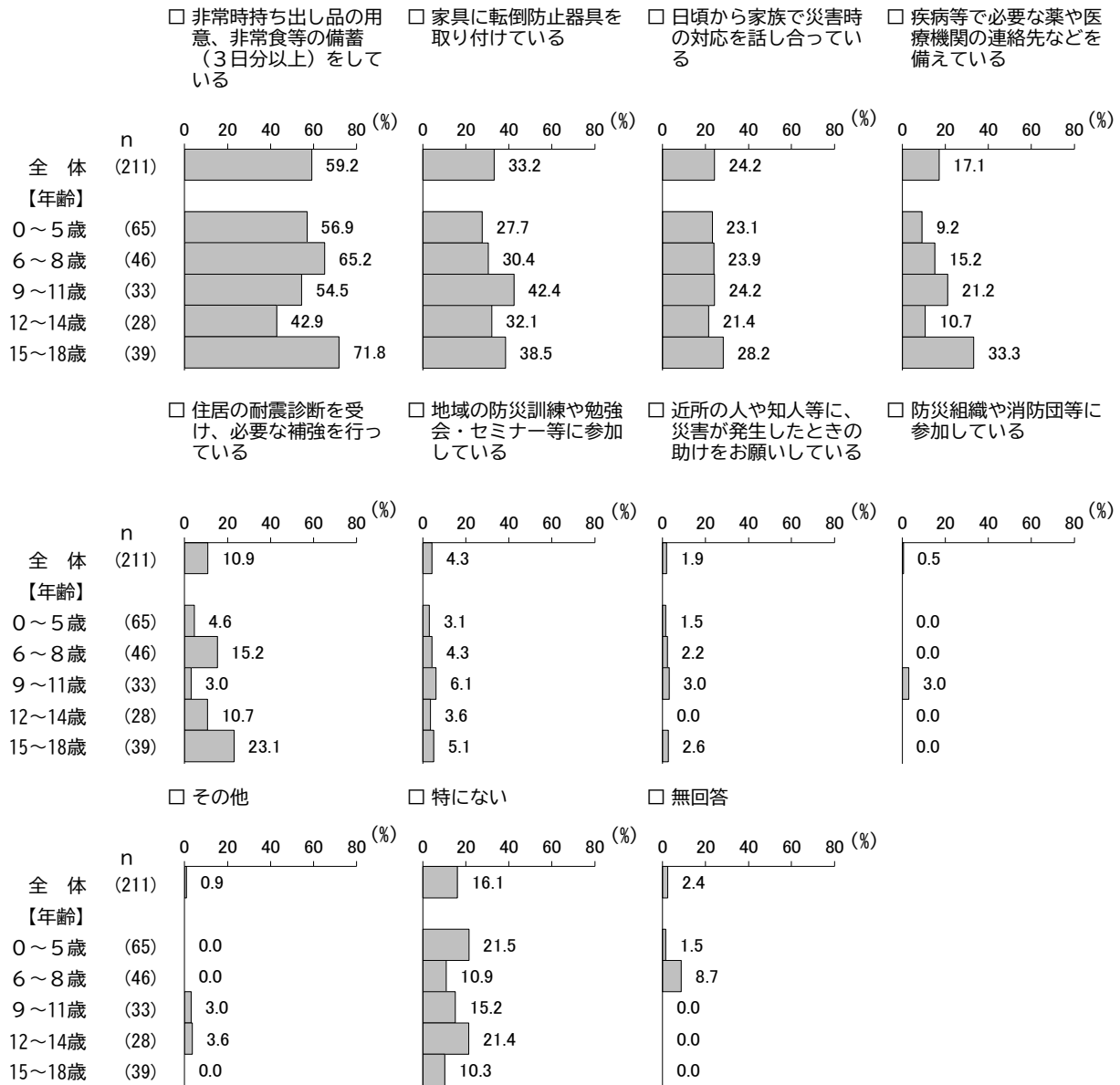
災害時の不安は、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が47.4%と最も高く、次いで「できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある」(32.2%)、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」(19.9%)、「できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある」(18.5%)となっている。一方、「特にない」が22.7%と高くなっている。

年齢別にみると、9～11歳では「できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある」「できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある」が、15～18歳では「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」「避難所に避難したいが一人では避難できない」がそれぞれ他の年齢層より特に高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある」「できるだけ自宅で避難していただきたいが一人では不安がある」が高くなっている。一方、0～5歳では「特にない」が32.3%と高くなっている。

(3) 災害への備え

問17 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

災害への備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）をしている」が59.2%と最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」（33.2%）、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」（24.2%）、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」（17.1%）となっている。

年齢別にみると、9～11歳では「家具に転倒防止器具を取り付けている」が、15～18歳では「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）をしている」「住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

8. 外出の状況について

(1) 外出頻度

問18 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

		『外出する』(計)					『外出する』 『計』	
		回答者数 (n)	ほぼ毎日	週に1回以上	月に1回以上	ほとんど外出しない		無回答
単位：%								
全体		211	88.6	7.1	0.5	0.9	2.8	96.2
年齢	0～5歳	65	90.8	6.2	-	-	3.1	97.0
	6～8歳	46	89.1	2.2	-	-	8.7	91.3
	9～11歳	33	90.9	9.1	-	-	-	100.0
	12～14歳	28	85.7	7.1	-	7.1	-	92.8
	15～18歳	39	84.6	12.8	2.6	-	-	100.0

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

外出頻度は、「ほぼ毎日」が88.6%、「週に1回以上」が7.1%、「月に1回以上」が0.5%となっており、少なくとも月1回以上『外出する』人は96.2%となっている。

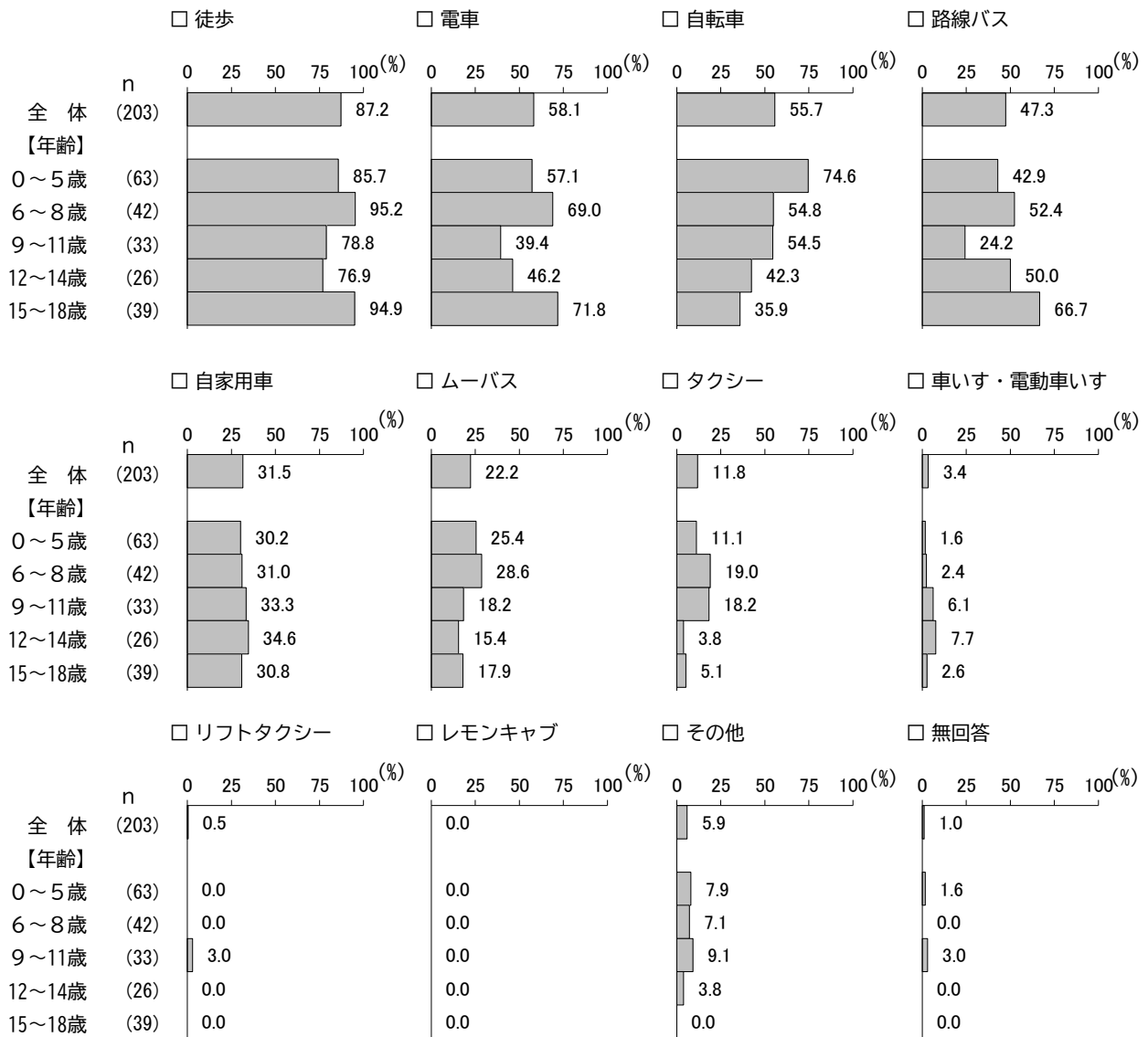
年齢別にみると、『外出する』はいずれの年齢層でも9割以上と高くなっている。

(2) 外出の際の移動手段

【問18で外出すると回答した方（1～3のいずれかを選択）にお聞きします。】

問18-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

外出の際の移動手段は、「徒歩」が87.2%と最も高く、次いで「電車」(58.1%)、「自転車」(55.7%)、「路線バス」(47.3%)となっている。

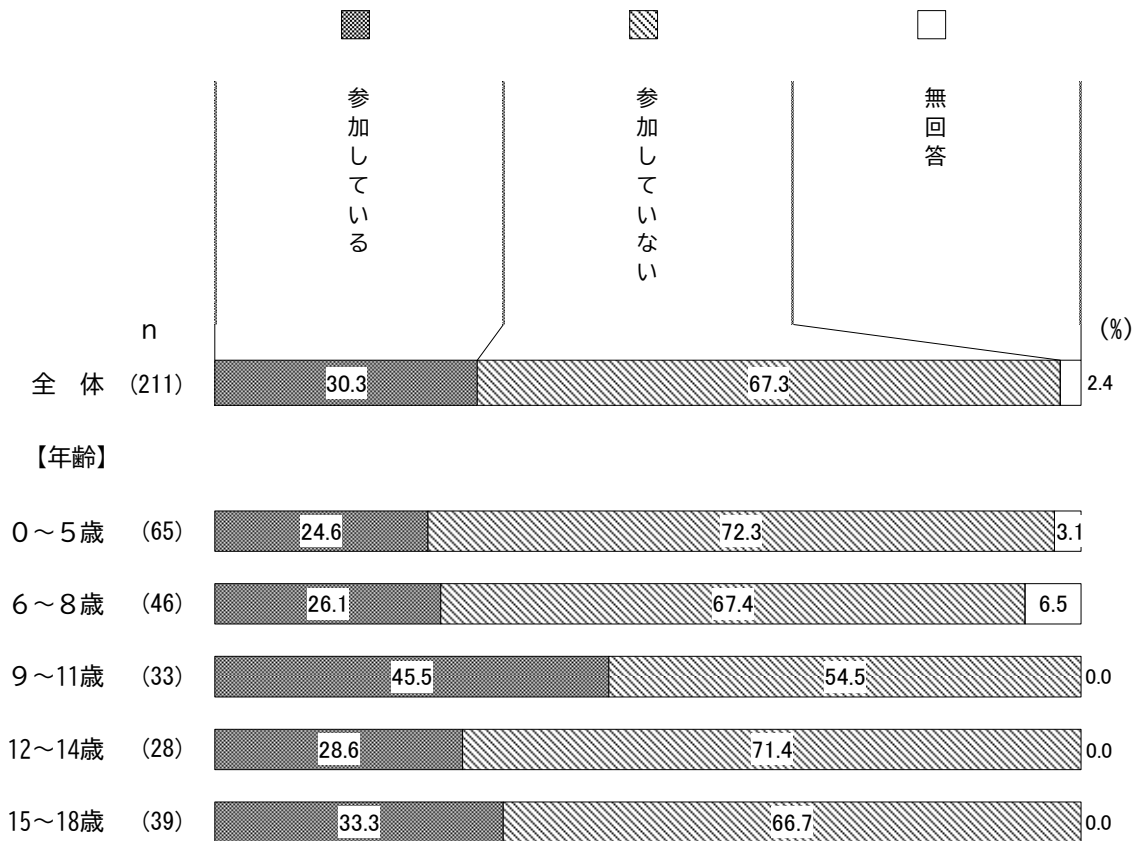
年齢別にみると、いずれの年齢層でも「徒歩」や「電車」、「自転車」、「路線バス」の公共交通機関が中心となっている。15～18歳では「路線バス」「電車」が他の年齢層より高くなっている。

9. 趣味の活動や地域の活動について

(1) 趣味などの活動への参加状況

【すべての方にお聞きします。】

問19 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

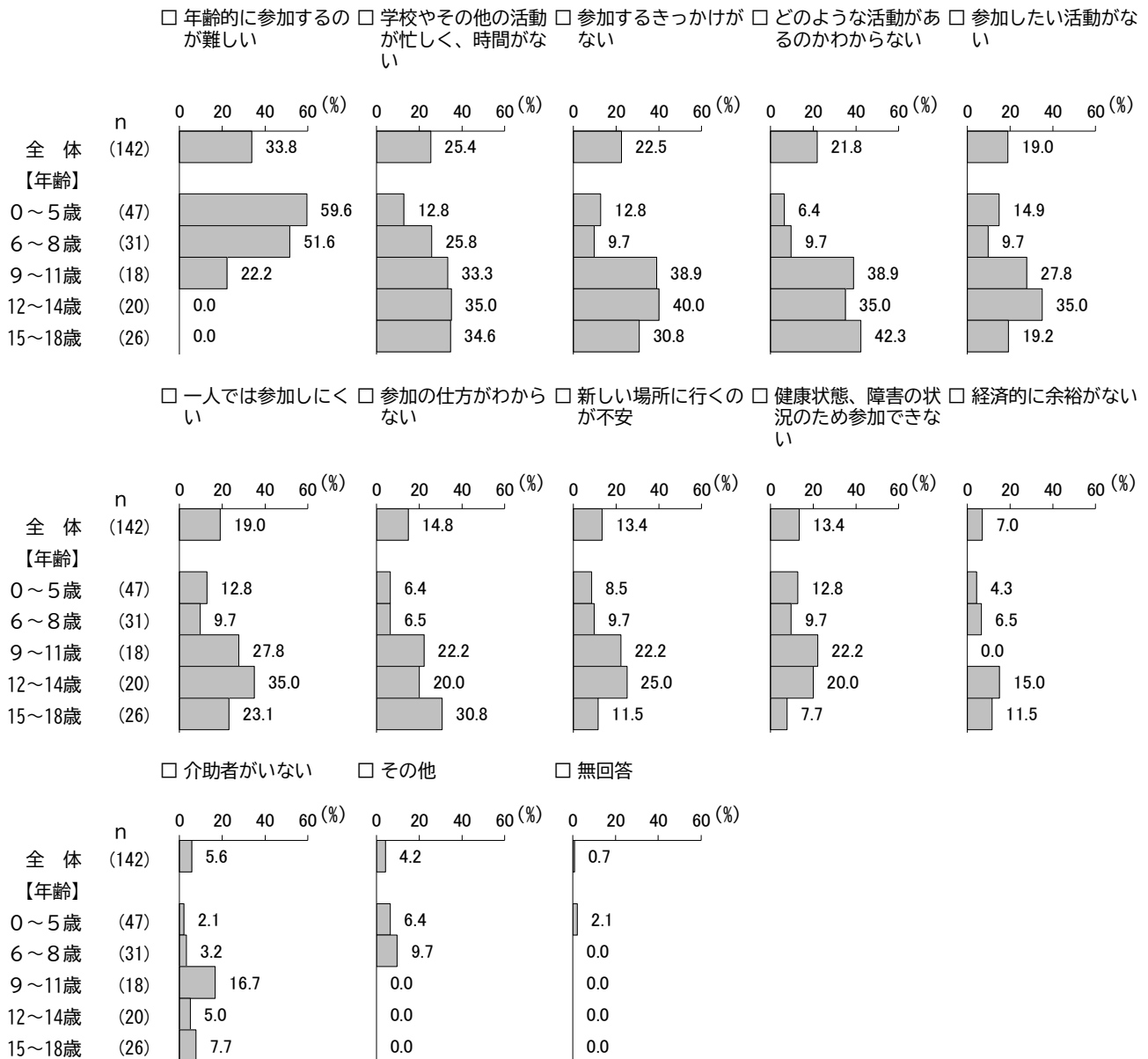
趣味などの活動への参加状況は、「参加している」は30.3%、「参加していない」は67.3%となっている。

年齢別にみると、9～11歳では「参加している」が45.5%と他の年齢層より高くなっている。

(2) 参加していない理由

【問19で「2 参加していない」と回答した方にお聞きます。】

問19-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

参加していない理由は、「年長的に参加するのが難しい」が33.8%と最も高く、次いで「学校やその他の活動が忙しく、時間がない」(25.4%)、「参加するきっかけがない」(22.5%)、「どのような活動があるのかわからない」(21.8%)となっている。

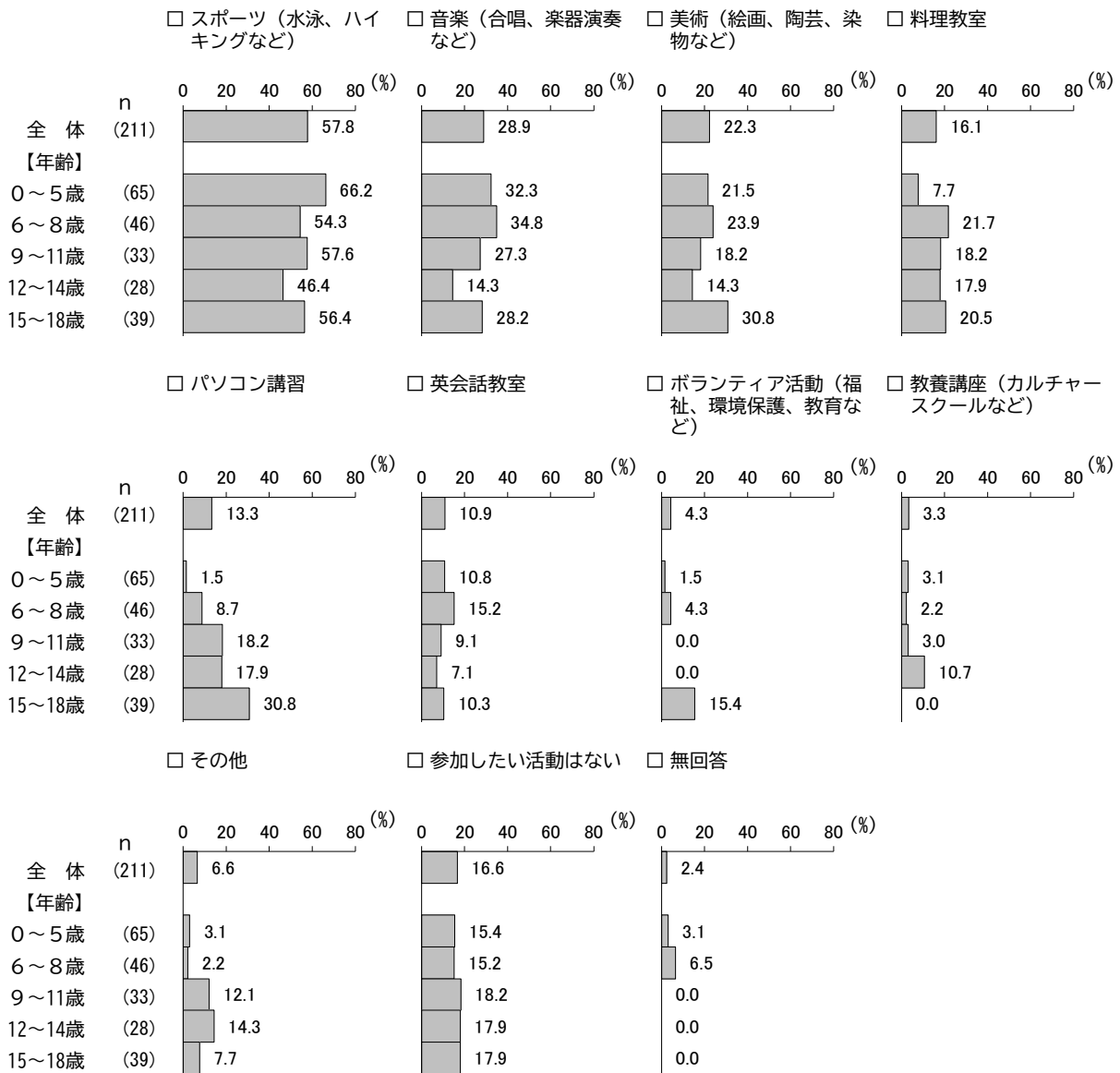
年齢別にみると、0~5歳では「年長的に参加するのが難しい」が他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、9~11歳と12~14歳では「参加するきっかけがない」が高くなっている。

(3) 参加したい活動（現在参加中も含む）

【すべての方にお聞きします。】

問20 あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。

（あてはまるものすべてに○）



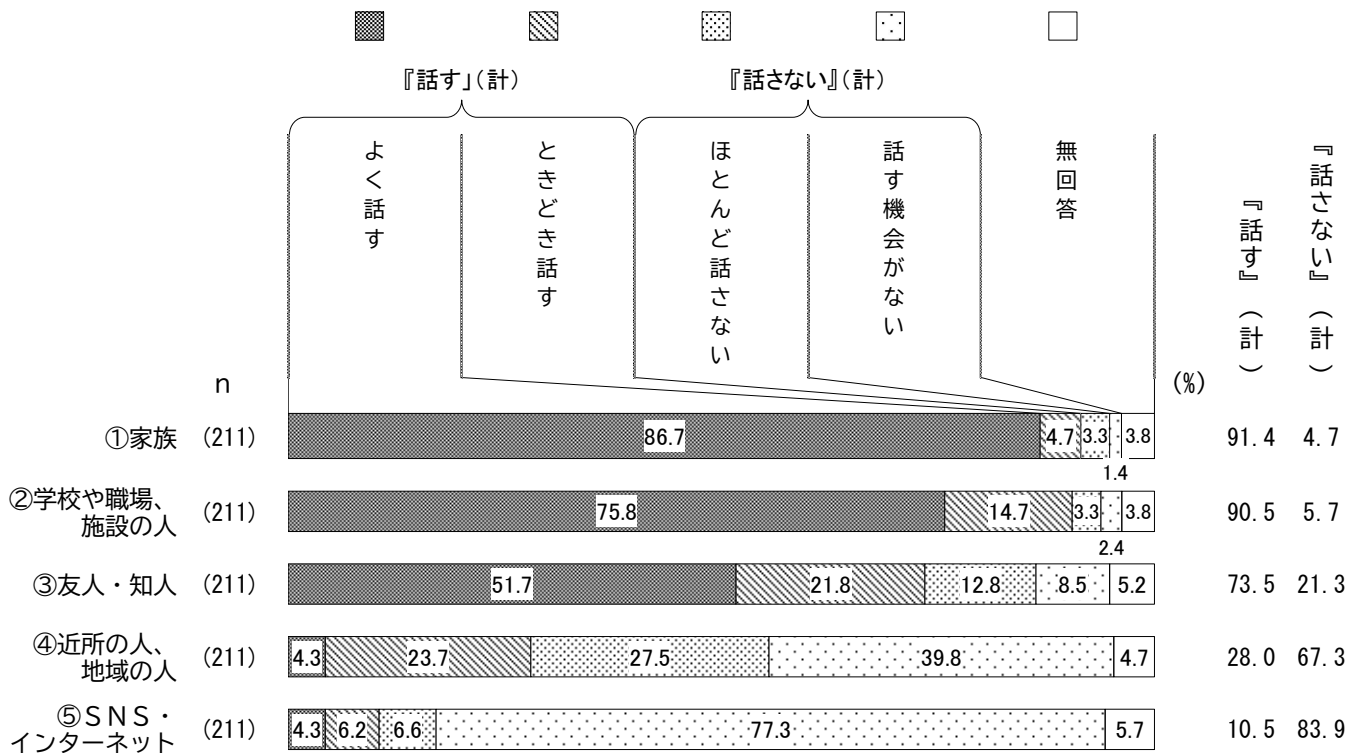
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

参加したい活動（現在参加中も含む）は、「スポーツ（水泳、ハイキングなど）」が57.8%と最も高く、次いで「音楽（合唱、楽器演奏など）」（28.9%）、「美術（絵画、陶芸、染物など）」（22.3%）、「料理教室」（16.1%）となっている。一方、「参加したい活動はない」は16.6%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「スポーツ（水泳、ハイキングなど）」が、15～18歳では「美術（絵画、陶芸、染物など）」「パソコン講習」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

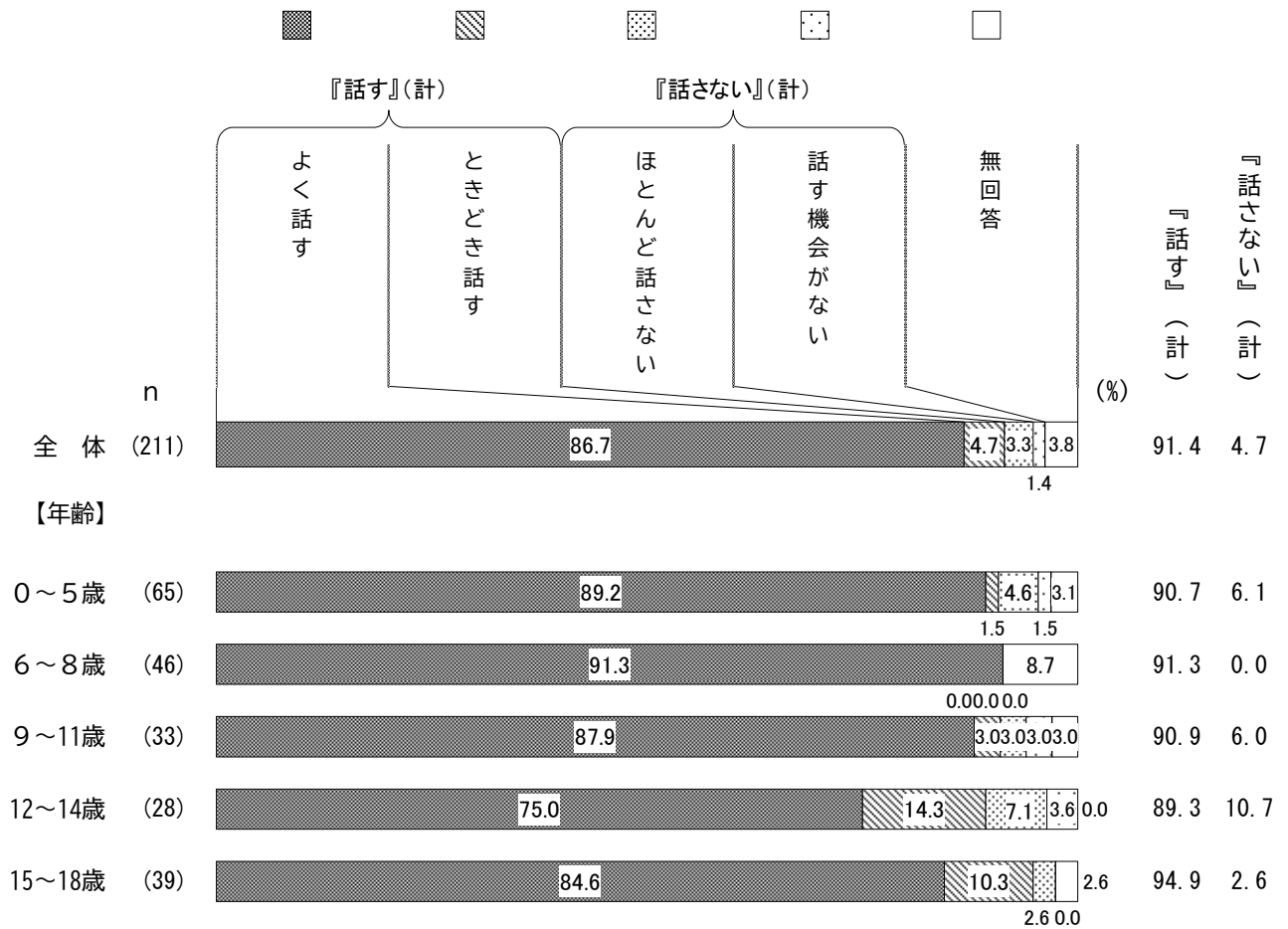
(4) 周囲の人たちとの会話の頻度

問21 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。
(それぞれ1つに○)



周囲の人たちとの会話の頻度は、「よく話す」は①家族が86.7%、②学校や職場、施設の人が75.8%、③友人・知人が51.7%となっている。「ときどき話す」をあわせた『話す』で見ると、①家族と②学校や職場、施設の人は9割を占め特に高く③友人・知人は73.5%となっている。一方、④近所の人、地域の人約3割、⑤SNS・インターネットは約1割と『話す』が低く、「話す機会がない」は④近所の人、地域の人が39.8%、⑤SNS・インターネットが77.3%となっている。

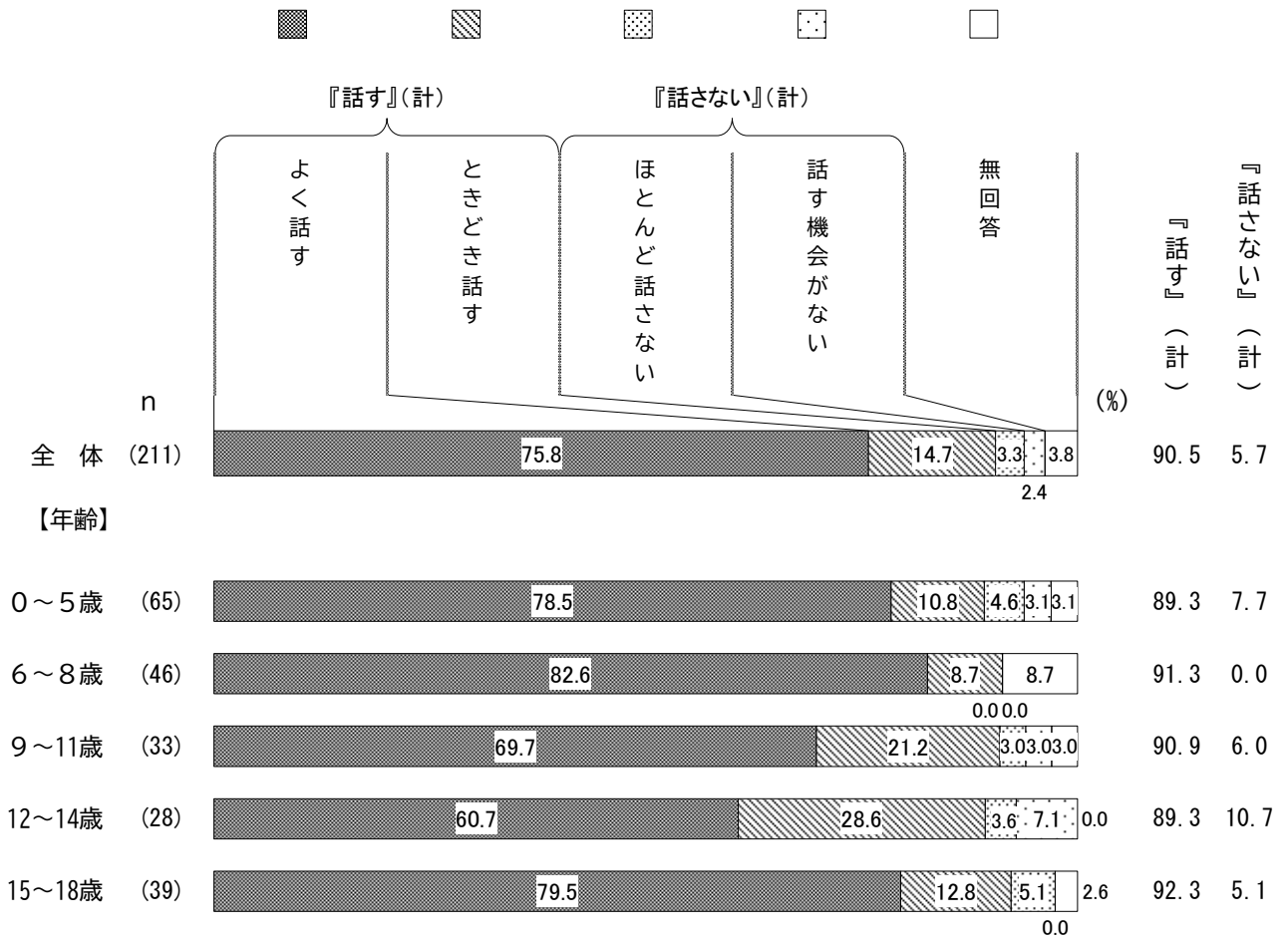
①家族



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

①家族を年齢別にみると、『話す』は、いずれも9割前後となっている。一方、『話さない』は、サンプル数は30件未満と少ないが、12～14歳で10.7%となっている。

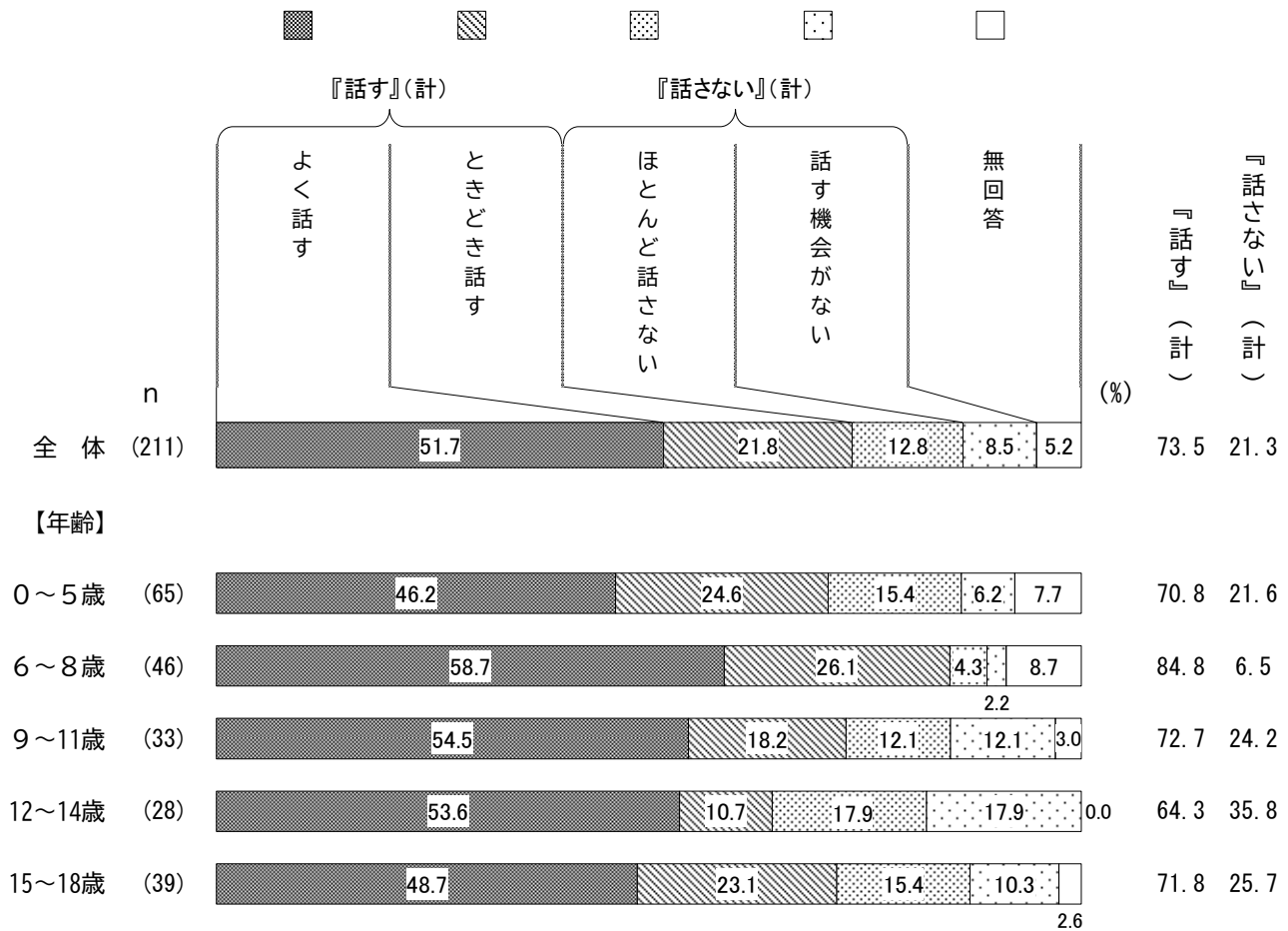
②学校や職場、施設の人



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

②学校や職場、施設の人を年齢別にみると、『話す』は、いずれも9割前後となっている。一方、『話さない』は、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳で10.7%となっている。

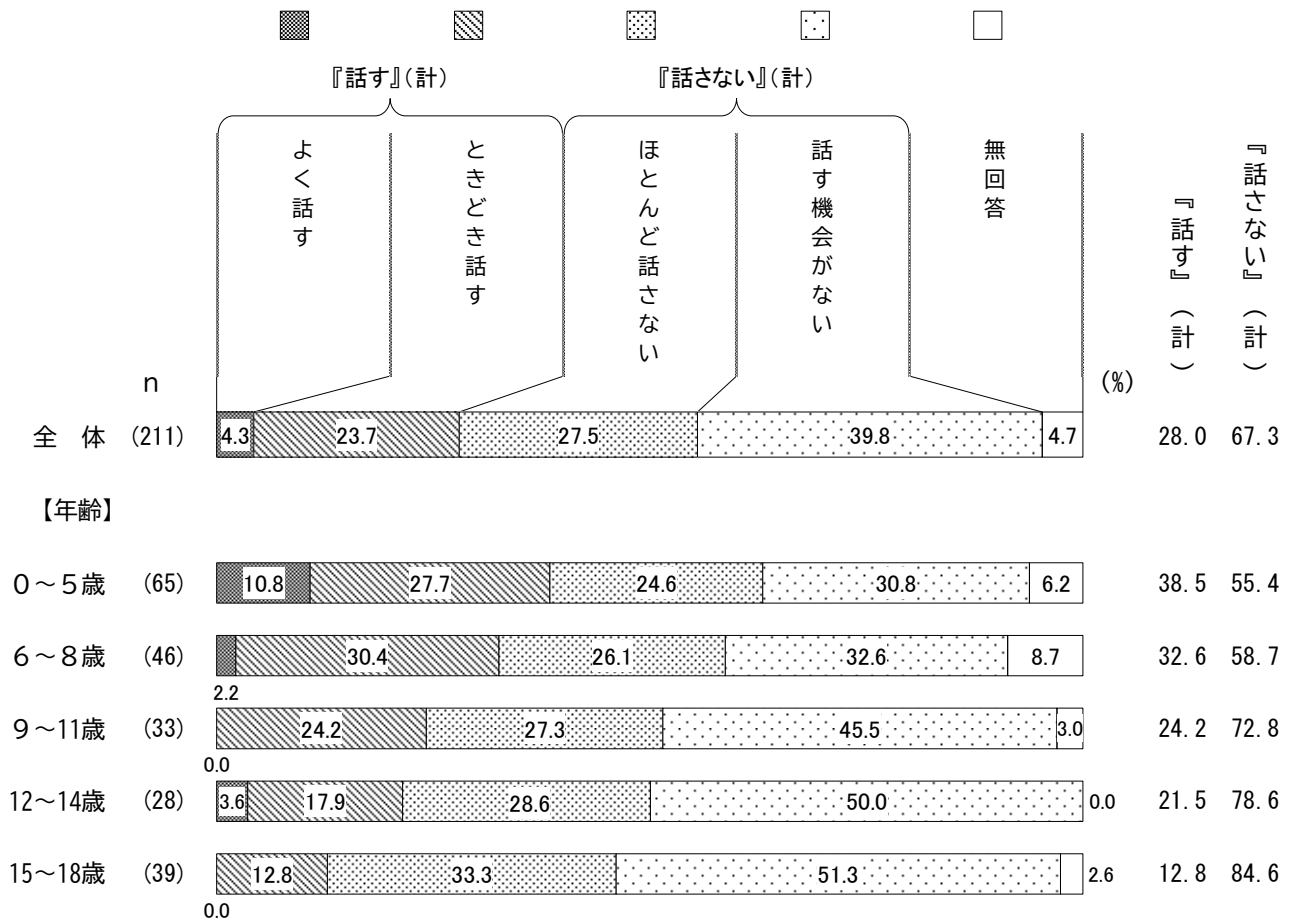
③友人・知人



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

③友人・知人を年齢別にみると、『話す』は、6～8歳で84.8%と他の年齢層より高くなっている。一方、『話さない』は、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳で35.8%となっている。

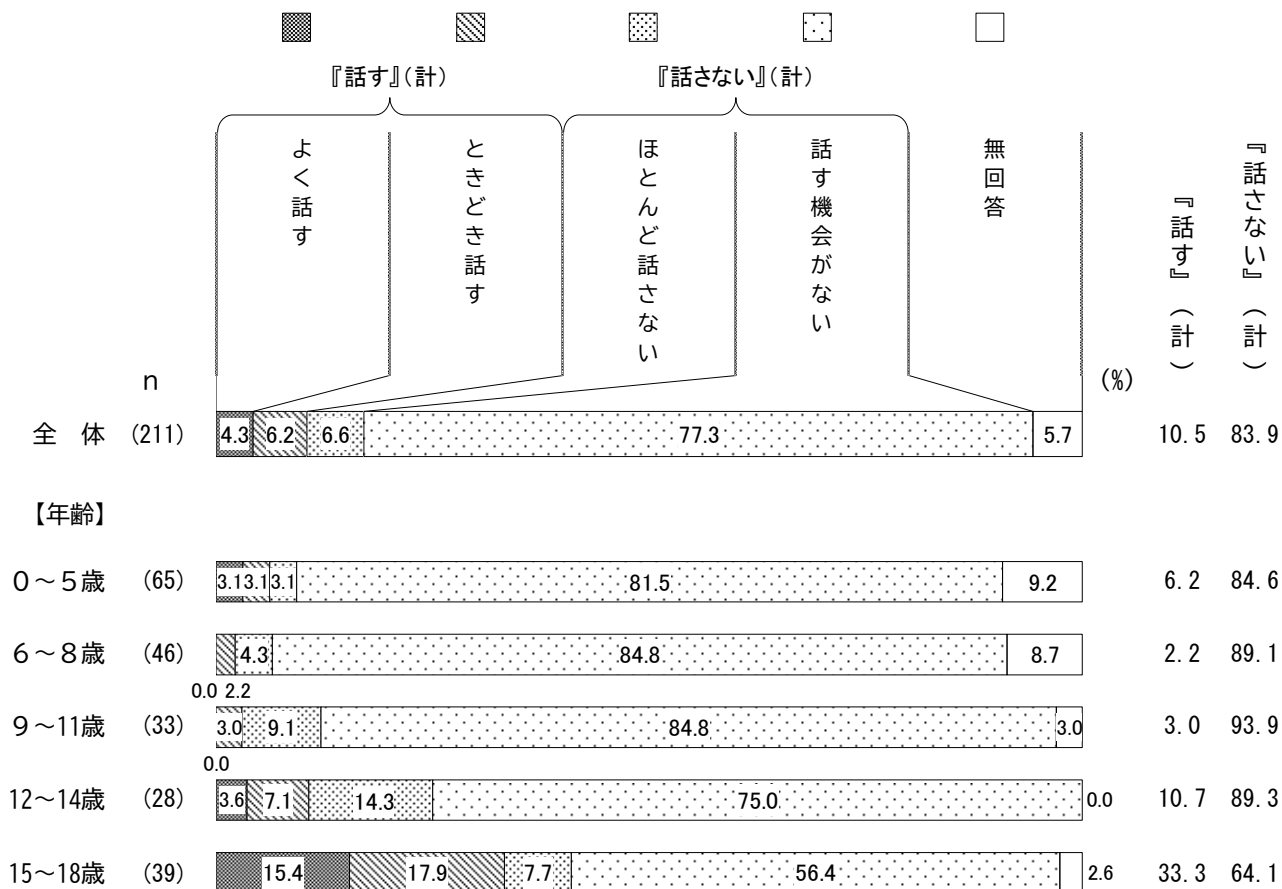
④近所の人、地域の人



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

④近所の人、地域の人を年齢別にみると、『話す』は、おおむね年齢層が低い層ほど高くなり、0～5歳で38.5%と特に高くなっている。一方、『話さない』は、15～18歳で84.6%と他の年齢層より高くなっている。

⑤ SNS・インターネット



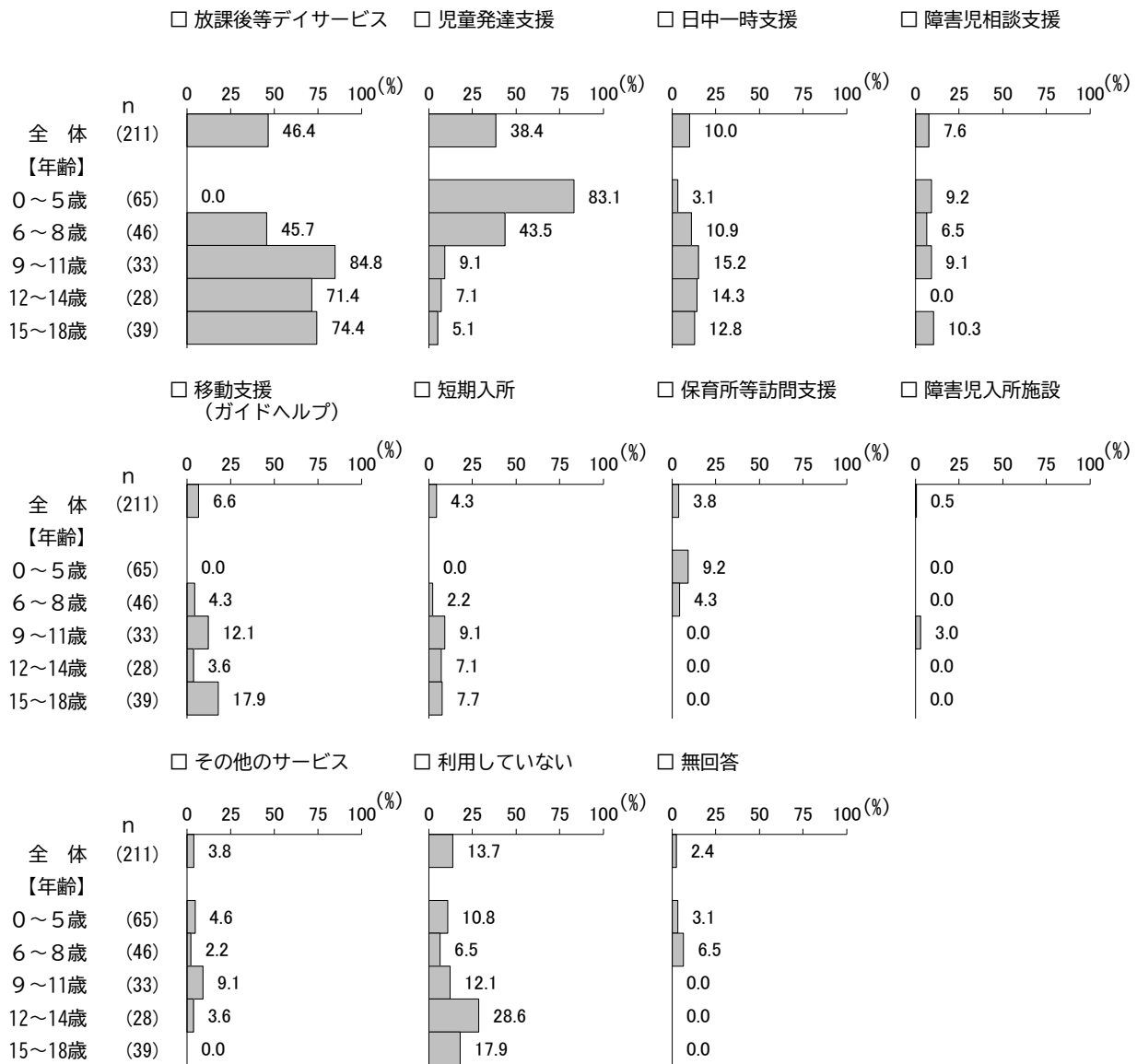
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

⑤ SNS・インターネットを年齢別にみると、『話す』は、おおむね年齢層が上がるにつれて高くなり、15～18歳では33.3%と特に高くなっている。一方『話さない』は、0～5歳から12～14歳の年齢層で8割台から9割台と高くなっている。

10. サービスの利用等について

(1) 障害福祉サービスの利用状況

問22 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

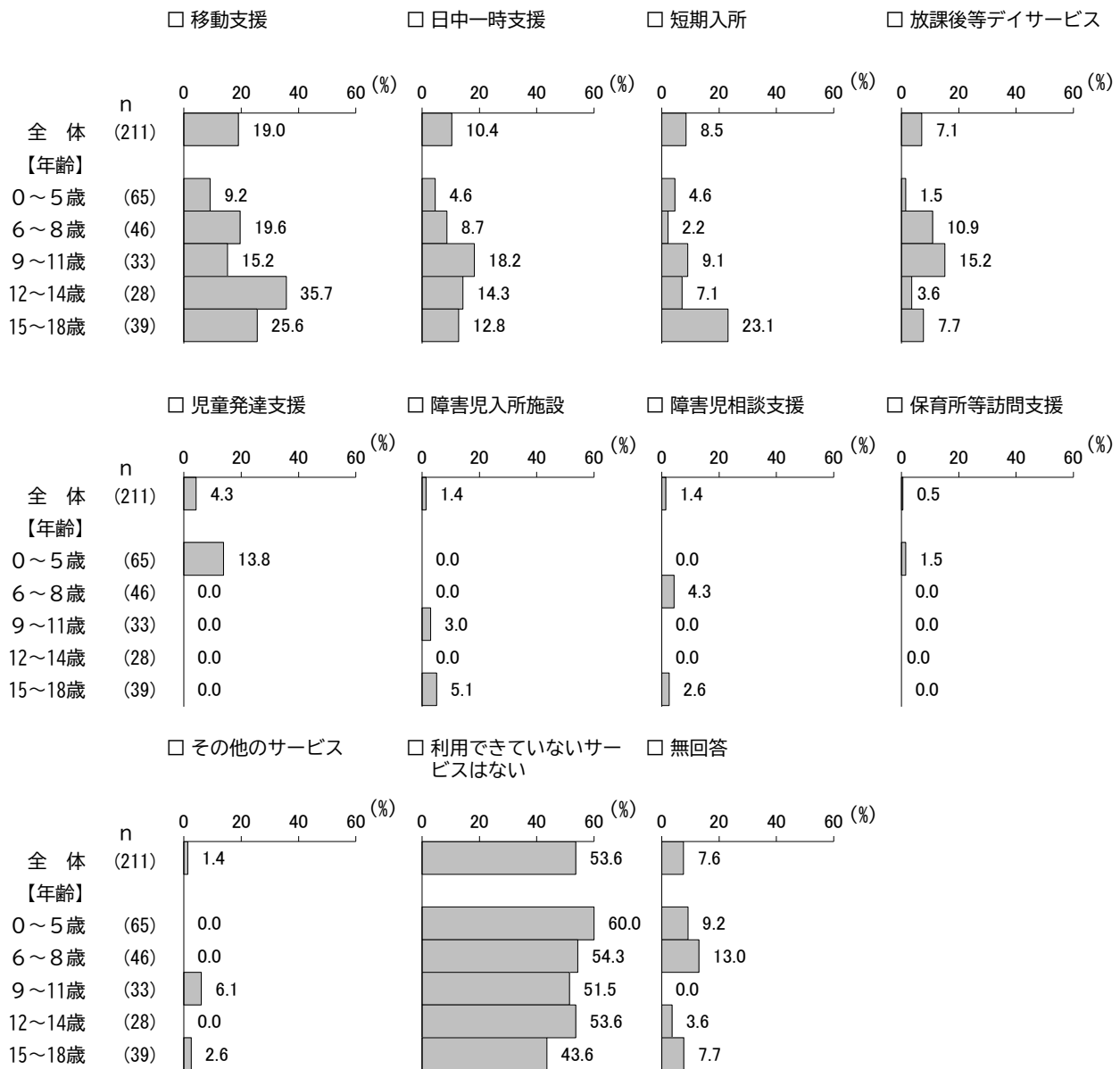
障害福祉サービスの利用状況は、「放課後等デイサービス」が46.4%と最も高く、次いで「児童発達支援」(38.4%)、「日中一時支援」(10.0%)、「障害児相談支援」(7.6%)となっている。一方、「利用していない」は13.7%となっている。

年齢別にみると、0~5歳では「児童発達支援」が、9~11歳では「放課後等デイサービス」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。一方、回答数は30件未満と少ないが、12~14歳は「利用していない」が高くなっている。

(2) 利用できていないサービス

問23 本当は利用したいが、利用できていないサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

利用できていないサービスは、「移動支援」が19.0%と高く、「日中一時支援」(10.4%)、「短期入所」(8.5%)、「放課後等デイサービス」(7.1%)となっている。一方、「利用できていないサービスはない」が53.6%と最も高くなっている。

年齢別にみると、0~5歳では「児童発達支援」が、9~11歳では「日中一時支援」「放課後等デイサービス」が、15~18歳では「短期入所」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12~14歳は「移動支援」が高くなっている。

(3) 利用できていない理由

【問23で利用できていないサービスがあると回答した方（1～9のいずれかを選択）にお聞きします。】

問23-1 利用できていない理由を教えてください。太枠に、利用できていないサービスの番号（問23）を記入し、それぞれの理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

	回答者数 (n)	定員が いっぱい	交通 不便	時間 が合わない	待機 が長い	費用 が負担	内容・ 設備が 不備	医療的 ケア非 対応	その他	無 回答
単位：%										
児童発達支援	9	66.7	44.4	44.4	22.2	-	-	-	11.1	-
放課後等デイサービス	14	71.4	14.3	21.4	21.4	-	7.1	-	28.6	-
短期入所	18	33.3	11.1	-	38.9	5.6	11.1	11.1	61.1	-
保育所等訪問支援	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
障害児入所施設	3	66.7	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-
障害児相談支援	4	-	-	25.0	-	-	-	-	75.0	-
移動支援	40	50.0	2.5	12.5	30.0	2.5	5.0	5.0	30.0	-
日中一時支援	22	45.5	9.1	9.1	18.2	-	4.5	4.5	40.9	4.5
その他のサービス	3	66.7	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

利用できていない理由は、移動支援では「定員がいっぱい」が50.0%、「待機が長い」「その他」がともに30.0%と高くなっている。

児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所、保育所等訪問支援、障害児入所施設、障害児相談支援、日中一時支援、その他のサービスは、回答数が30未満と少ないため、参考値として示すにとどめ、分析は行っていない。

(4) 利用できていない理由（その他の内訳）

問23-1で「その他」を回答した人は具体的な内容をお答えください。

※意見は誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

◆児童発達支援

- ・児童発達支援に通っていましたが、人員不足により安全基準に満たないとして閉所になってしまいました。正直、市の対応に不満を感じています。詳しくは知りませんが、大勢の利用者と保護者がいきなり信頼する相談先を失いました。閉所する前になにか市として援助することはできなかったのでしょうか。これだけの人がまた他の療育施設を探すことになれば、さらに待機待ちが増えることになるのに、と残念でなりません。

◆放課後等デイサービス

- ・児童発達支援は医師の確定診断が不要ですが放課後デイサービスは確定診断が必須なのでグレーゾーンの子どもは利用できない。
- ・サービスの対象ではない。（高校に通っていないから。障害等級などの理由）
- ・来年度の話なので適応外。
- ・施設側の受け入れ体制が整っていないため。

◆短期入所

- ・サービスの対象ではない。（高校に通っていないから。障害等級などの理由）
- ・短期入所施設が市内には緊急以外ないため、親が見られない時になど、数日～1週間とかあずかってくれて、そこから学校へ行けるようにしてほしい。武蔵野市は障害者の人数が多いので入所施設をもっと作ってほしい。
- ・本人のメンタル面で不安が強くなり、利用できていない。家族が体力的に介護できず、本人の生活が滞っている。入浴や、身支度、通学など本人が困っている状態。
- ・面談などの時間が作れない。
- ・重度知的障害児向けの短期入所施設がほとんどない。市内にある井の頭ハウス、なごみの家は緊急時のみという非常に厳しいルールがあるので不満に感じています。
- ・興味はあるが情報がなく、幼児でも短期入所できる施設があるのか分からない。
- ・年齢的に無理っぽい。
- ・家族でなんとかなっているため。
- ・どこに預けられるのか分からない。
- ・将来の暮らしの練習のためにも年に2回利用したいが、そのような場合の利用が可能なのがわからない。

- ・ショートステイに対する案内などが市役所で具体的にいただけなかったので調べるところから始められていないです。

◆障害児入所施設

- ・施設の情報不明。

◆障害児相談支援

- ・どこで出来るのか分からない（市のものは、専門医など、専門知識にとぼしい）
- ・どのようなサービスがあるのか、よく分かっていない。
- ・サービスの対象ではない。（高校に通っていないから。障害等級などの理由）

◆移動支援

- ・コロナ禍にて、申し込みのタイミングを逃した事も大きい。コロナ禍以降、広範囲な活動に慎重になってしまった。
- ・現在パートで働いているが今後はフルタイムで働きたいと考えている。その為に移動支援を利用したいと考えているがまだ具体的には申し込み等はしていない。うまく利用して今より仕事時間をふやしたいと考えている。
- ・移動支援を申し込んでいるが、利用開始出来ていない。スタッフがいない？
- ・面談などの時間が作れない。
- ・手帳がないため使えない。
- ・手帳が無いと受けられない？
- ・未就学児のため使えない。児発や放デイの送迎のためには使えない。手帳を所持していないので使えない。
- ・移動支援が幼稚園児には適用外で、下の子出産時、困り果てた。産前産後サポートは、療育施設への送迎は対応外。
- ・家族でなんとかかなっているため。
- ・どういう人が付き添ってくれるのかわからないため。なんとなく日程調整など大変な印象があるため。
- ・手続きや申し伝えなどの手間が多く気軽に使えないので、それなら介助者である母が少し頑張れば解決するのでまあいっか、となってしまう。
- ・武蔵野市は未就学児が対象外。自治体で差があり困っています。

◆日中一時支援

- ・コロナ禍にて、申し込みのタイミングを逃した事も大きい。コロナ禍以降、広範囲な活動に慎重になってしまった。

- ・現在パートで働いているが今後はフルタイムで働きたいと考えている。その為に日中一時支援を利用したいと考えているがまだ具体的には申し込み等はしていない。うまく利用して今より仕事をふやしたいと考えている。
- ・どのようなサービスがあるのか、よく分かっていない。
- ・日中一時支援を利用したいが市内では出来ないと言われる。
- ・施設の情報が不明。
- ・年齢的に無理っぽい。
- ・家族でなんとかこなしているため。
- ・以前、新規登録ができなかった。
- ・幼稚園が苦手な半分以上しか通えていないが、お休みした日に家で親子で過ごすのが辛い、ちょうどよく過ごせる場所を見つけられていない。

◆その他のサービス

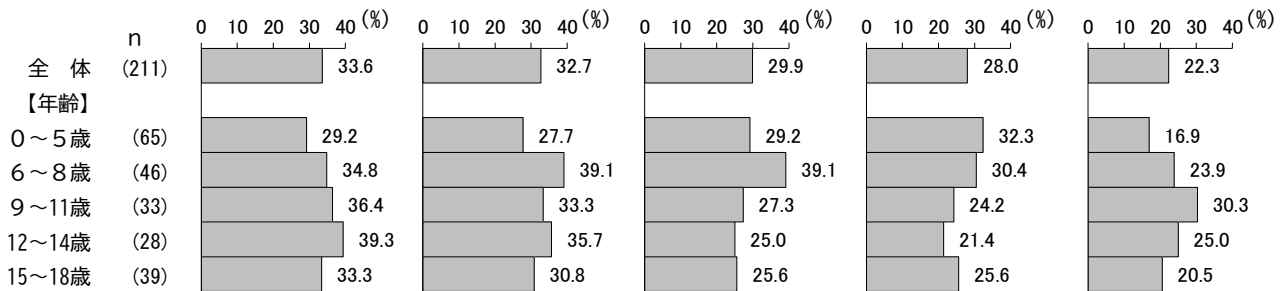
- ・療育活動（民間）
- ・ヘルパーを利用したいが市内では出来ないと言われる。

(5) 障害福祉サービスを利用する際の不便

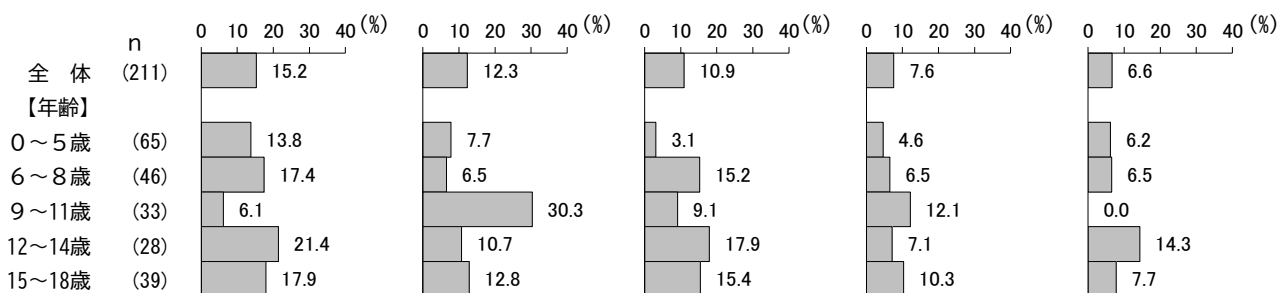
【すべての方にお聞きします。】

問24 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思
うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

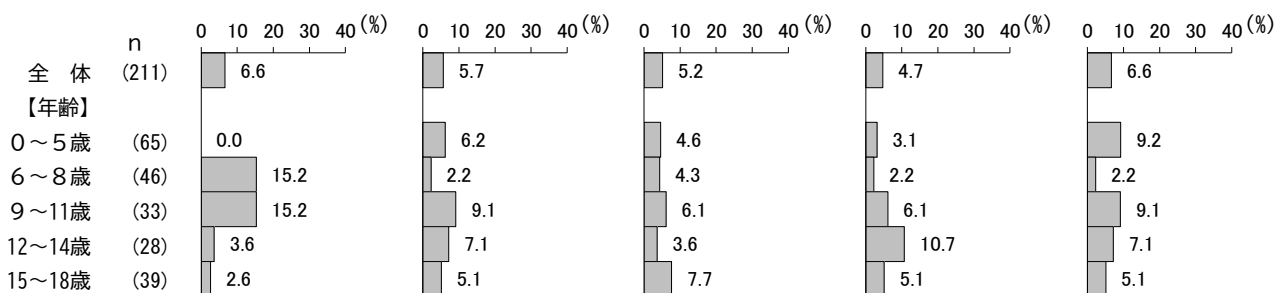
- 何が利用できるのかわからない
- サービスに関する情報が少ない
- サービスを利用するための手続きが大変
- 事業所との利用日時などの調整が大変
- 利用できる回数や日数が少ない



- サービスの利用方法がわかりづらい
- 自分に合う事業所が見つからない
- 利用したい内容のサービスがない
- 他人を家に入れることに抵抗がある
- サービスが障害の特性に合っていない

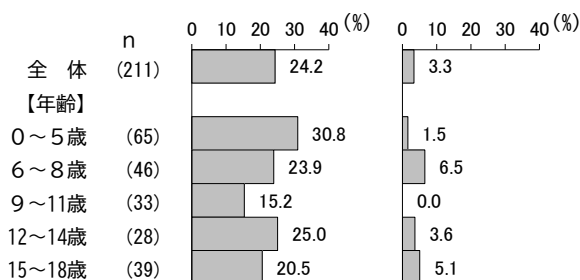


- 経済的負担が大きい
- 事業所に要望を伝えづらい
- サービスの質に不満がある
- 事業所の担当者が代わってしまう
- その他



特にない

無回答



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

第3章 調査結果の詳細

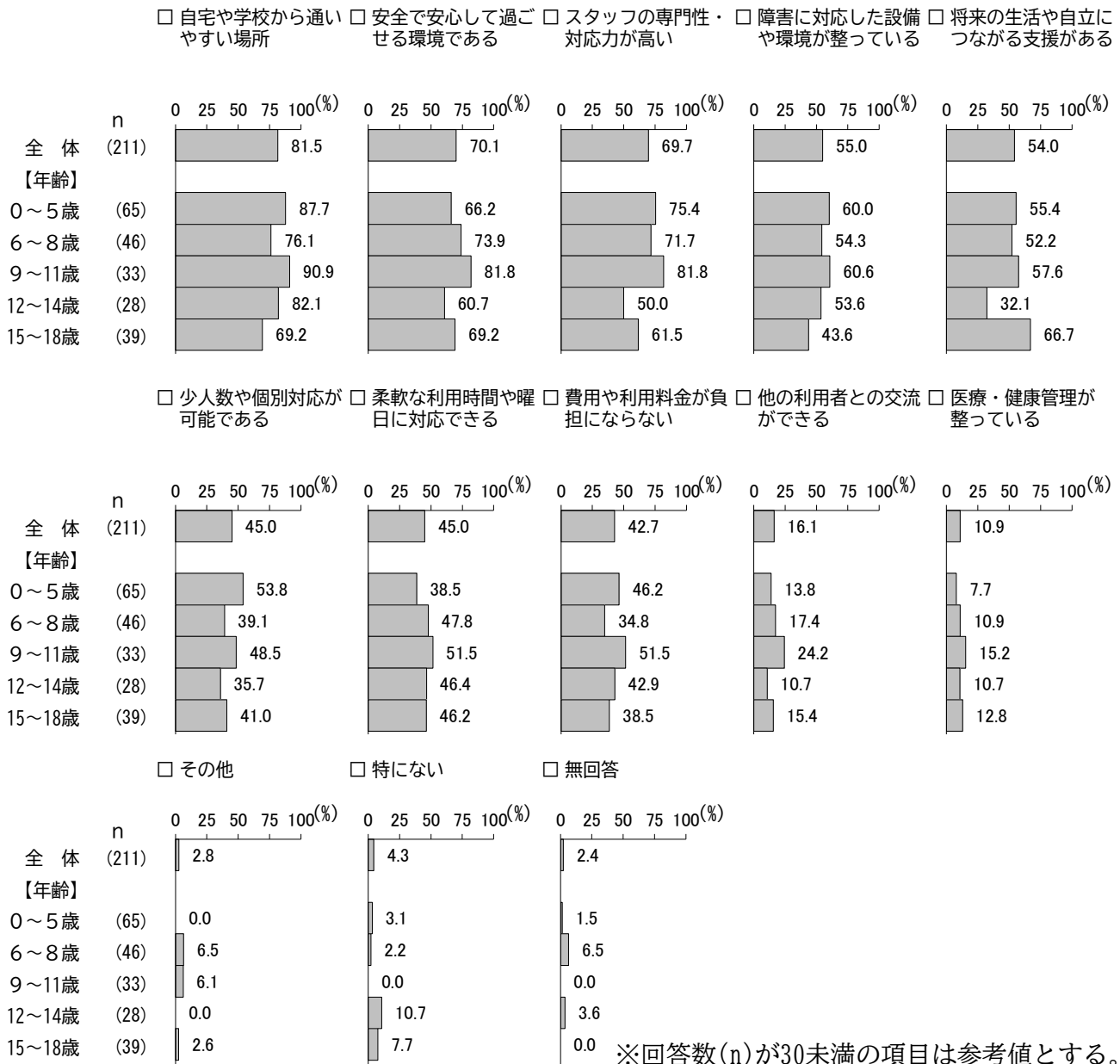
障害福祉サービスを利用する際の不便は、「何が利用できるのかわからない」が33.6%と最も高く、「サービスに関する情報が少ない」(32.7%)、「サービスを利用するための手続きが大変」(29.9%)、「事業所との利用日時などの調整が大変」(28.0%)となっている。一方、「特にない」が24.2%と高くなっている。

年齢別にみると、6～8歳では「サービスに関する情報が少ない」「サービスを利用するための手続きが大変」が、9～11歳では「利用できる回数や日数が少ない」「自分に合う事業所が見つからない」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、12～14歳は「サービスの利用方法がわかりづらい」「利用したい内容のサービスがない」「サービスが障害の特性に合っていない」「何が利用できるのかわからない」が高くなっている。一方、0～5歳では「特にない」が30.8%と高くなっている。

(6) 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に重視すること

問25 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に、特に重視することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

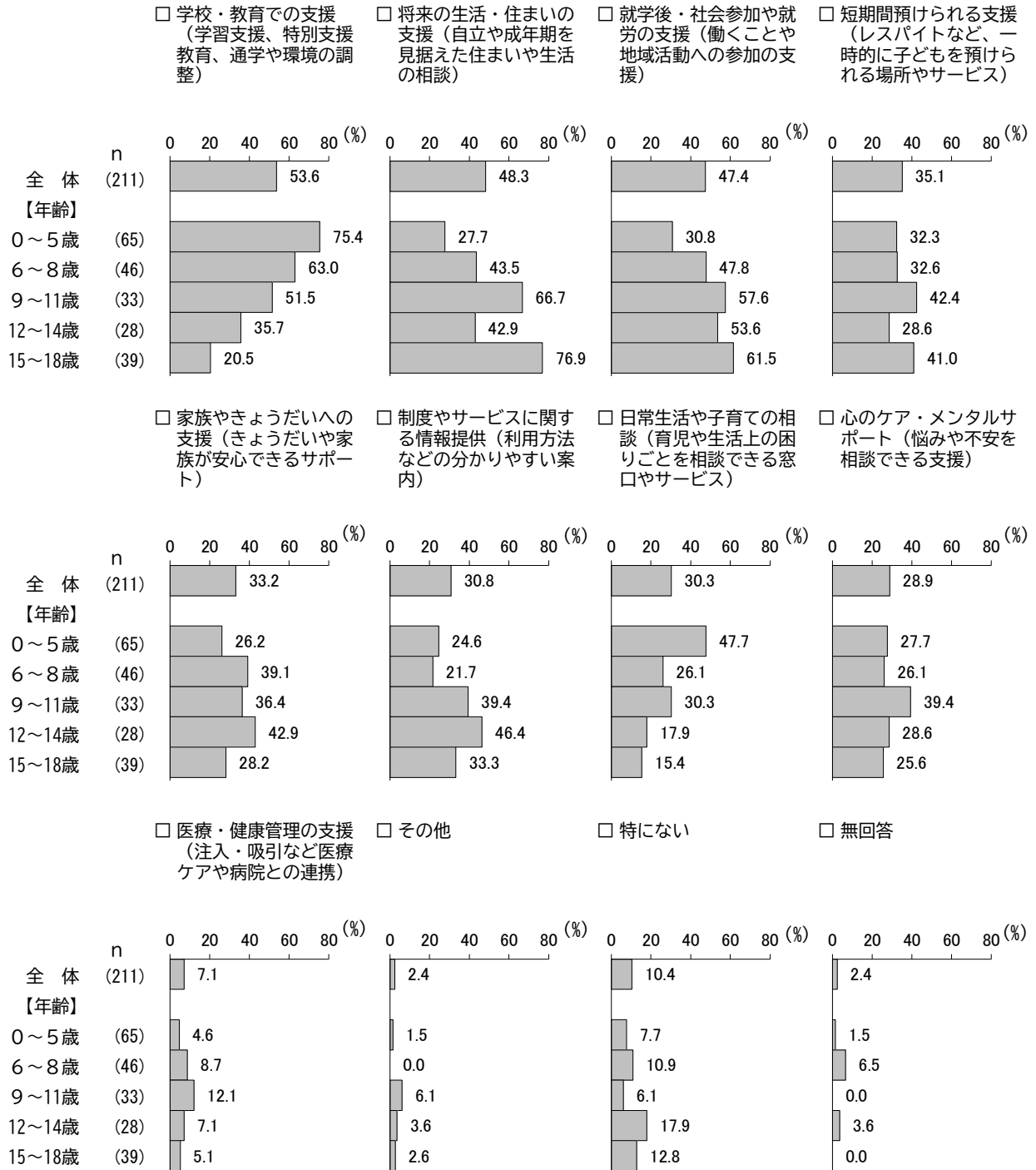


障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に重視することは、「自宅や学校から通いやすい場所」が81.5%と最も高く、「安全で安心して過ごせる環境である」(70.1%)、「スタッフの専門性・対応力が高い」(69.7%)、「障害に対応した設備や環境が整っている」(55.0%)となっている。一方、「特にない」は4.3%となっている。

年齢別にみると、0~5歳では「少人数や個別対応が可能である」が、9~11歳では「自宅や学校から通いやすい場所」「安全で安心して過ごせる環境である」「スタッフの専門性・対応力が高い」「費用や利用料金が負担にならない」が、15~18歳では「将来の生活や自立につながる支援がある」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

(7) 将来、生活における不安と必要な支援

問26 あなたや家族の方が、将来、生活をしていくうえで、不安に感じていることや受けたい支援を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

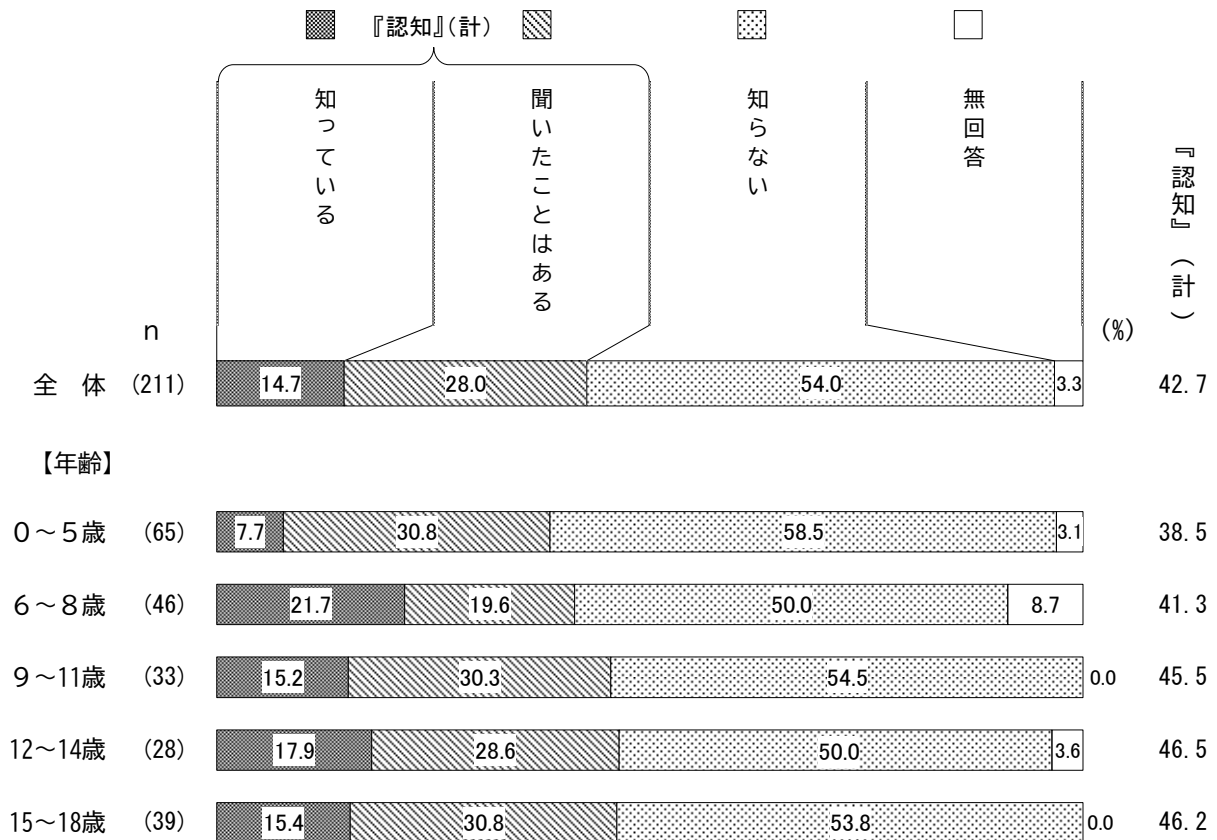
将来、生活における不安と必要な支援は、「学校・教育での支援（学習支援、特別支援教育、通学や環境の調整）」が53.6%と最も高く、次いで「将来の生活・住まいの支援（自立や成年期を見据えた住まいや生活の相談）」（48.3%）、「就学後・社会参加や就労の支援（働くことや地域活動への参加の支援）」（47.4%）、「短期間預けられる支援（レスパイトなど、一時的に子どもを預けられる場所やサービス）」（35.1%）となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「学校・教育での支援（学習支援、特別支援教育、通学や環境の調整）」「日常生活や子育ての相談（育児や生活上の困りごとを相談できる窓口やサービス）」が、9～11歳では「心のケア・メンタルサポート（悩みや不安を相談できる支援）」が、15～18歳では「将来の生活・住まいの支援（自立や成年期を見据えた住まいや生活の相談）」「就学後・社会参加や就労の支援（働くことや地域活動への参加の支援）」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、回答数は30件未満と少ないが、12～14歳は「制度やサービスに関する情報提供（利用方法などの分かりやすい案内）」が高くなっている。

11. 障害者差別について

(1) 障害者差別解消法の認知状況

問27 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

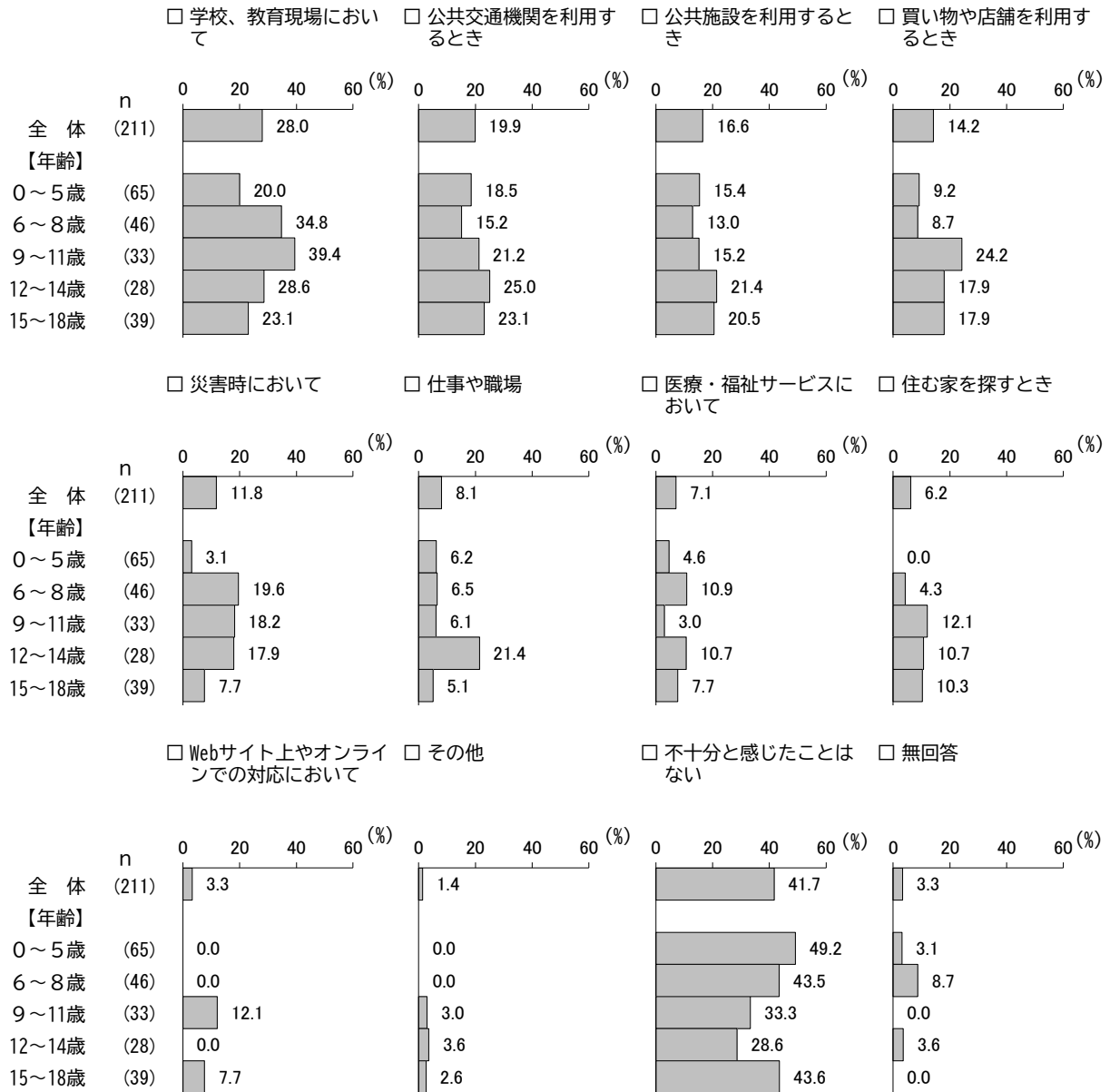
障害者差別解消法の認知状況は、「知っている」は14.7%、「聞いたことはある」は28.0%となり、両者をあわせた『認知』は42.7%となっている。

年齢別にみると、『認知』は6～8歳から15～18歳の層で4割台となっている。6～8歳では「知っている」が21.7%と他の年齢層より高くなっている。

(2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面

問28 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

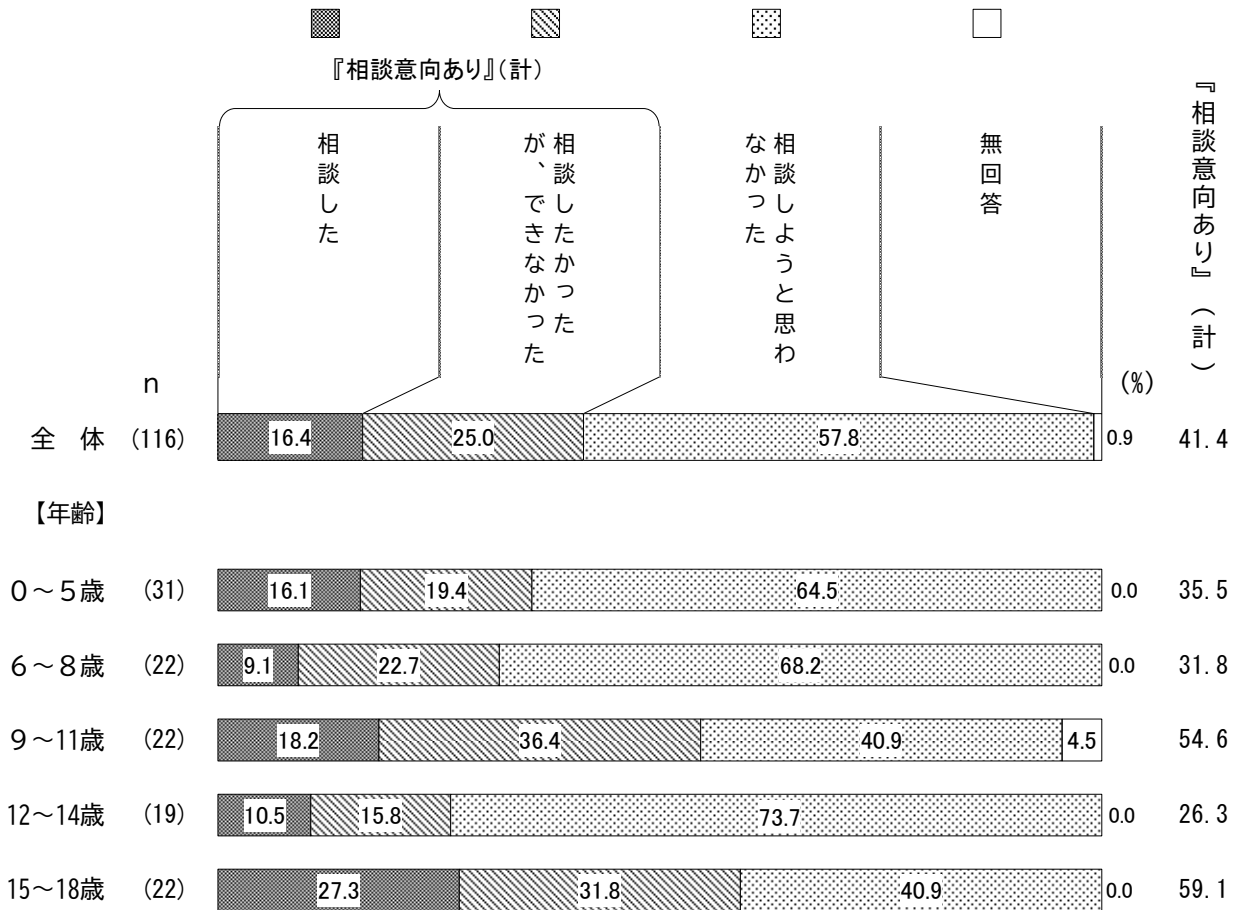
合理的配慮が不十分だと感じる場面は、「学校、教育現場において」が28.0%と高く、次いで「公共交通機関を利用するとき」(19.9%)、「公共施設を利用するとき」(16.6%)、「買い物や店舗を利用するとき」(14.2%)となっている。一方、「不十分と感じたことはない」が41.7%と最も高くなっている。

年齢別にみると、6~8歳では「災害時において」が、9~11歳では「学校、教育現場において」「買い物や店舗を利用するとき」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、12~14歳は「仕事や職場」が高くなっている。一方、0~5歳では「不十分と感じたことはない」が49.2%と高くなっている。

(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験

【問28で不十分だと感じた場面があったと回答した方（1～10のいずれかを選択）にお聞きします。】

問28-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。（家族や友人を除く）（1つに○）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

差別を受けたと感じたときの相談経験は、「相談した」は16.4%にとどまっている。「相談したかったが、できなかった」は25.0%、「相談しようと思わなかった」は57.8%となっている。「相談した」と「相談したかったが、できなかった」の両者をあわせたものを『相談意向あり』として捉えると、41.4%となっている。

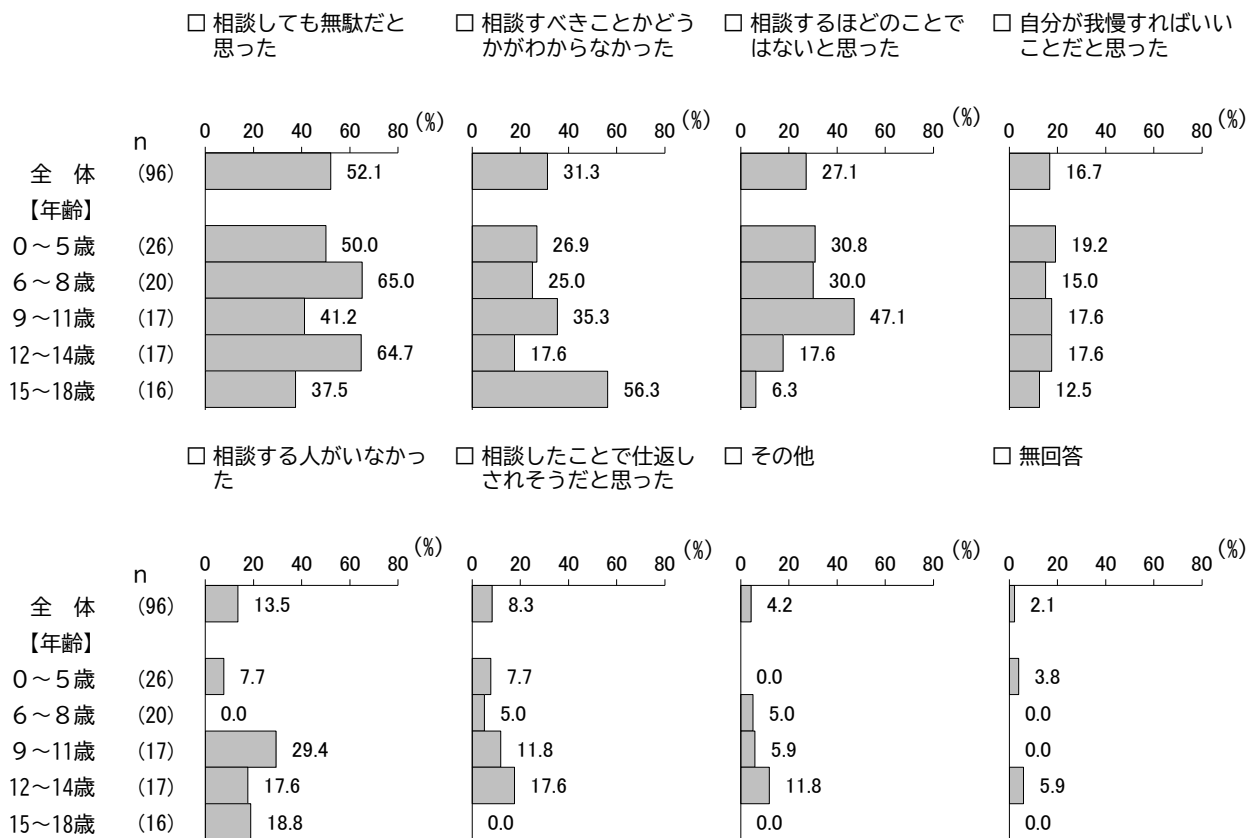
年齢別にみると、0～5歳では「相談しようと思わなかった」が64.5%と高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、9～11歳と15～18歳では『相談意向あり』が5割を超えている。

(4) 相談しなかった（できなかった）理由

【問28-1で相談できなかった/しなかったと回答した方（2・3のいずれかを選択）にお聞きします。】

問28-2 どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。

（あてはまるものすべてに○）



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

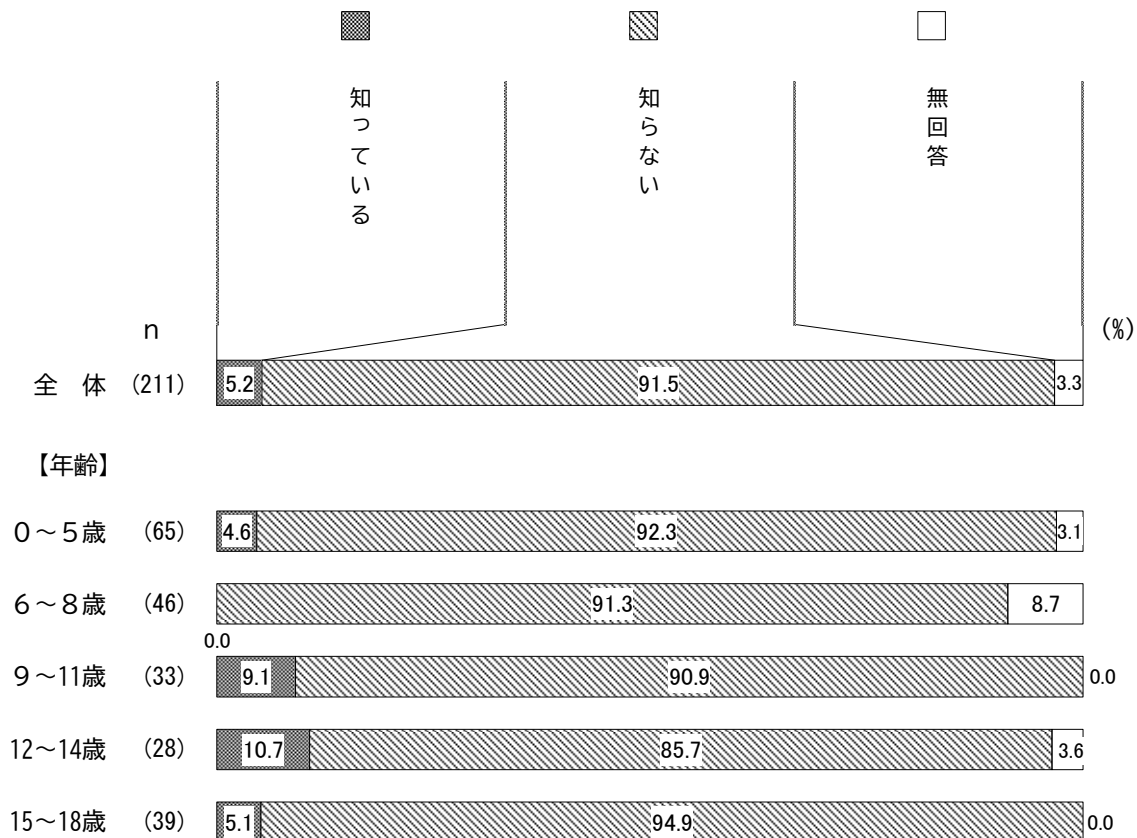
相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても無駄だと思った」が52.1%と最も高く、次いで「相談すべきことかどうかがわからなかった」（31.3%）、「相談するほどのことではないと思った」（27.1%）、「自分が我慢すればいいことだと思った」（16.7%）となっている。

年齢別は、サンプル数は30件未満と少ないが、6～8歳と12～14歳は「相談しても無駄だと思った」が、9～11歳では「相談するほどのことではないと思った」が、15～18歳では「相談すべきことかどうかがわからなかった」が高くなっている。

12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について

(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知

問29 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)



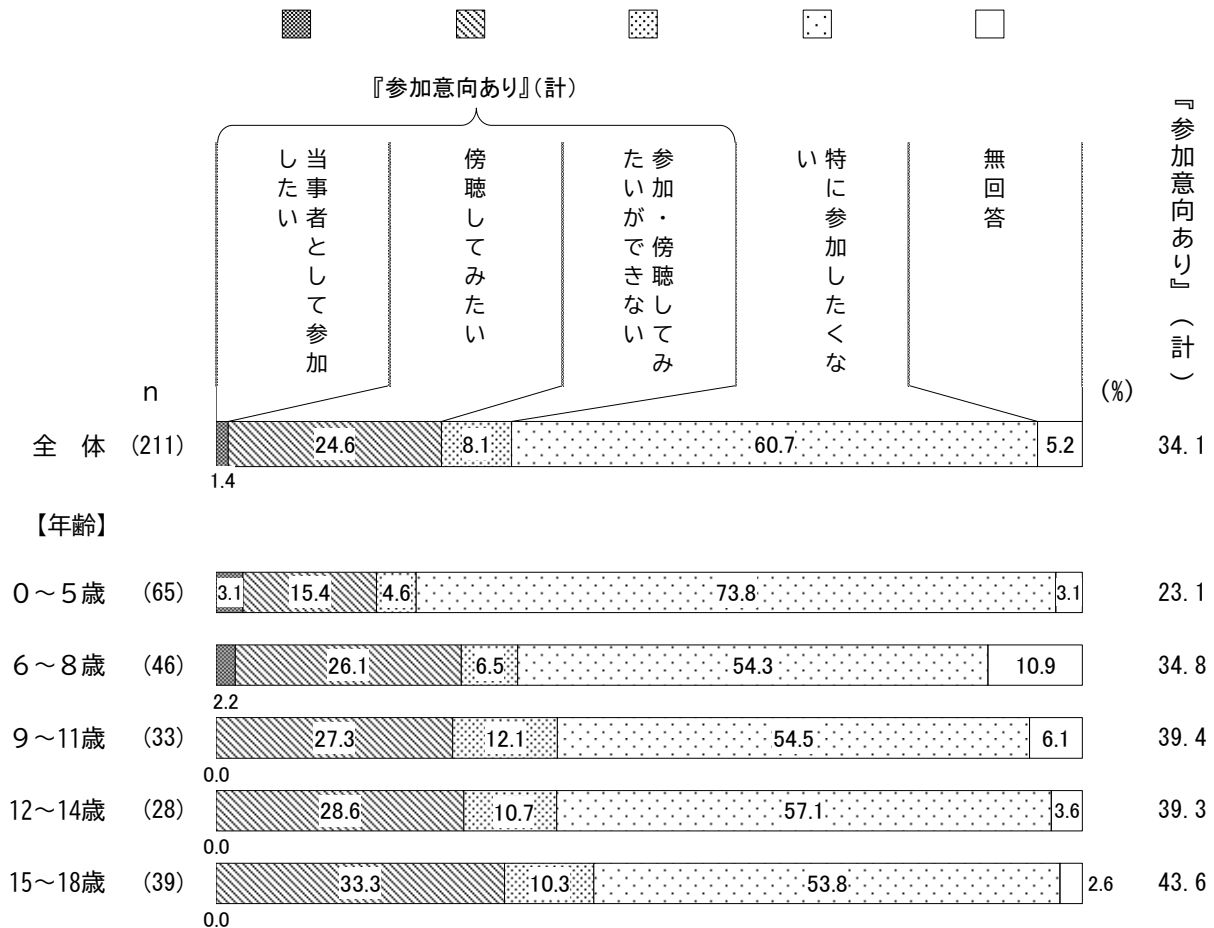
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

武蔵野市地域自立支援協議会の認知は、「知っている」は5.2%、「知らない」は91.5%を占めている。

年齢別にみると、15～18歳では「知らない」が94.9%とやや高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、12～14歳では「知っている」が10.7%となっている。

(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向

問30 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)



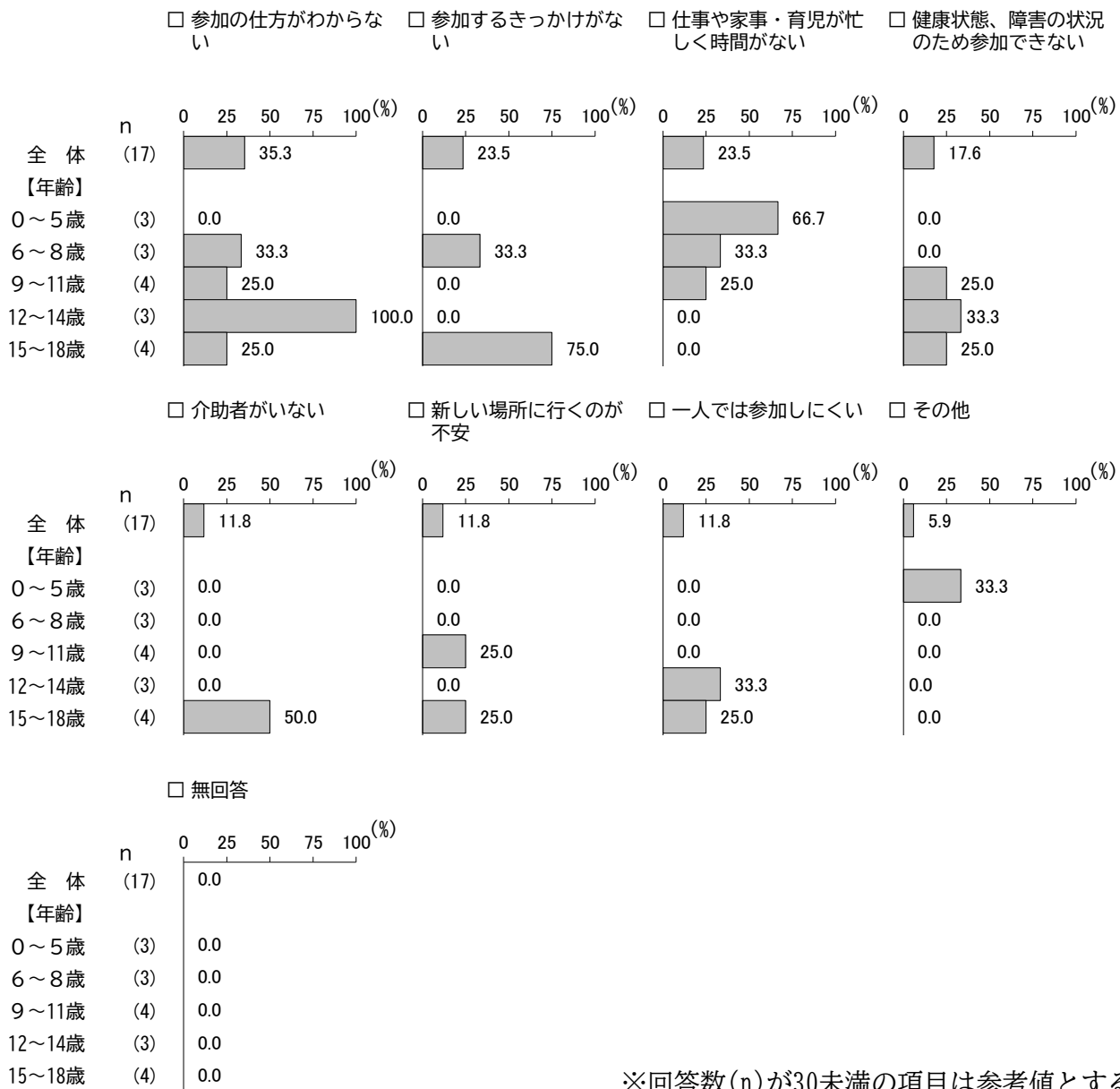
武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向は、「当事者として参加したい」は1.4%、「傍聴してみたい」は24.6%、「参加・傍聴してみたいができない」は8.1%となっている。なお、「特に参加したくない」が60.7%と高い。「当事者として参加したい」と「傍聴してみたい」、「参加・傍聴してみたいができない」をあわせたものを『参加意向あり』として捉えると、34.1%となっている。

年齢別にみると、『参加意向あり』はおおむね年齢層が上がるにつれて高くなっている。15～18歳では「傍聴してみたい」が33.3%と他の年齢層より高くなっている。

(3) 参加・傍聴できない理由

【問30で「3 参加・傍聴してみたいができない」と回答した方にお聞きします。】

問30-1 参加・傍聴できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



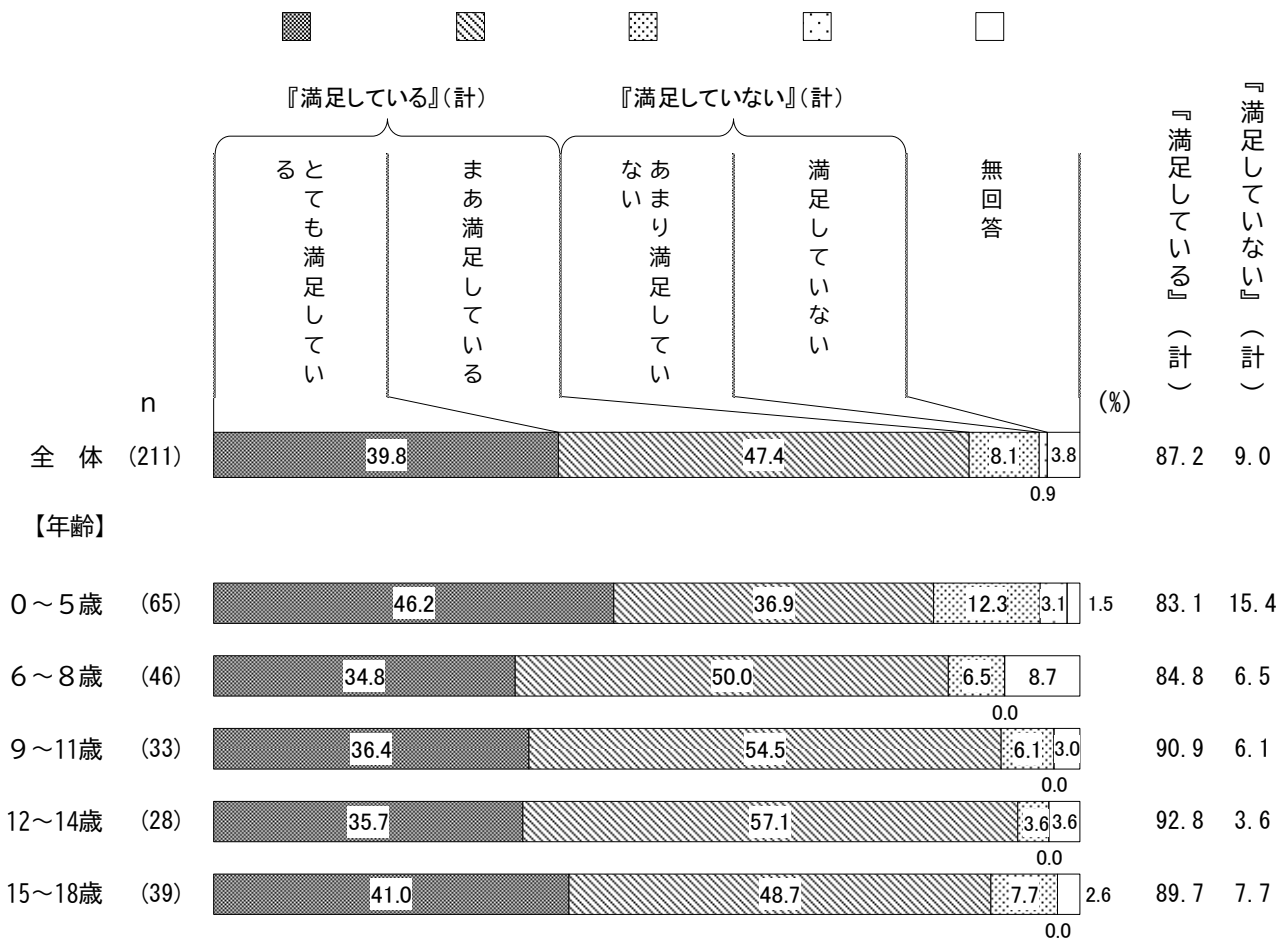
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

参加・傍聴できない理由は、サンプル数が30件未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外している。

13. 住まいについて

(1) 現在の住まいの満足度

問31 あなたは、現在の住まいに満足していますか。(1つに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

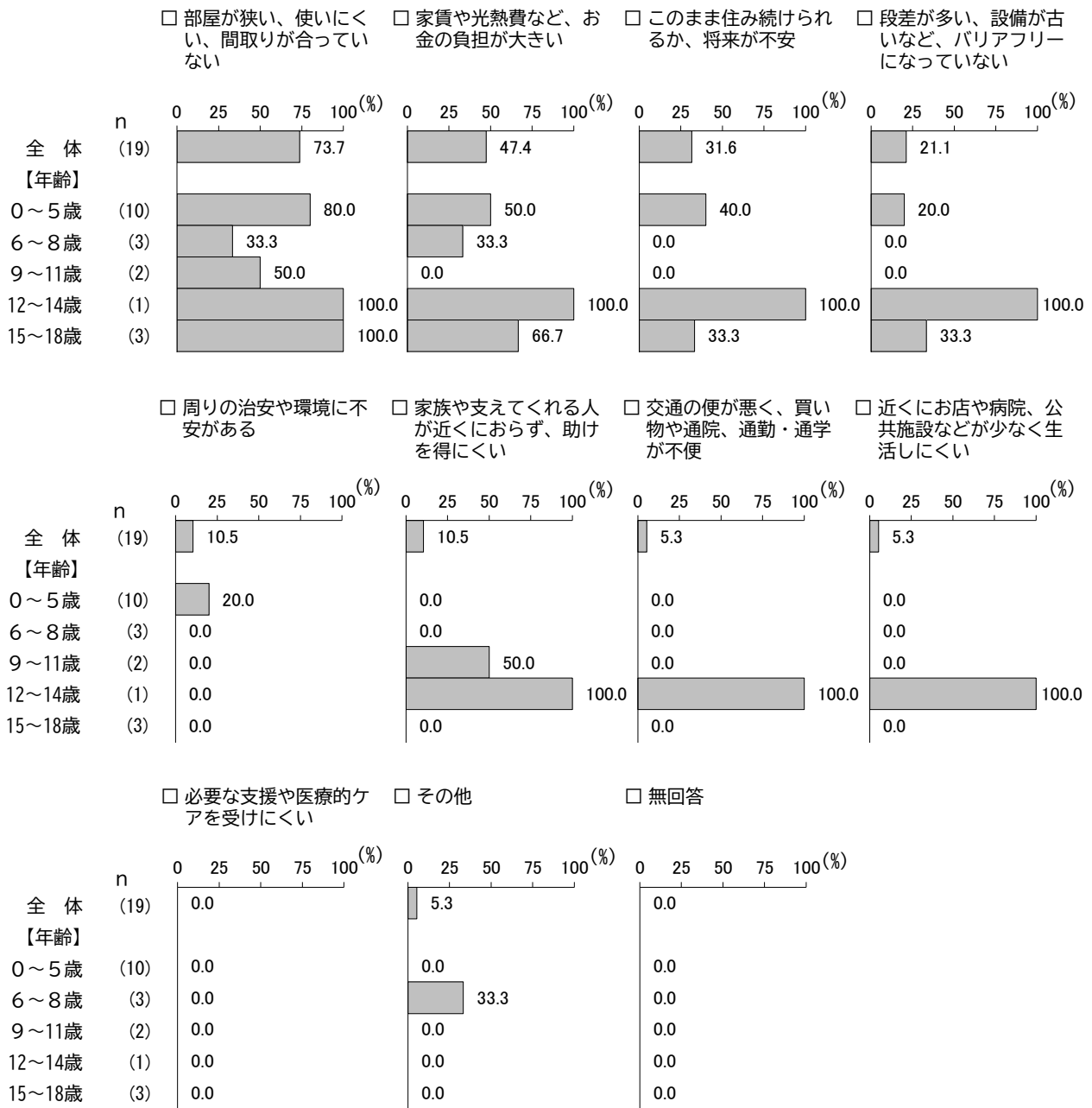
現在の住まいの満足度は、「とても満足している」は39.8%で、「まあ満足している」(47.4%)をあわせた『満足している』は87.2%となっている。『満足していない』(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は9.0%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「とても満足している」が46.2%と他の年齢層より高くなっている一方、『満足していない』も15.4%と他の年齢層より高くなっている。

(2) 満足していない理由

【問31で満足していないと回答した方(3・4のいずれかを選択)にお聞きします。】

問31-1 満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

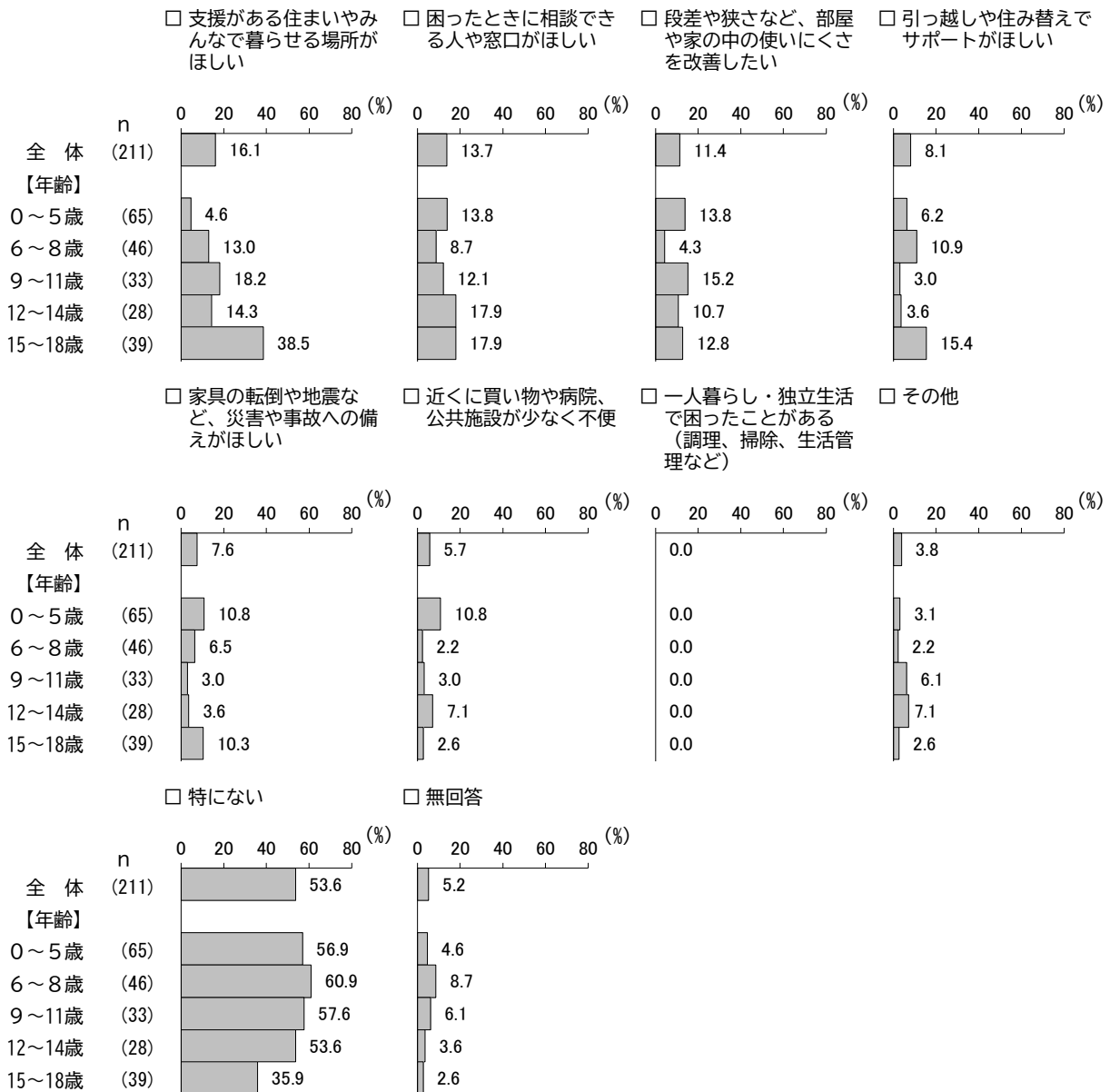
満足していない理由は、サンプル数が30件未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外している。

(3) 住まいに関する困りごとや必要な支援

【すべての方にお聞きします。】

問32 あなたの住まいで困っていることや、必要としている支援はありますか。

(あてはまるものすべてに○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

住まいに関する困りごとや必要な支援は、「支援がある住まいやみんなで暮らせる場所がほしい」が16.1%と高く、次いで「困ったときに相談できる人や窓口がほしい」(13.7%)、「段差や狭さなど、部屋や家の中の使いにくさを改善したい」(11.4%)となっている。一方、「特になし」が53.6%と最も高くなっている。

年齢別にみると、15~18歳では「支援がある住まいやみんなで暮らせる場所がほしい」が他の年齢層より高くなっている。一方、6~8歳では「特になし」が60.9%と高くなっている。

(4) 10年後の暮らし方

問33 あなたは、10年後どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

	回答者数 (n)	独立して暮らしたい	家族と一緒に暮らしたい	グループホームで暮らしたい	入所施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
単位：%								
全体	211	12.3	55.9	6.6	2.4	-	19.4	3.3
年齢	0～5歳	65	6.2	70.8	1.5	-	20.0	1.5
	6～8歳	46	4.3	69.6	-	2.2	15.2	8.7
	9～11歳	33	12.1	48.5	3.0	6.1	27.3	3.0
	12～14歳	28	10.7	53.6	3.6	3.6	25.0	3.6
	15～18歳	39	33.3	23.1	28.2	2.6	-	12.8

※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

10年後の暮らし方は、「家族と一緒に暮らしたい」が55.9%と最も高く、次いで「独立して暮らしたい」(12.3%)、「グループホームで暮らしたい」(6.6%)となっている。一方、「わからない」が19.4%と高くなっている。

年齢別にみると、0～5歳と6～8歳では「家族と一緒に暮らしたい」が、15～18歳では「独立して暮らしたい」「グループホームで暮らしたい」が高くなっている。一方、9～11歳では「わからない」が27.3%と高くなっている。

(5) グループホームへの入居希望時期

【問33で「3 グループホームで暮らしたい」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 グループホームへの入居は、いつ頃から希望しますか。(1つに○)

		回答者数 (n)	1年以内に入居したい	3年以内に入居したい	5年以内に入居したい	10年以内に入居したい	10年以上先に入居したい	その他	わからない	具体的な時期は決めていない	無回答
単位：%											
全体		14	-	-	21.4	42.9	28.6	-	-	7.1	-
年齢	0～5歳	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	6～8歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9～11歳	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	12～14歳	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	15～18歳	11	-	-	27.3	54.5	18.2	-	-	-	-

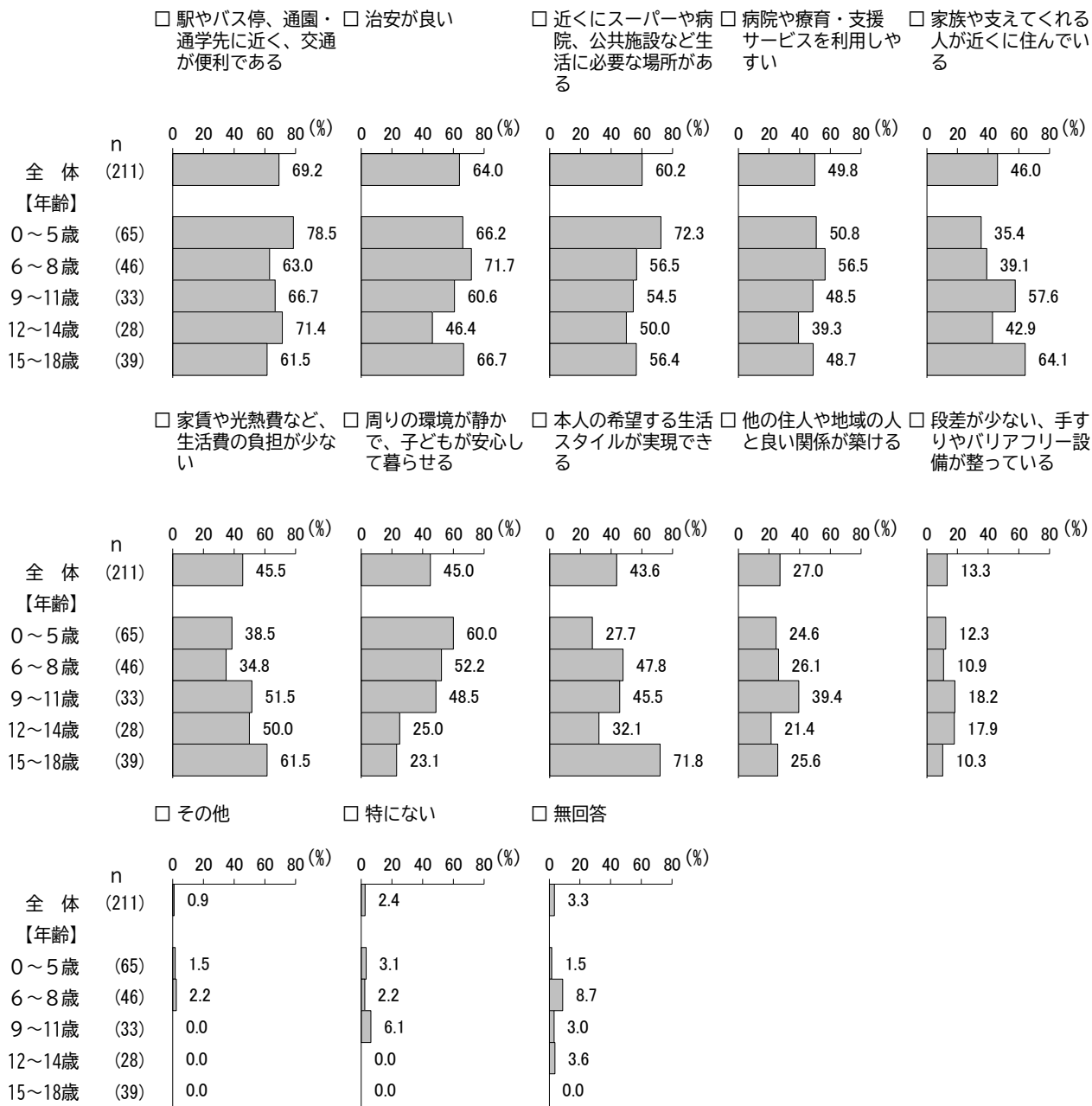
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

グループホームへの入居希望時期は、サンプル数は30件未満と少ないが、15～18歳は「10年以内に入居したい」が高くなっている。

(6) 住まいを選ぶ際に重視すること

【すべての方にお聞きします。】

問34 住まいを選ぶ際に特に重視することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



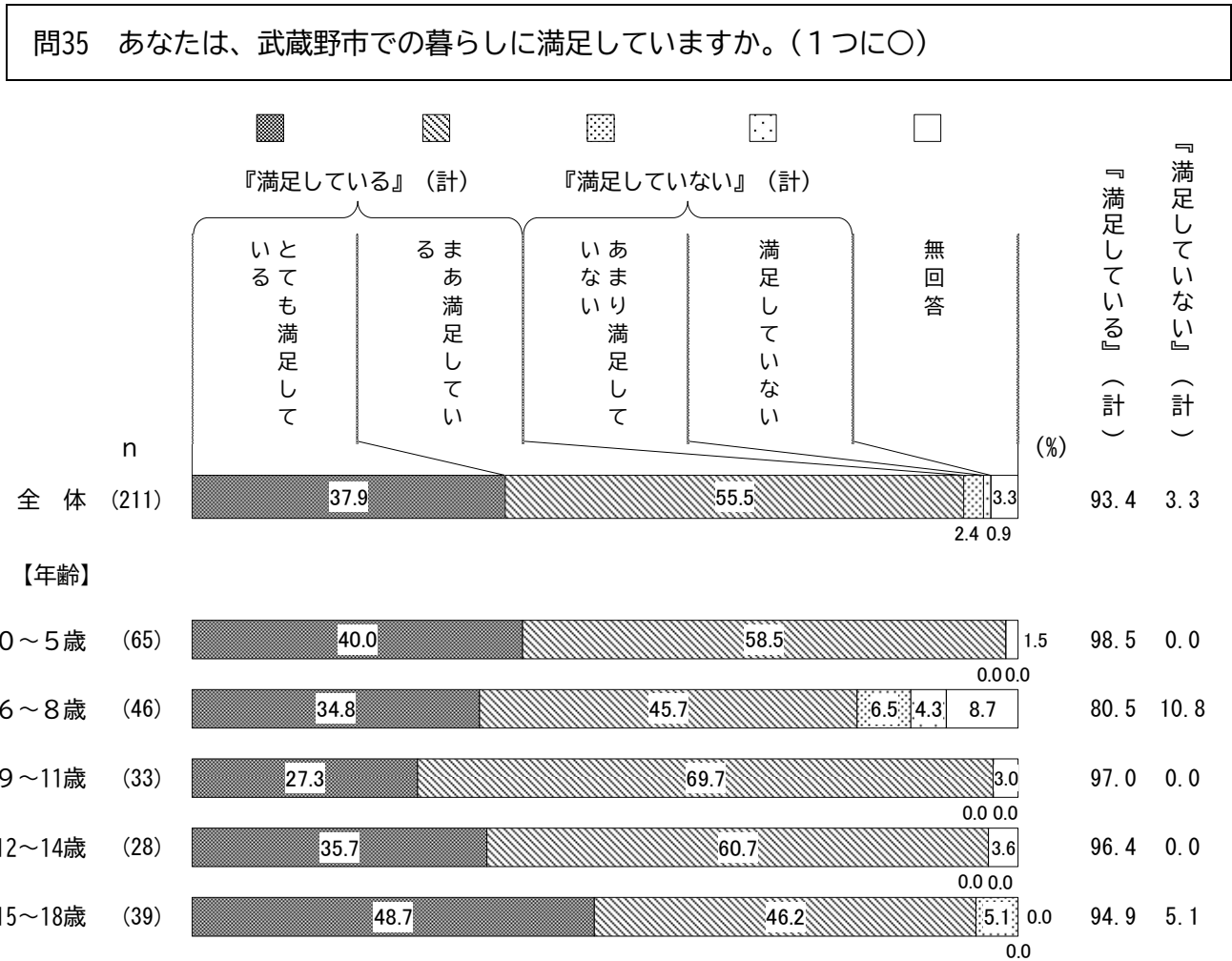
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

住まいを選ぶ際に重視することは、「駅やバス停、通園・通学先に近く、交通が便利である」が69.2%と最も高く、次いで「治安が良い」(64.0%)、「近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある」(60.2%)、「病院や療育・支援サービスを利用しやすい」(49.8%)となっている。一方、「特にない」は2.4%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「駅やバス停、通園・通学先に近く、交通が便利である」「近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある」「周りの環境が静かで、子どもが安心して暮らせる」が、6～8歳では「治安が良い」が、9～11歳では「他の住人や地域の人と良い関係が築ける」が、15～18歳では「家族や支えてくれる人が近くに住んでいる」「家賃や光熱費など、生活費の負担が少ない」「本人の希望する生活スタイルが実現できる」がそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

14. 今後のことについて

(1) 武蔵野市での暮らしの満足度



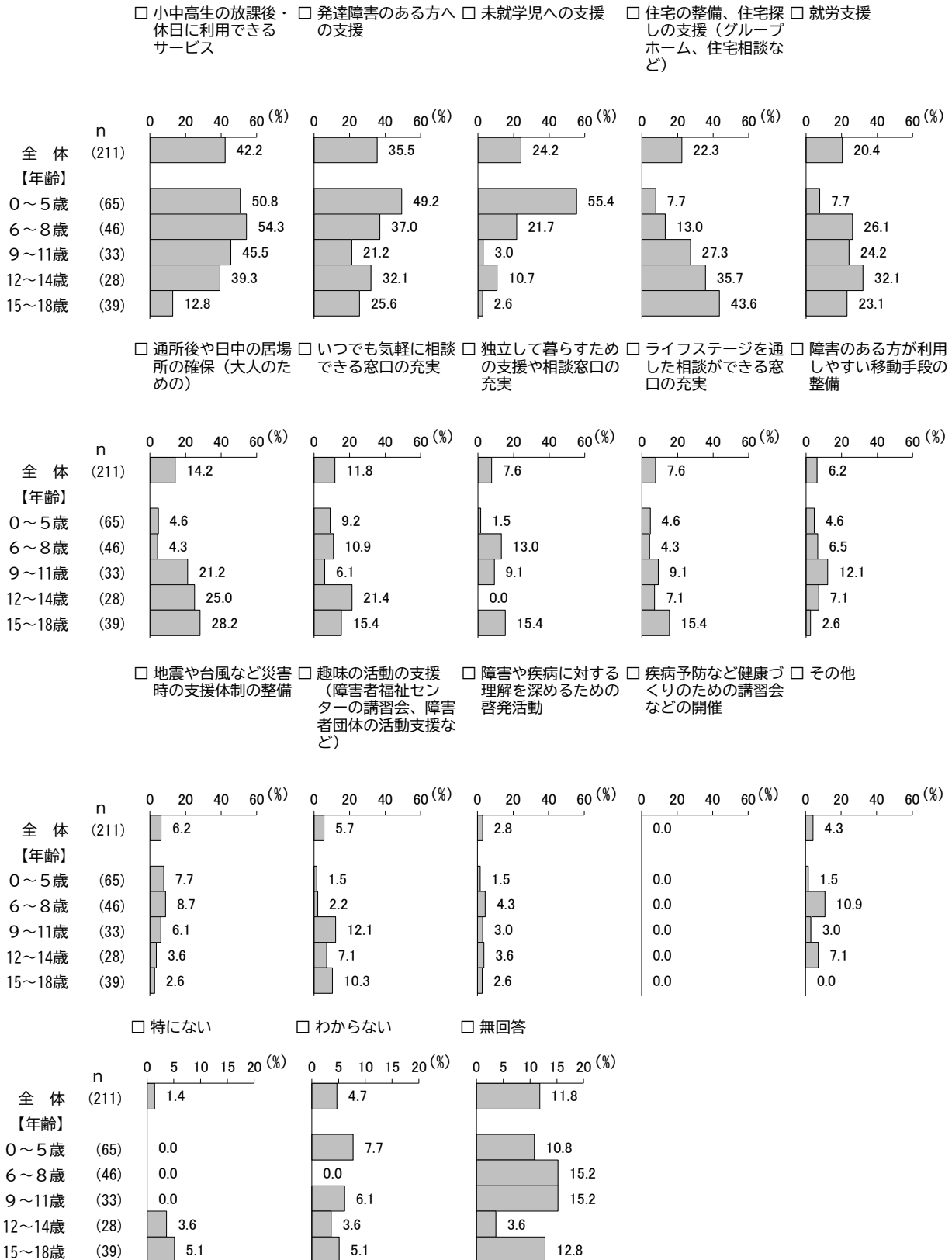
※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

武蔵野市での暮らしの満足度は、「とても満足している」は37.9%で、「まあ満足している」(55.5%)をあわせた『満足している』は93.4%となっている。『満足していない』(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は3.3%となっている。

年齢別にみると、『満足している』は6～8歳を除く全ての年齢層で9割台となっている。6～8歳では『満足していない』が10.8%と他の年齢層より高くなっている。15～18歳では「とても満足している」が48.7%と他の年齢層より高くなっている。

(2) 充実すべき障害者福祉施策

問36 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)



※回答数(n)が30未満の項目は参考値とする。

第3章 調査結果の詳細

充実すべき障害者福祉施策は、「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」が42.2%と最も高く、次いで「発達障害のある方への支援」(35.5%)、「未就学児への支援」(24.2%)、「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」(22.3%)、「就労支援」(20.4%)となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「発達障害のある方への支援」「未就学児への支援」が、6～8歳では「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」が、9～11歳では「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」が、15～18歳では「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」「通所後や日中の居場所の確保（大人のための）」が他の年齢層より高くなっている。また、サンプル数は30件未満と少ないが、12～14歳は「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」「就労支援」「通所後や日中の居場所の確保（大人のための）」「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が高くなっている。

(3) 自由回答

問37 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、94件の記述があった。その内容を分類し、公開可（公開不可、不明を除く）とされている意見から、代表的なものを抽出した。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述、また同じ分類枠でも内容が大きく異なる場合は、それぞれをカウントするため、件数は延べ件数となる。

※意見は誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

◆教育・学校（15件）

- ・ハンデを持つ子どもたちが、それぞれのペースで安心して過ごせるようになってほしい。また、保育園、幼稚園、小中学校において、インクルーシブ教育が必要。健常児の中に、あたり前のようにハンデのある子が存在できるように合理的配慮は必要だが、同じ空間に共存していけるように、大人の理解や指導が子どもの過ごしやすさを決めていく。
- ・武蔵野市では、小中学校に特別支援学級（情緒級）がありません。三鷹市や西東京市にはあるので、早急に武蔵野市にも設けて頂きたいです。また市内の幼稚園の多くが発達障害児の受け入れを断っている現状があります。町田市のように受け入れ可能な幼稚園のリストを市のホームページに載せて頂けるとありがたいです。
- ・市立の保育園に通っていますが、先生方の理解が低く支援も少ないので、頼ったり相談できる日々の相手がいません。また就学後についても発達障害グレーゾーンの子どもへの支援が少なく不安しかありません。
- ・武蔵野市の障害福祉はとても充実していると思いますが、小学校の情緒特別支援級がないため、小学校入学を見据えて近隣の市に引越しを検討しています。情緒級のニーズはかなりあると思いますので、もし情緒級が新設されましたら、親御さんの安心に繋がるかとおもいます。
- ・武蔵野市の子供達は住む地域によって、いくつかの特別支援学校へ別れて通学しなければなりません。慣れ親しんだ友達と別れて、バスに乗り、遠くの学校へ通うことは地域で孤立してしまいます。市立の特別支援学校の設置を要望いたします。

◆障害児（預かり）（10件）

- ・障害児が通うデイサービスの長期休暇中の時間を長くして欲しい。学校卒業後に、作業所後の余暇活動時間の場所を提供して欲しい。
- ・このような調査を行っていただきありがとうございます。小6、発語なし、こだわりが強く、多動のはげしい子供です。（身体障害なし）休日の過ごし方に苦心しており、井の頭はうす、なごみの家の予約枠を増やしていただけたらと思います。来年からは宿泊も可能のよ

うで、そちらも利用したいと考えています。預け先について複数持っていたいという希望があり、短時間でもよいので預かってくれる施設、支援員の方がいると心づよいです。

- ・療育施設、放課後等デイサービスの拡充を求めます。
- ・放課後等デイサービスの枠を拡充してほしい。
- ・父母ともに働いています。放課後等デイサービスも空きがあったとしても学校と自宅が送迎の範囲外だったり送迎をしていない事業所があるので、送迎サポートの対応をしていただくと助かります。（三鷹市は無料で送迎サポートを受けられると聞きました）
- ・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスは市内の東側（吉祥寺周辺）に多く、西側（武蔵境周辺）には少ない。この偏りを解消してほしい。

◆市の福祉施策の評価（9件）

- ・いろいろと支援していただけてありがたい。
- ・武蔵野市はホームページも見やすいし、小児の遊び場（子育て支援センターなども）もたくさんあり、素晴らしいです。窓口も充実しているので、あとはどう利用させて頂くかだと思います。書類などは難しく感じる人もいるのかな、と思います。なので分からない事があたら自分（母親）は講習会に参加して、障害者のための制度のことなどを学習しています。
- ・武蔵野市の障害福祉はとても充実していると思いますが、小学校の情緒特別支援級がないため、小学校入学を見据えて近隣の市に引越しを検討しています。情緒級のニーズはかなりあると思いますので、もし情緒級が新設されましたら、親御さんの安心に繋がるかとおもいます。
- ・当人が小学生なので小学生までの制度でいえば、固定の情緒級が無いことや、保育所等訪問支援が導入されたばかりなこと、放課後等デイサービスの利用申請にあたり手帳もしくは診断が必要というのは他地域より障害福祉が遅れている印象です。他地域の情報も集めて最新の制度を導入して欲しいなと思います。対して先生や支援員さんなど現場の方は皆さん良い方ばかりなので、この質を保って欲しいなと思います。
- ・小児です。未だに医療的ケア児、重症心身障害児に対しての体制や知識などが他の自治体と比べて遅れているように感じます。今後の発展を期待しております。

◆療育〔発達支援〕（9件）

- ・幼稚園で集団での発達について指摘を受け、そこからハビットで初回面談するまで1ヶ月以上かかりました。（そこからは割とスムーズでしたが）必要としている方が多く、またスタッフの方も限りがあることは理解していますが不安な気持ちのまま初回面談を待つのは辛かったです。せめて半月までくらいで一回は面談できるようにしていただけると、今後支援を受けようとする方は安心できるのではないかと思います。支援施設を見学し、比較検討し決定するのも時間がかかるため少しでも早く支援を受けられるようスタートは早くしてもらえると助かります。

- ・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスは市内の東側（吉祥寺周辺）に多く、西側（武蔵境周辺）には少ない。この偏りを解消してほしい。

◆相談・情報（7件）

- ・どんな支援があるのか、窓口がどこかがわかりにくい。気軽にわかりやすくアクセスできる場所があるとありがたい。現状の教育環境だと、知的障害の無い発達障害児の居場所が無い。もうすこしなんとかしてほしい。
- ・障害児者が生きていくことは本当に大変で、全ての障害児者に万全のサポートをお願いするのは難しいと思いますが、受けられるはずの支援について抜けがないよう、まずは福祉課窓口で障害児者や保護者への説明をお願いします。
- ・問い合わせがないとお知らせしない、サービスや情報を率先して対象者に案内して欲しい。幼児のときハビットで、療育受けられることも知らなかった。遠くの病院に通っていて、友人たちから知らされた。なかなか、問い合わせしにくいこともあります。
- ・昨年、療育を利用するためにまずハビットへ相談に行きましたが、初回相談をするのに混んでいて1ヶ月程度待った。混んでいるなら相談できる枠を拡大する必要があると感じた。相談員が足りないのなら人員を補充してほしい。初回相談で1ヶ月かかるだけでサービス利用を開始する時期が遅れる。児童発達においては特に早期介入が必要だと考えている。療育先はたまたま空きがあり、すんなり入ることができたが、自分の特性からどこの施設が合っているのかなどは案内がない。（偏りを避けるため案内ができない、のかもしれませんが。）親が調べたり見学したりして決めるしかないのだが、素人が見てわかるものでもなく、施設の選定も難しく感じた。また、療育を受けられる施設のホームページが更新されていないところが多く、調べようにも調べられないことが多かった。各施設が情報を更新する必要があると思った。

◆経済的支援（手当・助成・各種年金等）（5件）

- ・難病者福祉手当の所得制限をなくして欲しい。
- ・障害者への補助金は、収入で支給の有無がまじりますが、障害児はオムツ代や移動代など、継続して必要な費用があり、物価高の今、収入の区分の金額より収入があっても、実際はとてもきびしいです。区分の見直しをおねがいしたいです。
- ・各種サービスの所得制限を撤廃、または市独自金額に設定してほしい。

◆外出・バリアフリー・移動（4件）

- ・移動支援は未就学児および通学などは対象外で、非常に使い勝手が悪い。窓口で複数回訴えたが全く動きがない。送迎つきの放課後等デイサービスはどこも満員で全く入れない。
- ・武蔵境からだと市役所へ行きにくいので、そこだけなんとかなればとは思っています。

◆住居やグループホーム、施設入所等（4件）

- ・移動支援、ショートステイ、グループホームを増やして欲しいです。親亡き後がとても不安です。よろしくお願いいたします。

◆実態調査について（4件）

- ・このアンケートの質問項目が状況にそぐわないので回答する意味があるのか疑問だった。障害の診断を受けているかどうか、障害の内容や程度、大人、幼児、児童など段階別によって異なる質問内容にしないと、実態をつかめないと思う。

◆親なき後の不安（4件）

- ・家族がいなくなっても地域で生活できる体制の整備を進めてほしい。
- ・グループホームが少ないので今後親亡きあとのことが心配です。民営で機会があるなら補助金などの支援の拡充を、又、就労年齢になった後、仕事終わりに放課後等デイサービスのようない場所、居場所がないと親が仕事を諦めることになるので切実です。是非仕組みづくりをお願いします。

◆卒業後の受け皿や自立支援（4件）

- ・料理教室やお金の使い方など、自立に必要なスキルを育てる支援。一人暮らしに対する支援。相談窓口の一本化。わかりやすい情報提供。
- ・学校卒業後に、作業所の後の余暇活動時間の場所を提供して欲しい。
- ・就学～青年、成人以降の支援は、やや少ないと思います。住宅、生活と就労の3本立てで自立、自立の出来る進路選択が広がるようお願いします。

◆福祉全般・制度（3件）

- ・いつも精一杯ご対応いただいていると思います。施策の幅を広げることよりも、足元の優秀な人材への適切な処遇、移動支援やヘルパーなど委託団体への適切な報酬をいただくことで、より豊かな人材が集まり、結果的に福祉サービスの向上につながるかなと思います。施策の幅を広げるだけでなく、足元の携わっている方への何かしらの処遇改善をいただくことで結果的に我々サービス利用者に還元されるものがあると思います。

◆職員・市役所（3件）

- ・相談窓口をわかりやすくふやしてほしい。いろいろな問題をかかえている人達が少しでも解決できるようにしてほしい。窓口のスタッフもある程度知識のある方がいた方が良いと思います。
- ・市役所でも事業所でも親切に対応して頂けておりますので、今のところ不満はありません。

◆障害の理解、健常者の意識啓発（2件）

- ・ 障害者に対する理解を学生のうちから深められるような教育を強く望みます。

◆災害時の対応（2件）

- ・ 避難所へのペット同伴は止めてほしい。毛や羽根でアレルギーを起こしたり喘息発作になるからだ。また、マナーの心配も有るし、平常時と違い犬猫が興奮して走り回る懸念もある。更にペットは“家族だから”と無理やり一緒に過ごそうとする人が出てくる可能性も否定出来ず、本当に嫌である。

◆活動・交流・講座等（1件）

- ・ 障害児のための水泳教室や体そう教室、音楽教室、英会話教室など気軽に参加できる教室を増やして欲しいです。

◆その他（1件）

- ・ 認定保育園の募集などで「障害児枠」や「サポート保育」など表現が様々で同じ意味なのかわかりにくい。また発達障害当事者や家族は「障害児」と呼称される事にもやや困惑する。

第4章 調査票

武蔵野市 障害福祉についての実態調査

～生活支援ニーズ調査～



日頃より武蔵野市の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、武蔵野市が実施するもので、調査対象者として令和7年11月1日現在、障害者手帳をお持ちの方、医療費の助成を利用されている方、障害児サービスを利用されている方などから無作為で抽出した3,000名の方へ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

調査結果は、来年度改定を予定している武蔵野市障害者計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されたりすることは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

令和7年12月

武蔵野市長

小美濃安弘

【回答のしかた】 次の2つの方法からいずれか1つを選び回答してください。

1. 調査票（この冊子）に直接記入し郵送（返信用封筒を同封しております。）
→下記＜調査票記入上の注意事項＞をご覧くださいご記入ください。
2. パソコン・タブレット・スマートフォンでインターネット回答
→別紙「インターネットによる回答方法」をご覧くださいご回答ください。

＜調査票記入上の注意事項＞

- ◆ 封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人が直接回答することが難しい場合は、家族や介護をする方などが、ご本人の意向を尊重してご回答ください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）などと指定されていますので、ご確認のうえご回答ください。
- ◆ ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、おひとりでの記入が難しい方もご相談ください。また、ルビ付きや、拡大版は障害者福祉課にもご用意がございます。ご希望の方はお申し出ください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

12月23日（火）までに ご投函ください。

お問合せ先

武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課 実態調査担当

電話：0422-60-1904、1847 FAX：0422-51-9239 E-mail：SEC-SYUGAI@city.musashino.lg.jp

※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません。

※回答の重複を避けるためにIDを付番しています。個人を特定することはありません。

※両方ご回答いただいた場合、インターネットでの回答が優先されます。

ID:

1. 回答者についてお聞きします。

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 宛名のご本人が記入 |
| 2 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入 |
| 3 宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入 |
| 4 その他 () |

以下、すべての設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人のことです。

封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や支援者の方がご本人のことをお答えください。

2. あなた（封筒の宛名のご本人）についてお聞きします。

問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 年 齢 (令和7年11月1日現在)	1 19～29歳	3 40～49歳	5 65～74歳
	2 30～39歳	4 50～64歳	6 75歳以上
② 性 別	1 男性	2 女性	3 その他
③居住地域	1 吉祥寺東町	6 中町	11 境
	2 吉祥寺南町	7 西久保	12 境南町
	3 御殿山	8 緑町	13 桜堤
	4 吉祥寺本町	9 八幡町	14 その他
	5 吉祥寺北町	10 関前	()

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 持ち家・ご家族の持ち家 | 4 UR都市機構 | 7 病院に入院中 |
| 2 民間の賃貸住宅 | 5 福祉型住宅 | 8 施設に入所中 |
| 3 都営・市営住宅 | 6 グループホーム | 9 その他 () |

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1 ひとり暮らし | 6 子・子の配偶者(妻・夫) |
| 2 父母 | 7 孫・孫の配偶者(妻・夫) |
| 3 祖父母 | 8 施設やグループホームで生活している |
| 4 配偶者(妻・夫) | 9 その他 () |
| 5 兄弟・姉妹 | |

問5 あなたの世帯全体の令和6（2024）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）

※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。

1 収入はない	5 150～200万円未満	9 500～1,000万円未満
2 50万円未満	6 200～300万円未満	10 1,000万円以上
3 50～100万円未満	7 300～400万円未満	11 わからない
4 100～150万円未満	8 400～500万円未満	

3. あなたの状況についてお聞きします。

問6 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。（1つに○）

1 持っている	2 持っていない ⇒ 問7へ
---------	----------------

【問6で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問6-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

（あてはまるものすべてに○をつけて記入）

1 身体障害者手帳を持っている	_____級
2 愛の手帳を持っている	_____度 ⇒ 問7へ
3 精神障害者保健福祉手帳を持っている	_____級 ⇒ 問7へ

【問6-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問6-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

1 視覚	4 肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害）
2 聴覚・平衡	5 内部（心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど）
3 音声・言語・そしゃく	

【すべての方にお聞きします。】

問7 あなたは、医療費の助成を受けていますか。（1つに○）

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、更生医療などが含まれます。

1 医療費の助成を受けている	2 申請中	3 受けていない
----------------	-------	----------

問8 現在、以下の診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 発達障害	3 難病・特定疾患
2 高次脳機能障害	4 いずれも受けていない

第4章 調査票

問9 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

1 はい

2 いいえ ⇒ 問10へ

【問9で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

→問9-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。(主にあてはまるもの5つまでに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 身体介助（入浴・排せつなど） | 8 日常的なコミュニケーション |
| 2 家の中の移動 | 9 薬・服薬の管理 |
| 3 外出（通院を含む） | 10 お金の管理 |
| 4 日常の買い物 | 11 市役所や事業者との手続き |
| 5 家事（調理、洗濯、掃除） | 12 その他（ ） |
| 6 食事の配食 | 13 特にない |
| 7 寝具の乾燥・丸洗い | |

→問9-2 主に介助しているのはどなたですか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 父母 | 6 孫または孫の配偶者 |
| 2 祖父母 | 7 福祉サービス事業者 |
| 3 きょうだい | 8 その他（ ） |
| 4 配偶者 | 9 誰もいない |
| 5 子または子の配偶者 | |

→問9-3 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときには、代わりにどなたが介助していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 同居している家族 | 5 ホームヘルパー |
| 2 同居していない家族や親せき | 6 施設に短期間入所して介助・支援を受ける |
| 3 近所の人や友人・知人 | 7 その他（ ） |
| 4 ボランティア | 8 介助・支援してくれる人がいない |

4. 保健・医療についてお聞きします。

【すべての方にお聞きします。】

問10 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。(それぞれ1つに○)

①かかりつけの医師	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない
②かかりつけの歯科医師	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない
③かかりつけの薬局（薬剤師）	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない

【問11は40歳以上の方にお聞きします。(40歳未満の方は問14へ)】

問11 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

- 1 受けている 2 受けていない ⇒ 問12へ 3 申請中 ⇒ 問12へ

【問11で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

→ 問11-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)

- 1 要支援1 3 要介護1 5 要介護3 7 要介護5
2 要支援2 4 要介護2 6 要介護4

【問11で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

→ 問11-2 利用している、又は利用したことがある介護保険サービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 訪問介護 (ホームヘルプ) 6 福祉用具購入・貸与
2 訪問看護 7 住宅改修
3 訪問リハビリテーション 8 その他 ()
4 通所介護 (デイサービス) 9 いずれも利用していない
5 通所リハビリテーション (デイケア)

5. 相談や情報入手についてお聞きします。

【すべての方にお聞きします。】

問12 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

- 1 ある 2 ない ⇒ 問13へ

【問12で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

→ 問12-1 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1 相談相手はいない ⇒ 問12-2へ | 13 ホームヘルパーなど |
| 2 地域生活支援センターびと | 14 福祉公社 |
| 3 ライフサポートMEW (サポミュー) | 15 学校の先生 |
| 4 地域活動支援センターコット | 16 教育支援センター |
| 5 市役所 | 17 こころの健康相談室 |
| 6 障害者福祉センター (ほくと、ゆいっと) | 18 民生委員 |
| 7 みどりのこども館 (ハビット) | 19 身体 (知的) 障害者相談員 |
| 8 通っている施設のスタッフ | 20 保健所 |
| 9 相談支援専門員
(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | 21 ペアレントメンターや
ピアサポーター |
| 10 医療機関 (医師、看護師、リハビリスタッフなど) | 22 子どもの権利擁護センター「まもルーム」 |
| 11 在宅介護・地域包括支援センター | 23 その他 () |
| 12 ケアマネジャー | |

第4章 調査票

【問12-1で「1 相談相手はいない」と回答した方にお聞きします。】

問12-2 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 相談先がわからない | 5 理解されなさそうだから |
| 2 誰にも相談したくない | 6 困りごとを上手く伝えられない |
| 3 家族や友人以外に相談する必要がない | 7 その他 () |
| 4 他人に相談するのが不安 | 8 相談するほどのことでもない |

【すべての方にお聞きします。】

問13 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 地域生活支援センターびーと | 17 民生委員 |
| 2 ライフサポートMEW (サポミュー) | 18 身体(知的)障害者相談員 |
| 3 地域活動支援センターコット | 19 保健所 |
| 4 市役所 | 20 ペアレントメンターやピアサポーター |
| 5 障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと) | 21 市報 |
| 6 みどりのこども館(ハビット) | 22 障害者福祉のしおり |
| 7 通っている施設のスタッフ | 23 障害者福祉課の広報誌 |
| 8 相談支援専門員
(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | (「つながり」・「こころのつながり」) |
| 9 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど) | 24 市のホームページ |
| 10 在宅介護・地域包括支援センター | 25 市の公式SNS
(X(旧Twitter)・LINEなど) |
| 11 ケアマネジャー | 26 むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ |
| 12 ホームヘルパーなど | 27 市公式以外のインターネットやSNS |
| 13 福祉公社 | 28 家族・親族 |
| 14 学校の先生 | 29 友人・知人 |
| 15 教育支援センター | 30 その他 () |
| 16 こころの健康相談室 | 31 特に情報を得ていない |

問14 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮をしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 やさしくゆっくりと話してほしい | 6 手話・筆談・要約筆記等で伝えてほしい |
| 2 パソコンやタブレット端末を利用
しやすくしてほしい | 7 身振りや表情の動きで伝えてほしい |
| 3 音声情報や文字情報、案内表示を増やして
ほしい | 8 点訳や音訳で対応してほしい |
| 4 簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい | 9 絵や図で表現してほしい |
| 5 口元が見えるように話してほしい | 10 その他
() |
| | 11 特にない |

第4章 調査票

【問15-3で働いてみたいと回答した方（1～5のいずれかを選択）にお聞きします。】

問15-4 働くにあたって、特に心配なことはありますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）

- 1 労働条件（時間や賃金）
- 2 自分の健康状態や体力
- 3 自分のスキル（ビジネスマナーやパソコン操作など）
- 4 通勤・移動方法
- 5 疾患や障害の特性に合う仕事があるか
- 6 職場の設備（仕事に使う道具や、階段、段差、トイレなどの使いやすさ）
- 7 職場の人間関係
- 8 職場の人の疾患や障害への理解
- 9 就労移行支援事業所などから引き続き支援を受けられるか
- 10 どのような支援が受けられるのかわからない
- 11 その他（)
- 12 特にない

【すべての方にお聞きします。】

問16 あなたが働く際（働いていない方は今後働く場合に）、特にどのような支援があったらよいと思いますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）

- 1 仕事内容を調整してくれる（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）
- 2 職場の設備（トイレ、エレベーターなど）がどのようになっているのかを確認してくれる
- 3 職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる
- 4 就労や生活に関する相談先がある
- 5 急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる
- 6 仕事に役立つ講習を受けられること（ビジネスマナーやパソコン操作など）
- 7 自分に合った仕事を見つける支援（仕事探しや会社訪問への同行など）
- 8 疾患や障害の特性に合った職業訓練
- 9 疾患や障害のある人向けの求人情報の提供
- 10 就労先に出向いて来て、直接、作業のやり方や職場環境の指導をしてくれる
- 11 就労継続支援・就労移行支援などの場がたくさんある
- 12 その他（)
- 13 特にない
- 14 わからない
- 15 働く予定はない

7. 災害時の対応についてお聞きします。

問17 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|-------|-----------|---------|
| 1 登録している | 2 申請中 | 3 登録していない | 4 わからない |
|----------|-------|-----------|---------|

※災害時要援護者対策事業については同封した別紙をご覧ください。

問18 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|---|
| 1 被害の状況を知る方法がない | |
| 2 助けを求める方法がない | |
| 3 近くに助けてくれる人がいない | |
| 4 医療機器（人工呼吸器や吸引器）などが作動するか不安がある | |
| 5 薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある | |
| 6 できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある | |
| 7 できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある | |
| 8 できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある | |
| 9 避難所に避難したいが一人では避難できない | |
| 10 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある
(避難所で必要な支援：) |) |
| 11 避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある | |
| 12 どの避難所に行ったら良いかわからない | |
| 13 その他 (|) |
| 14 特にない | |

問19 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている | |
| 2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日以上）をしている | |
| 3 疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている | |
| 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている | |
| 5 家具に転倒防止器具を取り付けている | |
| 6 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている | |
| 7 防災組織や消防団等に参加している | |
| 8 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している | |
| 9 その他 (|) |
| 10 特にない | |

8. 外出の状況についてお聞きします。

問20 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に1回以上 | 4 ほとんど外出しない |
| 2 週に1回以上 | | ⇒ 問21へ |

【問20で外出すると回答した方(1~3のいずれかを選択)にお聞きします。】

問20-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|--------|--------|-----------|--------------|
| 1 徒歩 | 4 ムーバス | 7 タクシー | 10 車いす・電動車いす |
| 2 自転車 | 5 路線バス | 8 リフトタクシー | 11 その他 |
| 3 自家用車 | 6 電車 | 9 レモンキャブ | () |

9. 趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

【すべての方にお聞きします。】

問21 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

- | |
|-----------------|
| 1 参加している ⇒ 問22へ |
| 2 参加していない |

【問21で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問21-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 参加したい活動がない | 7 一人では参加しにくい |
| 2 介助者がいない | 8 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加の仕方がわからない | 9 どのような活動があるのかわからない |
| 4 経済的に余裕がない | 10 仕事や家事・育児が忙しく時間がない |
| 5 参加するきっかけがない | 11 年齢的に参加するのが難しい |
| 6 新しい場所に行くのが不安 | 12 その他 () |

【すべての方にお聞きします。】

問22 あなたが参加したい活動(現在参加している活動も含む)はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 スポーツ(水泳、ハイキングなど) | 6 教養講座(カルチャースクール、大学の社会人用講座など) |
| 2 音楽(合唱、楽器演奏など) | 7 パソコン講習 |
| 3 美術(絵画、陶芸、染物など) | 8 ボランティア活動(福祉、環境保護、教育など) |
| 4 料理教室 | 9 その他 () |
| 5 英会話教室 | 10 参加したい活動はない |

問23 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。
(それぞれ1つに○)

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない	話す機会がない
① 家族	1	2	3	4
② 学校や職場、施設の人	1	2	3	4
③ 友人・知人	1	2	3	4
④ 近所の人、地域の人	1	2	3	4
⑤ SNS・インターネット	1	2	3	4

10. サービスの利用等についてお聞きします。

問24 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 居宅介護(ホームヘルプ)	14 就労移行支援
2 重度訪問介護	15 就労移行支援(養成施設)
3 行動援護	16 就労継続支援A型
4 同行援護	17 就労継続支援B型
5 療養介護	18 就労定着支援
6 生活介護	19 就労選択支援
7 短期入所(ショートステイ)	20 計画相談支援
8 施設入所支援	21 地域移行支援
9 共同生活援助(グループホーム)	22 地域定着支援
10 宿泊型自立訓練	23 移動支援(ガイドヘルプ)
11 自立生活援助	24 日中一時支援
12 自立訓練(機能訓練)	25 利用していない
13 自立訓練(生活訓練)	

利用されているサービスを確認する方法は？

- お持ちの「障害福祉サービス受給者証」の「サービス種別」の欄に記載されています。

(一) 障害福祉サービス受給者証

(二) 介護給付費の支給決定内容

(三) サービス種別

第4章 調査票

問25 本当は利用したいが、利用できていないサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 居宅介護(ホームヘルプ)	12 自立訓練(機能訓練)
2 重度訪問介護	13 自立訓練(生活訓練)
3 行動援護	14 就労移行支援
4 同行援護	15 就労移行支援(養成施設)
5 療養介護	16 就労継続支援A型
6 生活介護	17 就労継続支援B型
7 短期入所(ショートステイ)	18 就労定着支援
8 施設入所支援	19 就労選択支援
9 共同生活援助(グループホーム)	20 計画相談支援
10 宿泊型自立訓練	21 地域移行支援
11 自立生活援助	22 地域定着支援
	23 移動支援(ガイドヘルプ)
	24 日中一時支援
	25 利用できていないサービスはない ⇒ 問26へ

【問25で利用できていないサービスがあると回答した方(1~26のいずれかを選択)にお聞きします。】

問25-1 利用できていない理由を教えてください。太枠に、利用できていないサービスの番号(問25)を記入し、それぞれの理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

サービス番号(問25)	定員がいっぱい	待機が長い	費用が負担	内容・設備が不満	交通不便	医療的ケア非対応	時間が合わない	その他
例 6 生活介護	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く

上記で「その他」を回答した人は具体的な内容をお答えください。

【すべての方にお聞きします。】

問26 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 サービスに関する情報が少ない | 9 サービスの質に不満がある |
| 2 何が利用できるのかわからない | 10 自分に合う事業所が見つからない |
| 3 利用したい内容のサービスがない | 11 事業所に要望を伝えづらい |
| 4 サービスが障害の特性に合っていない | 12 事業所の担当者が代わってしまう |
| 5 サービスの利用方法がわかりづらい | 13 経済的負担が大きい |
| 6 サービスを利用するための手続きが大変 | 14 他人を家に入れることに抵抗がある |
| 7 利用できる回数や日数が少ない | 15 その他 () |
| 8 事業所との利用日時などの調整が大変 | 16 特にない |

問27 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に、特に重視することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 自宅や学校から通いやすい場所 | 7 費用や利用料金が負担にならない |
| 2 障害に対応した設備や環境が整っている | 8 他の利用者との交流ができる |
| 3 スタッフの専門性・対応力が高い | 9 柔軟な利用時間や曜日に対応できる |
| 4 安全で安心して過ごせる環境である | 10 将来の生活や自立につながる支援がある |
| 5 少人数や個別対応が可能である | 11 その他 () |
| 6 医療・健康管理が整っている | 12 特にない |

問28 あなたや家族の方が、将来、生活をしていくうえで、不安に感じていることや受けたい支援を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1 日常生活の支援 (身の回りのことや生活の維持に関する支援) |
| 2 相談支援 (生活や将来のことを気軽に相談できる窓口や支援) |
| 3 健康管理・医療的ケアの支援 (通院や服薬管理、医療との連携など) |
| 4 住まいに関する支援 (安心して暮らせる住まいや住み替えに関する支援) |
| 5 働くこと・社会参加の支援 (就労、地域活動、ボランティアなどへの参加支援) |
| 6 学びや生きがいづくりの支援 (趣味、文化活動、生涯学習など) |
| 7 家族・支援者への支援 (介護・介助する家族の負担軽減や相談支援) |
| 8 経済的な支援 (収入や生活費、利用料金の負担に関する支援) |
| 9 行政や地域の制度・サービスに関する情報提供 (利用できる制度の分かりやすい案内) |
| 10 心のケア・メンタルサポート (悩みや不安を相談できる支援) |
| 11 その他 () |
| 12 特にない |

11. 障害者差別についてお聞きします。

問29 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

- 1 知っている 2 聞いたことはある 3 知らない

障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
- ・ また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。(このような対応を「合理的配慮」と言います)

問30 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 仕事や職場 | 7 医療・福祉サービスにおいて |
| 2 公共交通機関を利用するとき | 8 学校、教育現場において |
| 3 買い物や店舗を利用するとき | 9 Webサイト上やオンラインでの対応において |
| 4 公共施設を利用するとき | 10 その他 () |
| 5 住む家を探すとき | |
| 6 災害時において | 11 不十分と感じたことはない ⇒ 問31へ |

【問30で不十分だと感じた場面があったと回答した方(1～10のいずれかを選択)にお聞きします。】

→ 問30-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。

(家族や友人を除く)(1つに○)

- 1 相談した ⇒ 問31へ
- 2 相談したかったが、できなかった
- 3 相談しようと思わなかった

【問30-1で相談できなかった/しなかったと回答した方(2・3のいずれかを選択)にお聞きします。】

→ 問30-2 どこにも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思った | 5 相談したことで仕返しされそうだった |
| 2 相談すべきことかがわからなかった | 6 自分が我慢すればいいことだと思った |
| 3 相談する人がいなかった | 7 その他 () |
| 4 相談しても無駄だと思った | |

【すべての方にお聞きします。】

問31 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|------------|--------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

※成年後見制度については同封した別紙をご覧ください。

12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動についてお聞きします。

問32 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問33 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 当事者として参加したい | 3 参加・傍聴してみたいができない |
| 2 傍聴してみたい | 4 特に参加したくない |

【問33で「3 参加・傍聴してみたいができない」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 参加・傍聴できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 介助者がいない | 5 一人では参加しにくい |
| 2 参加の仕方がわからない | 6 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加するきっかけがない | 7 仕事や家事・育児が忙しく時間がない |
| 4 新しい場所に行くのが不安 | 8 その他 () |

武蔵野市地域自立支援協議会とは？

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」と、「相談支援ネットワーク」「地域移行」「住まい」「交流・つどい」「障害当事者部会」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

「相談支援ネットワーク部会」

→多様な相談支援の事例検討を通じて、武蔵野市の地域課題について提言します。

「地域移行部会」

→精神科病院に長期入院している方の地域移行に向けた関係機関との連携づくり及び具体的方策を検討します。

「住まい部会」

→住まいに関する課題を整理してまとめる・近隣地区での取り組み例などを調査し参考例を示します。

「交流・つどい部会」

→当事者と地域住民(団体や会社などを含む)との交流の場・機会を企画・実施し、相互交流を踏まえた障害の理解促進を目指します。

「障害当事者部会」

→障害のある方からの視点で武蔵野市の課題をみつけます。

13. 住まいについてお聞きします。

問34 あなたは、現在の住まいに満足していますか。(1つに○)

- 1 とても満足している ⇒ 問35へ
- 2 まあ満足している ⇒ 問35へ
- 3 あまり満足していない
- 4 満足していない

【問34で満足しないと回答した方(3・4のいずれかを選択)にお聞きします。】

→問34-1 満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家賃や光熱費など、お金の負担が大きい
- 2 部屋が狭い、使いにくい、間取りが合っていない
- 3 段差が多い、設備が古いなど、バリアフリーになっていない
- 4 必要な支援や医療的ケアを受けにくい
- 5 交通の便が悪く、買い物や通院、通勤・通学が不便
- 6 周りの治安や環境に不安がある
- 7 家族や支えてくれる人が近くにおらず、助けを得にくい
- 8 近くにお店や病院、公共施設などが少なく生活しにくい
- 9 このまま住み続けられるか、将来が不安
- 10 その他 ()

【すべての方にお聞きします。】

問35 あなたの住まいで困っていることや、必要としている支援はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 段差や狭さなど、部屋や家の中の使いにくさを改善したい
- 2 家具の転倒や地震など、災害や事故への備えがほしい
- 3 困ったときに相談できる人や窓口がほしい
- 4 近くに買い物や病院、公共施設が少なく不便
- 5 一人暮らし・独立生活で困ったことがある(調理、掃除、生活管理など)
- 6 引っ越しや住み替えでサポートがほしい
- 7 支援がある住まいやみんなで暮らせる場所がほしい
- 8 その他 ()
- 9 特にない

問36 あなたは、10年後どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 独立して暮らしたい | 4 入所施設で暮らしたい |
| 2 家族と一緒に暮らしたい | 5 その他 () |
| 3 グループホームで暮らしたい | 6 わからない |

【問36で「3 グループホームで暮らしたい」と回答した方にお聞きします。】

問36-1 グループホームへの入居は、いつ頃から希望しますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 1年以内に入居したい | 5 10年以上先に入居したい |
| 2 3年以内に入居したい | 6 その他 () |
| 3 5年以内に入居したい | 7 わからない |
| 4 10年以内に入居したい | 8 具体的な時期は決めていない |

【すべての方にお聞きします。】

問37 住まいを選ぶ際に特に重視することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1 家賃や光熱費など、生活費の負担が少ない |
| 2 駅やバス停に近く、交通が便利である |
| 3 段差が少ない、手すりやバリアフリー設備が整っている |
| 4 病院や介護・支援サービスを利用しやすい |
| 5 治安が良い |
| 6 周りの環境が静かで暮らしやすい |
| 7 近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある |
| 8 家族や支えてくれる人が近くに住んでいる |
| 9 他の住人や地域の人と良い関係が築ける |
| 10 自分の希望する生活スタイルが実現できる |
| 11 その他 () |
| 12 特にない |

14. 今後のことについてお聞きします。

問38 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 とても満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 まあ満足している | 4 満足していない |

第4章 調査票

問39 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)

- 1 住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）
- 2 通所後や日中の居場所の確保（大人のための）
- 3 趣味の活動の支援（障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など）
- 4 未就学児への支援
- 5 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス
（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）
- 6 発達障害のある方への支援
- 7 就労支援
- 8 いつでも気軽に相談できる窓口の充実
- 9 独立して暮らすための支援や相談窓口の充実
- 10 ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実
- 11 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動
- 12 障害のある方が利用しやすい移動手段の整備（リフトタクシー、レモンキャブ、ムーバスなど）
- 13 地震や台風など災害時の支援体制の整備
- 14 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催
- 15 その他（)
- 16 特にない
- 17 わからない

問40 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)
(1 公開してもよい / 2 公開しないでほしい)

アンケートは以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、**12月23日(火)までに** 郵便ポストに入れてください。

紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません

武蔵野市 障害福祉についての実態調査



～生活支援ニーズ調査～

日頃より武蔵野市の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、武蔵野市が実施するもので、調査対象者として令和7年11月1日現在、障害者手帳をお持ちの方、医療費の助成を利用されている方、障害児サービスを利用されている方などから無作為で抽出した3,000名の方へ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

調査結果は、来年度改定を予定している武蔵野市障害者計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されたりすることは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

令和7年12月

武蔵野市長

小美濃安弘

【回答のしかた】 次の2つの方法からいずれか1つを選び回答してください。

3. 調査票（この冊子）に直接記入し郵送（返信用封筒を同封しております）
→下記＜調査票記入上の注意事項＞をご覧くださいご記入ください。
4. パソコン・タブレット・スマートフォンでインターネット回答
→別紙「インターネットによる回答方法」をご覧くださいご回答ください。

＜調査票記入上の注意事項＞

- ◆ 封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人が直接回答することが難しい場合は、家族や介護をする方などが、ご本人の意向を尊重してご回答ください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）などと指定されていますので、ご確認のうえご回答ください。
- ◆ ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、おひとりでの記入が難しい方もご相談ください。また、ルビ付きや、拡大版は障害者福祉課にもご用意がございます。ご希望の方はお申し出ください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

12月23日（火）までに ご投函ください。

お問合せ先

武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課 実態調査担当

電話：0422-60-1904、1847 FAX：0422-51-9239 E-mail：SEC-SYUGAI@city.musashino.lg.jp

※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません。

※回答の重複を避けるためにIDを付番しています。個人を特定することはありません。

※両方ご回答いただいた場合、インターネットでの回答が優先されます。

ID:

1. 回答者についてお聞きします。

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 宛名のご本人が記入 |
| 2 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入 |
| 3 宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入 |
| 4 その他 () |

以下、すべての設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人のことです。

封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や支援者の方がご本人のことをお答えください。

2. あなた（封筒の宛名のご本人）についてお聞きします。

問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 年 齢 (令和7年11月1日現在)	1 0～2歳	3 6～8歳	5 12～14歳
	2 3～5歳	4 9～11歳	6 15～18歳
② 性 別	1 男性	2 女性	3 その他
③居住地域	1 吉祥寺東町	6 中町	11 境
	2 吉祥寺南町	7 西久保	12 境南町
	3 御殿山	8 緑町	13 桜堤
	4 吉祥寺本町	9 八幡町	14 その他
	5 吉祥寺北町	10 関前	()

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 持ち家・ご家族の持ち家 | 4 UR都市機構 | 7 病院に入院中 |
| 2 民間の賃貸住宅 | 5 福祉型住宅 | 8 施設に入所中 |
| 3 都営・市営住宅 | 6 グループホーム | 9 その他 () |

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 父母 | 4 施設やグループホームで生活している |
| 2 祖父母 | 5 その他 () |
| 3 きょうだい | |

3. あなたの状況についてお聞きします。

問5 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)

1 持っている

2 持っていない ⇒ 問6へ

【問5で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問5-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

1 身体障害者手帳を持っている _____級

2 愛の手帳を持っている _____度 ⇒ 問6へ

3 精神障害者保健福祉手帳を持っている _____級 ⇒ 問6へ

【問5-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問5-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

1 視覚

4 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害)

2 聴覚・平衡

5 内部(心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど)

3 音声・言語・そしゃく

【すべての方にお聞きします。】

問6 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。(マル青、マル子、マル乳等のこどもの医療費助成を除く)

1 医療費の助成を受けている

2 申請中

3 受けていない

問7 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 発達障害

3 難病・特定疾患・小児慢性疾患

2 高次脳機能障害

4 いずれも受けていない

問8 あなたの障害や心身の不調に、最初に気づいたのはいつごろですか。(1つに○)

1 生後すぐ～1歳未満

5 4歳～5歳未満

9 小学校4～6年生

2 1歳～2歳未満

6 5歳～6歳未満

10 中学校1～3年生

3 2歳～3歳未満

7 6歳～小学校入学前

11 高校1～3年生

4 3歳～4歳未満

8 小学校1～3年生

12 わからない

5. 相談や情報入手についてお聞きします。

【すべての方にお聞きします。】

問11 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

1 ある

2 ない ⇒ 問12へ

【問11で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問11-1 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 相談相手はいない ⇒ 問11-2へ | 13 ホームヘルパーなど |
| 2 地域生活支援センターびーと | 14 福祉公社 |
| 3 ライフサポートMEW (サポミュー) | 15 学校の先生 |
| 4 地域活動支援センターコット | 16 教育支援センター |
| 5 市役所 | 17 こころの健康相談室 |
| 6 障害者福祉センター (ほくと、ゆいっと) | 18 民生委員 |
| 7 みどりのこども館 (ハビット) | 19 身体 (知的) 障害者相談員 |
| 8 通っている施設のスタッフ | 20 保健所 |
| 9 相談支援専門員
(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | 21 ペアレントメンターや
ピアサポーター |
| 10 医療機関 (医師、看護師、リハビリスタッフなど) | 22 子どもの権利擁護センター「まもルーム」 |
| 11 在宅介護・地域包括支援センター | 23 その他 () |
| 12 ケアマネジャー | |

【問11-1で「1 相談相手はいない」と回答した方にお聞きします。】

問11-2 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 相談先がわからない | 5 理解されなさそうだから |
| 2 誰にも相談したくない | 6 困りごとを上手く伝えられない |
| 3 家族や友人以外に相談する必要がない | 7 その他 () |
| 4 他人に相談するのが不安 | 8 相談するほどのことでもない |

第4章 調査票

【すべての方にお聞きします。】

問12 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1 地域生活支援センターびと	17 民生委員
2 ライフサポートMEW (サポミュー)	18 身体(知的)障害者相談員
3 地域活動支援センターコット	19 保健所
4 市役所	20 ペアレントメンターやピアサポーター
5 障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと)	21 市報
6 みどりのこども館(ハビット)	22 障害者福祉のしおり
7 通っている施設のスタッフ	23 障害者福祉課の広報誌
8 相談支援専門員 (事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)	(「つながり」・「こころのつながり」)
9 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)	24 市のホームページ
10 在宅介護・地域包括支援センター	25 市の公式SNS (X(旧Twitter)・LINEなど)
11 ケアマネジャー	26 むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ
12 ホームヘルパーなど	27 市公式以外のインターネットやSNS
13 福祉公社	28 家族・親族
14 学校の先生	29 友人・知人
15 教育支援センター	30 その他()
16 こころの健康相談室	31 特に情報を得ていない

問13 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮してほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 やさしくゆっくりと話してほしい
2 パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい
3 音声情報や文字情報、案内表示を増やしてほしい
4 簡単でわかりやすい文章表現にほしい
5 口元が見えるように話してほしい
6 手話・筆談・要約筆記等で伝えてほしい
7 身振りや表情の動きで伝えてほしい
8 点訳や音訳で対応してほしい
9 絵や図で表現してほしい
10 その他()
11 特にない

6. 通園・通学についてお聞きします。

問14 現在、保育園・幼稚園・学校に通っていますか。通っている場合は、どこに通っているかも教えてください。(1つに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 通っていない ⇒ 問15へ | 7 高等学校 |
| 2 保育園 | 8 大学 |
| 3 幼稚園 | 9 専門学校、高等専修学校、各種学校 |
| 4 小学校・中学校（特別支援学級） | 10 職業能力開発校 |
| 5 小学校・中学校（通常の学級） | 11 児童発達支援などその他（ ） |
| 6 特別支援学校 | |

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

【父親の就労状況】	【母親の就労状況】
1 正社員として働いている	1 正社員として働いている
2 パート・アルバイトなどで働いている	2 パート・アルバイトなどで働いている
3 働いていないが、できれば働きたい	3 働いていないが、できれば働きたい
4 働いていないし、その意向もない	4 働いていないし、その意向もない
5 その他（ ）	5 その他（ ）
6 父親はいない	6 母親はいない

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-2 通園・通学する上で困っていることはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 通うのが大変 | 7 通常の学級に入れない |
| 2 障害に応じた授業のサポートが不十分 | 8 教育や療育に関する情報が少ない |
| 3 段差やトイレなどの設備が不十分 | 9 家族への支援が少ない |
| 4 園内・校内での介助が不十分 | 10 学校以外の相談先がない |
| 5 生徒や職員の障害への理解が不十分 | 11 その他（ ） |
| 6 受け入れてくれる学校の数が少ない | 12 特に問題はない |

第4章 調査票

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-3 日中・放課後・休みの日などに、どんなサービスを利用していますか

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③現在の利用回数、④希望する利用回数をお答えください。（①、②はあてはまるものすべて、③は①の「1」または「2」に○をつけた方、④は②の「1」または「2」に○をつけた方）

	①現在、 利用しているもの	②今後、 利用したいもの	⇒	③現在の 利用回数	④希望する 利用回数
(1) 放課後等デイサービス	1	1	⇒	週 ___ 回	週 ___ 回
(2) 日中一時支援	2	2	⇒	週 ___ 回	週 ___ 回
(3) 武蔵野市内のショートステイ 桜はうす・今泉、井の頭はうす、 なごみの家（わくらす）	3	3		月 ___ 回	月 ___ 回
(4) 市外のショートステイ	4	4		月 ___ 回	月 ___ 回
(5) 移動支援（ガイドヘルプ）	5	5		週 ___ 回	週 ___ 回
(6) 学童クラブ	6	6		週 ___ 回	週 ___ 回
(7) あそべえ	7	7		週 ___ 回	週 ___ 回
(8) 上記以外の障害者団体の活動	8	8		月 ___ 回	月 ___ 回
(9) 民間の塾や習い事	9	9		週 ___ 回	週 ___ 回
(10) 児童発達支援	10	10		週 ___ 回	週 ___ 回
利用しているものはない （利用したいものはない）	11	11			

【問14で通園・通学していると回答した方（2～11のいずれかを選択）にお聞きします。】

問14-4 放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間に、困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1	きょうだいや家族が仕事などで日中（放課後・長期休業中）見守ってくれる人がいない
2	長期休業中は施設の開始時間が遅く、父母の仕事や介護に支障が出る
3	長期休業中は施設の終了時間が早く、父母の仕事や介護に支障が出る
4	長期休業中以外でも、施設の終了時間が早く、父母の仕事や介護に支障が出る
5	通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている
6	習い事等に行きたいが、安心して利用できる移動手段がない
7	習い事や施設のサービスで、受りたい内容のサービスが少ない
8	その他（ ）
9	特になし

7. 災害時の対応についてお聞きします。

問15 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|-------|-----------|---------|
| 1 登録している | 2 申請中 | 3 登録していない | 4 わからない |
|----------|-------|-----------|---------|

※災害時要援護者対策事業については同封した別紙をご覧ください。

問16 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|---|
| 1 被害の状況を知る方法がない | |
| 2 助けを求める方法がない | |
| 3 近くに助けてくれる人がいない | |
| 4 医療機器（人工呼吸器や吸引器）などが作動するか不安がある | |
| 5 薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある | |
| 6 できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある | |
| 7 できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある | |
| 8 できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある | |
| 9 避難所に避難したいが一人では避難できない | |
| 10 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある
(避難所で必要な支援：) |) |
| 11 避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある | |
| 12 どの避難所に行ったら良いかわからない | |
| 13 その他 (|) |
| 14 特にない | |

問17 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている | |
| 2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日以上）をしている | |
| 3 疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている | |
| 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている | |
| 5 家具に転倒防止器具を取り付けている | |
| 6 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている | |
| 7 防災組織や消防団等に参加している | |
| 8 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している | |
| 9 その他 (|) |
| 10 特にない | |

8. 外出の状況についてお聞きします。

問18 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|-----------------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に1回以上 | 4 ほとんど外出しない
⇒ 問19へ |
| 2 週に1回以上 | | |

【問18で外出すると回答した方(1~3のいずれかを選択)にお聞きします。】

問18-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|--------|--------|-----------|--------------|
| 1 徒歩 | 4 ムーバス | 7 タクシー | 10 車いす・電動車いす |
| 2 自転車 | 5 路線バス | 8 リフトタクシー | 11 その他 |
| 3 自家用車 | 6 電車 | 9 レモンキャブ | () |

9. 趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

【すべての方にお聞きします。】

問19 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

- | |
|-----------------|
| 1 参加している ⇒ 問20へ |
| 2 参加していない |

【問19で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問19-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 参加したい活動がない | 7 一人では参加しにくい |
| 2 介助者がいない | 8 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加の仕方がわからない | 9 どのような活動があるのかわからない |
| 4 経済的に余裕がない | 10 学校やその他の活動が忙しく、時間がない |
| 5 参加するきっかけがない | 11 年齢的に参加するのが難しい |
| 6 新しい場所に行くのが不安 | 12 その他 () |

【すべての方にお聞きします。】

問20 あなたが参加したい活動(現在参加している活動も含む)はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 スポーツ(水泳、ハイキングなど) | 6 教養講座(カルチャースクールなど) |
| 2 音楽(合唱、楽器演奏など) | 7 パソコン講習 |
| 3 美術(絵画、陶芸、染物など) | 8 ボランティア活動(福祉、環境保護、教育など) |
| 4 料理教室 | 9 その他 () |
| 5 英会話教室 | 10 参加したい活動はない |

問21 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。
(それぞれ1つに○)

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない	話す機会がない
⑥ 家族	1	2	3	4
⑦ 学校や職場、施設の人	1	2	3	4
⑧ 友人・知人	1	2	3	4
⑨ 近所の人、地域の人	1	2	3	4
⑩ SNS・インターネット	1	2	3	4

10. サービスの利用等についてお聞きします。

問22 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 児童発達支援	6 障害児相談支援
2 放課後等デイサービス	7 移動支援(ガイドヘルプ)
3 短期入所	8 日中一時支援
4 保育所等訪問支援	9 その他のサービス
5 障害児入所施設	10 利用していない

利用されているサービスを確認する方法は？

- お持ちの「障害福祉サービス受給者証」の「サービス種別」の欄に記載されています。

第4章 調査票

問23 本当は利用したいが、利用できていないサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<p>1 児童発達支援 2 放課後等デイサービス 3 短期入所 4 保育所等訪問支援 5 障害児入所施設 6 障害児相談支援 7 移動支援 8 日中一時支援 9 その他のサービス</p>	<p>10 利用できていないサービスはない⇒ 問24へ</p>
---	---------------------------------

【問23で利用できていないサービスがあると回答した方(1~9のいずれかを選択)にお聞きします。】

問23-1 利用できていない理由を教えてください。太枠に、利用できていないサービスの番号(問23)を記入し、それぞれの理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

サービス番号(問23)	定員がいっぱい	待機が長い	費用が負担	内容・設備が不満	交通不便	医療的ケア非対応	時間が合わない	その他
例 8 日中一時支援	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く
	あ	い	う	え	お	か	き	く

理由

上記で「その他」を回答した人は具体的な内容をお答えください。

【すべての方にお聞きします。】

問24 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 サービスに関する情報が少ない | 9 サービスの質に不満がある |
| 2 何が利用できるのかわからない | 10 自分に合う事業所が見つからない |
| 3 利用したい内容のサービスがない | 11 事業所に要望を伝えづらい |
| 4 サービスが障害の特性に合っていない | 12 事業所の担当者が代わってしまう |
| 5 サービスの利用方法がわかりづらい | 13 経済的負担が大きい |
| 6 サービスを利用するための手続きが大変 | 14 他人を家に入れることに抵抗がある |
| 7 利用できる回数や日数が少ない | 15 その他 () |
| 8 事業所との利用日時などの調整が大変 | 16 特にない |

問25 障害福祉サービスや支援の場を選ぶ際に、特に重視することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 自宅や学校から通いやすい場所 | 7 費用や利用料金が負担にならない |
| 2 障害に対応した設備や環境が整っている | 8 他の利用者との交流ができる |
| 3 スタッフの専門性・対応力が高い | 9 柔軟な利用時間や曜日に対応できる |
| 4 安全で安心して過ごせる環境である | 10 将来の生活や自立につながる支援がある |
| 5 少人数や個別対応が可能である | 11 その他 () |
| 6 医療・健康管理が整っている | 12 特にない |

問26 あなたや家族の方が、将来、生活をしていくうえで、不安に感じていることや受けたい支援を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 短期間預けられる支援 (レスパイトなど、一時的に子どもを預けられる場所やサービス) |
| 2 日常生活や子育ての相談 (育児や生活上の困りごとを相談できる窓口やサービス) |
| 3 医療・健康管理の支援 (注入・吸引など医療ケアや病院との連携) |
| 4 将来の生活・住まいの支援 (自立や成年期を見据えた住まいや生活の相談) |
| 5 学校・教育での支援 (学習支援、特別支援教育、通学や環境の調整) |
| 6 就学後・社会参加や就労の支援 (働くことや地域活動への参加の支援) |
| 7 家族やきょうだいへの支援 (きょうだいや家族が安心できるサポート) |
| 8 制度やサービスに関する情報提供 (利用方法などの分かりやすい案内) |
| 9 心のケア・メンタルサポート (悩みや不安を相談できる支援) |
| 10 その他 () |
| 11 特にない |

11. 障害者差別についてお聞きします。

問27 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

- 1 知っている 2 聞いたことはある 3 知らない

障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
- ・ また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。(このような対応を「合理的配慮」と言います)

問28 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 仕事や職場 | 7 医療・福祉サービスにおいて |
| 2 公共交通機関を利用するとき | 8 学校、教育現場において |
| 3 買い物や店舗を利用するとき | 9 Webサイト上やオンラインでの対応において |
| 4 公共施設を利用するとき | 10 その他 () |
| 5 住む家を探すとき | |
| 6 災害時において | 11 不十分と感じたことはない ⇒ 問29へ |

【問28で不十分だと感じた場面があったと回答した方(1~10のいずれかを選択)にお聞きします。】

→ 問28-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。

(家族や友人を除く)(1つに○)

- 1 相談した ⇒ 問29へ
- 2 相談したかったが、できなかった
- 3 相談しようと思わなかった

【問28-1で相談できなかった/しなかったと回答した方(2・3のいずれかを選択)にお聞きします。】

→ 問28-2 どこにも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思った | 5 相談したことで仕返しされそうだった |
| 2 相談すべきことかがわからなかった | 6 自分が我慢すればいいことだと思った |
| 3 相談する人がいなかった | 7 その他 () |
| 4 相談しても無駄だと思った | |

12. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動についてお聞きします。

問29 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問30 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 当事者として参加したい | 3 参加・傍聴してみたいができない |
| 2 傍聴してみたい | 4 特に参加したくない |

【問30で「3 参加・傍聴してみたいができない」と回答した方にお聞きします。】

問30-1 参加・傍聴できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 介助者がいない | 5 一人では参加しにくい |
| 2 参加の仕方がわからない | 6 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加するきっかけがない | 7 仕事や家事・育児が忙しく時間がない |
| 4 新しい場所に行くのが不安 | 8 その他 () |

武蔵野市地域自立支援協議会とは？

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」と、「相談支援ネットワーク」「地域移行」「住まい」「交流・つどい」「障害当事者部会」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

「相談支援ネットワーク部会」

→多様な相談支援の事例検討を通じて、武蔵野市の地域課題について提言します。

「地域移行部会」

→精神科病院に長期入院している方の地域移行に向けた関係機関との連携づくり及び具体的方策を検討します。

「住まい部会」

→住まいに関する課題を整理してまとめる・近隣地区での取り組み例などを調査し参考例を示します。

「交流・つどい部会」

→当事者と地域住民(団体や会社などを含む)との交流の場・機会を企画・実施し、相互交流を踏まえた障害の理解促進を目指します。

「障害当事者部会」

→障害のある方からの視点で武蔵野市の課題をみつけます。

13. 住まいについてお聞きします。

問31 あなたは、現在の住まいに満足していますか。(1つに○)

- | | | |
|---|------------|----------|
| 1 | とても満足している | ⇒ 問32へ |
| 2 | まあ満足している | ⇒ 問32へ |
| 3 | あまり満足していない | ⇒ 問31-1へ |
| 4 | 満足していない | ⇒ 問31-1へ |

【問31で満足しないと回答した方(3・4のいずれかを選択)にお聞きします。】

問31-1 満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 家賃や光熱費など、お金の負担が大きい |
| 2 | 部屋が狭い、使いにくい、間取りが合っていない |
| 3 | 段差が多い、設備が古いなど、バリアフリーになっていない |
| 4 | 必要な支援や医療的ケアを受けにくい |
| 5 | 交通の便が悪く、買い物や通院、通勤・通学が不便 |
| 6 | 周りの治安や環境に不安がある |
| 7 | 家族や支えてくれる人が近くにおらず、助けを得にくい |
| 8 | 近くにお店や病院、公共施設などが少なく生活しにくい |
| 9 | このまま住み続けられるか、将来が不安 |
| 10 | その他 () |

【すべての方にお聞きします。】

問32 あなたの住まいで困っていることや、必要としている支援はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 段差や狭さなど、部屋や家の中の使いにくさを改善したい |
| 2 | 家具の転倒や地震など、災害や事故への備えがほしい |
| 3 | 困ったときに相談できる人や窓口がほしい |
| 4 | 近くに買い物や病院、公共施設が少なく不便 |
| 5 | 一人暮らし・独立生活で困ったことがある(調理、掃除、生活管理など) |
| 6 | 引っ越しや住み替えでサポートがほしい |
| 7 | 支援がある住まいやみんなで暮らせる場所がほしい |
| 8 | その他 () |
| 9 | 特にない |

問33 あなたは、10年後どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 独立して暮らしたい | 4 入所施設で暮らしたい |
| 2 家族と一緒に暮らしたい | 5 その他 () |
| 3 グループホームで暮らしたい | 6 わからない |

【問33で「3 グループホームで暮らしたい」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 グループホームへの入居は、いつ頃から希望しますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 1年以内に入居したい | 5 10年以上先に入居したい |
| 2 3年以内に入居したい | 6 その他 () |
| 3 5年以内に入居したい | 7 わからない |
| 4 10年以内に入居したい | 8 具体的な時期は決めていない |

【すべての方にお聞きします。】

問34 住まいを選ぶ際に特に重視することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1 家賃や光熱費など、生活費の負担が少ない |
| 2 駅やバス停、通園・通学先に近く、交通が便利である |
| 3 段差が少ない、手すりやバリアフリー設備が整っている |
| 4 病院や療育・支援サービスを利用しやすい |
| 5 治安が良い |
| 6 周りの環境が静かで、子どもが安心して暮らせる |
| 7 近くにスーパーや病院、公共施設など生活に必要な場所がある |
| 8 家族や支えてくれる人が近くに住んでいる |
| 9 他の住人や地域の人と良い関係が築ける |
| 10 本人の希望する生活スタイルが実現できる |
| 11 その他 () |
| 12 特になし |

14. 今後のことについてお聞きします。

問35 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 とても満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 まあ満足している | 4 満足していない |

第4章 調査票

問36 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)

- 1 住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）
- 2 通所後や日中の居場所の確保（大人のための）
- 3 趣味の活動の支援（障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など）
- 4 未就学児への支援
- 5 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス
（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）
- 6 発達障害のある方への支援
- 7 就労支援
- 8 いつでも気軽に相談できる窓口の充実
- 9 独立して暮らすための支援や相談窓口の充実
- 10 ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実
- 11 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動
- 12 障害のある方が利用しやすい移動手段の整備（リフトタクシー、レモンキャブ、ムーバスなど）
- 13 地震や台風など災害時の支援体制の整備
- 14 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催
- 15 その他（）
- 16 特にない
- 17 わからない

問37 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)
(1 公開してもよい / 2 公開しないでほしい)

アンケートは以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、**12月23日(火)までに** 郵便ポストに入れてください。

紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません

武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画策定・
第4期障害児福祉計画策定のための

武蔵野市障害福祉についての実態調査 報告書

令和8年3月

【編集・発行】武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
☎ 0422 (60) 1904